小矢部市埋蔵文化財調査報告書第60冊

富山県小矢部市

桜町遺跡発掘調査報告書

木製品・繊維製品・植物編

2007年

小矢部市教育委員会

小矢部市埋蔵文化財調査報告書第60冊

富山県小矢部市

桜町遺跡発掘調査報告書

木製品・繊維製品・植物編

2007年

小矢部市教育委員会

縄文時代中期末～後期初頭　構築材

縄文時代中期末～後期初頭　施設材

縄文時代中期末～後期初頭　その他の加工材

縄文時代中期末～後期初頭　器具材

序

小矢部市には悠然とした空気が流れています。三方を丘陵で囲まれ、市域中央には小矢部川が貫流する土地柄にその源があるのかもしれません。人はこの地に有史以前から現在まで連綿とつながる歴史を築いてきました。

桜町遺跡は市の北西に位置しており、国道8号小矢部バイパス建設に伴い事前に発掘調査を行いました。その結果、縄文時代をはじめ、奈良・平安時代、鎌倉時代、江戸時代の豊富な資料が発見されています。

本書では、昭和62年度から平成14年度にかけて実施した発掘調査により出土した縄文時代の遺物の中から、現代に続く木工技術の初期段階に位置づけることができる大型や、精巧な小型品などの木製品をはじめ、繊維製品・植物などの有機質遺物について報告するものです。

通常の遺跡では土の中で腐蝕してしまうような脆弱な出土品が、大量に良好な状態で発見されたことにより、遺跡への市民の関心が高く、文化財保護啓発の一助となっております。このことから、発掘調査から整理作業まで慎重かつ正確に行わなければならないものと痛感し邁進してまいりました。

発掘調査から報告書刊行に至るまでご理解とご協力をいただきました地元の方々をはじめ、国土交通省富山河川国道事務所、桜町遺跡調査等検討委員会・同専門部会委員各位、富山県教育委員会、富山県埋蔵文化財センターの諸機関の方々および関係各位には格別なご指導を頂きましたこと、心から感謝申し上げます。

平成19年3月

小矢部市教育委員会
教育長　西川　康夫

例　　言

1．本書は、富山県小矢部市桜町に所在する桜町遺跡の発掘調査報告書のうち、第6巻目にあたる「木製品・繊維製品・植物編」である。

2．発掘調査報告書は、これまで、平成14年度に「弥生・古墳・古代・中世編Ⅰ」、平成15年度に「縄文遺構編Ⅰ　弥生・古墳・古代・中世編Ⅱ」、平成16年度に「縄文遺構編Ⅱ　弥生・古墳・古代・中世編Ⅲ」、17年度に「縄文土器・石器編Ⅰ」を刊行している。

3．発掘調査は、国道8号小矢部バイパスの建設に伴うもので、小矢部市教育委員会が国土交通省から委託を受けて実施した。

4．本書に収録している木製品は、桜町遺跡のうち、昭和62年度に発掘調査を行った中出地区、昭和63年度、平成8年度、平成9年度、平成10年度に発掘調査を行った舟岡地区第1調査区、第6調査区から出土したものと、平成11年度に発掘調査を行った舟岡地区第2調査区、平成12年度、平成14年度に発掘調査を行った舟岡地区第3調査区から出土したものである。

5．本書の作成は、小矢部市教育委員会が行った。作成にあたり、桜町遺跡調査等検討委員会（田中琢委員長・小林達雄委員長）の指導を受けた。担当者は下記のとおりである。

・2006年度　総括　文化スポーツ課　課　長　　森下博幸
　　主務　　同　上　　主　事　　中井真夕
　　事務　　同　上　　課長補佐　安念幹倫　　主　任　高木場万里

6．本書の編集・執筆は、小矢部市教育委員会文化スポーツ課職員の協力を得て、中井真夕が行った。写真撮影は、出土状況を当市職員が行い、遺物はアーガス・フォト・スタジオ赤羽仁諭に委託した。

7．樹種鑑定は、当遺跡検討委員である鈴木三男東北大教授の監修のもと、各専門機関に委託した。

8．本書は、ほかに本書を収めたCD-ROM 1枚が付いている。本書の実測図版・写真図版の表示は次のとおりである。

1）遺物の報告番号は通し番号を付した。ただし、繊維製品と植物の報告番号は再び各々1～54、1～3を付した

2）引用・参考文献は、著者と発行年（西暦）を［　］で文中に示し、巻末に一括して掲載した。

3）実測図版の縮尺は、大型品から小型品まで大きさに大差があるので、基本的に頁ごとにそろえた。写真図版の縮尺もおなじである。出土状況写真は任意である。主要な遺物については別に縮尺1/30にそろえて比較したものを参考にしていただきたい。

9．出土遺物と調査に関する資料は、桜町遺跡出土木製品管理センターで保管している。

10．出土品の整理および報告書作成中、下記の方々から多大な御教示・御協力を得た。記して深甚なる謝意を表したい。（敬称略、五十音順）

伊藤隆三・上野幸夫・岸本雅敏・木村勝彦・久々忠義・沢田正昭・鈴木三男・小島俊彰・小林達雄・西井龍儀・能代修一・宮本長二郎・山田昌久・渡辺誠

目　　次

第Ⅰ章　調査の概要……1
1　調査区別調査状況
A　舟岡地区　第1調査区・第6調査区……1
B　舟岡地区　第2調査区……1
C　舟岡地区　第3調査区・第4調査区……1
D　中出地区……1
2　遺構別出土状況……1
3　時期別出土状況……2
第Ⅱ章　整理の方法……4
1　記載方法……4
2　出土点数について……4
3　分類方法について……6
4　記述について……6
A　本文……7
B　観察表……7
C　図面図版・写真図版……8
第Ⅲ章　遺物……10
1　造作材……10
A　構築材……10
B　施設材……11
C　その他の加工材……13
2　器具材……18
A　石斧柄……18
B　石斧留め具……19
C　楔（楔状木製品）……19
D　堀棒……20
E　鋤状木製品……20
F　削りだし棒材……20
G　弓……20
H　刳りもの……21
I　不明漆塗製品……22
J　素材……22
K　櫛……22
L　編錘状木製品……22
第Ⅳ章　繊維製品……23
第Ⅴ章　植物……25
第Ⅵ章　転用材について……26
第Ⅶ章　まとめ……28
参考文献……30
抄録……52

図版目次

巻首図版

巻首図版１　構築材　縄文時代中期末～後期初頭
巻首図版２　施設材　縄文時代中期末～後期初頭
巻首図版３　その他の加工材　縄文時代中期末～後期初頭
巻首図版４　器具材　縄文時代中期末～後期初頭

図　版

第１図　調査区位置図 …… 3
第２図　分類フローチャート …… 5
第３図－１　木材の部分名称 …… 8
第３図－２　木口からみえる木取り …… 8
第３図－３　容器等の刳りものの木取り …… 8
第４図　実測図の表現記号 …… 8
第５図　器具材の部位名称と測定箇 …… 9
第６図　造作材の測定箇所 …… 9
第７図　スギ薄板材の幅・厚さの分布図 ……16
第８図　舟岡地区構築材（１）柱材　中期末～後期初頭 ……53
第９図　舟岡地区構築材（２）柱根　中期末～後期初頭 ……54
第10図　舟岡地区構築材（３）柱根　中期末～後期初頭 ……55
第11図　舟岡地区構築材（４）柱根　中期末～後期初頭 ……56
第12図　舟岡地区構築材（５）柱根　中期末～後期初頭 ……57
第13図　舟岡地区構築材（６）柱根　晩期中葉 ……58
第14図　舟岡地区構築材（７）柱根　晩期中葉 ……59
第15図　舟岡地区構築材（８）柱根　晩期中葉 ……60
第16図　舟岡地区構築材（９）柱根　晩期中葉 ……61
第17図　舟岡地区施設材（１）杭群　中期末以前 ……62
第18図　舟岡地区施設材（２）杭群　中期末以前 ……63
第19図　舟岡地区施設材（３）水場材　中期末～後期初頭 ……64
第20図　舟岡地区施設材（４）水場材　中期末～後期初頭 ……65
第21図　舟岡地区施設材（５）水場材　中期末～後期初頭 ……66
第22図　舟岡地区施設材（６）水場材　中期末～後期初頭 ……67
第23図　舟岡地区施設材（７）水場材　中期末～後期初頭 ……68
第24図　舟岡地区施設材（８）水場材　中期末～後期初頭 ……69
第25図　舟岡地区施設材（９）水場材　中期末～後期初頭 ……70
第26図　舟岡地区施設材（10）水場材　中期末～後期初頭 ……71
第27図　舟岡地区施設材（11）水場材　中期末～後期初頭 ……72
第28図　舟岡地区施設材（12）水場材　中期末～後期初頭 ……73

第29図　舟岡地区施設材（13）水場材　中期末～後期初頭……74
第30図　舟岡地区施設材（14）水場材　中期末～後期初頭……75
第31図　舟岡地区施設材（15）水場材　中期末～後期初頭……76
第32図　舟岡地区施設材（16）水場材　後期末～晩期前葉……77
第33図　舟岡地区施設材（17）水場材　後期末～晩期前葉……78
第34図　中出地区施設材（18）水場材　中期末～後期初頭……79
第35図　中出地区施設材（19）水場材　中期末～後期初頭……80
第36図　中出地区施設材（20）水場材　中期末～後期初頭……81
第37図　中出地区施設材（21）水場材　中期末～後期初頭……82
第38図　中出地区施設材（22）水場材　中期末～後期初頭……83
第39図　舟岡地区その他の加工材（1）丸木材・分割材　中期末以前……84
第40図　舟岡地区その他の加工材（2）丸木材　中期末～後期初頭……85
第41図　舟岡地区その他の加工材（3）丸木材　中期末～後期初頭……86
第42図　舟岡地区その他の加工材（4）丸木材　中期末～後期初頭……87
第43図　舟岡地区その他の加工材（5）丸木材　中期末～後期初頭……88
第44図　舟岡地区その他の加工材（6）丸木材・半割材　中期末～後期初頭……89
第45図　舟岡地区その他の加工材（7）半割材　中期末～後期初頭……90
第46図　舟岡地区その他の加工材（8）半割材　中期末～後期初頭……91
第47図　舟岡地区その他の加工材（9）半割材　中期末～後期初頭……92
第48図　舟岡地区その他の加工材（10）半割材　中期末～後期初頭……93
第49図　舟岡地区その他の加工材（11）半割材・分割材　中期末～後期初頭……94
第50図　舟岡地区その他の加工材（12）分割材　中期末～後期初頭……95
第51図　舟岡地区その他の加工材（13）分割材　中期末～後期初頭……96
第52図　舟岡地区その他の加工材（14）分割材　中期末～後期初頭……97
第53図　舟岡地区その他の加工材（15）分割材　中期末～後期初頭……98
第54図　舟岡地区その他の加工材（16）分割材　中期末～後期初頭……99
第55図　舟岡地区その他の加工材（17）分割材　中期末～後期初頭……100
第56図　舟岡地区その他の加工材（18）分割材　中期末～後期初頭……101
第57図　舟岡地区その他の加工材（19）分割材　中期末～後期初頭……102
第58図　舟岡地区その他の加工材（20）分割材　中期末～後期初頭……103
第59図　舟岡地区その他の加工材（21）分割材　中期末～後期初頭……104
第60図　舟岡地区その他の加工材（22）分割材　中期末～後期初頭……105
第61図　舟岡地区その他の加工材（23）分割材　中期末～後期初頭……106
第62図　舟岡地区その他の加工材（24）板目板　中期末～後期初頭……107
第63図　舟岡地区その他の加工材（25）板目板　中期末～後期初頭……108
第64図　舟岡地区その他の加工材（26）板目板　中期末～後期初頭……109
第65図　舟岡地区その他の加工材（27）板目板　中期末～後期初頭……110
第66図　舟岡地区その他の加工材（28）板目板　中期末～後期初頭……111
第67図　舟岡地区その他の加工材（29）板目板　中期末～後期初頭……112
第68図　舟岡地区その他の加工材（30）板目板　中期末～後期初頭……113

第69図　舟岡地区その他の加工材（31）板目板　中期末～後期初頭 ……114
第70図　舟岡地区その他の加工材（32）柾目板　中期末～後期初頭 ……115
第71図　舟岡地区その他の加工材（33）柾目板　中期末～後期初頭 ……116
第72図　舟岡地区その他の加工材（34）柾目板　中期末～後期初頭 ……117
第73図　舟岡地区その他の加工材（35）柾目板　中期末～後期初頭 ……118
第74図　舟岡地区その他の加工材（36）柾目板　中期末～後期初頭 ……119
第75図　舟岡地区その他の加工材（37）柾目板　中期末～後期初頭 ……120
第76図　舟岡地区その他の加工材（38）柾目板　中期末～後期初頭 ……121
第77図　中出地区その他の加工材（39）分割材　中期末～後期初頭（上図）、舟岡地区器具材（1）
　　刳りもの中期末以前（下図）……122
第78図　舟岡地区器具材（2）石斧柄　中期末～後期初頭 ……123
第79図　舟岡地区器具材（3）石斧柄　中期末～後期初頭 ……124
第80図　舟岡地区器具材（4）石斧柄　中期末～後期初頭 ……125
第81図　舟岡地区器具材（5）石斧柄　中期末～後期初頭 ……126
第82図　舟岡地区器具材（6）石斧柄　中期末～後期初頭 ……127
第83図　舟岡地区器具材（7）石斧留め具・楔　中期末～後期初頭 ……128
第84図　舟岡地区器具材（8）堀棒　中期末～後期初頭 ……129
第85図　舟岡地区器具材（9）堀棒　中期末～後期初頭 ……130
第86図　舟岡地区器具材（10）鋤状木製品　中期末～後期初頭 ……131
第87図　舟岡地区器具材（11）鋤状木製品　中期末～後期初頭 ……132
第88図　舟岡地区器具材（12）削りだし棒材　中期末～後期初頭 ……133
第89図　舟岡地区器具材（13）弓　中期末～後期初頭 ……134
第90図　舟岡地区器具材（14）弓（拡大）　中期末～後期初頭 ……135
第91図　舟岡地区器具材（15）刳りもの　中期末～後期初頭 ……136
第92図　舟岡地区器具材（16）刳りもの　中期末～後期初頭 ……137
第93図　舟岡地区器具材（17）刳りもの　中期末～後期初頭 ……138
第94図　舟岡地区器具材（18）刳りもの　中期末～後期初頭 ……139
第95図　舟岡地区器具材（19）刳りもの・不明漆塗製品　中期末～後期初頭 ……140
第96図　舟岡地区器具材（20）素材　中期末～後期初頭 ……141
第97図　舟岡地区器具材（21）素材　中期末～後期初頭 ……142
第98図　舟岡地区器具材（22）素材　中期末～後期初頭 ……143
第99図　舟岡地区器具材（23）素材　中期末～後期初頭 ……144
第100図　舟岡地区器具材（24）素材　中期末～後期初頭 ……145
第101図　舟岡地区器具材（25）櫛　後期末～晩期前葉 ……146
第102図　舟岡地区器具材（26）石斧留め具・編錘状木製品　後期末～晩期前葉 ……147
第103図　舟岡地区器具材（27）削りだし棒材　縄文時代以降（古墳時代） ……148
第104図　造作材区分別・時期別比較（1：30）……149・150
第105図　舟岡地区繊維製品（1） ……151
第106図　舟岡地区繊維製品（2） ……152
第107図　舟岡地区繊維製品（3） ……153

第108図　舟岡地区繊維製品（4）……154
第109図　舟岡地区繊維製品（5）……155
第110図　舟岡地区繊維製品（6）……156
第111図　舟岡地区繊維製品（7）……157

表

表1　時期別出土数……5
表2　木製品観察表　構築材（1）……31
表3　木製品観察表　施設材（1）……31
表4　木製品観察表　その他の加工材（1）……32
表5　木製品観察表　器具材（1）石斧柄……36
表6　木製品観察表　器具材（2）石斧柄留め具……36
表7　木製品観察表　器具材（3）楔（楔状木製品）……36
表8　木製品観察表　器具材（4）堀棒……36
表9　木製品観察表　器具材（5）鋤状木製品……36
表10　木製品観察表　器具材（6）削りだし棒材……36
表11　木製品観察表　器具材（7）弓……37
表12　木製品観察表　器具材（8）刳りもの……37
表13　木製品観察表　器具材（9）不明漆塗製品……37
表14　木製品観察表　器具材（10）素材……37
表15　木製品観察表　器具材（11）櫛……37
表16　木製品観察表　構築材（12）編錘状木製品……37
表17　木製品観察表　構築材（2）……37
表18　木製品観察表　施設材（2）……38
表19　木製品観察表　その他の加工材（2）……41
表20　繊維製品観察表……50

写真図版

図版1　舟岡地区構築材（1）柱材　中期末～後期初頭
図版2　舟岡地区構築材（2）柱根　中期末～後期初頭
図版3　舟岡地区構築材（3）柱根　中期末～後期初頭
図版4　舟岡地区構築材（4）柱根　中期末～後期初頭
図版5　舟岡地区構築材（5）柱根　中期末～後期初頭
図版6　舟岡地区構築材（6）柱根　晩期中葉
図版7　舟岡地区構築材（7）柱根　晩期中葉
図版8　舟岡地区構築材（8）柱根　晩期中葉
図版9　舟岡地区構築材（9）柱根　晩期中葉
図版10　舟岡地区施設材（1）杭群　中期末以前
図版11　舟岡地区施設材（2）水場材　中期末～後期初頭
図版12　舟岡地区施設材（3）水場材　中期末～後期初頭

図版 13　舟岡地区施設材（４）水場材　中期末～後期初頭
図版 14　舟岡地区施設材（５）水場材　中期末～後期初頭
図版 15　舟岡地区施設材（６）水場材　中期末～後期初頭
図版 16　舟岡地区施設材（７）水場材　中期末～後期初頭
図版 17　舟岡地区施設材（８）水場材　中期末～後期初頭
図版 18　舟岡地区施設材（９）水場材　中期末～後期初頭
図版 19　舟岡地区施設材（10）水場材　中期末～後期初頭
図版 20　舟岡地区施設材（11）水場材　中期末～後期初頭
図版 21　舟岡地区施設材（12）水場材　中期末～後期初頭
図版 22　舟岡地区施設材（13）水場材　中期末～後期初頭
図版 23　舟岡地区施設材（14）水場材　中期末～後期初頭
図版 24　舟岡地区施設材（15）水場材　後期末～晩期前葉
図版 25　舟岡地区施設材（16）水場材　後期末～晩期前葉
図版 26　中出地区施設材（17）水場材　中期末～後期初頭
図版 27　中出地区施設材（18）水場材　中期末～後期初頭
図版 28　中出地区施設材（19）水場材　中期末～後期初頭
図版 29　中出地区施設材（20）水場材　中期末～後期初頭
図版 30　中出地区施設材（21）水場材　中期末～後期初頭
図版 31　舟岡地区その他の加工材（１）丸木材・分割材　中期末以前
図版 32　舟岡地区その他の加工材（２）丸木材　中期末～後期初頭
図版 33　舟岡地区その他の加工材（３）丸木材　中期末～後期初頭
図版 34　舟岡地区その他の加工材（４）丸木材　中期末～後期初頭
図版 35　舟岡地区その他の加工材（５）丸木材　中期末～後期初頭
図版 36　舟岡地区その他の加工材（６）丸木材　中期末～後期初頭
図版 37　舟岡地区その他の加工材（７）丸木材・半割材　中期末～後期初頭
図版 38　舟岡地区その他の加工材（８）半割材　中期末～後期初頭
図版 39　舟岡地区その他の加工材（９）半割材　中期末～後期初頭
図版 40　舟岡地区その他の加工材（10）半割材　中期末～後期初頭
図版 41　舟岡地区その他の加工材（11）半割材　中期末～後期初頭
図版 42　舟岡地区その他の加工材（12）半割材　中期末～後期初頭
図版 43　舟岡地区その他の加工材（13）半割材・分割材　中期末～後期初頭
図版 44　舟岡地区その他の加工材（14）分割材　中期末～後期初頭
図版 45　舟岡地区その他の加工材（15）分割材　中期末～後期初頭
図版 46　舟岡地区その他の加工材（16）分割材　中期末～後期初頭
図版 47　舟岡地区その他の加工材（17）分割材　中期末～後期初頭
図版 48　舟岡地区その他の加工材（18）分割材　中期末～後期初頭
図版 49　舟岡地区その他の加工材（19）分割材　中期末～後期初頭
図版 50　舟岡地区その他の加工材（20）分割材　中期末～後期初頭
図版 51　舟岡地区その他の加工材（21）分割材　中期末～後期初頭
図版 52　舟岡地区その他の加工材（22）分割材　中期末～後期初頭

図版 53　舟岡地区その他の加工材（23）分割材　中期末～後期初頭
図版 54　舟岡地区その他の加工材（24）分割材　中期末～後期初頭
図版 55　舟岡地区その他の加工材（25）分割材　中期末～後期初頭
図版 56　舟岡地区その他の加工材（26）板目板　中期末～後期初頭
図版 57　舟岡地区その他の加工材（27）板目板　中期末～後期初頭
図版 58　舟岡地区その他の加工材（28）板目板　中期末～後期初頭
図版 59　舟岡地区その他の加工材（29）板目板　中期末～後期初頭
図版 60　舟岡地区その他の加工材（30）板目板　中期末～後期初頭
図版 61　舟岡地区その他の加工材（31）板目板　中期末～後期初頭
図版 62　舟岡地区その他の加工材（32）板目板　中期末～後期初頭
図版 63　舟岡地区その他の加工材（33）板目板　中期末～後期初頭
図版 64　舟岡地区その他の加工材（34）板目板　中期末～後期初頭
図版 65　舟岡地区その他の加工材（35）柾目板　中期末～後期初頭
図版 66　舟岡地区その他の加工材（36）柾目板　中期末～後期初頭
図版 67　舟岡地区その他の加工材（37）柾目板　中期末～後期初頭
図版 68　舟岡地区その他の加工材（38）柾目板　中期末～後期初頭
図版 69　舟岡地区その他の加工材（39）柾目板　中期末～後期初頭
図版 70　舟岡地区その他の加工材（40）板目板・柾目板　中期末～後期初頭
図版 71　舟岡地区その他の加工材（41）柾目板　中期末～後期初頭
図版 72　舟岡地区その他の加工材（42）柾目板　中期末～後期初頭
図版 73　中出地区その他の加工材（43）分割材　中期末～後期初頭（上図）、舟岡地区器具材（１）
　　刳りもの　中期末以前（下図）
図版 74　舟岡地区器具材（２）石斧柄　中期末～後期初頭
図版 75　舟岡地区器具材（３）石斧柄　中期末～後期初頭
図版 76　舟岡地区器具材（４）石斧柄　中期末～後期初頭
図版 77　舟岡地区器具材（５）石斧柄　中期末～後期初頭
図版 78　舟岡地区器具材（６）石斧柄　中期末～後期初頭
図版 79　舟岡地区器具材（７）石斧柄　中期末～後期初頭
図版 80　舟岡地区器具材（８）石斧留め具、楔　中期末～後期初頭
図版 81　舟岡地区器具材（９）堀棒　中期末～後期初頭
図版 82　舟岡地区器具材（10）堀棒　中期末～後期初頭
図版 83　舟岡地区器具材（11）鋤状木製品　中期末～後期初頭
図版 84　舟岡地区器具材（12）鋤状木製品　中期末～後期初頭
図版 85　舟岡地区器具材（13）削りだし棒材　中期末～後期初頭
図版 86　舟岡地区器具材（14）弓・部分拡大　中期末～後期初頭
図版 87　舟岡地区器具材（15）刳りもの　中期末～後期初頭
図版 88　舟岡地区器具材（16）刳りもの　中期末～後期初頭
図版 89　舟岡地区器具材（17）刳りもの　中期末～後期初頭
図版 90　舟岡地区器具材（18）刳りもの　中期末～後期初頭
図版 91　舟岡地区器具材（19）刳りもの　中期末～後期初頭

図版 92　舟岡地区器具材（20）不明漆塗製品　中期末～後期初頭
図版 93　舟岡地区器具材（21）素材　中期末～後期初頭
図版 94　舟岡地区器具材（22）素材　中期末～後期初頭
図版 95　舟岡地区器具材（23）素材　中期末～後期初頭
図版 96　舟岡地区器具材（24）素材　中期末～後期初頭
図版 97　舟岡地区器具材（25）素材　中期末～後期初頭
図版 98　舟岡地区器具材（26）櫛　後期末～晩期前葉
図版 99　舟岡地区器具材（27）石斧留め具・編錘状木製品　後期末～晩期前葉
図版 100　舟岡地区器具材（28）削りだし棒材　縄文時代以降（古墳時代）
図版 101　舟岡地区繊維製品（１）　中期末～後期初頭
図版 102　舟岡地区繊維製品（２）　中期末～後期初頭
図版 103　舟岡地区植物　中期末～後期初頭

第Ⅰ章　調査の概要

1．調査区別調査状況

調査にて縄文時代に属する木製品等は1,776点出土している。出土状態は以下の3つに大別できる。ひとつは、遺構および遺構を構成している材である。水場や、柱穴などの遺構を検出している。つぎに水が溜まりやすい場所であったことを利用し、材木が乾燥し割れることから防ぐため貯木されていた木材。大型の材は杭で止めてあった。最後に流木であった材、の3タイプである。

A．舟岡地区　第1調査区・第6調査区

第1調査区は、2つの谷筋が合流し子撫川へ流れ出る出口部分に位置し、低地である。北側に隣接する第6調査区は、谷の中に中洲状に形成された台地となっている。低地部分では子撫川からの入水と谷からの排出水によって水の動きに押引きがあり、水が溜まりやすい場所となっていたと考えられる。実際に現地では、大規模な土石流層間にラミナ状堆積層が認められた。調査区中央部の南北断面には、土石流層堆積と、砂もしくはシルト層堆積が交互に堆積する状況を確認できた。縄文時代中期末から後期初頭頃に属する遺構は土石流堆積層上に築かれ、出土した木製品の大半を占める1,049点はその時期のものである。

B．舟岡地区　第2調査区

第2調査区は、第1調査区の西側に隣接している。この場所は縄文時代から中世までの遺物を含む各土層が堆積している。縄文時代後・晩期に属する土器・石器が大量に出土している。この調査区の更に西側に続く第3調査区の縄文遺構が、縄文時代末に発生した土石流によって流された遺物であるが、木製品は出土していない。縄文時代以降の川から削りだし棒材など3点が出土し、今回報告している。

C．舟岡地区　第3調査区・第4調査区

第3調査区は、東側に隣接する第2調査区から続き、西方向と南西方向からの谷筋が合流する場所である。第4調査区はそのさらに西側に位置する。合流部から西側では、縄文時代後期末から晩期の遺構・遺物を良好な状態で検出した。一方、合流部から東側および第2調査区にかけては、南西方向からの流水により大規模に削平されて残っていない。縄文時代の木製品は遺構に伴い出土したもので354点ある。環状木柱列や貯蔵穴、柱穴、水場などの遺構を検出している。

D．中出地区

中出地区は舟岡地区の第1・第6調査区の東側に続く場所である。子撫川に沿う自然堤防上に広がる平地である。舟岡地区が谷間に位置し、土石流堆積と整地層との交互に堆積する状況であるのに対し、比較的穏やかに堆積している。縄文時代中期末頃には、東側に隣接する舟岡地区第1・第6調査区から続く川に築かれた木組み遺構を検出している。この遺構に伴い18点の木製品が出土している。

2．遺構別出土状況

出土した木材のうち18%は、遺構の構成材である。本報告では施設材に区分している。遺構の種類は水場、柱穴、土坑、貯蔵穴、環状木柱列である。遺構の位置や性格など詳細については、

2004、2005年度刊行「桜町遺跡発掘調査報告書－縄文遺構編Ⅰ、Ⅱ－」〔2004・2005小矢部市教育委員会〕を参照されたい。本書では概要に留める。

水場　水場遺構は流水を溜めるための木組み（枠材）と作業するための足場がある。それらの材を留める杭もある。水場は縄文時代中期末～後期初頭の時期では5基、縄文時代後期後葉～晩期では2基を検出している。検出状況から設置された場所は、川の中や、水辺であったことが窺える。木材を方形に組み杭で固定した木枠状であるものが中期には3基、晩期には1基ある。木材を積み重ねある一定の長さに揃えて並べ、杭で固定した足場が中期に1基ある。

木材群　木組みではないが、木材や木製品等が集中して置かれた場所が中期末～後期初頭で6箇所で検出している。川の中や岸辺に木材を並べて杭で留めた状態であるものが多い。木材の大きさや形状が多様であること、杭で固定してあるものの寄せ固めて置いた状態であることから、水場の施設としての要素が見受けられない。木製品が集積されている場所では、完成品と未成品が混在し、これから加工されるような木材が集中されて置かれていた。水中にて保管していたものと考えられる。

柱穴　木柱根を伴う柱穴は、中期末～後期初頭では15基、晩期では4基ある。柱穴の掘り込みや配列が不明確であることから竪穴住居や掘立柱建物などの建物を構成するものとは断定できない。また実際に柱が残っている土坑では、柱根の径には細太いが混在する。その穴の配置も点在し、建物等の存在は考え難い。おそらく、径80㎝程度ある柱については、建物ではなくトーテムポール等の集落の位置や性格を表すものではないかという可能性がある。その他の太さの柱についても同じような配置状態であるため、建物等の存在を想定するのは困難である。

土坑　土坑は、中期末～後期初頭で194基、晩期では92基が検出されている。径に大小あるが、そのうち中期では40基、晩期では18基に堅果類がまとまって入っており貯蔵穴であると考えられる。晩期のものは、穴をほり木材で木枠をつくり、樹皮等を切り揃えて蓋をした状態で検出している。

環状木柱列　環状木柱列は、主に円形の線上で一定の間隔をおいて穴をほり、半載形や板状の柱を入れた遺構である。縄文時代晩期の北陸地方にある特徴的な遺構である。検出例が少なく、遺構の持つ性格などは解明されていない。桜町遺跡では約6mの円環を2環検出している。線上に8基の土坑、このうち7基に半径50～60㎝の半載柱が実際に残り、うち2本は円弧を削り板状に加工されていた。周辺から漆塗竪櫛など呪術的な要素が高い遺物が出土していることから、祭祀などに関係する施設という見方が強い。時期をあまり置かずに同環状にほぼ同様の穴の位置で、建替えが行われたようである。

3．時期別出土状況（表1）

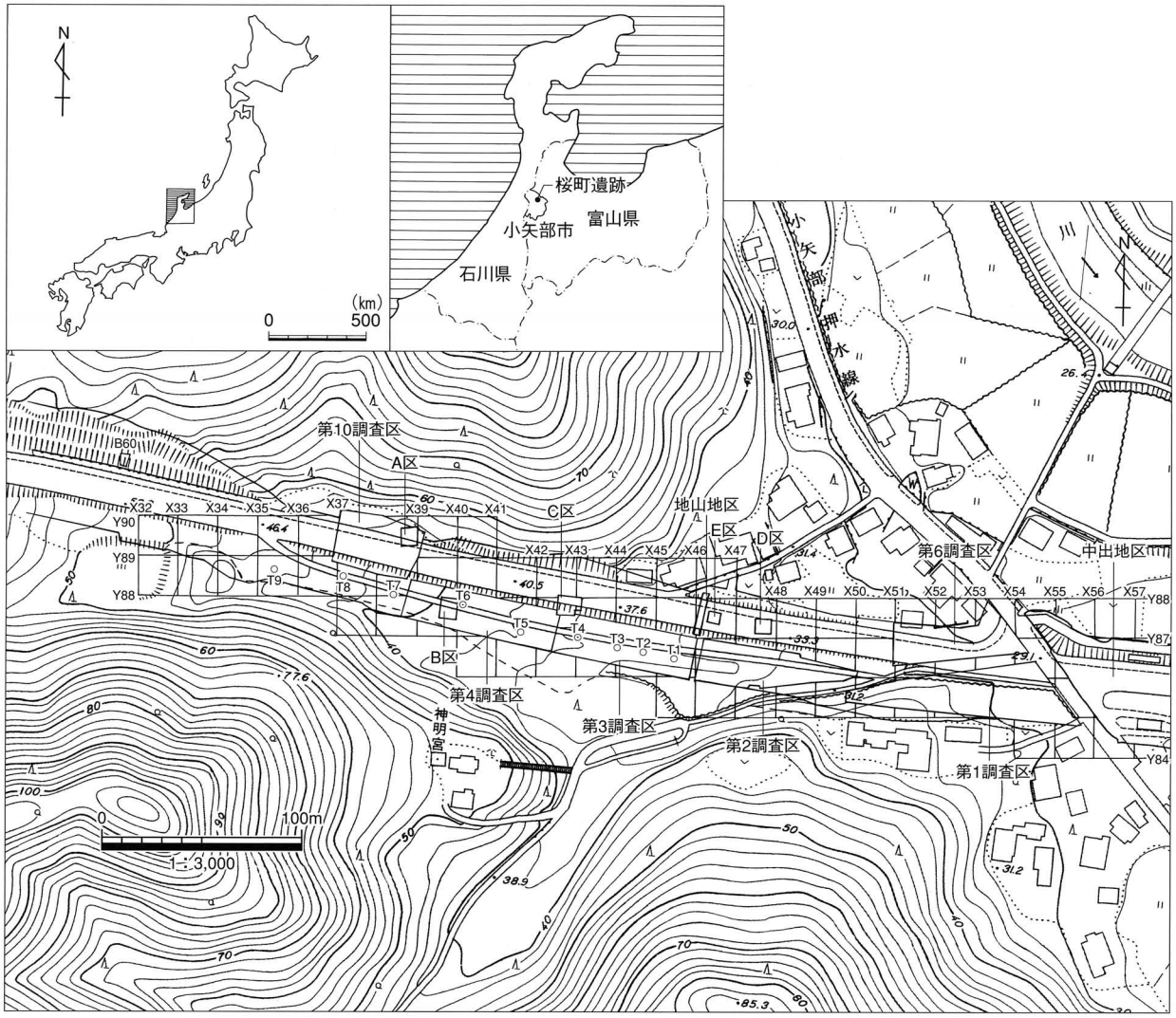
概要　本書で報告する舟岡地区第1～4・6調査区、中出地区から出土した木材や木製品は、層位や遺構から、縄文時代の4時期に分けることができる。

縄文時代中期　舟岡地区第1・6調査区および中出地区では、縄文時代中期末以前の遺構群と縄文時代中期末～後期初頭の遺構群、それに伴う遺物が検出された。遺構群は中期中葉頃におきた土石流層の堆積後に築かれたものである。この土石流堆積の層中の木材を放射性炭素年代測定のAMS法により測定した結果、約7,000～8,000年前の時期が得られた。しかし堆積層には、中期前葉～中期中葉の土器片が

混入していた。このことから縄文早期～中期中葉の長期間において、主に土石流が堆積と流失を繰り返し、中期末～後期初頭の遺構群が構築できる基盤層が形成された。この基盤層より下層の土石流堆積層上に構築されていた遺構群の時期は、中期の範疇ではあるが、詳細な時期については決定できない。土石流堆積層上に築かれた遺構群の木材は、同じくAMS法により年代測定をおこなっている。その年代値は、4,000年前を前後するものであり、中期末～後期初頭に属することを裏付ける結果であった〔2004小矢部市教育委員会（付載3）〕。中出地区では、第１調査区から続いている川跡を検出している。

縄文時代後・晩期　舟岡地区第3・第4調査区では、南西方向からの削平を免れた縄文時代後期末～晩期の遺構や遺物を検出した。層位や遺物から、後期末～晩期前葉と晩期中葉～後葉の二時期が考えられる。検出した遺構に伴って木柱や木材が出土している。

縄文時代以降～古墳時代　舟岡地区第2調査区は、縄文時代以降の川跡が3本検出されている。時期は古墳時代から古代である。しかし縄文時代晩期の土器・石器が大量に出土した。これは調査区西側に続く第3調査区にあった遺物包含層が、南西方向からの流失によって削平されたものが堆積した結果である。



第１図　調査区位置図（１：３，０００）

第Ⅱ章　整理の方法

1．記載方法

桜町遺跡は、昭和55年度から本年までの27年間かけて調査してきた。このうち本発掘調査は11年間の歳月を費やした。今回報告する木質遺物は、主に舟岡地区第1～4・6調査区、中出地区の調査地で、昭和61年度～平成元年と、平成9年度～平成15年度の発掘調査で出土したものである。

木材や木製品を、次項のフローチャートに基づき分類したことにより、区分別に報告する方法を採用した。縄文時代の木製品の器種分類については、確立されていない。それは他の遺物に比べて、出土量が著しく少なく、遺物の出土状態によっては観察が不可能であるような脆弱物であるものが多く、再利用のための加工を受け本来の形状が変わってしまったものなどあり、統計的な分類は進んでいない。以上のことを踏まえて、当遺跡検討委員の山田昌久首都大学准教授にご教授頂き、フローチャートを作成した。

本来は調査区別、調査年度別、時期別に報告するべきではある。しかし、本遺跡は複合遺跡であることと、長期間に渉る調査であったため、同区内で年度を何年も越えて調査している。[小矢部市2004] このことは、本来の遺物について報告する前に、同じような説明を何度も繰り返すことになる。したがって今回は、第Ⅰ章にて、調査区別、調査年度、時期について概要を説明する方式を採った。第Ⅱ章では、整理の方法について述べ、第Ⅲ章以降は遺物の説明をする。

2．出土点数について（表1）

縄文時代に属する木材・木製品の出土総数は、1,776 点である。この数字は、一個体としてカウントできる遺物のものである。現地において出土直後は、1,600 ㎡ある調査地内の半分程度が、木材で一杯になったという印象が強くある。しかし、大半の出土木材の状態は、腐食や欠損、土圧や木材同士が重なっていることによる潰れで変形しており、どこまでを一個体としてよいか判断しかねる状態で出土した。平成9 年度当時にマスコミ等で取り上げられた良好な状態の木材は、全体の15% 程度である。この15%の遺物について、今回図面および写真図版で提示する。

時期別の出土数について全体数に対しての割合は次のとおりである。中期末以前(中期の範疇) 19.8%、中期末～後期初頭59.6%、後期末～晩期初頭17.1%、晩期中葉3.4%である。この比率差は、中期の遺構・遺物を検出した舟岡地区第1・第6調査区および中出地区と、晩期の遺構・遺物を検出した舟岡地区第3・第4地区では、立地や築かれた遺構の性格が大きく異なることに起因する。また、晩期遺構面の調査では、自然流路中に流木として自然木を検出している。しかし川底で検出したものではないし、同時期やその後の時代に、川幅や水量などの規模が違うものの、ほぼ同じ場所で流れていたことから、縄文時代の後・晩期の木材とは決定できない。このため晩期の自然木はカウントしていない。

加工の有無については、加工有りが61%、加工無しが39%である。加工された木材は、完成品と未成品に関わらず樹皮剥ぎや枝払いが行われている。この行為は、同じ条件下で埋まっていた木材の残存状態に少なからず影響するものと思われる。中期遺構面では、トチノキが自生していた根部分を検出した。これは比較的、残存状態は良好であった。自然木でカウントしている。

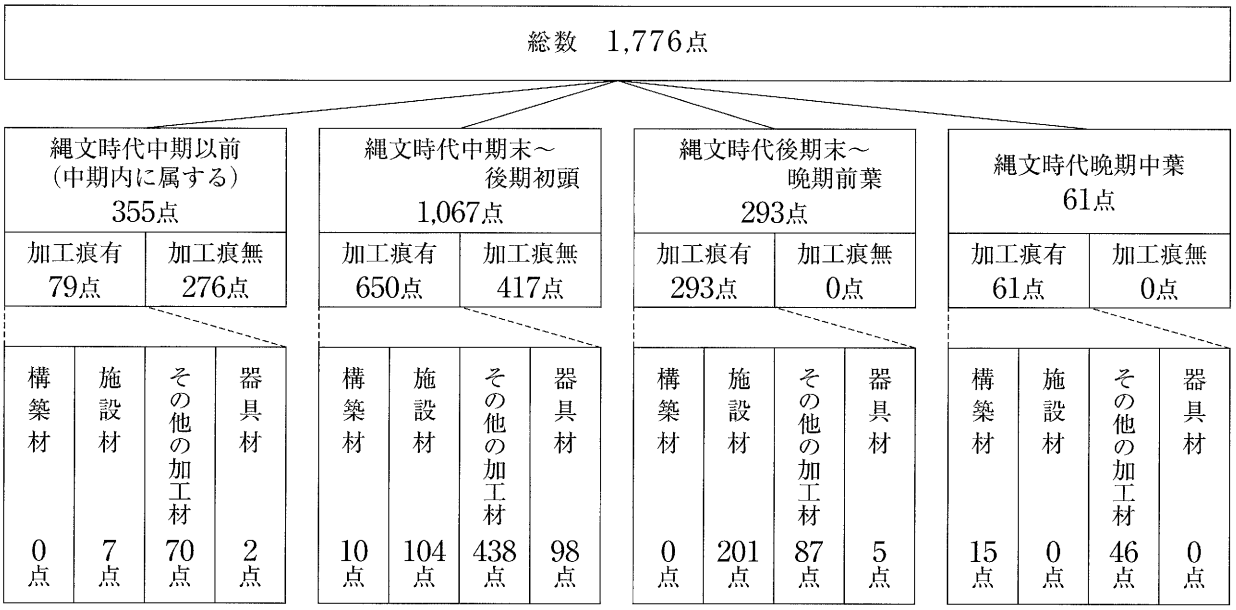
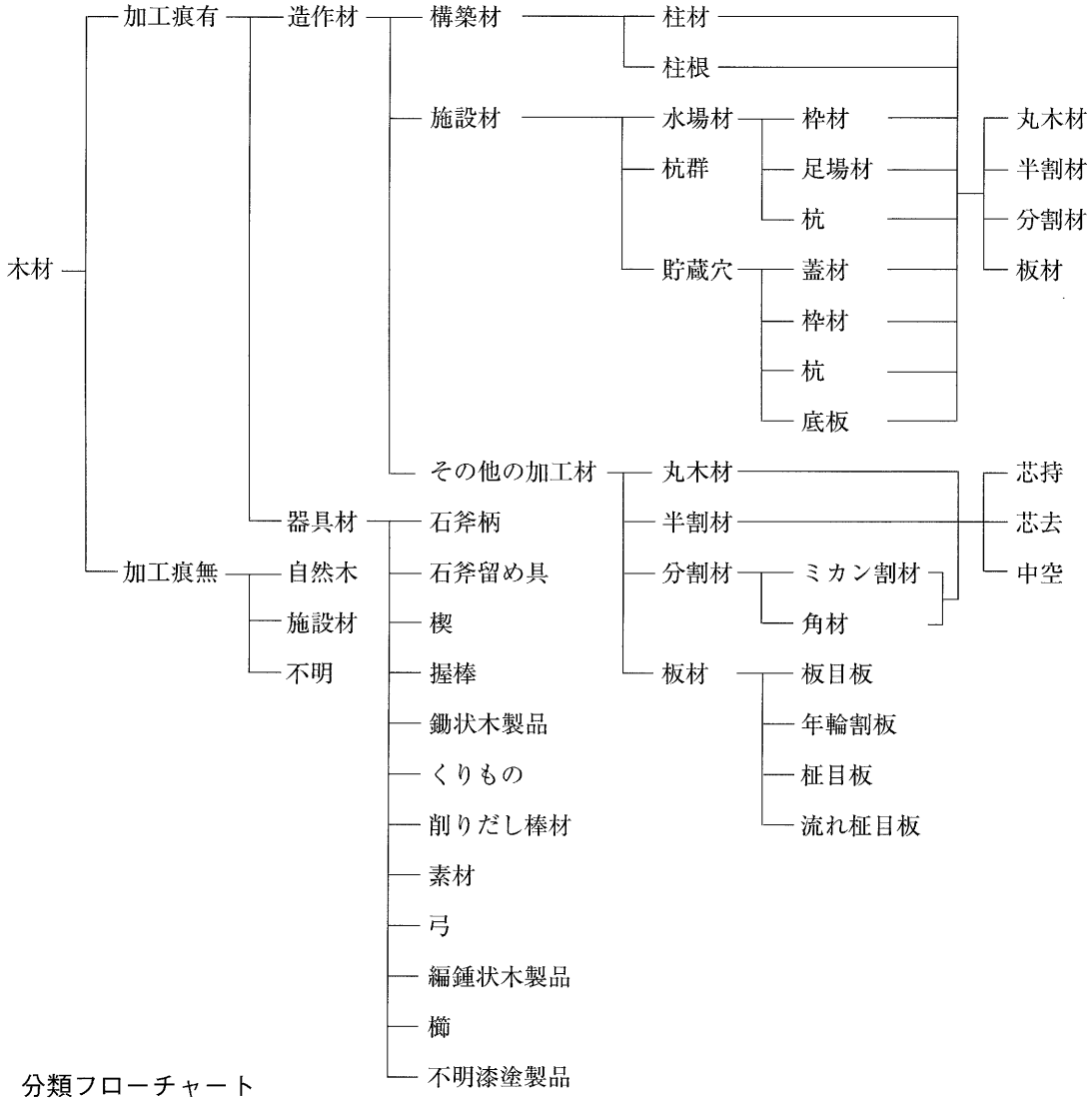


表1　時期別出土点数



第2図　分類フローチャート

3．分類方法について（第2図）

出土した木材は、加工の有無から、造作材と器具材と自然木の3つに大別した。

造作材は、次の3つの要素を持つ。石斧等による粗加工、残存形態および使用材が比較的大型、使用材種はほとんどがクリである。加工痕や出土状態から、構築材・施設材・その他の加工材に区分した。この区分の詳細については以下に記述する。

器具材は、石斧やほかの小型道具による細加工、完成形が想定できて使用材が比較的小型、使用樹種は製品ごとに適材種を使用している。12種類に区分した。

自然木は、伐採痕や樹皮剥きなどの初期段階の人的加工が施されていない木材とする。川の中の流木が多い。しかし自然木であった材でも、遺構の構成材として使用されている場合も考えられるが、当遺跡では存在しなかった。人の手が加わっていない材は、傷みやすいため、残り得なかったと考えられる。

造 作 材

構築材　加工痕や出土状況から何らかの構造物を想定できる柱根と柱材である。中期は10点、晩期15点。加工痕がある材の全体総数1,083点中で約2%の割合である。柱根は、土坑や環状木柱列から出土した。柱材1点は貯木状態であった。いわゆる貫穴1箇所と桟穴2箇所が施され、高床建物の中柱材であると想定できる材である。この材は昭和63年度調査において縄文時代の建築材が出土したと注目され、平成9年度調査では大量の木材が出土して、建築材が大量に出土した印象を強く残した。実際に穴や欠きこみなどの加工痕が施されている材は確かに多い。しかし建築材として建物のどの部分に使用されるかは不明確である。遺構からは建物跡は検出していないことなどを鑑み、本報告では前述した定義に当てはまる25点を構築材として位置づけた。

施設材　水場、杭群、貯蔵穴の遺構構成材である。中期は111点、後・晩期は201点。加工痕がある材の全体総数1,083点中から28.8%の割合である。木材を一固体で観察した場合、ほぞ穴等の明瞭な加工痕が数々認められる。しかし本来の使用形状は何であったかは判らない。それは資源を最大限有効に使用していたと思われる縄文人が、木材を一次、二次と使用し最後は燃料材、灰となって自然に帰依し循環させていたと考えられるからである。今回遺物として出土した状況は、利用経過中の木材である。したがって施設材として区分した。

その他の加工材　前述の構築材や施設材に当てはまらないが、人工的な加工痕が認められる木材である。中期508点、後・晩期133点。加工痕がある材の全体総数1,083点中から59%の割合である。両時期とも主に分割されただけの材が多い。

4．記述について

記述には、本文、観察表、図面図版、写真図版を用いる。前述したようにフローチャートによる区分を基本とする。そのうえで縄文時代内での、時期別についても区分内で分ける。

なお、今回報告するにあたり図示する遺物は、保存処理済後に図面実測（測定値も含む）、写真撮影をおこなった。通常は処理前に実測をおこなわなければならない。しかし検出時は一見しっかり見えていた木材も、実態として中身は腐食していた。大量の木材は遺構の構成材であったため、一固

体としては重なっている部分もあり全長や幅は正確には測定できなかった。全体は航空測量を実施。一固体としては取り上げ後の損傷が著しく、処理作業を先に行う事にした。

A　本　文　基本的に図示した遺物について、観察表で表記しきれないことについて記述する。区分別に造作材・器具材・自然木に出土数・分布状況を明らかにし、各々の種別ごとに説明する。

B　観察表　基本的に図示した279点について示す。このほか加工痕が認められる木材776点については、最小限必要なデーターを記載し観察表を作成した。自然木693点については集計したデーターを報告する。また、以下に示す①～⑫の計測項目は基本的な項目であるが、器具材については種別により観察表を別に作成した。

① 報告番号　図面図版、写真図版に付けた番号。遺物によっては図面・写真・観察表のみが掲載されているものがあるが、ひとつの遺物にひとつの番号である。ただし、繊維製品および植物の報告番号については、再び繊維製品が1～54、植物は1～3を付した。

② 区分　フローチャートによって分別した。

③ 種別　区分ごとにその材の出土状態や形体から付した。なお、器具材は『木器集成図録　近畿原始篇』〔1993奈良国立文化財研究所〕や他の遺跡の遺物記録を参考に名称を付けた。

④ 木取り　現状で木口面に残る木目を以下のように示した。山田氏によると縄文時代には切断道具は石斧や木具しかないので、弥生時代以降に存在する金属具による板目は出来難い。板目の木目は、実は年輪に沿って接がしているとのこと。称して「年輪割り」である。確かに板目面が無い年輪割は板材のうちの約62%を占める。しかし割合は少ないが板目はある。そこで本書ではご教授を受けながら、板目板(材)を使用する。ここに陳謝したい。なお、山田氏による木材の分割方法については、本書と同時に発刊する『桜町遺跡発掘調査報告書　総括編』(2007小矢部市教育委員会、以下〔2007総括偏〕と略す)にて報告される。

丸木材　樹心を含む芯持ち材であること。

半割材　樹心を通り2分割しているもの。

偏半割材　樹心を避けて2分割しているもの。芯持ちと芯去り材となる。

分割材　半割材や偏半割材のように接線方向に割った後で、放射方向に割ったもの。芯持ちと芯去り材となる。

板目板(材)　接線方向に割るもしくは削るもの。

柾目板(材)　放射方向に割るもしくは削るもの。

削り出し材　接線方向や放射方向に関わらず削り出して成形しているもの。芯持ちと芯去り材となる。

横木取り　容器の口と底部が柾目(接線方向)にくるもの。

縦木取り　容器の口と底部が木口面にくるもの。

⑤ 芯　樹芯部の有無。

⑥ 樹種　東北大学植物園長の鈴木光男桜町遺跡調査等検討委員に同定を依頼した。一部については、能代修一氏と㈱パリノ・サーヴェイに依頼した。詳しくは〔2007総括偏〕「　　」における鈴木氏の報告に譲る。

⑦　調査区

⑧　遺構

⑨　時期

⑩　サイズ　長さ、幅・径、厚さ・高さ

⑪　炭化・樹皮　部分的に炭化部・樹皮が残存するもの。欄に○を記入。

⑫　備考　特記する事項。

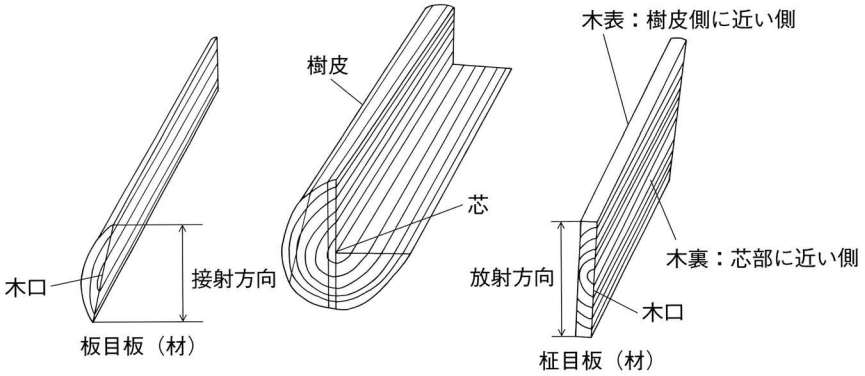
C　図面図版・写真図版

報告番号と同番号である。わずかであるが写真図版のみの遺物もある。

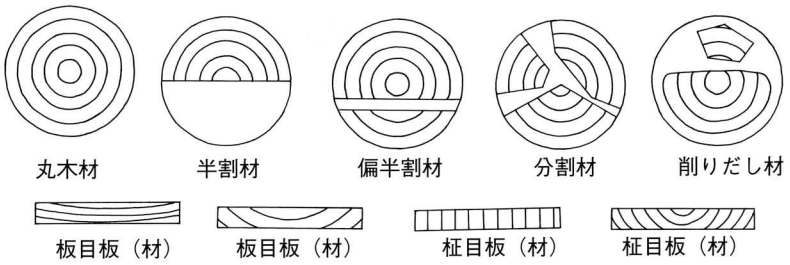
区分別に報告していく。前述したとおり保存処理後の図面作成・写真撮影である。

図について　基本的には展開図法により、正面・側面・断面である。必要に応じて裏面や底面を加えたものや、基本より減らしたものがある。

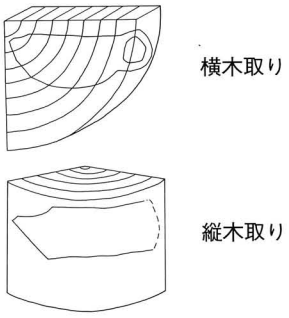
断面図　木口面に認められる年輪は、木取りを表現している。実際の年輪数ではない。また出土材種はクリが多く、道管が放射状に配列されているため、ねじれているものが多い。加えて断片で木口面が潰れており、実際の木目とは一致しない。



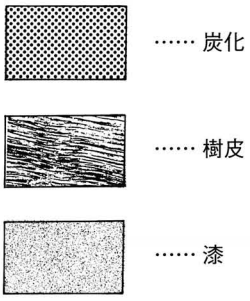
第3図ー1　木材の部分名称



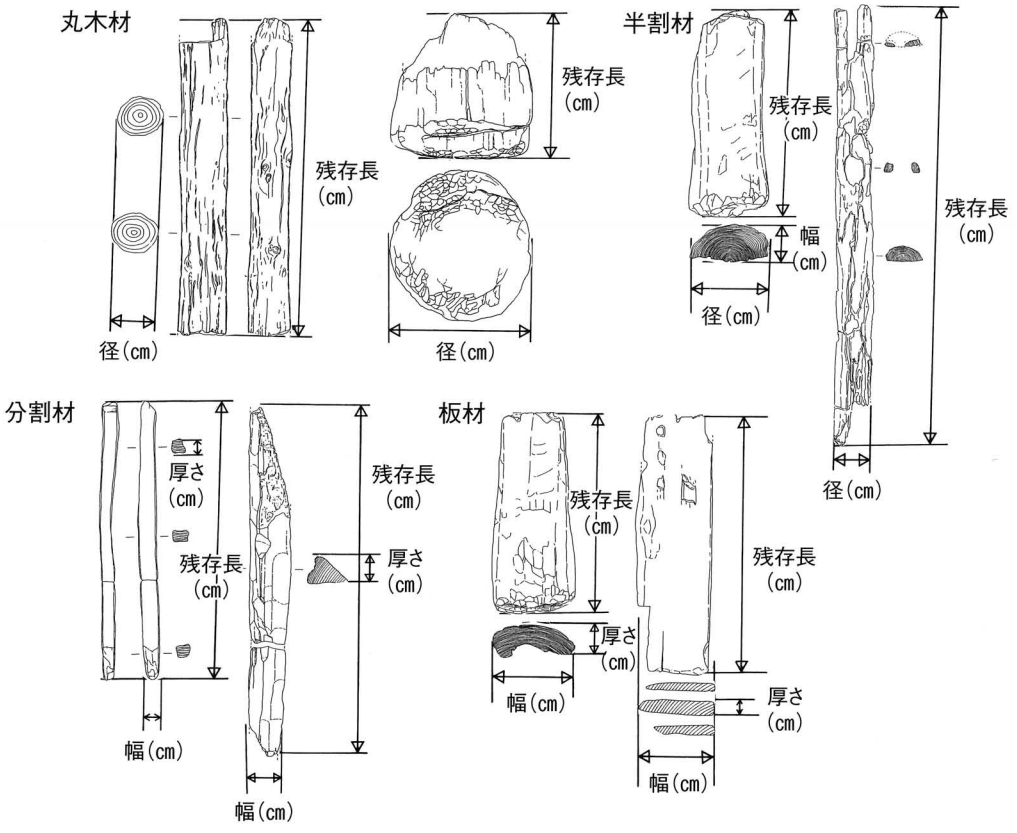
第3図ー2　木口からみえる木取り



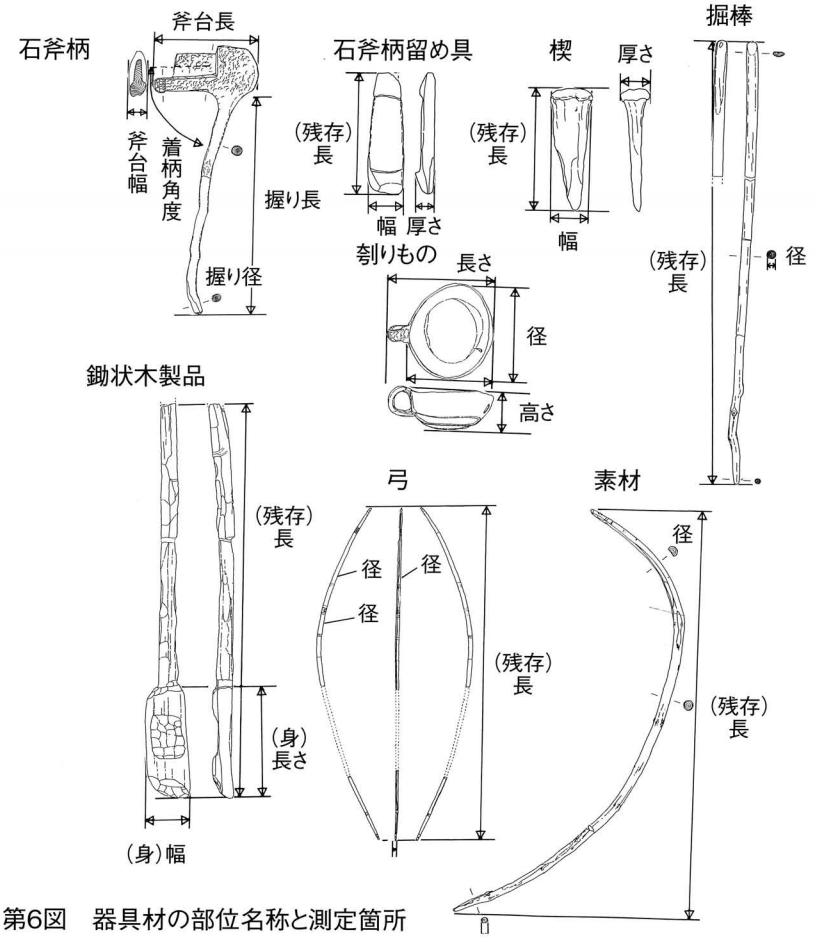
第3図ー3
容器等の刳り物の木取り



第4図　実測図の表現記号



第5図　造作材の測定箇所



第6図　器具材の部位名称と測定箇所

第Ⅲ章　遺　物

基本的には加工痕が認められた材については、調査区や出土遺構、出土年度、計測値などは観察表にて個別で示しているので、そちらを参照されたい。ここでは、観察表に書ききれなかった表現を中心に記す。

1　造　作　材

A　構築材（表2・17、第1～16図、図版1～9）

中期末～後期初頭では10点、(1～10）晩期中葉では15点（11～21、280～283）出土している。このうち良好な状態の遺物を20点保存処理し図化している。ほか5点については、出土状況写真と観察表で報告する。

1は昭和63年度調査・第1調査区東端で出土した「高床建物柱」の中柱材と想定された柱材である。川の中から他の木材と集積された状態で出土した。杭などで固定された痕跡もなく集められている。このことから乾燥防止のため貯木されていたものと考えられる。

形状は295㎝、径24㎝ある直状の柱。一先端から約80㎝は先細りしている。この部分が埋設された状況下であったという見方もできる。もう一方の先端部は完結しているか否かは判然としない。柱のほぼ中央に貫穴と称されたほぞ穴が1箇所ある。12×10㎝。側面幅15㎝に幅いっぱいの穴があけられている。桟穴とする欠き込みは4箇所。前述のほぞ穴の貫通方向に即して2穴1組で横桟を両方向から受ける。各々は9～10×6～7.5㎝。深さは木表側から9～11.5㎝。同組の2穴間は7㎝の陸橋が残る。桟穴2組間は芯々で80㎝である。

※貫穴や桟穴は建築用語で限定的な意味合いを持つ。貫穴は穴に二間通して柱を渡すものをいう。当遺跡の場合、実際に穴に柱が入っていた状態での出土状況ではない。したがって厳密にいうとほぞ穴となる。

2～5、10は、前述（第Ⅰ章2）のとおり建物等の構造物のプランが想定できない柱穴から出土した径39～61㎝ある柱根。残存長は31～71㎝。伐採時の痕跡や樹皮をはいだ痕跡がある以外に特記すべき加工痕は認められない。3の底面には樹芯部を残し14㎝の欠き込みがある。削痕が幾つも見られ底面に平坦面を作っている。木を運搬するための目途穴であった可能性も指摘されたが、樹皮側に引っ掛ける突起部分の痕はまったく認められない。現代において当遺跡周辺で林業に従事する方から、伐採時に根入りが樹芯部を越え、自重で倒木した際に底面の一部に割れたささくれが残り、それを除去する作業の痕跡に類似していることを伺った。

11～21、280～283は環状木柱列の柱根である。11～16は同環状と考えられ径49～65㎝、残存長28～50㎝。同様に19～21が同環状と考えられ径24～55㎝、残存長15～24㎝。12～17は芯部を残す略半裁。半裁面は丁寧に削り整えられ、底面は平坦に仕上げられている。11と12、21は各々の同環中の門扉部であるとされる。芯部を残す略半裁であるが円弧が削られ柾目材ともいえる。幅55～62㎝、厚さ15～21㎝、残存長24～44㎝。両面とも丁寧に整えられている。底面は平坦である。280と282は前述の二環状の同円上にはあてはまらないが、周辺の柱穴から出土した。検出形状は円形を呈しているが、残存状態が悪く取り上げはできなかった。断割で確認

したところ、底面は平坦であろう。径約 35 ㎝、残存長約 20 ㎝。発掘調査時は少なくとも 2 回の立替プランを検出しているが、同じ場所、同径のプランでもっと立替が行われていた可能性が指摘されている。その際にそのまま放置されたものであるかもしれない。〔2005 小矢部市〕

B　施設材（表 3・18、第 17 ～ 38 図、図版 10 ～ 30）

中期末以前では 7 点（22 ～ 28）、中期末～後期初頭では 104 点（29 ～ 57、479 ～ 538 は舟岡地区、64 ～ 78 は中出地区）、後期末～晩期前葉では 201 点（58 ～ 63、284 ～ 477）出土している。このうち良好な状態の遺物を 57 点保存処理し図化している。ほか 144 点については、観察表で報告する。

22 ～ 28 は杭群である。流路の進路方向に直行して二組の列を成していた。径約 8 ～ 16 ㎝の丸木材、残存高は約 24 ～ 71 ㎝。底面は先端を樹芯部やそれに近いように尖らせてある。樹皮剥ぎはされているが粗削りである。樹種はクリ、イヌガヤ、ハンノキ節、エノキ属などさまざまで、構成材としての役割を果たすためだけの加工であると思われる。

29 ～ 39、278 は水場を形成し、方形の木枠の側板や水流を調整する水口板、作業のための足場などがある。足場材は径約 13 ～ 45 ㎝。残存長は約 150 ～ 350 ㎝。樹種はすべてクリである。

29 は偏半割材である。木裏側の割面を設置面としている。残存長は約 334 ㎝、径 45 ㎝。一先端は調査用鋼矢板にて切断され調査区外へ延び、もう一方は切断痕が認められる。木表側には 32 × 48 ㎝のほぞ穴が一箇所。幹上部側の端部から 250 ㎝離れて位置する。このほぞ穴から 26 ㎝すすみ 12 × 12、深さ 2 ㎝の抉りが 2 箇所ある。さらにすすみ径 85 ㎝の 1/4 の円状を呈する抉りが 2 箇所、中央部分に 18 × 54 ㎝の陸橋を挟んで左右対称で作られている。その先は調査区外へ進むため不明である。平成 9 年度出土時には、丸太柱の芯を残し一部割り取っているのは、水場を構成するためであったと推測された。転用材と称される所以である。同様に前述の小型高床柱に対して大型高床柱と称され、今回ほぞ穴と報告する部分は貫穴、その他は装飾加工とみなされ、桜町遺跡調査等検討委員である宮本長二郎東北工科大学教授は「神殿柱」である可能性を指摘された。小矢部市教委としては推測の域を脱しないうえ、対応する柱穴が特定できないこと、高床建物の柱とする根拠としては縦置きとするか横置きにするかについてもあいまいさを否めないことから、出土状況をも鑑みて施設材と区分した。

30 ～ 32、34 は足場材である。31 以外丸太材である。4 本並べた状態で流路に即して水辺に設置されていた。個々は両端を切断し長さ調整が行われている。このうち 30 には一端部に 25 × 26 ㎝の欠き込みが 1 箇所施されている。

33 と 278 は水場の足場材である。33 は径 24 ㎝の丸太材で両端切断されている。一端部は部分的に残して年輪サンプルを採取した痕跡である。278 は板目材で、一面には 6 × 12 ㎝、深さ 3 ㎝の 2 箇所の欠き込みがあり、断面はU字形を呈する。うち 1 箇所は端部にかかるため、U字形の立ちあがりが片方無い。

36 は水場の木枠である。長側面を設置面にし、径 2 ～ 3 ㎝の細い杭で 6 ヶ所留めてあった。対する長側面には、4 × 10 ㎝、深さ 4.5 ㎝のほぞ穴が 2 箇所施されている。水場の機能に反映しない加工である。

37 ～ 39 は水場の水流調整用の板である。37 は柾目板、38,39 は板目板である。石斧での板作りは容易いことではなかったであろう。しかし両面とも丁寧に削られ、長辺短辺部ともに角が立っている。面には年輪が現れており水流によって磨耗しながら削られた可能性が考えられる。

40 ～ 50、279 は長さ約 10 m、幅 3m の大きさで水辺に築かれた足場材である。大小 400 点以上の木材で構成されていたが、このうち明瞭な加工痕が認められる 12 点を図化した。ほかは観察表のみで報告する。樹種は大型の木材にはクリが多く、小型は様々である。以下特質する木材について、記述する。

40 は残存長 381.6 ㎝、径 16 ㎝の丸木材である。同側面上に 5 × 6 ㎝、深さ 1.5 ㎝の欠き込みが 2 箇所施されている。

41 は残存長 241 ㎝、径約 10 ㎝の二股丸木材である。二股木部分の両先端と根元部には切断痕が認められ、股部分には他材を受けていたと見られる痕跡が認められる。樹皮剥ぎは施されているが、他には特質すべき加工痕は認められない。他の遺跡で検出される柱穴から、一般的な竪穴住居の柱材のサイズに合致するものと考えられる。

42 は残存長 220 ㎝、径 33 ㎝の半割材である。一面には 3 箇所のほぞ穴が穿かれている。穴の側面や底面など全て平滑で丁寧に仕上げられており、3 箇所はほぼ同じサイズで、幅 32 ㎝で、厚さ 13 ～ 15 ㎝のうち木裏側を 3 ㎝残し、木表側は幅 9 ㎝、厚さ 4.5 ㎝の陸橋部を残して刳り抜かれている。陸橋部の両端には約 2 ㎝の溝ができており、これは縄掛けの痕跡ではないかと考えられる。両端部の一端は欠損しているようでそこから約 7 ㎝の部分から 3 箇所のほぞ穴が芯々で約 60 ㎝の間隔で作られている。3 箇所目から約 30 ㎝進んだ部分からもう一端部にかけての長さ約 60 ㎝は、全体的に粗れており、この部分が埋設されていた可能性が考えられる。

45 は残存長 132.4 ㎝、幅 14.7 ㎝で、一端部には径 4.5 ㎝の突起部があり、平成 9 年度の発掘調査時には、ほぞとしていたが、今回報告するにあたり切断する際に残った部分である可能性が高いと考えるものである。

47 は残存長 228 ㎝、幅 14.4 ㎝で偏半割材である。一端部から約 60 ㎝部分には現状では大きく欠損し、接合も困難であるが、出土時には縄掛け用の目途穴があるとされていた。木材表面が粗れており、現地では土によって保護している状態であったため、取上げ時には崩れて失ったものである。

49 は残存長 134 ㎝、幅 27.2 ㎝の柾目板で、両端は欠損しているようである。一端部から約 20 ㎝進み、幅 27 ㎝のうち両端に 5 ㎝幅を残して、28 × 15 ㎝の長方形のほぞ穴が木表側からあけられている。このほぞ穴からもう一端部にむかい、約 17 ㎝の長さで幅 27 ㎝いっぱいに削り込まれているが、その先は欠損しており、全体形状は不明である。

51 ～ 57 は水場構成材である。水場は流路に平行して 4 × 2.8 m の長方形型に築かれている。大小 90 点以上の木材で構成されていたが、このうち明瞭な加工痕が認められる 7 点を図版化した。

52、53 は残存長が違うものの、木表側に段やえぐり込みなどの加工が施されており、施設では枠材の一部として使われていた。これは、後述するその他の加工材の 111 と同一材と見られ、そこで概要を説明する。

54 は残存長 182 ㎝、幅約 10 ㎝の断面が扇型の分割材である。一端部には先端部をゆるく尖らせ

20 cmほど平坦面をつくった後、径 4 cmのくびれを両方向から削りだしている。後述するその他の加工材の 131 は先端部のみが残存している。

56、57 は残存長約 240 cmで、幅約 20 cmの板目板である。2 本は平行に並べられて、組み合わされて、水を引き込む菅のような役割を持っていたと見られる。56 の一端部には 20 × 15 cm、厚さ 6 cmの方形を作りだし残している。これに対して 57 の一端部には一辺が約 15 cmの三角柱状に削りだしている。両材の側面を立てに置き、前述 57 の先端部から約 10 cm離し、同様の方向に 56 の方形のつくりだし部分を置いて、平行に並べている。両材とも、もう一方の端部は幅約 15 cm、厚さ約 12 cmの板に削りだされている。57 には板の側面に、90 度の角度で幅 15 cm、厚さ 2 cmの板が一部残る。本来は加工のある先端部から 1.5 mの長さで残っていたが、取上げ時に崩壊したため残らなかった。

58 ～ 63 は、貯蔵穴の構成材である。基本的に穴の大きさに即して正方形に組まれた枠組みと蓋材がある。このうち明瞭な加工痕や残存状態がよい遺物 6 点を図版化した。ほかは観察表のみで報告する。貯蔵穴は樹皮そのものを使用し、他の材も樹皮が付いた状態であるものが多く、遺構検出時は状態が良好であるが、取上げに際しては大型の木材でも崩壊するものが多かった。

63 は残存長 56.7 cm、幅 27.3 cmの板材で一部欠損している。一面は炭化しており、この面が貯蔵穴の底面にされていた。炭化させることで腐食を防いでいたものと見られる。

64 ～ 78 は、水場構成材である。先端をある程度尖らせた分割材を地面に突き立てた状態で検出した。これらの杭の間に挟まれるように長方形の板が長辺を設置面とした状態で出土した。流路の中に築かれていることから、水場として機能していたとみられる。64 ～ 74 は残存長約 42 ～ 82 cm、径約 4 ～ 15 cmの芯去りの分割材である。先端は粗く削られて尖らせてある。

75 は残存長 109 cm、幅 39.6 cm、厚さ 5.9 cmの板である。杭群の中で水流調整の役割を果たしていたものと見られるが、両面とも平滑で削痕が認められ良好な状態である。一端部に施されている扇型の曲線部の加工は、杭群に使用される前の状態の残部であると考えられるが不明である。

76 ～ 78 は断面形状が板、先端は粗く削られ厚さ約 3 cmと薄くなっている。

C　その他の加工材（表 4・19、第 39 ～ 77 図、図版 31 ～ 73）

中期末以前では 70 点（79 ～ 83、945 ～ 1009）、中期末～後期初頭では 438 点（84 ～ 202、うち 200 ～ 202 は中出地区出土材である、626 ～ 944）、後期末～晩期前葉は 87 点（539 ～ 625）、晩期中葉は 46（1010 ～ 1055）点出土している。このうち良好な状態の遺物を 124 点は保存処理し図化している。ほか 564 点については、観察表で掲載する。各時期では、木口面に現れている木取りから、丸木材、半割材、分割材、板目材（板）、柾目材（板）に分類した。残存状態が悪く木口面からの情報が明確でないものが多い。出土した材の 74%がクリであることから、放射組織によって年輪が確認し難いのも一要因ではある。したがって全部ではないが専門家や専門機関に協力をお願いした。それでも不明なものは観察表での記入を避けた。

79 は、1 万年前以前に湖沼堆積層が形成された後に発生した土石流の堆積し層を形成していく過程で自生していた樹木の一部である。全体は根から幹、枝までが全体的に残っている自然木であると判断したが、幹のこの部分にのみ明らかな加工痕があった。全体は出土状態が悪かったので、取り上げ

は現状部分のみに留めた。周辺では縄文早期の押型文様がある土器が出土したが、堆積状況から木材の時期決定はできない。16 cm× 12 cm、深さ 5 cmの欠き込みが施され、樹種はカエデ属である。

80 は半径 18.3 cmと推定され、残存高 18.3 cmの柱根である。約半分のみの残存であるが、樹芯部に向かい刳りぬいた痕跡が見受けられるが、全体に摩滅しており加工痕か自然に痩せたのか判別できない。底面には伐採痕が認められ、樹種がクリであることから柱根とした。

83 は、土石流層に流された状態で出土した。断面形状から板目材である。芯を年輪に沿って抜いてあり溝ができている。これをもって樋のように使用したかは、出土状況と照らしても考え難い。

84、85 は二股材である。Y 字材と称され当遺跡でもその使用方法などが大変注目された材である。2 本は大きさや加工が酷似している。根元から二股の先端までは 251.6 cmと 260 cm。二股の間は芯々で約 90 cmあり、幹は約 30 cmの丸木、樹種はクリである。根元は水平に切断され、幹から二股に分岐する部分でやや反っている。この反りの内側になる側に丁寧な削り加工が施され、平らな面を作っている。この削りは二股木の先端まで続く。両先端部は水平に切断され、12 × 6 cmで深さ 6 cmの欠き込みがあり、ほかの材木が当たった痕跡は認められない。また 2 本とも反りの反対側には樹皮を剥いだ際にのこる削痕が顕著に残る。しかし、径 1 ～ 8 cmの大小の節が 84 で 7 箇所，85 で 8 箇所があり、節は枝払いはしてあるものの突起部分は除去していない。よって使用法の一案である橇型木製品の「修羅」のような擦痕は認められない。また、85 の根元部分がやや細くなっているが、削痕によるものである。東北工科芸術大学の宮本長二郎氏は、この部分が埋土され二股木の先端を上に向け立てていたと述べられたが、埋設により痩せたとはいえない。よって立てられていた可能性は少ない。対して 84 の根元部分には樹皮を剥ぐ際にできた痕跡が認められる。

86 ～ 95 は丸木材に区分した 10 点である。86 には両端に芯部の切り残し痕が残る。88 は一先端に伐採時の痕跡が顕著に残り、この痕跡より枝幹材であったと判る。

94 ～ 96（96 は後述する半割材に区分）は、平安時代の流路が、下層にある縄文時代の包含層に達している層位で並べてまとめてあった木材群である。残存長は約 2.7 ～ 3.4 cm、径約 15 cmの丸太材 2 点と半割材である。

96 ～ 110 半割材に区分した 14 点である。97 は木表側の弧を削り平坦にしようとしている。両側面は明瞭ではないが削痕が認められ、先端部には切断痕が、もう一方には欠き込みが認められる。

98 ～ 107 は割り面には特に加工痕が認められないが、片もしくは両端部に切断痕が認められる。101 は、出土時には割り面を上面に検出し、周辺には割った一部がつぶれたクルミのわずかな集積と敲石 1 点が出土した。裏面となる木表側はやや扁平に潰れているのに対し、木裏側は年輪が潰れ明瞭ではないが窪みが認められる。出土状況と木材の状態から「調理台」としての役割、つまり石皿のように使用していたのではないかと考えている。片端部には切断痕が、もう一方は樹芯部が切り残されている。

108 は径約 45 cmの偏半割材である。木裏側には、割ったというよりも樹芯部を残し削りとったようで節も削ってある。木表側は一部を残し斜めに削り平坦面をつくっている。横断からみると楔状である。両端部は欠損もしくは雑に切り取ったような痕跡がみえる。

109は年輪の若い外側部分でいわゆる辺材であるが、径は36㎝の丸木材が想定される。注目しているのは、片端部に短辺の両端が突起状に残りそこから角部分を丸く削っている部分である。推定ではあるが、突起状がもう少し延び反転しておなじような形状がつくられていた場合、ほぞ穴であった可能性が考えられる。

110は辺材部分ある。短辺の片端部に切断痕があるもう一方は残存状態がよくない。割り面には削痕による多少の起伏がみられる。これは割った際に残った部分を除去した痕ではないかと考えられる。木表側は樹皮が剥いである以外に特に加工は観察できない。

111～155は分割材に区分した45点である。これを便宜上、以下の3つのグループにわけた。ひとつは加工痕が顕著であるものや丸木に対して分割面積が大きいもので111～125を当てている。ふたつは木口が三角形を呈している、いわゆるミカン割材で126～136を当てている。みっつはミカン割材の一部を除去し木口が四角形を呈し、いわゆる角材になるもので137～155を当てている。以上は残存形状からの主観的な決めごとであることや、木材の形状が複雑であるものがあるので、専門的な見地からは誤りである場合がある。ご容赦願いたい。

111は木口からは分割材であるが一部板状になっている。木裏側は割ったというより自然に割けたのではないかと思われる。この木材については自生していた根部分を意識して加工を施している。先端部は三角形を呈し頂点は尖らせてあり、径5～10㎝の楕円状の欠き込みが7箇所で深さは3～5㎝程度。幅10.2㎝の帯状の段が作られている。この分割材は流路にひっかかるように出土している。この流路の上流部にあたる近接地では、水場施設を検出している。その構成材の2点の木材が非常に類似している。施設材で報告した52､53である。3点は接合できなかったが同じように幹の根元部に欠き込みや段などが施されている。おそらく同材であると思われる。その場合、根元部を上部とし、そこに加工のある柱材が想定される。この柱材と非常に類似した材が北海道の忍路土場遺跡で出土している。横木を受ける柱ではないかと考えられている。1998年度に出土した際に特異な形状や加工から「彫刻柱」と称した材である。現状では柱材とはいえないが、欠き込みや段は、柱材であっても装飾の意味合いをもつかもしれない。

112の木裏側は割ったままである。端部は一端に半円形を呈しているが、その形状に道具を使った痕跡は認められない。両端は欠損している。ほぼ中央部に木表側からあけられた径約10㎝の穴があり、ほぞ穴の可能性が考えられる。

113は木口からは、分割材であるが一部板状である。板状の先端部から84㎝部分に幅16㎝で木裏側を0.7㎝残して、木表側には幅4.5㎝、厚さ0.5㎝の陸橋部を残して刳りぬいている。この陸橋部下の穴は高さ約3㎝と小さく、その意図する効果は疑問であるため、この以前に使用されていた状況で施された加工である可能性が高い。一端部は分割材状で、先端から105㎝まで10×6.5㎝の断面方形を呈す。端部から12.4㎝部分は幅はやや膨らみグリップエンド状となる。1997年度の出土時には板状部分にある加工を「ワタリアゴ仕口」としていたが、その後2001年度に「貫穴がある材」として訂正した。今回の本報告では厳密にはほぞ穴として報告する。

115、116は芯去りの板目の材である。木表側は樹皮剥ぎ以外に加工は認められない。両端部は

切断してある。

118 は長辺の一側面全体がはつられてゆるくカーブを描く。一端部は切断されているが、もう一方は欠損している。

120 は木表側の円弧部が抜かれゆるく溝ができている。木裏側には芯部が残り、両端部は欠損している。

121、122 は全体的に摩滅し、両端部は欠損している。123 ～ 125 は一端もしくは両端に切断痕が確認できる。

126 ～ 130、132 ～ 136 は一端および両端部に切断痕が確認できる。分割面には割った以外の加工は認められないが、樹皮は剥いである。

131 は分割面には特に加工はないが、先端部をゆるく尖らせ 10 cmほど平坦面をつくった後、くびれを削りだしている。木口は 7 × 8 cmの扇形となる。施設材に区分した 54 の先端部にも類似した加工がある。この 2 点は残存長も大幅に違うが、54 のような長さがあれば、くびれ部分は別の柱材や横材に引っ掛ける役目を持つものではないかと考えられる。他の遺跡での類似品を探している。

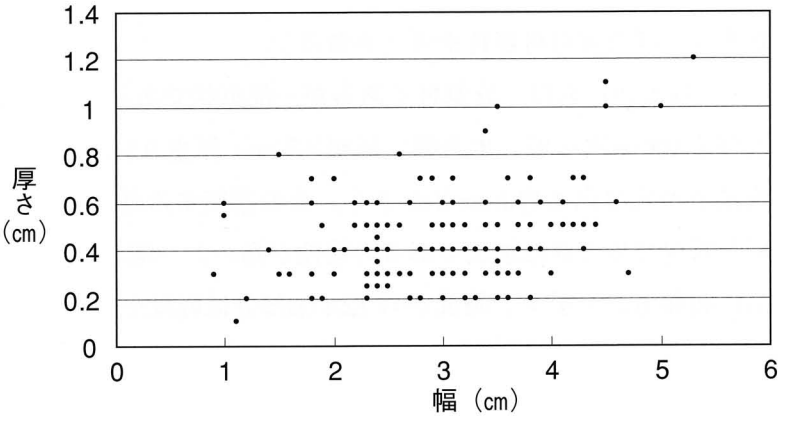
137 ～ 151 は木口の形状から角材状になるものである。扇形に分割後、木表木裏側ともに角面を割るもしくは削るなどが行われている。割るには年輪に沿って剥がしている部分もいくつか認められる。139、140、142、146、151 などがそれに当たる。端部は欠損しているものが多いが、先端部を尖らせたものや、細くなっているものがある。137、139、143、145、149、151 が該当する。

152 ～ 155 は木口が三角形状である。ミカン割り材との違いは木表側を弧の部分を割り平坦面をつくっていることである。片端の先端は尖っている。

137 ～ 155 の出土状況は木材の集積であったり流木であったりするものであるが、杭としての機能があった可能性が高い。

156 ～ 177 は板目板（材）に区分した 22 点の遺物である。

156 ～ 158 は年輪に沿って割いてある。樹種はスギ。今回実測図や写真図版にて掲載するのは残存長が長いものを 3 点選抜した。ほか 161 点の固体数がある。合わせて 164 点について厚さ、幅を計測したものを点グラフにて以下のとおりまとめた。（第 7 図）割くという手法では、厚さは 0.6 ～ 1.8 cm、幅 3 ～ 4 cmが平均的である。割いた面は多少の起伏があるもののささくれた状態のものはない。クリ材の場合は割ったあとで邪魔な部分を除去するために削った痕がみられるが、このスギの板材 164 点について削痕は認められなかった。金属製の道具が出現した後も、細く薄い板材を要した場合、針葉樹などの放射組織が



第7図　スギ薄い板材の幅・厚さ分布図（164点分）

複雑でない材種では割いて調達した可能性はある。しかし縄文時代以降の加工材については建築部材などの大型材や多種に分類された木製品を中心に報告され、単に切断したり割ったりなどの木材については報告例が少ない。

159 ～ 161 は年輪に沿って割った材である。とくに 159 は両面ともやや摩滅しているが木表側には潰れている。両端部は欠損しているが、長辺の一側辺には、はつられてゆるいカーブが認められる。このカーブには別の材が当てられたような痕跡は確認できない。

162 ～ 170 は両面とも分割した後、木表木裏側を削りとって平坦面を作っている。端部は片および両端に切断痕が認められる。幅が 10 ～ 25 cmあり、厚さは 2.3 ～ 10.1 cmとある。

171、173 ～ 177 は前述の 162 ～ 170 と同様な加工であるが、側辺部が割るもしくは切断されているが、明瞭な角は作られていない。

172 は先端部にむかいやや薄く削られている。先端部は一側辺が斜めに切り取られ、バターナイフのような形状で、その部分は先端から片面にかけて炭化している。もう一方の端部は欠損しているが径約 8 cmの棒状になる。この棒状を柄と仮定するならば、火を扱う作業につかう道具の可能性も考えられる。177 の先端部には同様の切り取り途中の加工痕がみられるが、もう一方の端部は切断痕か欠損か断定できない。

178 ～ 199 は柾目板（材）に区分した 21 点の遺物である。

178 は片面に段が 3 箇所作りだされている。3 箇所間隔を段の頂点の芯々で測ると約 30 cmである。板の厚さは約 8 cmであるが、2 箇所の段の間には約 4 cmの深さまで掘り込んである。この裏面は平坦である。両端部は欠損しており、全体形は不明である。

179 は 178 と同様に片面に段が 3 箇所作られている。違いは段と段の間に明瞭なカーブがあることである。このカーブを他の木材を当てるためのものであると仮定した場合、径 65 cm程度ある円状の外形線に当たる。両端部が欠損しているため、全体形が不明である。

180,181、185、188 は先端部に面ができている。前述の 172,177 のように片刃のような形状である。181 はその部分が片面だけ炭化している。もう一方の端部は欠損か先に延びるのか判断できなかった。

182 は両端が欠損しているが、両面や両側辺部は削ってあり角やカーブがつくられている。

183、184、186、187、189 は片端や両端部が欠損している。両辺に角ができているものも認められる。両面には削痕が認められるものがある。

190 ～ 194 は両面とも丁寧に削られている。両側辺部には角面ができている。両端は一部分欠損しているが、190 や 193 はほぼ完形であろう。

195 は全体的に摩滅し、面の中央部分が欠損しており、片面は炭化している。両側辺部は削られて角面ができている。両端部はこれでほぼ完結しているであろう。

196、197、199 は分割材に分類できるが板材に分類した。端部がゆるやかであるが尖らせてある。

198 は先端部や側辺部に面がある。長辺の側辺部ははつられ、ゆるやかにカーブしている。

200 ～ 202 は中出地区から出土した遺物で、分割材に区分する。両端部は一部分に欠損があるが、ほぼ完形品であろう。先端部はまるく尖らせてあるため、施設材にあった杭状の木材と同種ものであろう。

2 器 具 材

中期末以前では2点（203、204）、中期末～後期初頭では65点（205～269、ただし264は他17点・269は16点を個体数としている。）、後期末～晩期前葉は5点（270～274）、縄文時代以降は3点（275～277）出土している。合計75点の遺物について保存処理後に図化し今回報告している。器具材は、第Ⅱ章でも述べたように完成形が想定できるものから、12種類に区分した。使用樹種は製品ごとに適材種を使用している。造作材のように突出してクリではなく、出土点数に応じている。保存処理後に観察したことによって、その他の加工材と同様に残存状態が悪いというより木口面が小面積で情報が明確でないものが多い。したがって全部ではないが専門家や専門機関に協力をお願いした。それでも不明なものは観察表での記入を避けた。

A 石斧柄（表5、第78～82図、図版74～79）

205～223は欠損しているが完成形が想定できること、枝幹材を使用していること、同時期出土の他の遺跡で類似品が出土していることなどから石斧柄とした。全て組み合わせ式の膝柄である。組み合わせ方法は、石斧刃を縦方向に置き、作り出した板に石斧の基部を当て、両側面と上面から3方向から別材の留め具で押さえ縄などの紐状品で縛るものである。このような状態で1996年に新潟県の大武遺跡で出土している。この方法であれば長さや幅が違う石斧を装着できる。当遺跡では同じ中期末～後期初頭の時期に比定できる磨製石斧は、長さ8～15cmの中・大型でほぼ長方形の定角式が多く出土している。樹種はヤブツバキやミズキなどの硬い樹種が使用されている。枝幹材を利用し枝を柄の部分に、幹を斧台部として加工している。柄は基本的に原木のままで使用し、樹皮剥ぎがおこなわれている。先端部のみ切断し長さ調整をしている。斧台部は枝から続く幹部分を削りだしている。加工の程度から欠損しているものも含め完成品（205～215）と未成品（216～223）にわける。なお、完成品に欠損品が多いのは使用されていたためであろう。欠損は、柄の握り部分が欠損するものが多いが、斧台の欠損の仕方には2通りある。ひとつは、斧台の当て板部分との境目で縦に割れているもの（207、208）もうひとつは同じく斧台の中心から上下で割れているもの（209）がある。

※205について　1998年度刊行　小矢部市・小矢部市観光協会出版「桜町遺跡」の33頁掲載の5は、206に205の斧台と柄の部分を反転させ合成した図面である。1997年度に出土した石斧柄は5点あるが、完形品はなかった。そこで斧柄部分を想定するために1988年度に出土した205から合成した。その際に図版に復元部分について示すべきであったし、注釈するべきであった。本報告で訂正する。

205は完成品の完形品である。斧台には小型の道具での加工痕が明瞭に認められる。石斧を装着する部分は5cm、留め具を当てる板状部分は9cmである。先端部には縄などを掛ける突起状の作り出しがある。握り部は57.6cm、径2.8cmで樹皮は剥いである。先端部は切断されている。

206～208は斧台部から留め具を当てる板材から先端部にかけて欠損している。208には柄部が残存する。すべて205と同様の形状であったと推定される。

209は斧台の上部半分と縄掛け部分、柄の端部が欠損している。

210、213は摩滅しているが小型の石斧柄である。斧台の留め具を当てる板の一部は認められるが、そこから先端部にかけて欠損している。斧台から柄に続く部分がわずかに残っている。

211は摩滅し柄部分は欠損している。斧台については留め具を当てる板が一部欠けているが、縄

掛けの突起も認められる。

212は斧台の縄掛け部と柄が欠損しているが小型石斧柄である。ほぼ完形品であろう。

214は斧台のみである。留め具を当てる板はほぼ完存し、縄掛けの突起部分は欠損している。一部炭化しているが、製品として使用していた後に何等かの火を受けたものと思われる。柄は欠損している。

216～219は斧台となる幹部分のみが残存している。幹径は7～9㎝。制作過程として台基部からある程度を形成し、その後で縄掛けや留め具を当てる板をつくられることが推測できる。219も同様の制作過程であろう。柄が残存している。

220は斧台のみが残存しているが、幹が縦に半分程度割れている。制作過程での欠損であろう。

221は斧台の留め具を当てる板を作りだし、台基部を作成中に柄も供に欠損したものと考えられる。斧台先端は切断のみが施されている。

222は斧台となる幹部分のみ残存。斧台先端が切断され、台基部はやや削り痕が認められる。

223は素材のままで樹皮が付いている。斧台となる幹部分が他の未成品と比べて小ぶりであるが、完成品を推定するとかなり小型であると思われる。

B　石斧留め具（表6、第83・102図、図版80・99）

224～226は中期末～後期初頭、273は後期末～晩期前葉に属する。他の遺跡で出土例があること、欠損部分はあるが、完成形が組合わせ式石斧柄の留め具としての形態が想定できること、273では縄掛け部分に繊維体が残存していたことなどから、石斧柄の留め具とした。

224は片端が欠損している。石斧柄の当て板と触れる部分はほぼ偏平であるが、石斧と接触する部分はゆるくカーブしている。このカーブする側が石斧装着時に前方部になる。残存する端部には端から2㎝余りを残して削り込まれ、縄ないし紐などを架ける引っ掛け部分であったものであろう。失った端部に向かい幅は狭くなる。また226は摩滅し残存状態が良くないが、同様の形態が認められる。

これらに対し225は完形品である。片面は両端部を縄掛けのために先端から約1.5～2㎝を残して後は平らに削られている。端部の形状は片方の幅がやや細くなっているが、こちらが前方部となる。その裏側は石斧の当て板や石斧と触れる面部分はほぼ水平で、使用回数が少ない可能性が考えられる。

273はほぼ完形品である。前述の中期の遺物と比べ約2倍の大きさがある。形状は、石斧柄と触れる面は偏平であるのは同様であるが、緊縛固定のための加工にはやや違いが認められる。中期は縄か紐掛けのために単に引っかかりを削り出してあったのに対し、晩期は前方部となる側に、幅2.5㎝程度の溝状の削りこみが施されている。後方部となる側は、先端を丸く尖らせ、突起状に作りだしている。その窪みには繊維体が付着していた。裏側面は水平部分からゆるくカーブする。

C　楔（表7、第83図、図版80）

228は、頭部を打ちつけられた痕跡と形状から楔とした。片端は先端部を薄く尖らせ、もう一方は先端部が径約2㎝の円形で敲打され潰れており径2.1㎜の石がめり込んでいる。これに対して227は中央部が約2㎝の厚みがあるが両先端部に向い約1/3程度薄くなり、両先端部に打ちつけた痕跡が認められない。形状から材と材の隙間に差し込む使用法が想定され、現状では楔状木製品に留める。いずれも完成品で完形品であると考えられる。楔は木を分割するために欠かせない道

具であるが、完成品であっても小型製品であるため、実際に使用しているものであればあるほど、形状は劣化し残り難い遺物と考えられる。

D　堀棒（表8、第84・85図、図版81・82）

229～233は、先端部に潰れたような痕跡と形状から堀棒とした。5点はすべて完成品である。229、230は完形品で、いずれにも先を細く尖らせた先端部と先に向いうすく扁平に削った先端部がついている。尖らせた先端部では地面を突いて土をほぐし、扁平な先端部で土を掘ったと考えられる。229は実際に使用していたものか両先端部が潰れている。

E　鋤状木製品（表9、第86・87図、図版83・84）

234～237は、残存する形状から土堀道具である鋤状木製品とした。使用痕は明確ではない。234、235は完成品の欠損品、236、237は未成品である。

234は、鋤の身部から柄にかけて残存する。そのうち刃にあたる部分半分と先端部を失っている。柄はほぼ円形で、径約3cm。身から続く部分が一番広く幅5.2cmある。刃部は先端部にむかいやや内湾し、厚さ約5mmと薄く削られている。

235は、鋤の身部のみが残存。厚さは約1cmの板状。柄に続く付け根を中心にし、身の天端の両側に向い斜めにカーブする。この部分は現代にあるスコップにも通じ、足を掛けたりなどしている。そこから先端にかけてはほぼ真直ぐ伸びている。先端部はやや潰れている。両側辺はやや薄く削られている。

236は未成品であるがほぼ全体が残存する。柄はやや角が残るが径約3cmとなろう。身は厚さ3.8cmの板状で片面中央部には、7×8.5cmの長方形に削られ窪んでいる。先端部は斜めになるよう削られている。

237は鋤状木製品として、身部であるか柄の持ち手でグッリプエンド部分であるか判別し難い。図版等では身部であるように配置した。

F　削りだし棒材（表10、第88・103図、図版85・100）

238～241は中期初頭～後期初頭、275～277は縄文時代以降の古墳時代に属する。残存する形状と加工から削りだし棒材とした。両端もしくは片端部が欠損しているが、7点とも完成品であろう。径は約2cm程で、断面形状は円形、半円形、楕円である。

275は、先端部に施された加工から木弓の可能性が高い。弓とした場合、弭となる端部には弦かけ溝が作られているが、棒樋は切られてはいない。

G　弓（表11、第89・90図、図版86）

242は、完成品で、両端から弓幹までほぼ全体の約2/3が残存する。全長は推定約177cm、径約2cmで、樹種はニシキギの削りだされた木弓である。両端の弭には弦かけ溝が作られている。弓腹中央には両弭の弦かけ溝まで、棒樋が切られている。弓幹には1～4cmの長さで、繊維状の糸か紐が丁寧に巻き付けてあることが確認出来る。漆分析の結果、全体に茶黒色の漆が塗布されているが、この部分は特に厚いことが判明した。実用品であるとしたら、矢を当てる箇所は決して一箇所ではないと思われ、強化したものとも考えられる。しかし、5箇所あることを考慮すると飾り弓である可能性が高い。

H　刳りもの（表 12、第 77・91 韓 5 図、図版 73・87 ～ 91）

203、204 は中期末以前、243 ～ 254 は中期末～後期初頭に属する。残存形態と加工から刳りものとした。254 を除き完成品である。

203、204 は土石流層から出土した小片で、かなり残存状態が悪く摩滅している。刳りものとしたのは両面に削った痕跡がわずかであるが認められること、断面から観察すると先端部から面にかけてゆるやかに内湾していることから、器の口縁部と判断した。

243 は、体部の側面に把手が付く。ほぼ完形品である。高さは 6.7 ㎝で、底部の内底面は平坦で、外面はゆるやかに丸みが作られ、口縁部は体部肩から外反する。口縁の平面形は径 17 × 19 ㎝の楕円形を呈す。底部には幅約 3 ㎝の帯状の作り出しが施され、一見、目玉のような模様である。内面と、外面の口縁部と底部の作り出しに、ベンガラ漆が塗布されている。把手の両基部の付け根は、断面方形で幅約 3.4 ㎝、そこから握り部は幅約 2 ㎝×厚さ約 1.2 ㎝を測り、ほぼ円形を呈している。

244 は完成品であるが、縦割れした口縁部の約 1/2 のみが残存する。残存高は約 10 ㎝で、口唇部にかけてやや内湾し、端部は水平である。そこに約 4 ㎝幅の注口が作りだされた片口の容器と推測している。片口の基部から端部には 2 ㎝幅の帯を浮き彫りしている。厚さはほぼ一定であるが、片口部分のみ若干肥厚する。内外面ともに丁寧に磨かれ、ベンガラ漆が塗布されている。

245 は、高杯と推測している。完成品とみられるが、軸部は無く、裾広がりした脚部のみ 3/4 程度残存している。復元径は 22 ㎝である。内面は刳り抜いてあるが、欠損しているので形状は不明である。底面は水平である。厚さは約 1.7 ㎝、裾部でやや肥厚する。外面には裾部に向い縦方向に約 2 ㎝幅の帯状の彫りこみが施され、黒色とベンガラ漆が交互に塗布されている。また裾端部 5 ㎜幅でベンガラ漆が繞っていたと推測される。

246 ～ 251 は、小破片であるが主に外面に赤色漆が塗布されており、完成品の欠損品ではあるが、残存形状から容器であろうと推測できる。厚さは 2 ～ 5 ㎜である。247 は外側が炭化しているが 2 次的なものであろう。249 は内外面や側面にベンガラ漆が塗布されており、高杯の脚部の可能性もあるが、小破片であるため判然としない。

252、253 は大型容器の可能性が考えられる。各々両面とも厚さ約 1.5 ～ 2.5 ㎝で平らである。削りは丁寧である。253 は、一側面の端部が水平に削られており、ここが立ち上がる面であった可能性もある。図面では表現しきれなかったが、片面の中央部分で炭化しており、1 ㎝程度の円形の炭化痕が 6 箇所認められる。二次的に火起しの台として使用した可能性が考えられる。また、252 と 253 は板目板で木目の流れが似ていること、樹種がトチノキで同じである事などから、接合点はないが同一材であるかもしれない。

254 は、鉢形容器の未成品である。樹種はトチノキで、木の節もしくはコブ部分を利用し深さを得ようとしているとみられる。外面は粗く削りある程度の丸みをつくっている。内面は所々に炭化痕が残るが、丁寧に削っている。変形した楕円を呈す身の頂部に把手状の張り出しが 1 箇所ある。この部分はそのまま把手となるか、片口となるのかはわからない。

I　不明漆塗製品（表 13、第 95 図、図版 92）

255 は、残存形状や加工などから完成品であるが不明品とした。材質は不明であるが、植物の表皮を利用したものであると推測され、表面に漆が塗布されている。本来ならば、繊維製品に入れるものであろうが、出土当時は弓弭の可能性も示唆されていたため、器具材に入れた。端部の始末がされていないことから、完形品の状態が仮定できない。漆の塗膜分析結果より、朱漆であることが判明した。他に赤色漆が塗布された製品はあるが、判明しているものは全てベンガラである。唯一、朱が用いられているこの製品のもつ意味は興味深い。当遺跡調査等検討委員会の鈴木、山田両委員は、「把手」の可能性をご指導頂いたが、不明品とした。

J　素材（表 14、第 96 ～ 100 図、図版 93 ～ 97）

256 ～ 269 は、採取時に切り取られた、もしくは折取られたような状態が端部に残る。長さは約 50 ～ 121 ㎝、径は約 0.6 ～ 3.3 ㎝で、均一的なものではない。表皮は、一部残っているものもあるが、ほとんどのものが剥かれている。形状は 256 ～ 263 が曲棒状、264 ～ 269 は直棒状である。断面形態は、丸木で一部半割のものがある。264 と 269 以外は全て、単独で方々から出土している。出土当時は、曲棒状の 2 本を組み合わせて、タモの輪として使用したものと推測されたが、端部に縛ったり巻きつけたりした痕跡は認められない。さらに残存状態が整っており、採取時や表皮剥き以外に顕著な加工が施されておらず、使用後の製品とも認められない。以上のことから素材と位置付けた。

K　櫛（表 15、第 101 図、図版 98）

270 ～ 272 は、後期末～晩期前葉に属する。同時期の他の遺跡からの出土も多く、残存率や状態が悪いものがあるが、櫛とした。3 点とも結歯式である。漆の塗膜分析では、全面をベンガラ入り漆を塗布されていることと判明したが、材質については分析をしたが判らなかった。271 は無加飾であるが、272 は中央部に透かし彫り、歯の結合部分には幅 2 ～ 4 ㎜の 2 ～ 3 条の沈線で加飾されている。頂部には 2 本の角状の作り出しがあったものと推測できる。歯は 16 本あったことが認められるが、全て失っている。

L　網錘状木製品（表 16、第 102 図、図版 99）

274 は、後期末～晩期前葉に属する。木表側には樹皮がほぼ全面に残り、木裏側は平らに削られている。一端には、先端部を 2.5 ㎝程度残して木表側に溝状に削り、丸く作りだしている。この形状から編錘の可能性は高いが、名古屋大学渡辺誠名誉教授のご指摘やご指導を受け、同時期の他遺跡での出土例や、平安時代より以前には類例がないことより、現状では編錘状木製品に留める。

第Ⅳ章　繊維製品

概　要

桜町遺跡では、出土した繊維製品は実際に使用されていたと考えられ、水辺に部分的に残った断片であるものがほとんどであるため、本来の形状は不明確である。さらに取り上げ後は劣化し崩壊する遺物も多く、今回提示する総点数は、保存処理前に図化できたもの、水浸け保管しているもの、保存処理したものなど、何等かの形で提示できる遺物を対象としてカウントした。総点数は54点である。基本的なことは観察表で示し、図示した遺物について観察表で表記しきれないことについて記述していく。写真図版は前述のとおり取り上げ後の状態が悪く、出土状況写真6点、遺物写真1点のみの掲載となった。

一般的に「編む・組む」の技法によるものをザルやカゴと呼称しているが、明確な定義は無いに等しい。したがって、桜町遺跡から出土した繊維製品についても、各種書面および公的な場において、ザル・カゴと固有名詞で示しているが、感覚的な口縁部の開口具合によるものである。

そこで今回報告するにあたり、繊維製品について3種類に分類した。各点数は以下のとおりである。木を細長く割いて柔軟性を持たせたものや樹皮、植物の繊維体などを編む・組むの手法で平面や立体物をつくりだすものを「カゴ類」とし46点、繊維体を撚るおよび撚ったものを綯ったものを「縄」とし7点、繊維体であるもの「糸」として1点である。時期については、全て出土状況や共伴する遺物より縄文時代中期末～後期初頭に帰属するものと考えられる。

材質同定については、東北大学鈴木三男教授が監修のもと、(財)元興寺文化財研究所の井上美知子氏に依頼し、詳細は〔総括編2007〕にて掲載している。なお、縄文土器底部に残る繊維製品等の圧痕については、中田節子氏に依頼し〔総括編2007〕にて概要を報告している。

遺物について

A　カゴ類（表20、第104～110図、図版101）

観察表にて示す材質の「タテ」は、骨組みの基本となり動きのない材料を指し、これに対して「ヨコ」は骨組みに絡んで動く材料を指している。「縁部」は、細長い材に、主に樹皮を巻いたものを指す。「縁部」と「タテ」「ヨコ」が組み合わされたものから、残存する部位を判定した。しかし、全体形状がわかる遺物は2点のみであり、その他は口縁部または体部と記した。材質同定については全て鑑定したが、判明したものは観察表に示した。

1は底部となるであろう中央部分を失っているが、口縁部から底部にかけてゆるやかに湾曲しており、全体形がわかる。部分的に残存する口縁部は木片若しくは細枝3～4本を、7㎜幅の樹皮で螺旋状に巻きつけたものを1本の束とし、この束を2本並べて縁部としている。樹皮を螺旋状に巻きつける方向が斜めに整っているのは、樹皮を幹から剥ぐ際に付いた癖を利用していると考えられる。体部はもじり編みの技法で、タテ・ヨコともに1本で、5㎜間隔に直線状に並ぶタテ各1本に対して、ヨコは1㎝間隔の1本で捩っている。体部から口縁の間は、ヨコだけで編み込み繋がる。

2は部分的に欠損しているが、口縁部から底部まで残る。全体的に扁平で、土圧で潰れたものか

どうか、もしくは本来の形状であるかは不明である。口縁とみられる部分は、円周の3/4程度が残存する。木片若しくは細枝5本を束ね、全周ではなく2～3cm間隔で同様の材質を使い巻き留めている。この巻き束ねたもの同士を、更に幅3mm程の樹皮若しくは同様の材質で巻き留めて一周している。体部は、底部中央よりタテを放射状にひろげ、ヨコで捩り円を描き、口縁へ編み込んでいる。

3～5は口縁部より体部がわずかに残存する。口縁部は、木片若しくは細枝数本を束ね、樹皮若しくは同様の材質で巻き留めている。体部は一定間隔のタテに、ヨコは1本から2本でかがり捩る。

6～17はもじり編みの体部のみが残存する。一定間隔のタテに、ヨコは1本から多くて3本かがり捩る。またこのヨコの間隔は、狭く詰めているもの、それに比べて開いているものがあり、用途に応じて作り分けていたのであろう。しかしながらこの間隔は一定であるものがほとんどであるが、6や10のように部分的に詰めた箇所、7のようにヨコだけで編み込む箇所がある。7は口縁部と体部とを繋げる技法であると考えられる。

18～22は網代編みである。このうち18～20は口縁部と体部が、それ以外は体部のみが残存する。木片もしくは細枝を樹皮で巻き留めた口縁部に、「1超え1潜り2送り」で繋がる。19と20の口縁部は、体部と同質の材を使用して作製しているようであるが、それぞれ体部からのタテから「2超え2潜り1送り」、「1超え1潜り1送り」繋がっている。

23～27は口縁部もしくは、持ち手などの用途を考えさせるが、使用方法は不明である。23は木片若しくは細枝5～6本を束ね、幅6mm程度の樹皮で巻き留めたものが、4重位にまとめられている。直線にすると40cmを超える。24～26は23と同様の作りであるが、24には、これを2重にし樹皮で留めている部分がある。なお、中央には網代編みの体部があるが、本来の位置は留めていない。26にも2重にした部分のみが残存している。27は樹皮のみが残存している。

28～42は残存状態が悪く、図版等は掲載できない。

B　縄（表20、図版102）

縄とした遺物は7本あるが、全て断片である。このうち状態が良いものを3点の写真図版掲載した。なお、材質については同定した結果、不明であった。43は繊維体を右に撚り、それを輪にしていたのか半円状に残存している。撚りは緩んだものか、繊維体が10数本確認できる。45は8～12本の繊維体を右撚りにしたものを、結んだ部分のみが残存する。この結び方は「本結び」と呼ばれ、現代でも使われている。46は7～10本の繊維体を右撚りにし、それ同士を左に撚り合わせた全長約12cmの直状である。出土した縄は7本あるが、46は断片であるにも関わらず緩んではいない。

C　糸（表20、図版102）

糸は断片で3点ある。繊維体を数本重ね合わせたものを、ベンガラ漆で塗り固め、各々太さ約1.5mm～2.5mm、長さ約1.2～1.4mmの大きさである。3点は接合できないが、大きさや仕様から同一個体と考えられる。全国で13例目となる出土である。

第Ⅴ章　植物

概　要

今回報告する遺物は、ヒョウタン２点とコゴミ１点である。時期については、３点とも出土状況および共伴する遺物から縄文時代中期末～後期初頭に属するものと考えられる。他に出土したクリ、トチ、コナラなどの堅果類などの植物遺体については、古代の森研究舎の吉川純子氏に依頼し〔総括編 2007〕にて報告する。

遺物について（図版 103）

1は頸部より蔓につながる果梗付着部が切断されており、その下につづく果皮部は最大径7.8㎝で球形を呈し、壺のような容器と比喩できる。中身はきれいに欠き出され、欠損部分からその作業痕跡が認められる。水辺に設置された構成材とする大型材の下から出土した状況から、水場での作業に使用していたものと考えられる。

2は果皮部のみが残存する。果皮の上部に掛けて切断されており、椀型容器のように最大径6.7㎝の球形を呈している。やはり中身は欠き出されている。土坑内に開口部を上にした状態で置かれていた。使用方法は不明であるが、器としての様相が伺える。

3はコゴミと呼称しているが、正式にはクサソテツであると同定された。長さは約６㎝で先端部が渦を巻いている。水辺で水量が減少した時期に、クルミや他の種子と固まった状態で岸に埋まったものと見られる。収穫時期が違うが食用となるクルミと出土したことから、食用に採取されたものと考えられる。平成９年度に出土した際に、分析依頼した結果報告を以下に掲載する。

報告文

小矢部市桜町遺跡出土のシダ類の幼体は、クサソテツ（Matteuccia　struthiopter　is(Ｌ.) Ｔodaro）と考えられる。シダ類の幼体は基本的には「ゼンマイ状」にまくものが多い。その中でもゼンマイ（Osmunda　japonica　Ｔhunb.）は、茎に鱗片が発達しないので、ゼンマイではない。今回のものは、全体の形状や茎に鱗片があること、断面の形態などから、クサソテツと考えられる。随伴する種子化石がトチノキやミズキ、アメガシワなどであることや、遺跡の立地から考えると、シダ植物が生育していた環境としては、開けた人里と森の境界にあたり、沢沿いの湿った日当たりのよい林縁部のような環境が想定できる。クサソテツはこのような環境に好んで生育することから、生育環境としても調和的であるといえる。

クサソテツは別名コゴミともいわれ、食用になる。コゴミの食用の歴史に関しては定かではないので、当時食用とされていたかに関しては不明である。しかしワラビなどと違い、アルカリ（灰汁など）によるあくぬきが不要であることから、簡便に食用にすることができる。したがって、当時利用されていた食用としての可能性もある。（分析はパリノ・サーヴェイ㈱に依頼したが、同定については立教大学理学部　岩槻邦男教授の協力を得たものである。）

第Ⅵ章　転用材について

転用材とする見方

桜町遺跡で出土した木材は、加工の度合いが高いほど、表裏の面で全く様相が違う木材が見られる。つまり一面は平滑で丁寧な仕上げが施されているが、その反対面は割ったもしくは剥ぎ取ったような痕跡がそのまま認められるのである。そのギャップが顕著であるため、当市教育委員会や調査指導を頂く方々も、木柱などは転用時に半割にされたのであろうという見方をしていた。したがって縄文時代には木材という資源を余すところなく活用していたと考えるわけである。他の遺跡においても木材については、幾度か使用変更を繰り返し、最後は燃料となり土に還るといった見方がなされている。

特にこの様相を呈する木材は、施設材と区分した木材に多く見られる。施設材は全体総数のうち18%を占める。このうち掲載した遺物の29、31，36、42、47、49、56、57については、木表側に「欠込み」や「ほぞ穴」の顕著な加工が施されているが、木裏側には分割する作業痕は認められるものの、反対側で見せ付けられた高度な加工技術は全く使われてはいない。特に29は「欠込み」が木裏側に向けて深く抉られており、現状の厚さからは、縦横いずれの使用法でも強度が保てない。したがって、水場の構成材にした際に割ったものと考えられるのである。56、57は組み合わされて遺構の一部を構成している。57は板材板としているが、一側面に対して90度の角度で板が立ち上がる。本来の形状は角材であり、水場に構成される際に木表側の板を厚さ3㎝で残し、削り取ったものと推測される。

以上のように現在の形状から、別の形状を推測することができる木材については、転用材として認めることができると考える。

転用材以外の見方と比較をする

平成16年12月に開催されたシンポジウム「考古学から建築材・建築技術を考える」では、京都大学大学院生の村上由美子氏により、平成14年度に小矢部市で行った環状木柱列の復元実験の結果をもとに、クリの丸木を半割りする際に、ねじれて割れて真直ぐ割ることが容易ではないことを発表した。

これを受け、転用時に半割りされたという見方を再検討すべきであり、割ることの意義について、また、どのような方法なら望む位置で割ることができるのかを考えたい。

丸太に加工を施し使用したものを、木材の分割順序で、半分から放射状に割っていく。この作業を石器のみで行うこと自体が困難と思われる。そのため、木材を水浸しにし、ある程度表面に石器などの刃が入りやすい状態にするものと考えられる。こうして乾燥しきった木材を割ることを可能としたのであろう。したがって施設を構成する時に木材の厚さや長さの調整分割をしたかもしれないが、水に浸す時間は必要である。この貯木時に部分的に水から顔出し状態で出ているところが、腐食した可能性が考えられる。腐食部分を除去した木材が使用された可能性を考えられる。

次に、転用材と考えた場合、木材を分割し施設を構成する部材にすることが目的であって、構成材としての役割を果たせれば丁寧に仕上げる必要性はないのかもしれない。時間を掛けて木材を分割する行為には、単純に材料としての数が増やすことができること、厚さや長さを調整することが必要な施設であることなど考えられる。目的に合う木を探し伐採し運搬する労力と、既存する木材の中から目的に沿

う形に加工する労力を比べた場合、後者を選択したのであろうか。水辺に築かれた全長約 10m の足場遺構 SX－2には、以前の形状のままと見られる構成材が多い。この施設は水辺の斜面に約 1m の木材を積み重ねたもので、厚さや長さの調整はあまり重要視されなかったと考えられる。これに対して、水場遺構の SX－1や SX－14 は構成材には、その遺構の持つ役割にはあまり反映しない顕著な加工が施された構成材が多く見られる。

また、その他の加工材に区分した中にも顕著な加工が施されている木材が多く、貯木している状態で出土している。貯木することは、転用するために保管しておく木材と、加工途中木材の保管などの目的が考えられる。しかしその中の、48 と 49 の使用目的不明である「Y字材」においては表裏で加工頻度が違う。使用する部分や見せることを意識した部分のみを顕著に仕上げるといったスタンスは、どの時代の遺物や遺構にも見受けられる。Y字材が完成品であるとした場合は、その意識が働いたものと考えている。

以上のことから、木材を有効に使い回すために転用していることは間違いない。そして特に施設の構成材へとの転用時には、やはり厚さや長さの調整は行われていた可能性が高い。クリがねじれて割れることを考慮しつつ、木材が水分をどのくらい吸収したら思うとおりの場所で割っていくことができるかを熟知していたものと推察される。

第Ⅶ章　まとめ

1．本書では、桜町遺跡舟岡地区・中出地区から出土した縄文時代の木製遺物について報告した。一部、古墳時代の遺物も掲載した。

2．木製遺物は、加工の有無をはじめ使用材種や使用目的から、造作材･器具材･自然木に大別した。

3．造作材は、石斧等による粗加工、芯持ち・芯去り材ともに比較的大型材であり、使用材種はほとんどがクリである。

4．造作材は、構築材、施設材、その他の加工材に分類した。構築材は、主に加工痕や出土状況から何等かの構造物が想定できる柱根と柱材である。施設材は、出土状況が遺構の構成材であるもの。桜町遺跡では、水場、杭群、貯蔵穴を確認している。その他の加工材は、構築材や施設材に当てはまらないものの、人工的な加工痕が認められる木材である。分割されただけの木材が多い。

5．造作材には、建築材に施される建物の部位名称に則して、継手・仕口と称する加工痕が認められる。しかし、各々は検出された遺構に反映しない部分に顕著な加工が施されていること、該当する建物遺構を検出していないことから、明確に建築材であるとは断言できない。このうち何等かの構造物が想定できる構築材については、柱根が土坑に埋設された状態である。これに対して、柱材は遺構に伴う出土ではないが、その形状から小型高床建物の中柱として仕口として認められることから、構築材に分類するとともに、建築加工の初期段階に位置付けられる遺物と認められる。

6．造作材については、中期末～後期初頭の遺物は、木取りから径 30 cmの材を中心に伐採し分割している。ただし径約 50 cmを超える木材は分割しないで丸太の状態で使用している。後期末～晩期中葉の遺物は、出土数は少ないが、径 50 cmを超える木材を分割し遺構を築いている。中期以降人口が増加したことが影響し、木材の需要が増加したものと考えられ、木材加工に携わる人口が増えたのではなかろうか。当遺跡から出土した石器のうち、木材の伐採や加工に用いられたと考えられる磨製石斧の出土量やその内容にその傾向が現れている。磨製石斧を大中小のサイズに分類し、それぞれ 15 cm以上、10 ～ 15 cm未満、10 cm未満を基準とする。中期では、大と小のサイズが多いものの中のサイズもある程度出土している。しかし後・晩期では大と小のサイズがやはり多いが、中のサイズは大小のサイズと比べて極端に少ない。中期には径 30 cmの材が使用材の中心であったことから、中のサイズの石斧でも伐採や切断することが可能であったものと考えられる。しかし両時期の出土量が極端に違うことや、遺構から見える生活基盤が一概に比較できるものではないため、あくまでも木材に施された加工痕からその比較を試みたものである。

7．器具材は、石斧や小型の道具による細加工、完成形が想定できて比較的小型の木材や製品になっているもの、また製品ごとに適材を使用している。

8．器具材は 12 種類に分類した。このうち完成形が想定できないが、完成品の欠損品である製品は不明漆塗製品とした。そのほか石斧柄、石斧留め具、楔、堀棒、鋤状木製品、削りだし棒材、弓、

刳りもの、素材、櫛、編錘状木製品の１１種類である。分類した全ての製品については、欠損部分があるものの完成形が想定出来ることを前提にしており、各々の分類基準は以下のとおりである。石斧柄は枝幹材を使用し、同時期の他遺跡において類似品が出土していること。石斧留め具は他遺跡の出土例から、その使用形状が想定でき、縄掛け部分に繊維体が付着していたこと。楔は一先端部に打ち付けられた痕跡があることやもう一端が薄く扁平であること。堀棒は両先端におのおの尖らせた部分と扁平にした部分をつくってあること。鋤状木製品は、鋤の身部と柄の部分のどちらか一方と見られる残存形状があること。削りだし棒材や弓、刳りものは、残存する形状とその加工状況より判断した。素材は採取時の痕跡や表皮剥ぎ以外に顕著な加工は施されておらず、使用痕が認められないこと。櫛は、他の遺跡でも良好な状態での出土例が多く、本遺跡から出土したものは残存率や状態が悪いものの櫛とした。編錘状木製品は、完形品の完成品であり編錘の可能性が高いが、同時期の他遺跡での出土例がないことより編錘状木製品とした。

9．造作材の構築材、施設材、その他の加工材の３種類では、使用樹種は圧倒的にクリが多い。それぞれの割合は、構築材が１００％、施設材が９７．１％、その他の加工材が７４％を占める。しかし、器具材は、突出した樹種は無く、割合は出土数に比例する。

10．自然木は、自生していた状態の木材と、自然に折れたりして川岸や川にあった木材等の二種類がある。どちらも自然木にカウントしているが、出土状態に差が表れる。前者は樹種に関係なく、良好な状態で出土している。対して後者は磨滅して出土時やさらにその後の水浸保管中の劣化が著しい。このことから、同じ時期の条件下において埋没していた木材には、以下の木材の加工頻度の順で残存状態に少なからず影響があるものと考えられる。加工が施されている木材は、その加工が樹皮剥ぎや枝払いなどの軽度な内容であっても、残存状態は概ね良好である。次に、加工が施されていない自然木は、自生していた木材、そうでない木材の順で残存状態に良し悪しが認められる。

11．繊維製品は、カゴ類、縄、糸の３種類に分類した。それぞれの基準は以下のとおりである。カゴ類は木を細長く割いて柔軟性を持たせたものや樹皮、植物の繊維体などを編む・組むの手法で平面や立体物をつくりだすもの。縄は繊維体を撚るおよび撚ったものを綯ったもの。糸は繊維体であるもの。出土状況や共伴する遺物より中期末～後期初頭に帰属するものと考えられる。

12．植物は、ヒョウタン２点とコゴミ１点出土している。いずれも出土状況や共伴する遺物より中期末～後期初頭に帰属するものと考えられる。コゴミは食用に採取されたものと考えられるが、１点しか出土していないことや、他の低湿地遺跡での出土例がないことから、食用に採取したものと安易に考えてよいか懸念される。今後の出土に期待するとともに、再考する必要がある。

13．木材を有効に使い回すために転用していることは間違いない。特に施設の構成材へとの転用時には、厚さや長さの調整は行われていた可能性は高い。クリがねじれて割れることを考慮し、木材が水分をどのくらい吸収したら思うとおりの部分で割ることができるかを熟知していたものと推察される。

参考文献

上市町教育委員会1984『北陸自動車道遺跡調査報告－上市町木製品・総括編』
佐竹義輔・原　寛・旦理俊次・冨成忠夫編1989『日本の野生植物』平凡社
(財)北海道埋蔵文化財センター1989『忍路土場遺跡・忍路5遺跡』第4分冊
山田昌久1999「縄文時代の鍬鋤類について」『人類誌集報　1999』
小矢部市教育委員会1990『富山県小矢部市桜町遺跡—船岡地区の重要遺跡確認緊急調査—』
上原真人1993『木器集成図録－近畿原始編』史料第36冊　奈良国立文化財研究所
加藤晋平・小林達雄・藤本強編1983『縄文文化の研究』7道具と技術　雄山
名久井文明1999『樹皮の文化史』吉川弘文館
山田昌久1999「縄文時代の鍬鋤類について」『人類誌集報　1999』222－230頁　東京都立大学考古学報告　4
小西祐子編2000『第37回フォラム　先史時代の木造建築技術』木造建築研究フォラム
谷川栄子2000『草を編む』社団法人農山漁村文化協会
桜町遺跡発掘調査団2001『桜町遺跡調査概報』学生社
(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団2002『シンポジウムよみがえる青田遺跡　川辺の縄文集落』
山田昌久編2003『考古資料大観　第8巻－弥生・古墳時代　木・繊維製品－』小学館
橋本正博2003「第Ⅶ章　木製品」『八日市地方遺跡Ⅰ－小松駅東土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－(第2分冊　遺物報告編)』
小矢部市教育委員会2003『富山県小矢部市桜町遺跡発掘調査報告書－弥生・古墳・古代・中世編Ⅰ』
小矢部市教育委員会2004『富山県小矢部市桜町遺跡発掘調査報告書－縄文遺構編Ⅰ、弥生・古墳・古代・中世編Ⅱ』
新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団2004『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅴ　青田遺跡』
小矢部市教育委員会2005『富山県小矢部市桜町遺跡発掘調査報告書－縄文遺構編Ⅱ、弥生・古墳・古代・中世編Ⅲ』
小矢部市教育委員会2005『出土建築材資料集—縄文・弥生・古墳時代—』
桜町遺跡発掘調査団2005『桜町遺跡シンポジウム　考古資料から建築材・建築技術を考える』記録集
岡山市教育委員会2005『南方(済生会)遺跡－木器編－』
鳥取県埋蔵文化財センター2005『青谷上寺地遺跡出土品調査研究報告1－木製品・かご－』
山田昌久2007「21世紀の木質遺物研究は既存の考古学研究を超えていく」『木器研究最前線!』
出土木器が語る考古学　発表資料集』(財)大阪府文化財センター

表２　木製品観察表　構築材（１）

報告番号	区分	種別	木取り	芯	樹種	調査区	遺構	時期	長さ(cm)	幅・径(cm)	厚さ・高さ(cm)	炭化	樹皮	備考
1	構築材	柱材	半割材	○	クリ	1	SX09	縄文時代中期末～後期初頭	295.2	24.0	24.6			一端欠損。ほぞ穴とえつり穴のある材。
2	構築材	柱根	丸木材	○	クリ	6	—	縄文時代中期末～後期初頭	71.3	47.2	—			底面に石斧等による加工痕あり。
3	構築材	柱根	丸木材	○	クリ	6	SK18	縄文時代中期末～後期初頭	56.0	54.8	—			底面に石斧等による加工痕および欠き込みあり。
4	構築材	柱根	丸木材	○	クリ	6	—	縄文時代中期末～後期初頭	53.4	61.2	—			底面に石斧等による加工痕あり。中空。
5	構築材	柱根	丸木材	○	クリ	6	—	縄文時代中期末～後期初頭	31.4	39.0	—			残存状態悪い。
6	構築材	柱根	丸木材	○	クリ	1	—	縄文時代中期末～後期初頭	24.8	24.3	—			底面に石斧等による加工痕あり。
7	構築材	柱根	丸木材	○	クリ	1	—	縄文時代中期末～後期初頭	34.0	30.0	—			底面に石斧等による加工痕あり。
8	構築材	柱根	丸木材	○	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	41.6	17.8	—			底面に石斧等による加工痕あり。
9	構築材	柱根	丸木材	○	クリ	1	P－1	縄文時代中期末～後期初頭	53.0	25.5	—			底面に石斧等による加工痕あり。
10	構築材	柱根	丸木材		クリ	6	SK08	縄文時代中期末～後期初頭	—	実測図より約85cm	—			崩壊している。
11	構築材	半截柱根	略半截（板状）		クリ	3	SK119	縄文時代晩期中葉	44.7	62.4	21.3			木表側の湾曲面、樹芯を除去。底面に石斧等による加工痕あり。環状木柱列柱根（入口部）
12	構築材	半截柱根	略半截（板状）		クリ	3	SK121	縄文時代晩期中葉	43.2	65.4	16.5			木表側の湾曲面、樹芯を除去。底面に石斧等による加工痕あり。環状木柱列柱根（入口部）
13	構築材	半截柱根	略半截		クリ	3	SK197	縄文時代晩期中葉	28.0	43.7	21.4			底面に石斧等による加工痕あり。環状木柱列柱根。
14	構築材	半截柱根	略半截		クリ	3	SK134	縄文時代晩期中葉	35.0	54.0	24.6			底面に石斧等による加工痕あり。環状木柱列柱根。
15	構築材	半截柱根	略半截		クリ	3	SK136	縄文時代晩期中葉	50.1	62.1	27.3			底面に石斧等による加工痕あり。環状木柱列柱根。
16	構築材	半截柱根	略半截		クリ	3	SK186	縄文時代晩期中葉	30.5	49.0	26.4			底面に石斧等による加工痕あり。環状木柱列柱根。
17	構築材	半截柱根	略半截		クリ	3	SK145	縄文時代晩期中葉	39.6	44.7	25.2			底面に石斧等による加工痕あり。環状木柱列柱根。
18	構築材	半截柱根	略半截		クリ	3	SK158	縄文時代晩期中葉	14.5	26.4	9.0			底面に石斧等による加工痕あり。環状木柱列柱根。
19	構築材	半截柱根	略半截		クリ	3	SK169	縄文時代晩期中葉	15.6	24.0	11.4			底面に石斧等による加工痕あり。
20	構築材	半截柱根	略半截		クリ	3	SK106	縄文時代晩期中葉	21.4	35.6	18.4			底面に石斧等による加工痕あり。環状木柱列柱根。
21	構築材	半截柱根	略半截		クリ	3	SK126	縄文時代晩期中葉	24.6	55.5	15.3			木表側の湾曲面、樹芯を除去。底面に石斧等による加工痕あり。環状木柱列柱根（入口部）

表３　木製品観察表　施設材（１）

報告番号	区分	種別	木取り	芯	樹種	調査区	遺構	時期	長さ(cm)	幅・径(cm)	厚さ・高さ(cm)	炭化	樹皮	備考
22	施設材	柱根	丸木材	○	イヌガヤ	1	SX19	縄文時代中期末以前	43.6	8.0	7.7			一端に切断等の加工痕あり。しがらみ。
23	施設材	柱根	丸木材	○	クリ	1	SX19	縄文時代中期末以前	49.4	9.0	9.4			一端に切断等の加工痕あり。しがらみ。
24	施設材	柱根	丸木材	○	エノキ属	1	SX19	縄文時代中期末以前	71.0	8.4	10.0			一端に切断等の加工痕あり。しがらみ。
25	施設材	柱根	丸木材	○	ハンノキ節	1	SX19	縄文時代中期末以前	61.6	8.5	8.2			一端に切断等の加工痕あり。しがらみ。
26	施設材	柱根	半割財		クリ	1	SX19	縄文時代中期末以前	23.8	14.5	7.4			一端に切断等の加工痕あり。しがらみ。
27	施設材	柱根	半割財		クリ	1	SX19	縄文時代中期末以前	27.8	14.2	8.2			一端に切断等の加工痕あり。しがらみ。
28	施設材	柱根	半割財		クリ	1	SX19	縄文時代中期末以前	35.4	15.6	10.1			一端に切断等の加工痕あり。しがらみ。
29	施設材	水場・足場	偏半割材		クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	334.0	45.0	25.0			両端欠損。ほぞ穴と欠き込みのある材（大型高床柱）。木表側に加工痕あり。
30	施設材	水場・足場	丸木材	○	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	271.8	15.0	12.0			一端に欠き込みあり。
31	施設材	水場・足場	半割材		クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	341.4	28.5	12.3			両端欠損。ほぞ穴あり。
32	施設材	水場・足場	丸木材	○	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	351.2	13.6	11.6			完形品。
33	施設材	水場・枠材	丸木材	○	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	154.0	23.2	19.6			一端は木表側を一部のこし、年輪サンプル採取。
34	施設材	水場・足場	板目材		クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	207.0	12.5	5.5		○	一端は先端に向い薄く扁平。
35	施設材	水場・足場	半割材		クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	300.0	37.2	19.2			両端欠損。割面は丁寧に調整
36	施設材	水場・枠材	板目材		クリ	1	SX01（2）	縄文時代中期末～後期初頭	197.4	26.1	12.6			短側面に３箇所のほぞ穴あり。
278	施設材	水場・足場材	丸木材		クリ	1	SX01（2）	縄文時代中期末～後期初頭	166.5	29.0	19.0			同一曲面に、２箇所の欠き込みあり。
37	施設材	水場・水口の板	柾目板		クリ	1	SX01（2）	縄文時代中期末～後期初頭	58.4	12.0	4.0			両面は丁寧に調整。樹種同定サンプル採取。
38	施設材	水場・水口の板	板目板		クリ	1	SX01（2）	縄文時代中期末～後期初頭	81.6	15.8	2.2			一端欠損。両面は丁寧に削り薄い。
39	施設材	水場・水口の板	板目板		クリ	1	SX01（2）	縄文時代中期末～後期初頭	86.2	19.4	4.8			両面は平坦。年輪サンプル採取。
40	施設材	水場・足場材	丸木材	○	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	381.6	16.0	18.0			一端欠損。２箇所の欠き込みあり。
41	施設材	足場材	二股偏半割材	○	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	241.0	9.5	10.8			先端および二股木先端に切断痕あり。
42	施設材	水場・足場	半割材		クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	220.0	33.0	16.0			完形品。木表側に３箇所のほぞ穴あり。
43	施設材	足場材	半割材		クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	310.2	42.0	14.4			割面に楔等の痕跡あり。
44	施設材	足場材	板目材		クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	276.8	14.0	6.8			年輪に沿って割られている。
279	施設材	水場・足場材	板目板		クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	200.0	15.0	5.0			両端欠損。
45	施設材	水場・足場	丸木材	○	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	132.3	14.7	7.2			一先端に突起状の作り出しあり。

報告番号	区分	種別	木取り	芯	樹種	調査区	遺構	時期	長さ(cm)	幅・径(cm)	厚さ・高さ(cm)	炭化	樹皮	備考
46	施設材	水場・足場材	二股材		クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	124.5	32.5	11.8			完形品。二股木先端に切断痕あり。
47	施設材	水場・足場材	半割材		クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	228.0	14.4	7.0		○	両端欠損。木表側に調整痕あり。
48	施設材	足場材	分割材		クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	212.4	15.0	14.4			割面に楔等の痕跡あり。
49	施設材	水場・足場	柾目板		クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	134.0	27.2	6.4			両端欠損。一面にほぞ穴と段あり。
50	施設材	水場・足場材	板目板		クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	94.0	15.0	5.8			放射状組織に沿い割れたくぼみあり。
51	施設材	水場・枠材	分割材		クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭	157.8	21.3	12.0			一端は先端部を細く方形に尖らせている。
52	施設材	水場・枠材	分割材		クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭	200.0	31.2	19.2	○		幹の木表側部分のみ残存。その湾曲面に５箇所の欠き込みと２箇所の段あり。
53	施設材	水場・枠材	分割材		クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭	88.5	26.1	12.9			一端は、二等辺三角形状で先端は尖らせてある。１箇所の段あり。
54	施設材	水場・枠材	分割材		クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭	182.0	10.7	13.3			一先端部は断面が三角形に丁寧に削りだされている。
55	施設材	水場・枠材	板目板		クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭	77.3	22.0	7.5			年輪に沿って割られている。
56	施設材	板目板	板目板		クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭	246.0	20.8	6.0			全体形は一端部が角状につくりだされているが、一方の端部にかけて薄く扁平。
57	施設材	板目板	板目板		クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭	232.4	15.0	6.0			全体形は一端部が角状につくりだされているが、一方の端部にかけて薄く扁平。
58	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	○	ゴンズイ	3	SK244	縄文後期末～晩期前葉	46.4	6.6	6.0		○	両端に切断痕あり。
59	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	○	ゴンズイ	3	SK244	縄文後期末～晩期前葉	55.0	6.0	5.2		○	両端に切断痕あり。
60	施設材	貯蔵穴・蓋材	分割材		クリ	3	SK248	縄文後期末～晩期前葉	49.0	5.6	5.2			両端に切断痕あり。
61	施設材	貯蔵穴・蓋材	柾目板		クリ	3	SK248	縄文後期末～晩期前葉	45.5	5.0	2.6			両端に切断痕あり。
62	施設材	貯蔵穴・枠材	板目板		クリ	3	SK249	縄文後期末～晩期前葉	33.8	24.5	5.8			両端に切断痕あり。
63	施設材	貯蔵穴・底板	板目板		クリ	3	SK249	縄文後期末～晩期前葉	56.7	27.3	3.5	○		一面のみ炭化している。
64	施設材	水場・杭	分割材		クリ	中出	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	44.9	6.0	6.0			一端欠損。
65	施設材	水場・杭	分割材		クリ	中出	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	51.0	6.0	3.0	○		一先端部が丸く尖らせてある。
66	施設材	水場・杭	分割材		クリ	中出	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	60.6	7.3	6.0			一先端部が丸く尖らせてある。
67	施設材	水場・杭	分割材		クリ	中出	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	58.1	5.2	3.4			一端欠損。一先端部は丸く尖らせてある。
68	施設材	水場・杭	割材		クリ	中出	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	69.2	5.2	3.8			一先端部が丸く尖らせてある。
69	施設材	水場・杭	分割材		クリ	中出	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	33.8	4.3	3.3			一先端部が丸く尖らせてある。
70	施設材	水場・杭	分割材		クリ	中出	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	45.9	8.1	6.1			一端欠損。一先端部は薄く扁平である。
71	施設材	水場・杭	分割材		クリ	中出	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	70.2	6.2	3.6			断面形は三角形。一先端部は一部分が尖らせてある。
72	施設材	水場・杭	分割材		クリ	中出	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	82.6	8.4	4.6			断面形は長方形。一先端部は丸く尖らせてある。
73	施設材	水場・杭	半割材		オニクルミ	中出	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	42.7	15.8	10.5	○		一端欠損。底面に加工痕あり。
74	施設材	水場・杭	分割材		クリ	中出	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	141.6	11.1	6.4			断面形は長方形。一先端部は丸く尖らせてある。
75	施設材	水場・枠材	板目板		クリ	中出	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	109.0	39.6	5.9	○		両端欠損。水場の枠材。
76	施設材	水場・杭	柾目板		クリ	中出	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	42.1	6.1	1.3			断面は厚さ1.3ｃｍと薄く、両先端は丸く尖らせてる。
77	施設材	水場・杭	板目板		クリ	中出	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	59.0	6.7	3.1			両先端がやや薄く丸く尖らせてある。
78	施設材	水場・杭	板目板		クリ	中出	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	65.4	9.2	3.4			両端部は切断痕か折れかは不明瞭でる。

4　木製品観察表　その他の加工材（1）

報告番号	区分	種別	木取り	芯	樹種	調査区	遺構	時期	長さ(cm)	幅・径(cm)	厚さ・高さ(cm)	炭化	樹皮	備考
79	その他の加工材	丸木材	丸木材	○	カエデ属	1	SX16	縄文時代中期末以前	144.0	.18.0	19.8		○	両端は取上げの際に切断した。欠き込み部は、丁寧に抉られ、深さ約８cmのU字型を呈す。
80	その他の加工材	半割材	半割材		クリ	1	SX16	縄文時代中期末以前	19.6	36.6	18.3			底面に伐採痕。
81	その他の加工材	分割材	分割材		カツラ	1	SX17	縄文時代中期末以前	50.1	6.3	5.0			一端欠損。断面形は方形。割面の調整痕なし。
82	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	H10	縄文時代中期末以前	85.2	12.0	6.9			一端欠損か。割面調整痕なし。
83	その他の加工材	板目板	板目板		クリ	1	H10	縄文時代中期末以前	172.8	10.0	4.0			木表側より樹芯にむかい深さ１～２cmを溝状に刳りぬいている。樹芯は除去。
84	その他の加工材	丸木材	二股丸木材	○	クリ	1	SX04	縄文時代中期末～後期初頭	251.6	48.0	25.0			完形品。分岐部から二股木先端にかけて丁寧な調整加工あり。二股木両先端には欠き込みあり。
85	その他の加工材	丸木材	二股丸木材	○	クリ	1	SX04	縄文時代中期末～後期初頭	260.0	42.0	24.0			二股木一先端部欠損。一方も崩れている。分岐部から先端にかけて調整加工あり。
86	その他の加工材	丸木材	丸木材	○	クマノミズキ類	1	不明	縄文時代中期末～後期初頭	26.4	4.1	3.1		○	両端部を切断し、芯部分が残る。折り取りの際のものか。一部に樹皮が残っている。
87	その他の加工材	丸木材	丸木材	○	ムラサキシキブ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	52.5	6.7	5.8		○	両端部に切断痕。一方の端部はゆるく鋭角に切断されている。
88	その他の加工材	枝幹材	枝幹材	○	クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	75.8	6.6	5.6			一端部には伐採痕が明瞭に残る。もう一方は先端に向かって細まる。

報告番号	区分	種別	木取り	芯	樹種	調査区	遺構	時期	長さ(cm)	幅・径(cm)	厚さ・高さ(cm)	炭化	樹皮	備考
89	その他の加工材	丸木材	丸木材	○	クリ	1		縄文時代中期末～後期初頭	63.0	17.6	16.0	○		木表側は炭化している。両端部は欠損。
90	その他の加工材	丸木材	丸木材	○	クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	103.1	18.5	14.5			両端部欠損。ただし一方は切断痕の可能性がある。
91	その他の加工材	丸木材	丸木材	○	クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	106.0	20.0	14.0	○	○	全面が炭化しており、一先端は平らになるように削ってある。
92	その他の加工材	丸木材	丸木材	○	クリ	1	SX04	縄文時代中期末～後期初頭	246.0	12.5	11.3			両端に切断痕あり。
93	その他の加工材	丸木材	丸木材	○	クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	268.8	22.0	20.8			中央部分は欠損。
94	その他の加工材	丸木材	丸木材	○	クリ	1	SX08	縄文時代中期末～後期初頭	227.2	11.2	9.6			断面形は円形であるが、一端は扁平。
95	その他の加工材	丸木材	丸木材	○	クリ	1	SX08	縄文時代中期末～後期初頭	266.4	13.3	13.6			両端に切断痕あり。一端部は木表側の湾曲面が削られている。
96	その他の加工材	丸木材	丸木材	○	クリ	1	SX08	縄文時代中期末～後期初頭	328.5	13.5	6.6			部分的に欠損。断面形は半円形であるが、一先端部は細く削られている。
97	その他の加工材	半割材	半割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	119.0	22.4	10.5			部分的に欠損。木表および木裏の面に調整痕あり。側面に削痕が認められる。両端部に切断痕あり。
98	その他の加工材	半割材	半割材		クリ	6	SG01	縄文時代中期末～後期初頭	26.0	7.1	3.8			一端および部分的に欠損。
99	その他の加工材	半割材	半割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	57.6	10.1	4.2			部分的に欠損。両端部に切断痕あり。
100	その他の加工材	半割材	半割材		クリ	1		縄文時代中期末～後期初頭	51.2	14.6	6.0			一端欠損。もう一方は切断痕あり。
101	その他の加工材	半割材	半割材		クリ	1	SX11	縄文時代中期末～後期初頭	60.0	22.5	10.9			木表側に削痕あり。一長辺には調整痕が認められ、角が作られている。
102	その他の加工材	半割材	半割材		ムクノキ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	108.6	7.5	3.6		○	一端部は折り取ったような切断痕あり。
103	その他の加工材	半割材	半割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	44.3	23.0	13.5			一端欠損。もう一方は切断痕あり。年輪に直行する切断痕あり。
104	その他の加工材	半割材	半割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	74.0	16.2	8.3	○		部分的に欠損。木表側や木裏面に調整痕あり。側面にも削痕が認められる
105	その他の加工材	半割材	半割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	16.4	9.2	4.8			両端部に鋭利な切断痕あり。
106	その他の加工材	半割材	半割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	42.2	10.5	6.3			両端部に切断痕あり。
107	その他の加工材	半割材	半割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	46.6	13.6	5.7			一端および部分的に欠損。木表側に削痕あり。
108	その他の加工材	偏半割材	偏半割材	○	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	150.4	44.6	30.4			中央部分は年輪サンプル採取。一端欠損。木表側および木裏側に削痕あり。
109	その他の加工材	半割材	半割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	94.4	26.4	10.8			両端および部分的に欠損。一端は欠損しているが、円の輪郭の一部分と推測されほぞ穴を穿かれていたと考えられる。
110	その他の加工材	半割材	半割材		クリ	1	SX04	縄文時代中期末～後期初頭	379.8	37.8	15.0			部分的に欠損している。木表面はやや荒れている。木裏側には調整痕があり、節など除去した痕跡が認められる。
111	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭	202.0	38.0	13.2			端部欠損。形状は一部板状。木表側には段が一箇所、欠き込みが大小5箇所あり。
112	その他の加工材	半割材	半割材		クリ	1	SX04	縄文時代中期末～後期初頭	305.0	31.0	9.5			両端欠損。一箇所のほぞ穴あり。
113	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭	310.0	15.5	8.0			一部を陸橋状に残した欠き込みあり。段にはほぞ穴あり。
114	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	20.1	18.3	7.6			一端部欠損。一方に調整痕あり。
115	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	53.6	24.4	11.0			芯部除去。一端部には切断痕あり。
116	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	58.6	23.6	9.2			芯部除去。端部に切断痕あり。
117	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SX04	縄文時代中期末～後期初頭	187.0	20.0	9.0	○		部分的に欠損。
118	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭	162.5	29.0	16.5			一端部欠損。一長辺部に湾曲面あり。
119	その他の加工材	丸木材	丸木材		クリ	1	SX04	縄文時代中期末～後期初頭	166.5	9.3	5.8	○		部分的に欠損。全体の2/3炭化している。
120	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1		縄文時代中期末～後期初頭	44.9	12.7	5.8			両端部欠損。木表側には縦中央が溝状に削り取られている。
121	その他の加工材	分割材	分割材		エノキ属	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	37.9	12.7	6.6			両端欠損。
122	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	43.0	17.7	12.4			一端部欠損。もう一方には切断痕あり。
123	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	6	SK02	縄文時代中期末～後期初頭	69.3	15.0	8.5	○		一先端に向い両短辺が削られている。もう一方には切断痕あり。
124	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	30.7	4.4	2.9			両端部に切断痕あり。
125	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	6	SG01	縄文時代中期末～後期初頭	29.1	14.8	7.8			両端に切断あり。木裏側に調整痕あり。
126	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	70.6	5.9	4.6			一端欠損。もう一方に切断痕あり。

報告番号	区分	種別	木取り	芯	樹種	調査区	遺構	時期	長さ(cm)	幅・径(cm)	厚さ・高さ(cm)	炭化	樹皮	備考
127	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	79.8	7.5	3.6			部分的に欠損。両端部に切断痕あり。
128	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	122.1	13.6	10.2			一端および部分的に欠損。木表側に調整痕あり。
129	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	133.2	9.0	8.7			一端に切断痕あり。
130	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	22.7	5.7	4.0			一端欠損。もう一方に切断痕あり。
131	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	26.8	8.2	6.3			断面は扇型。先端部から膨らみ、もう一方にかけてくびれをつくる。その先は欠損している。
132	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	61.9	5.4	5.2			両端切断。棒状。
133	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	67.2	7.8	6.0	○		一端欠損。もう一方は先端にかけて鋭利な切断面がある。
134	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	42.9	5.3	4.6			両端切断。棒状。
135	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	43.0	4.4	3.1			部分的に欠損し、全体形状は不明。
136	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	47.2	4.6	5.4			棒状。両端の残り不明瞭。
137	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SX04	縄文時代中期末～後期初頭	80.0	5.0	4.2			棒状。両端切断。
138	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	64.0	5.1	5.6			一端欠損。棒状。
139	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	139.2	7.8	5.2			棒状。一先端は細く尖らせてある。
140	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	104.1	6.9	4.5			棒状。
141	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	96.6	6.3	3.9	○		棒状。
142	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	32.4	4.5	2.8			棒状。一端欠損。
143	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	54.3	7.1	2.9			部分的に欠損。両端部に切断痕あり。棒状。
144	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	49.6	7.2	3.3			棒状であるが、両端欠損し形状が不明瞭。
145	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	69.1	4.7	3.3	○		棒状で、両先端にかけて尖らせてある。
146	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	6		縄文時代中期末～後期初頭	58.7	7.0	3.1			棒状。一先端が丸く尖らせてある。
147	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	56.4	6.5	5.6			部分的に欠損。棒状。
148	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	56.4	7.3	3.5			棒状。両端に切断痕あり。一端は部分的に欠損。
149	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	75.4	5.0	4.1	○		棒状。両端丸く尖らせてある。
150	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	98.7	8.7	5.4			一端欠損。もう一端は切断。棒状。
151	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	109.8	10.5	4.8			棒状。残存は不良。部分的に欠損。一端は切断。
152	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	69.5	4.9	3.3			棒状。残存は不良。
153	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	86.0	6.6	5.0			棒状。両端切断。一端は先端部にけて尖る。一長辺には調整痕あり。
154	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	94.4	7.5	4.2			棒状。残存は不良。部分的に欠損。
155	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	104.8	8.6	5.6			棒状。両端切断痕。一端は先端部が板状に薄い。
156	その他の加工材	板目板	板目板		スギ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭	59.4	4.2	1.8			両面は接線方向に剥ぎ、両端は折れ。部分的な欠損は試料採取のため。
157	その他の加工材	板目板	板目板		スギ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭	66.6	3.0	0.6			両面は接線方向に剥ぎ、両端は折れ。部分的な欠損は試料採取のため。
158	その他の加工材	板目板	板目板		スギ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭	93.8	4.4	0.6			両面は接線方向に剥ぎ、両端は折れ。部分的な欠損は試料採取のため。
159	その他の加工材	板目板	板目板		クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭	129.0	30.0	12.6			両端欠損。両面および量長辺に調整痕あり。一長辺はゆるく弧を描き加工。
160	その他の加工材	板目材	板目板		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	31.0	12.6	2.7			両端欠損。
161	その他の加工材	板目板	板目板		エノキ属	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	44.7	20.9	4.2	○		残存不良。
162	その他の加工材	板目板	板目板		クリ	1		縄文時代中期末～後期初頭	80.8	13.1	4.6			部分的に欠損。一端に切断痕。面に調整痕あり。
163	その他の加工材	板目板	板目板		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	79.4	16.0	3.2	○		両端および部分的に欠損。
164	その他の加工材	板目板	板目板		クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	95.1	24.3	5.4			両端欠損。
165	その他の加工材	板目板	板目板		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	46.4	25.8	10.1			木表側の面部分を除去。芯部除去。短辺の一端部は、片口鉢となる可能性あり。

報告番号	区分	種別	木取り	芯	樹種	調査区	遺構	時期	長さ(cm)	幅・径(cm)	厚さ・高さ(cm)	炭化	樹皮	備考
166	その他の加工材	板目板	板目板		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	53.4	16.8	4.5			一先端に切断痕あり。もう一方は欠損。
167	その他の加工材	板目板	板目板		クリ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭	61.2	17.7	3.8			残存不良。
168	その他の加工材	板目材	板目板		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	99.0	16.5	6.0			残存不良。
169	その他の加工材	板目板	板目板		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	41.5	10.0	2.3			一面に調整痕あり。一端は欠損。
171	その他の加工材	板目板	板目板		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	40.7	14.4	6.4	○		両面に調整痕あり。両端切断。
172	その他の加工材	板目板	板目板		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	35.6	16.5	5.5	○		一先端は曲線を描き、両面には調整痕あり。
173	その他の加工材	板目板	板目板		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	44.6	9.3	2.9			一面に調整痕あり。一先端に切断あり。
174	その他の加工材	板目板	板目板		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	45.2	7.2	3.0			両面に調整痕あり。一先端部から一長辺に掛けて調整。
175	その他の加工材	板目板	板目板		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	52.3	15.5	5.5			一先端、斜めに切断。一面に調整痕あり。
176	その他の加工材	板目板	板目板		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	30.8	14.4	6.4			両端切断。両面に調整痕あり。
177	その他の加工材	板目板	板目板		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	28.8	15.5	5.4			両端切断。一先端は丸く尖る。
178	その他の加工材	柾目板	柾目板		クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭	109.5	28.8	7.8			両面に調整痕あり。一面には欠き込みにより段をつくる。段の中央部分が湾曲している。両端欠損。
179	その他の加工材	柾目板	柾目板		クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭	123.6	37.4	13.4			両面に調整痕あり。一面には欠き込みにより段をつくる。段の中央部分が湾曲している。両端欠損。
180	その他の加工材	柾目板	柾目板		クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	29.6	8.0	1.7			両面に調整痕あり。一長辺が両先端に向い曲線をつくる。部分的に欠損。
181	その他の加工材	柾目板	柾目板		クリ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭	34.4	12.2	2.7	○		両面に調整痕あり。部分的な欠損は試料採取によるもの。両端欠損。
182	その他の加工材	板目板	板目板		クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭	15.6	6.8	1.6			両面に調整痕あり。一側面に端部から端部にかけて幅を変え曲線を作っている。
183	その他の加工材	柾目材	柾目材		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	34.1	16.8	8.0	○		両面に調整痕あり。一端部に切断痕あり。
184	その他の加工材	柾目板	柾目板		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	23.0	6.0	1.7			両面に調整痕あり。端部および一側面に切断面あり。
185	その他の加工材	柾目板	柾目板		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	32.5	6.5	2.5			両面に調整痕あり。一先端部から斜めに切断。
186	その他の加工材	柾目板	柾目板		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	43.6	8.0	2.9			両面に調整痕あり。一端部欠損。
187	その他の加工材	板目板	板目板		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	34.0	12.1	2.5			両面に調整痕あり。
188	その他の加工材	柾目板	柾目板		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	29.1	14.5	2.7			両面に調整痕あり。一端は三角形状を呈し、先端に面ができている。厚さは一方に向い薄くなる
189	その他の加工材	柾目板	柾目板		クリ	1		縄文時代中期末～後期初頭	43.3	13.0	5.6			両面に調整痕あり。両端部に切断痕。一先端部には径1cm程度の円形突出部がつくられている。
190	その他の加工材	板目板	板目板		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	100.7	22.5	3.2			両面に調整痕あり。
191	その他の加工材	板目板	板目板		クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	96.6	24.0	3.5			両面に調整痕あり。両端欠損。
192	その他の加工材	柾目板	柾目板		クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭	49.7	14.2	4.0			両面に調整痕あり。部分的欠損。
193	その他の加工材	斜め柾目板	斜め柾目板		クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	75.0	21.7	4.0			両面に調整痕あり。部分的欠損。
194	その他の加工材	柾目板	柾目板		クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	65.0	12.5	2.8			両面に調整痕あり。部分的な欠損は試料採取によるもの。
195	その他の加工材	柾目板	柾目板		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	82.2	31.2	8.4	○		片面炭化。面中央部欠損。
196	その他の加工材	柾目板	柾目板	○	クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	83.6	11.9	5.3			一端部に切断痕あり。木表側は湾曲面をカット。
197	その他の加工材	柾目板	柾目板		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	85.7	10.1	4.6	○		両面に調整痕あり。部分的欠損。
198	その他の加工材	柾目板	柾目板		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	73.9	14.4	4.7			両面に調整痕あり。一面に段あり。長側面にカーブあり。
199	その他の加工材	柾目板	柾目板		クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	71.9	11.8	2.7			両面に調整痕あり。部分的欠損。
200	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	中出		縄文時代中期末～後期初頭	44.2	6.1	3.4			両端部切断。杭として使用された遺構の一部。
201	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	中出		縄文時代中期末～後期初頭	28.0	3.2	2.3			一端欠損。杭として使用された遺構の一部。
202	その他の加工材	分割材	分割材		クリ	中出		縄文時代中期末～後期初頭	35.4	5.0	1.9			部分的に欠損している。杭として使用された遺構の一部。

表5　木製品観察表　器具材(1)石斧柄

報告番号	区分	器種分類			木取り	樹種	調査区	遺構	時期	サイズ(cm)				備考(着柄角度など)
		種別	分類1	分類2						斧台長	斧台幅	握り長	握り径	
205	器具材	斧柄	膝柄縦斧	一木	枝幹材	ヤブツバキ	1	SD15	縄文時代中期末～後期初頭	27.6	4.6	57.6	2.8	73°
206	器具材	斧柄	膝柄縦斧	一木	枝幹材	ヤブツバキ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	(11.0)	3.3	—	—	
207	器具材	斧柄	膝柄縦斧	一木	枝幹材	ヤブツバキ	1	SD15	縄文時代中期末～後期初頭	(8.3)	3.5	(3.3)	—	
208	器具材	斧柄	膝柄縦斧	一木	枝幹材	コナラ節	1	SD15	縄文時代中期末～後期初頭	(8.2)	3.2	58.0	2.2	
209	器具材	斧柄	膝柄縦斧	一木	枝幹材	コナラ属	1	SD15	縄文時代中期末～後期初頭	16.5	2.7	(45.0)	2.6	(77°)
210	器具材	斧柄	膝柄縦斧	一木	枝幹材		1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	10.8	2.6	—	—	
211	器具材	斧柄	膝柄縦斧	一木	枝幹材	ナシ亜科	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	21.2	3.7	—	—	
212	器具材	斧柄	膝柄縦斧	一木	枝幹材		1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭	23.7	3.4	(20.9)	2.3	70°
213	器具材	斧柄	膝柄縦斧	一木	枝幹材	散孔材	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭	(13.3)	3.0	(2.6)	3.0	(59°)
214	器具材	斧柄	膝柄縦斧	一木	枝幹材	トネリコ属	1		縄文時代中期末～後期初頭	(14.8)	3.7	—	—	
215	器具材	斧柄	膝柄縦斧	一木	枝幹材	ツバキ	1		縄文時代中期末～後期初頭	—	—	(28.6)	3.2	
216	器具材	斧柄	膝柄縦斧	一木	枝幹材	クマノミズキ属	1	SD15	縄文時代中期末～後期初頭	22.2	4.8	—	—	未成品
217	器具材	斧柄	膝柄縦斧	一木	枝幹材	クマノミズキ属	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	24.6	6.6	—	—	未成品
218	器具材	斧柄	膝柄縦斧	一木	枝幹材	ヤブツバキ	1	SD15	縄文時代中期末～後期初頭	36.6	8.2	—	—	未成品
219	器具材	斧柄	膝柄縦斧	一木	枝幹材		1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭	(23.5)	3.4	61.4	2.8	(68°)未成品
220	器具材	斧柄	膝柄縦斧	一木	枝幹材	コナラ属	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭	26.2	(3.6)	—	—	未成品
221	器具材	斧柄	膝柄縦斧	一木	枝幹材	クリ	1	SX05	縄文時代中期末～後期初頭	(36.0)	—	—	—	未成品
222	器具材	斧柄	膝柄縦斧	一木	枝幹材		1		縄文時代中期末～後期初頭	14.8				未成品
223	器具材	斧柄？	—	一木	枝幹材	ヤブツバキ	1		縄文時代中期末～後期初頭	15.3	5.0	43.0	4.0	(80°)未製品

表6　木製品観察表　器具材(2)石斧留め具

報告番号	区分	種別	木取り	樹種	調査区	遺構	時期	サイズ(cm)			炭化	樹皮	備考
								長さ	幅・径	厚さ・高さ			
224	器具材	石斧柄留め具	偏半割材	ミズキ類	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	8.0	2.4	1.0			完成品。組み合わせ方式の石斧柄の押さえ具。一部欠損。
225	器具材	石斧柄留め具	偏半割材	クマノミズキ類	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	8.0	2.7	1.6			完成品の欠損品。縛痕跡の浅い窪みが認められる。
226	器具材	石斧柄留め具	偏半割材	ミズキ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	9.8	2.8	1.3			完成品であるが、摩滅している。
273	器具材	石斧柄留め具	偏半割材	ゴンズイ	3	SK260	縄文時代後期末～晩期前葉	16.0	4.5	3.5			完成品。縄掛け部に繊維体の断片付着。

表7　木製品観察表　器具材(3)楔

報告番号	区分	種別	木取り	樹種	調査区	遺構	時期	サイズ(cm)			炭化	樹皮	備考
								長さ	幅・径	厚さ・高さ			
227	器具材	楔状木製品	削出材	ヤマグワ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	15.0	3.5	1.1			打圧痕跡は認められないが、両面に調整痕あり。
228	器具材	楔	削出材	散孔材	1	X52.9 Y86.0	縄文時代中期末～後期初頭	8.1	2.8	2.0			完成品の欠損品か。一方の円底部は打圧で潰れてキノコ状。潰れた面に石粒がめり込んでいる。

表8　木製品観察表　器具材(4)堀棒

報告番号	区分	種別	木取り	樹種	調査区	遺構	時期	サイズ(cm)			炭化	樹皮	備考
								長さ	幅・径	厚さ・高さ			
229	器具材	掘棒	丸木材	ムラサキシキブ属	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	141.7	3.7	2.7			完成品。一方は先端を丸く尖らかせてある。もう一方はヘラ状。
230	器具材	掘棒	丸木材	ムラサキシキブ	6	SG01	縄文時代中期末～後期初頭	127.8	3.2	2.6			完成品。片端は鋭く尖る。もう一方はヘラ状に浅くえぐられている。
231	器具材	掘棒	丸木材	ムラサキシキブ属	1	SX11	縄文時代中期末～後期初頭	36.7	3.4	1.8			完成品の欠損品。全体的に摩耗している。
232	器具材	掘棒	丸木材		1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	40.6	3.1	2.5			完成品の欠損品。
233	器具材	掘棒	丸木材	ムラサキシキブ属	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	16.5	3.1	2.2			完成品の欠損品。掘棒のヘラ状端部が残存。先端が摩滅して潰れている。

表9　木製品観察表　器具材(5)鋤状木製品

報告番号	区分	種別	木取り	樹種	調査区	遺構	時期	サイズ(cm)			炭化	樹皮	備考
								長さ	幅・径	厚さ・高さ			
234	器具材	鋤状木製品	半割材	クリ？	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	27.5	5.2	3.2			完成品の欠損品。刃の先端は炭化している。
235	器具材	鋤状木製品	板目板	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	43.0	14.0	3.2			完成品の欠損品。刃部の半分が残存。全体的に薄い板状。
236	器具材	鋤状木製品	削出材	ヤマグワ	1		縄文時代中期末～後期初頭	79.2	8.2	3.9			鋤の未成品か。
237	器具材	鋤状木製品	半割材	クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	37.0	5.5	2.5			未成品。櫂の柄部分の可能性も考えられる。

表10　木製品観察表　器具材(6)削りだし棒材

報告番号	区分	種別	木取り	樹種	調査区	遺構	時期	サイズ(cm)			炭化	樹皮	備考
								長さ	幅・径	厚さ・高さ			
238	器具材	削りだし棒材	削出材	スギ	1		縄文時代中期末～後期初頭	43.6	2.4	2.2			完成品の欠損品か。削りだし丸棒。両端欠損。
239	器具材	削りだし棒材	削出材	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	32.0	2.0	1.4			完成品の欠損品か。半月型の削りだし丸棒。両端欠損。
240	器具材	削りだし棒材	削出材	スギ	1	SP65	縄文時代中期末～後期初頭	23.2	1.6	1.3			完成品の欠損品。やや楕円形の削りだし丸棒。
241	器具材	削りだし棒材	削出材	スギ	1		縄文時代中期末～後期初頭	25.0	2.6	1.8			完成品の欠損品。かまぼこ型を呈する削りだし丸棒。両端欠損。表面に焼けた痕跡が認められる。
275	器具材	削りだし棒材	削出材		1	SD06上層	古墳時代	34.4	2.7	2.9			完成品の欠損品。一先端部には、弓の弭のような作り出しがある。

276	器具材	削りだし棒材	削出材	スギ	2	S D05	古墳時代	33.7	2.5	1.5			完成品の欠損品か。
277	器具材	削りだし棒材	削出材	スギ	2	S D05	古墳時代	37.2	1.1	0.7			残存状態不良。

表11　木製品観察表　器具材(7)弓

報告番号	区分	種別	木取り	樹種	調査区	遺構	時期	サイズ(cm)			炭化	樹皮	備考
								長さ	幅・径	厚さ・高さ			
242	器具材	弓	丸木材	ニシキギ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭	176.0	2.4	2.0			完成品の欠損品。茶黒色漆塗。

表12　木製品観察表　器具材(8)刳りもの

報告番号	区分	種別	木取り	樹種	調査区	遺構	時期	サイズ(cm)			炭化	樹皮	備考
								長さ	幅・径	厚さ・高さ			
203	器具材	刳りもの		ケヤキ	1	SX20	縄文時代中期中葉以前の土石流層	6.3	6.7	2.6			容器の口縁部か？
204	器具材	刳りもの		ケヤキ	1	SX20	縄文時代中期中葉以前の土石流層	7.9	9.6	2.4			容器の口縁部か？
243	器具材	刳りもの	横木取り	ケヤキ	1	SD135	縄文時代中期末～後期初頭	7.5	20.3				完成品。外面底部に文様彫刻。内外面に赤漆が、底部の文様部分には黒漆を塗布。
244	器具材	刳りもの	縦木取り	イヌガヤ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	19.8	7.3				完成品の欠損品。片口部分から胴部の一部が残存。赤色漆塗。
245	器具材	刳りもの		トチノキ	1		縄文時代中期末～後期初頭	4.9	15.3				完成品の欠損品。高坏状の木胎漆器の高台。表面にのみ赤色漆塗布。
246	器具材	刳りもの	不明		1	SD05	縄文時代中期末～後期初頭	11.4	6.9	1.1			完成品の欠損品。内外面に赤色漆塗布。
247	器具材	刳りもの	横木取り		1	X51.8 Y85.3	縄文時代中期末～後期初頭	13.0	11.8	2.0	○		完成品の欠損品か。
248	器具材	刳りもの	縦木取り	ケヤキ	6	SG01	縄文時代中期末～後期初頭	14.1	19.0	1.7			完成品の欠損品か。わずかだが、赤色漆が認められる。
249	器具材	刳りもの		ケヤキ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	4.3	3.8	1.5	○		完成品の欠損品。内外面に赤色漆塗布。
250	器具材	刳りもの		ケヤキ	1	SK26	縄文時代中期末～後期初頭	15.0	15.0	0.5	○		完成品の欠損品。内面は赤色、外面に黒色漆塗布。
251	器具材	刳りもの		ケヤキ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	17.4	7.0	0.4			完成品の欠損品。内・外面に赤色漆を塗布。
252	器具材	刳りもの	板目板		1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	55.6	9.7	2.3	○		完成品の欠損品か。大型容器の可能性あり。
253	器具材	刳りもの	横木取り	トチノキ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	59.2	17.6	2.6	○		完成品の欠損品か。大型容器の可能性あり。
254	器具材	刳りもの	縦木取り	トチノキ	1	SD135	縄文時代中期末～後期初頭	20.3	14.8	9.8	○	○	未製品。所々に焼き焦がし痕が残る。

表13　木製品観察表　器具材(9)不明漆塗製品

報告番号	区分	種別	木取り	樹種	調査区	遺構	時期	サイズ(cm)			炭化	樹皮	備考
								長さ	幅・径	厚さ・高さ			
255	器具材	不明漆塗製品			1		縄文時代中期末～後期初頭	6.3	2.6	1.2			完成品の欠損品。朱漆塗。

表14　木製品観察表　器具材(10)素材

報告番号	区分	種別	木取り	樹種	調査区	遺構	時期	サイズ(cm)			炭化	樹皮	備考
								長さ	幅・径	厚さ・高さ			
256	器具材	素材	丸木材	イヌガヤ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	72.1	2.2	1.9		○	両端折り取られたものか。加工痕はない。
257	器具材	素材	丸木材	イヌガヤ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	85.9	2.5	2.9			両端折り取られたものか。加工痕はない。
258	器具材	素材	丸木材	イヌガヤ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	91.7	2.4	2.5			両端折り取られたものか。加工痕はない。
259	器具材	素材	丸木材	イヌガヤ	1	SX04	縄文時代中期末～後期初頭	87.4	2.0	2.0		○	一方の端部は伐採痕か。もう一方は欠損。樹皮が一部残る
260	器具材	素材	丸木材	イヌガヤ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	77.8	3.3	2.2		○	全体の2/3程度に削痕が認められる。一方の端部は欠損。樹皮が一部残る。
261	器具材	素材	丸木材	イヌガヤ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭	68.2	1.6	1.6			両端折り取られたものか。加工痕はない。
262	器具材	素材	丸木材	イヌガヤ	1		縄文時代中期末～後期初頭	121.5	3.5	2.9		○	一方の端部は伐採痕か。
263	器具材	素材	丸木材	イヌガヤ	1		縄文時代中期末～後期初頭	86.6	1.8	1.8		○	両端折り取られた木。加工痕はない。
264	器具材	素材	丸木材	イヌガヤ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	20.0～50.5	0.6～1.4	0.3～0.7		○	18本すべて半割である。両端部は折り取られたまま。何らかの素材であろう。
265	器具材	素材	丸木材	イヌガヤ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	70.8	3.0	2.9	○		一端部は折り取られたもの。
266	器具材	素材	丸木材	イヌガヤ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	44.3	1.9	0.6			両端部折り取られ、半割にされている。素材か。
267	器具材	素材	丸木材	イヌガヤ	1	SD138	縄文時代中期末～後期初頭	84.7	2.3	1.8		○	端部は、一方は折り取られたもの、もう一方は長さ調整のための切断痕。
268	器具材	素材	丸木材	イヌガヤ	1	SX04	縄文時代中期末～後期初頭	50.4	3.0	2.4			端部は、一方は伐採痕、もう一方は折り取られた。
269	器具材	素材	丸木材	ニレ属	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭	24.3～72.4	0.5～0.8	0.3～0.5		○	径はほぼそろっているが、長さは一定ではない。

表15　木製品観察表　器具材(11)櫛

報告番号	区分	種別	木取り	樹種	調査区	遺構	時期	サイズ(cm)			炭化	樹皮	備考
								長さ	幅・径	厚さ・高さ			
270	器具材	結歯式縦櫛			E区		縄文後期末～晩期前葉	3.0	2.0	0.5			赤色漆塗布。
271	器具材	結歯式縦櫛			3		縄文後期末～晩期前葉	5.4	4.2	1.0			赤色漆塗布。
272	器具材	結歯式縦櫛			3		縄文後期末～晩期前葉	9.8	7.3	0.8			赤色漆塗布。

表16　木製品観察表　器具材(12)編錘状木製品

報告番号	区分	種別	木取り	樹種	調査区	遺構	時期	サイズ(cm)			炭化	樹皮	備考
								長さ	幅・径	厚さ・高さ			
274	器具材	編錘状木製品	偏半割材	カマツカ	3	SK171	縄文時代後期末～晩期前葉	19.5	5.5	3.0		○	完成品。両端切断痕。縄掛けの突起状の作り出しあり。

表17　木製品観察表　構築材(2)

報告番号	区分	種別	木取り	樹種	調査区	遺構	時期	長さ(cm)	幅・径(cm)	厚さ・高さ(cm)	炭化	樹皮	備考
280	構築材	半截柱根	略半截	クリ	3	SK117	縄文時代晩期中葉	11.0		6.5			
281	構築材	半截柱根	略半截	クリ	3	SK137	縄文時代晩期中葉	12.0					

282	構築材	柱根	丸木	クリ	3	SK235	縄文時代晩期中葉	26.0					
283	構築材	柱根	丸木	クリ	3	SK240	縄文時代晩期中葉	18.5					

表18　木製品観察表　施設材（2）

報告番号	区分	種別	木取り	樹種	調査区	遺構	時期	長さ(cm)	幅・径(cm)	厚さ・高さ(cm)	炭化	樹皮	備考
284	施設材	貯蔵穴・蓋材	半割材	環孔材	3	SK244	縄文時代後期末～晩期前葉	56.0	7.0	3.0	○		
285	施設材	貯蔵穴・蓋材	半割材	クリ	3	SK244	縄文時代後期末～晩期前葉	34.0	4.5	3.0			
286	施設材	貯蔵穴・蓋材	ミカン割材	クリ	3	SK244	縄文時代後期末～晩期前葉	117.0	8.0	7.5			
287	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	クリ	3	SK244	縄文時代後期末～晩期前葉	120.0	6.5	3.5			
288	施設材	貯蔵穴・蓋材	角材	クリ	3	SK244	縄文時代後期末～晩期前葉	29.0	4.0	3.0	○		
289	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	クリ	3	SK244	縄文時代後期末～晩期前葉	14.5	7.5	0.3			
290	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	不明	3	SK244	縄文時代後期末～晩期前葉	13.0	7.0	0.3			
291	施設材	貯蔵穴・蓋材	板目板	クリ	3	SK244	縄文時代後期末～晩期前葉	32.5	10.0	2.0			
292	施設材	貯蔵穴・蓋材	板目板	クリ	3	SK244	縄文時代後期末～晩期前葉		8.5	2.5			
293	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	不明	3	SK244	縄文時代後期末～晩期前葉	70.0	2.0	1.2			
294	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	ムラサキシキブ	3	SK244	縄文時代後期末～晩期前葉	43.0	3.5	3.0			両端に切断痕
295	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	チドリノキ	3	SK244	縄文時代後期末～晩期前葉	33.0	2.5	2.0			
296	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	フジ	3	SK244	縄文時代後期末～晩期前葉	48.5	1.7	1.0			
297	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	ムラサキシキブ	3	SK244	縄文時代後期末～晩期前葉	37.0	5.0	2.5			
298	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	コナラ節	3	SK244	縄文時代後期末～晩期前葉	16.5	2.5	1.5		○	
299	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	不明	3	SK244	縄文時代後期末～晩期前葉	46.0	6.5	1.5			
300	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	不明	3	SK244	縄文時代後期末～晩期前葉	27.0	13.0	0.8			
301	施設材	貯蔵穴・蓋材	ミカン割材	クリ	3	SK249	縄文時代後期末～晩期前葉	55.0	11.0	8.5			片側端部に切断痕
302	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	ケヤキ	3	SK249	縄文時代後期末～晩期前葉	85.0	24.0	0.3			
303	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	トチノキ	3	SK249	縄文時代後期末～晩期前葉	24.0	4.0	4.0			
304	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	不明	3	SK249	縄文時代後期末～晩期前葉	9.0	4.5	0.3			
305	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	ケヤキ	3	SK249	縄文時代後期末～晩期前葉	92.0	34.0	0.3			
306	施設材	貯蔵穴・枠材	半割材	クリ	3	SK249	縄文時代後期末～晩期前葉	18.5	13.5	6.0			両端に切断痕
307	施設材	貯蔵穴・枠材	丸木材	クリ	3	SK249	縄文時代後期末～晩期前葉	55.0	8.0	5.5	○		
308	施設材	貯蔵穴・枠材	半割材	トチノキ	3	SK249	縄文時代後期末～晩期前葉	43.0	13.5	9.0			
309	施設材	貯蔵穴・枠材	ミカン割材	クリ	3	SK249	縄文時代後期末～晩期前葉	39.0	3.5	2.0	○		
310	施設材	貯蔵穴・枠材	丸木材	クリ	3	SK249	縄文時代後期末～晩期前葉	73.5	6.5	4.5			両端に切断痕
311	施設材	貯蔵穴・枠材	板目板	クリ	3	SK249	縄文時代後期末～晩期前葉	40.0	4.0	1.0	○		片面炭化
312	施設材	貯蔵穴・枠材	丸木材	クリ	3	SK249	縄文時代後期末～晩期前葉	53.0	15.0	12.5	○		切断痕
313	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	不明	3	SK249	縄文時代後期末～晩期前葉	10.0	6.3	0.3			
314	施設材	貯蔵穴・枠材	丸木材	ヤマグワ	3	SK249	縄文時代後期末～晩期前葉	64.5	7.3	5.2			
315	施設材	貯蔵穴・枠材	ミカン割材	クリ	3	SK249	縄文時代後期末～晩期前葉	79.0	11.5	7.0	○		切断痕
316	施設材	貯蔵穴・枠材	板目割材	クリ	3	SK249	縄文時代後期末～晩期前葉	59.5	12.0	5.0	○		
317	施設材	貯蔵穴・蓋材	板目材	クリ	3	SK249	縄文時代後期末～晩期前葉	29.0	3.0	2.5			
318	施設材	貯蔵穴・枠材	ミカン割材	クリ	3	SK249	縄文時代後期末～晩期前葉	44.5	3.5	2.0	○		
319	施設材	貯蔵穴・蓋材	板目割材	クリ	3	SK249	縄文時代後期末～晩期前葉	32.0	4.5	2.0			
320	施設材	貯蔵穴・枠材	ミカン割材	クリ	3	SK249	縄文時代後期末～晩期前葉	57.0	9.0	8.0	○		抉れ部あり（加工か？）
321	施設材	貯蔵穴・蓋材	板目板	クリ	3	SK249	縄文時代後期末～晩期前葉	34.0	10.0	3.5			抉れ部あり
322	施設材	貯蔵穴・蓋材	板目割材	クリ	3	SK249	縄文時代後期末～晩期前葉	62.0	6.5	5.5	○		
323	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	不明	3	SK249	縄文時代後期末～晩期前葉	8.0	5.5	4.0			
324	施設材	貯蔵穴・蓋材	板目割材	クリ	3	SK151	縄文時代後期末～晩期前葉	37.5	5.5	3.0			
325	施設材	貯蔵穴・蓋材	板目割材	クリ	3	SK151	縄文時代後期末～晩期前葉	41.5	5.0	1.8			
326	施設材	貯蔵穴・蓋材	板目割材	ムラサキシキブ	3	SK151	縄文時代後期末～晩期前葉	11.0	2.5	1.5			
327	施設材	貯蔵穴・蓋材	枝	不明	3	SK151	縄文時代後期末～晩期前葉	16.5	1.8	1.0			
328	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	ニワトコ	3	SK151	縄文時代後期末～晩期前葉	7.0	1.8	1.2			
329	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	不明	3	SK151	縄文時代後期末～晩期前葉	13.0	4.0	0.5			
330	施設材	貯蔵穴・蓋材	板目割材	クリ	3	SK151	縄文時代後期末～晩期前葉	71.0	11.5	6.0			
331	施設材	貯蔵穴・蓋材	板目割材	クリ	3	SK151	縄文時代後期末～晩期前葉	22.0	8.5	3.0			
332	施設材	貯蔵穴・蓋材	枝	トチノキ	3	SK151	縄文時代後期末～晩期前葉	不明	1.5	1.0			
333	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	トチノキ	3	SK151	縄文時代後期末～晩期前葉	8.0	4.0	3.0			
334	施設材	貯蔵穴・蓋材	板目板	クリ	3	SK151	縄文時代後期末～晩期前葉	6.2	4.0	1.0			
335	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	トチノキ	3	SK151	縄文時代後期末～晩期前葉	10.0	3.5	2.6			
336	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	コナラ節	3	SK260	縄文時代後期末～晩期前葉	53.0	5.5	4.5			
337	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	トチノキ	3	SK260	縄文時代後期末～晩期前葉	7.5	3.0	0.5			
338	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	カエデ属	3	SK260	縄文時代後期末～晩期前葉	61.5	2.5	2.0			
339	施設材	貯蔵穴・蓋材	枝	ヤマグワ	3	SK260	縄文時代後期末～晩期前葉	8.0	0.7	0.5			
340	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	ヤマグワ	3	SK260	縄文時代後期末～晩期前葉	24.0	4.5	3.0			
341	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	クリ	3	SK260	縄文時代後期末～晩期前葉	32.0	1.8	1.5			
342	施設材	貯蔵穴・蓋材	板目割材	クリ	3	SK260	縄文時代後期末～晩期前葉	52.0	13.0	6.0			
343	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	クリ	3	SK260	縄文時代後期末～晩期前葉	17.0	7.0	0.5			
344	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	不明	3	SK138	縄文時代後期末～晩期前葉	13.5	5.0	1.5			
345	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	クリ	3	SK138	縄文時代後期末～晩期前葉	33.5	2.5	2.5		○	
346	施設材	貯蔵穴・蓋材	削出る材	クリ	3	SK138	縄文時代後期末～晩期前葉	36.0	4.0	3.0			

報告番号	区分	種別	木取り	樹種	調査区	遺構	時期	長さ(cm)	幅・径(cm)	厚さ・高さ(cm)	炭化	樹皮	備考
347	施設材	貯蔵穴・蓋材	割材	エノキ属	3	SK138	縄文時代後期末～晩期前葉	11.5	2.0	1.5			
348	施設材	貯蔵穴・蓋材	割材	クリ	3	SK173	縄文時代後期末～晩期前葉	37.0	4.0	0.5			
349	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	ムラサキシキブ	3	SK173	縄文時代後期末～晩期前葉	37.5	2.5	2.0			
350	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	トネリコゾク	3	SK173	縄文時代後期末～晩期前葉	21.0	1.0	0.5			
351	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	クリ	3	SK173	縄文時代後期末～晩期前葉	15.0	1.0	0.5			
352	施設材	貯蔵穴・蓋材	半割材	クリ	3	SK173	縄文時代後期末～晩期前葉	40.0	20.0	9.0			
353	施設材	貯蔵穴・蓋材	割材	クリ	3	SK173	縄文時代後期末～晩期前葉	68.0	7.0	4.0			
354	施設材	貯蔵穴・蓋材	半割材	不明	3	SK173	縄文時代後期末～晩期前葉	9.5	3.5	2.0			
355	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	クリ	3	SK173	縄文時代後期末～晩期前葉	39.0	4.5	1.0			
356	施設材	貯蔵穴・蓋材	枝	クリ	3	SK173	縄文時代後期末～晩期前葉	14.5	1.0	0.5			
357	施設材	貯蔵穴・蓋材	割材	クリ	3	SK173	縄文時代後期末～晩期前葉	8.0	1.5	0.5			
358	施設材	貯蔵穴・蓋材	ミカン割材	トネリコ属	3	SK173	縄文時代後期末～晩期前葉	17.0	1.5	1.5			
359	施設材	貯蔵穴・蓋材	炭化材	不明	3	SK173	縄文時代後期末～晩期前葉	7.5	4.5	3.5	○		
360	施設材	貯蔵穴・蓋材	割材	クリ	3	SK173	縄文時代後期末～晩期前葉	14.5	5.0	2.5			
361	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	カエデ属	3	SK173	縄文時代後期末～晩期前葉	26.5	2.5	1.8			
362	施設材	貯蔵穴・蓋材	割材	不明	3	SK173	縄文時代後期末～晩期前葉	13.0	1.5	1.0			
363	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	ヤマグワ	3	SK173	縄文時代後期末～晩期前葉	11.0	2.5	1.0	○		
364	施設材	貯蔵穴・蓋材	木片	クリ	3	SK173	縄文時代後期末～晩期前葉	11.0	3.0	1.5			
365	施設材	貯蔵穴・蓋材	割材	クリ	3	SK173	縄文時代後期末～晩期前葉	16.0	3.5	2.5			
366	施設材	貯蔵穴・蓋材	割材	不明	3	SK173	縄文時代後期末～晩期前葉	7.0	3.0	1.0	○		
367	施設材	貯蔵穴・蓋材	柾目板	クリ	3	SK173	縄文時代後期末～晩期前葉	44.5	4.0	1.5			
368	施設材	貯蔵穴・蓋材	割材	クリ	3	SK173	縄文時代後期末～晩期前葉	31.0	6.5	4.0			
369	施設材	貯蔵穴・蓋材	ミカン割材	クリ	3	SK173	縄文時代後期末～晩期前葉	30.0	5.5	2.5			孔あり。加工か？
370	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	不明	3	SK171	縄文時代後期末～晩期前葉	7.0	6.5	5.0			片端に切断痕
371	施設材	貯蔵穴・蓋材	割材	トチノキ	3	SK171	縄文時代後期末～晩期前葉	5.0	4.0	1.0			
372	施設材	貯蔵穴・蓋材	割材	トチノキ	3	SK171	縄文時代後期末～晩期前葉	6.5	4.5	2.0			
373	施設材	貯蔵穴・蓋材	木片	トチノキ	3	SK171	縄文時代後期末～晩期前葉	8.0	4.5	3.5			
374	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	不明	3	SK171	縄文時代後期末～晩期前葉	5.0	6.0	0.5			
375	施設材	貯蔵穴・蓋材	木片	クリ	3	SK171	縄文時代後期末～晩期前葉	5.0	1.5	1.0			
376	施設材	貯蔵穴・蓋材	木片	クリ	3	SK171	縄文時代後期末～晩期前葉	7.5	3.0	1.5			
377	施設材	貯蔵穴・蓋材	木片	クリ	3	SK171	縄文時代後期末～晩期前葉	6.5	2.5	1.5			
378	施設材	貯蔵穴・蓋材	板目板	クリ	3	SK171	縄文時代後期末～晩期前葉	5.5	3.5	1.0			
379	施設材	貯蔵穴・蓋材	板目板	不明	3	SK171	縄文時代後期末～晩期前葉	不明	不明	1.0	○		
380	施設材	貯蔵穴・蓋材	板目割材	クリ	3	SK266	縄文時代後期末～晩期前葉	20.0	9.5	1.5			
381	施設材	貯蔵穴・足場材	板目割材	クリ	3	SK261	縄文時代後期末～晩期前葉	146.0	21.0	8.5			
382	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	トチノキ	3	SK261	縄文時代後期末～晩期前葉	33.0	11.0	9.5	○	○	
383	施設材	貯蔵穴・蓋材	板目割材	ケヤキ	3	SK261	縄文時代後期末～晩期前葉	15.0	7.5	3.5	○		木器未成品か？削りあり
384	施設材	貯蔵穴・蓋材	枝	オニクルミ	3	SK261	縄文時代後期末～晩期前葉	19.0	2.0	1.8			
385	施設材	貯蔵穴・蓋材	ミカン割材	クリ	3	SK261	縄文時代後期末～晩期前葉	42.0	7.5	3.8			
386	施設材	貯蔵穴・蓋材	板目割材	クリ	3	SK261	縄文時代後期末～晩期前葉	53.0	8.0	4.2	○		
387	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	ケヤキ	3	SK261	縄文時代後期末～晩期前葉	30.0	17.0	0.5			
388	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	ケヤキ	3	SK261	縄文時代後期末～晩期前葉	18.0	14.0	0.4			
389	施設材	水場・杭	丸木材	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	14.5	6.0	5.5			杭３
390	施設材	水場・杭	割材	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	31.5	7.5	5.5			杭２
391	施設材	水場・杭	丸木材	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	12.0	8.0	6.0	○		杭１
392	施設材	水場・杭	ミカン割材	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	44.0	4.5	3.5			杭４
393	施設材	水場・杭	割材	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	9.5	3.5	2.2			杭５
394	施設材	水場・杭	割材	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	46.5	7.5	5.0			杭６
395	施設材	水場・杭	ミカン割材	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	46.5	7.0	6.0	○		杭７
396	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	不明	3	SK171	縄文時代後期末～晩期前葉	24.0	1.5	1.0			
397	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	カマツカ	3	SK171	縄文時代後期末～晩期前葉	23.5	4.0	3.5			片端切断痕
398	施設材	貯蔵穴・蓋材	木片	クリ	3	SK171	縄文時代後期末～晩期前葉	17.0	2.0	0.5			
399	施設材	貯蔵穴・蓋材	木片	不明	3	SK171	縄文時代後期末～晩期前葉	13.0	2.5	2.0			
400	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	不明	3	SK171	縄文時代後期末～晩期前葉	10.0	5.5	1.0			
401	施設材	貯蔵穴・蓋材	半割材	カマツカ	3	SK171	縄文時代後期末～晩期前葉	12.0	4.5	1.0			
402	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	不明	3	SK171	縄文時代後期末～晩期前葉	13.0	19.0	0.2			
403	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	コナラ節	3	SK171	縄文時代後期末～晩期前葉	23.0	21.0	0.4			
404	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	不明	3	SK171	縄文時代後期末～晩期前葉	16.5	10.0	0.5			
405	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	不明	3	SK171	縄文時代後期末～晩期前葉	19.0	24.5	0.3			
406	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	不明	3	SK171	縄文時代後期末～晩期前葉	11.5	3.5	0.2			
407	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	不明	3	SK171	縄文時代後期末～晩期前葉	16.0	5.0	0.2			
408	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	クリ	3	SK171	縄文時代後期末～晩期前葉	24.0	27.0	0.5			
409	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	不明	3	SK171	縄文時代後期末～晩期前葉	24.0	8.0	0.3			
410	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	不明	3	SK171	縄文時代後期末～晩期前葉	18.0	10.0	0.5			
411	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	不明	3	SK171	縄文時代後期末～晩期前葉	13.0	13.0	0.4			
412	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	不明	3	SK171	縄文時代後期末～晩期前葉	34.0	11.0	0.8			
413	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	不明	3	SK171	縄文時代後期末～晩期前葉	29.0	25.0	0.4			
414	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	不明	3	SK171	縄文時代後期末～晩期前葉	25.0	5.5	1.0			

報告番号	区分	種別	木取り	樹種	調査区	遺構	時期	長さ(cm)	幅・径(cm)	厚さ・高さ(cm)	炭化	樹皮	備考
415	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	不明	3	SK171	縄文時代後期末～晩期前葉	25.0	11.0	1.0			
416	施設材	貯蔵穴・蓋材	柾目板	クリ	3	SK171	縄文時代後期末～晩期前葉	12.0	6.5	3.5			片端切断痕
417	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	14.0	6.0	0.8			
418	施設材	貯蔵穴・蓋材	柾目板	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	18.5	3.5	1.0			
419	施設材	貯蔵穴・蓋材	柾目板	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	28.0	5.0	1.0			
420	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	29.5	2.0	1.2		○	
421	施設材	貯蔵穴・蓋材	割材	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	45.0	3.0	1.0			
422	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	不明	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	21.0	4.0	0.5			
423	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	20.0	1.5	1.2			
424	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	25.0	1.2	1.0			
425	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	不明	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	24.0	1.5	1.2			
426	施設材	貯蔵穴・蓋材	板目板	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	29.0	7.5	2.0			
427	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	20.0	3.5	0.8			
428	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	32.0	5.5	1.0			
429	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	39.0	10.5	0.8			
430	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	14.0	7.0	0.8			
431	施設材	貯蔵穴・蓋材	割材	ウルシ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	41.0	3.0	1.5			
432	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	ケヤキ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	11.0	3.0	2.0			
433	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	20.0	13.0	1.2			
434	施設材	貯蔵穴・蓋材	板目板	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	46.5	11.0	1.2			
435	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	55.0	19.0	1.5			
436	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	44.0	21.5	1.5			
437	施設材	貯蔵穴・蓋材	板目板	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	35.0	7.0	1.0			
438	施設材	貯蔵穴・蓋材	板目板	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	25.5	6.0	1.2			
439	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	10.0	4.0	1.0			
440	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	23.0	6.0	1.0			
441	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉						
442	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	37.5	13.0	1.5			
443	施設材	貯蔵穴・蓋材	半割材	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	43.0	9.0	4.5			
444	施設材	貯蔵穴・蓋材	柾目板	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	60.0	13.0	3.0			
445	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	43.5	18.5	1.0			
446	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	16.0	6.0	1.2			
447	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	64.0	12.0	1.0			
448	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	25.0	1.8	1.0			
449	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	62.0	10.0	1.2			
450	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	78.0	15.0	1.0			
451	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	12.0	5.0	1.0			
452	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	67.0	3.5	2.5			
453	施設材	貯蔵穴・蓋材	丸木材	トネリコ属	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	24.0	1.5	1.2			
454	施設材	貯蔵穴・枠材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	49.0	18.0	1.2			
455	施設材	貯蔵穴・枠材	丸木材	オニクルミ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	97.0	4.5	2.5			
456	施設材	貯蔵穴・枠材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	69.0	24.0	1.2			
457	施設材	貯蔵穴・枠材	半割材	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	65.0	10.0	5.0			
458	施設材	貯蔵穴・枠材	丸木材	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	89.0	16.0	11.0			
459	施設材	貯蔵穴・枠材	割材	ケンポナシ属	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	25.0	6.0	3.0			
460	施設材	貯蔵穴・枠材	半割材	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	104.0	11.0	5.0			
461	施設材	貯蔵穴・蓋材	枝	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	19.0	2.5	1.5			
462	施設材	貯蔵穴・枠材	割材	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	29.0	6.0	4.0			
463	施設材	貯蔵穴・枠材	樹皮	不明	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	43.0	5.5	0.8			
464	施設材	貯蔵穴・枠材	丸木材	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	71.0	9.5	6.0			
465	施設材	貯蔵穴・枠材	半割材	ヤマグワ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	83.0	5.5	2.0			
466	施設材	貯蔵穴・枠材	半割材	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	80.0	8.0	5.0			
467	施設材	貯蔵穴・枠材	枝	オニクルミ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	40.0	4.5	2.0			
468	施設材	貯蔵穴・枠材	割材	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	69.0	3.0	2.5			
469	施設材	貯蔵穴・枠材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	56.0	10.0	1.0			
470	施設材	貯蔵穴・枠材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	83.0	17.0	1.5			
471	施設材	貯蔵穴・枠材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	39.0	14.0	1.0			
472	施設材	貯蔵穴・枠材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	18.0	5.5	0.7			
473	施設材	貯蔵穴・枠材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	74.5	20.0	1.3			
474	施設材	貯蔵穴・枠材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	52.0	15.5	1.3			
475	施設材	貯蔵穴・枠材	割材	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	30.0	6.5	3.0			
476	施設材	貯蔵穴・枠材(板杭)	板目板	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	38.0	4.5	2.0			
477	施設材	貯蔵穴・枠材(杭)	割材	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	61.0	4.0	4.0			
478	施設材	貯蔵穴・蓋材	樹皮	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	27.0	13.0	1.5			
479	施設材	足場材	半割材	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	100.0	15.0	10.0			
480	施設材	足場材	分割材	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	174.0	19.0	13.0			
481	施設材	足場材		クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	89.0	22.0	5.0			

報告番号	区分	種別	木取り	樹種	調査区	遺構	時期	長さ(cm)	幅・径(cm)	厚さ・高さ(cm)	炭化	樹皮	備考
482	施設材	足場材		クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	118.0	9.0	8.0			
483	施設材	足場材	偏半割材	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	38.0	8.0	7.0			
484	施設材	足場材		クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	74.0	7.0	6.0			
485	施設材	足場材	丸木材	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	149.0	13.0	5.0			
486	施設材	足場材		クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	140.0	19.0	9.0			
487	施設材	足場材		クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	86.0	8.0	4.0			
488	施設材	足場材		クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	142.0	7.0	6.0			
489	施設材	足場材	丸木材	ハンノキ節	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	35.0	5.0	4.0			
490	施設材	足場材		クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	53.0	11.0	3.0			
491	施設材	足場材	丸木材	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	115.0	19.0	13.0			
492	施設材	水場・枠材	半材	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	270.0	32.0				
493	施設材	足場材	分割材	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	153.0	18.0	7.0			
494	施設材	足場材	分割材	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	97.0	9.0	7.0			
495	施設材	足場材	分割材	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	138.0	10.0	8.0			
496	施設材	足場材		クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	57.0	15.0	4.0			
497	施設材	足場材		クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	57.0	15.0	4.0			
498	施設材	足場材		クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	57.0	15.0	4.0			
499	施設材	足場材	板目板	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	60.0	10.0	3.0			
500	施設材	足場材	偏半割材	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	112.0	12.0	4.0			
501	施設材	足場材		クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	53.0	5.0	4.0			
502	施設材	水場・足場		クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	290.0	10.0				
503	施設材	足場材		クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	53.0	8.0	6.0			
504	施設材	足場材		クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	73.0	11.0	11.0			
505	施設材	足場材		クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	128.0	8.0	3.0			
506	施設材	足場材		クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	102.0	7.0	5.0			
507	施設材	水場・杭	不明	クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭						
508	施設材	水場・杭	不明	クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭	55.0	9.0	6.0			
509	施設材	水場・枠材	不明	クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭	110.0	25.0	11.0			
510	施設材	水場・水口の板	板目板	クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭	70.0	8.0				
511	施設材	水場・水口の板	板目板	クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭	55.0	12.0				
512	施設材	足場材		クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	138.0	7.0	4.0			
513	施設材	足場材		クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	78.0	6.0	4.0			
514	施設材	足場材		クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	146.0	21.0	7.0			
515	施設材	水場・足場	丸木材	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	200.0	30.0				
516	施設材	足場材	板目材	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	50.0	10.0	2.0			
517	施設材	足場材	板目材	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	50.0	10.0	2.0			
518	施設材	足場材		クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	70.0	20.0	10.0			
519	施設材	足場材		クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	30.0	7.0	5.0			
520	施設材	足場材		クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	68.0	10.0	5.0			
521	施設材	足場材		クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	65.0	18.0	6.0			
522	施設材	足場材		クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	27.0	10.0	6.0			
523	施設材	水場・杭	割材	クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭	100.0	20.0				
524	施設材	水場・水口の板	板目板	クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭	47.0	15.0				
525	施設材	水場・枠材	割材	クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭	40.0	7.0				
526	施設材	水場・水口の板	柾目板	クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭	90.0	10.0				
527	施設材	水場・杭	板目板	クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭	45.0	5.0				
528	施設材	水場・枠材	不明	クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭						
529	施設材	足場材		クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	250.0	130.0	26.0			
530	施設材	足場材		クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	250.0	12.0	10.0			
531	施設材	足場材	板	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	110.0	12.0	6.0			
532	施設材	足場材	分割材	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	98.0	8.0	8.0			
533	施設材	足場材	分割材	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
534	施設材	足場材	分割材	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	77.0	8.0	5.0			
535	施設材	足場材	分割材	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	100.0	9.0	6.0			
536	施設材	足場材	分割材	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	40.0	5.0	4.0			
537	施設材	足場材	削出材	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	165.0	10.0	5.0			
538	施設材	足場材	板目板	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	120.0	25.0	7.0			
539	施設材	水場・足場	丸木材	クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭	376.0	28.0				
540	施設材	水場・足場	割材	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	320.0	60.0				
541	施設材	足場材	板目板	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	200.0	15.0	5.0			

表19　木製品観察表　その他の加工材（2）

報告番号	区分	種別	木取り	樹種	調査区	遺構	時期	長さ(cm)	幅・径(cm)	厚さ・高さ(cm)	炭化	樹皮	備考
542	加工材	割材	割材	スギ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	44.0	3.5	2.0			
543	加工材	ミカン割材	ミカン割材	トチノキ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	34.0	4.5	2.5			
544	加工材	炭化材	炭化材	トチノキ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	10.0	5.5	5.0	○		
545	加工材	木片	木片	トチノキ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	12.5	4.5	2.0			
546	加工材	樹根	樹根	トチノキ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	30.0	1.7	1.4			

報告番号	区分	種別	木取り	樹種	調査区	遺構	時期	長さ(cm)	幅・径(cm)	厚さ・高さ(cm)	炭化	樹皮	備考
547	加工材	割材	割材	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	57.0	4.0	2.2			
548	加工材	樹皮	樹皮	トチノキ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	63.0	12.0	2.5			
549	加工材	ミカン割材	ミカン割材	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	54.0	6.0	2.0			
550	加工材	樹皮	樹皮	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	28.0	21.0	1.6			
551	加工材	板目割材	板目割材	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	154.0	13.0	2.5			
552	加工材	枝	枝	トチノキ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	37.0	2.0	1.8			
553	加工材	樹皮	樹皮	トチノキ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	20.0	7.5	0.5			
554	加工材	樹皮	樹皮	トチノキ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	9.5	4.0	0.8			
555	加工材	ミカン割材	ミカン割材	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	100.0	9.0	4.5			
556	加工材	半割材	半割材	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	76.0	16.0	5.5			
557	加工材	樹皮	樹皮	トチノキ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	9.5	5.5	0.7			
558	加工材	枝	枝	オニクルミ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	51.0	1.5	1.0			
559	加工材	枝	枝	カエデ属	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	38.0	1.3	1.2			
560	加工材	丸木材	丸木材	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	168.0	17.0	15.0			
561	加工材	削りだし材	削出材	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	36.5	2.5	1.3			
562	加工材	枝	枝	トチノキ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	22.0	2.5	1.5			
563	加工材	半割材	半割材	トチノキ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	23.5	6.0	2.5			
564	加工材	木片	木片	トチノキ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	11.0	6.0	3.0			
565	加工材	斜め板	斜め板	スギ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	40.0	7.0	1.5			
566	加工材	割材	割材	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	27.0	5.5	1.5			
567	加工材	木片	木片	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	15.5	3.0	1.5			
568	加工材	丸木材	丸木材	トチノキ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	19.0	3.0	2.0			
569	加工材	板目割材	板目割材	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	30.0	6.5	2.3			
570	加工材	柾目割材	柾目割材	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	21.0	12.0	2.0			
571	加工材	板目割材	板目割材	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	30.0	4.5	2.2			
572	加工材	炭化材	炭化材	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉				○		
573	加工材	丸木材	丸木材	イヌガヤ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	31.0	2.5	2.5		○	片端に切断痕
574	加工材	割材	割材	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	12.0	10.0	4.5	○		
575	加工材	割材	割材	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	16.0	1.8	0.8			
576	加工材	ミカン割材	ミカン割材	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	30.0	8.0	3.0	○		
577	加工材	割材	割材	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	43.5	16.0	3.0			
578	加工材	樹皮	樹皮	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	21.0	13.0	0.4			
579	加工材	板目割材	板目割材	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	22.0	5.5	2.5			
580	加工材	樹皮	樹皮	スギ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	8.5	4.0	0.4			
581	加工材	板目割材	板目割材	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	35.0	6.5	4.5	○		
582	加工材	削りだし材	削出材	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	20.0	4.0	2.0			
583	加工材	割材	割材	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	21.0	5.0	3.5			
584	加工材	割材	割材	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	16.0	3.5	1.5	○		
585	加工材	炭化材	炭化材	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	14.0	6.0	2.5	○		
586	加工材	炭化材	炭化材	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	13.5	5.0	2.2	○		
587	加工材	割材	割材	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	40.0	10.0	2.5			
588	加工材	割材	割材	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	17.0	3.5	2.0	○		
589	加工材	木片	木片	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	11.0	3.0	1.0			
590	加工材	木片	木片	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	10.0	3.8	1.2			
591	加工材	枝	枝	イヌガヤ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	17.0	0.8	0.8			
592	加工材	樹皮	樹皮	不明	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	14.0	5.0	0.3			
593	加工材	枝	枝	トチノキ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	17.0	0.7	0.7			
594	加工材	枝	枝	トチノキ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	10.5	1.8	1.2			
595	加工材	枝	枝	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	20.5	2.0	1.5			
596	加工材	木片	木片	トチノキ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	13.0	2.5	1.8	○		
597	加工材	炭化材	炭化材	コナラ節	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	不明			○		
598	加工材	木片	木片	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	15.5	4.0	1.8			
599	加工材	木片	木片	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	18.0	4.0	0.7			
600	加工材	樹皮	樹皮	トチノキ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	29.0	2.2	0.8			
601	加工材	木片	木片	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	12.5	3.0	1.0			
602	加工材	樹皮	樹皮	トチノキ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	6.5	4.5	1.0			
603	加工材	割材	割材	コナラ節	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	53.0	5.5	2.5	○		
604	加工材	柾目薄板	柾目薄板	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	14.0	1.4	0.3			
605	加工材	木片	木片	トチノキ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	7.0	3.5	1.5			
606	加工材	木片	木片	オニクルミ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	24.0	3.0	1.8			
607	加工材	木片	木片	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	14.0	2.8	1.2			
608	加工材	木片	木片	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	23.0	3.0	2.5			
609	加工材	樹皮	樹皮	トチノキ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	8.0	3.5	1.0			
610	加工材	樹皮	樹皮	不明	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	24.0	3.5	0.4			
611	加工材	樹皮	樹皮	トチノキ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	6.5	5.0	0.8			
612	加工材	樹皮	樹皮	不明	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	4.0	4.0	0.6			
613	加工材	枝	枝	不明	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	9.5	1.0	0.3			
614	加工材	木片	木片	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	10.5	6.0	2.5			
615	加工材	樹皮	樹皮	ケヤキ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	12.5	6.0	1.0			

報告番号	区分	種別	木取り	樹種	調査区	遺構	時期	長さ(cm)	幅・径(cm)	厚さ・高さ(cm)	炭化	樹皮	備考
616	加工材	樹根	樹根	トチノキ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	26.0	1.5	1.3			
617	加工材	樹根	樹根	トチノキ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	21.0	3.0	2.0			
618	加工材	樹根	樹根	トチノキ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	32.0	5.0	2.0			
619	加工材	枝	枝	トチノキ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	26.5	2.0	1.5			
620	加工材	割材	割材	スギ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	15.0	1.8	0.6			
621	加工材	枝	枝	不明	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	28.0	4.0	3.0			
622	加工材	樹皮	樹皮	トチノキ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	13.0	6.0	1.2			
623	加工材	木片	木片	トチノキ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	12.0	3.5	2.0			
624	加工材	木片	木片	オニクルミ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	10.5	5.0	3.5			
625	加工材	樹皮	樹皮	トチノキ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	8.5	3.5	0.5			
626	加工材	木片	木片	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	19.5	2.5	1.0			
627	加工材	半割材	半割材	クリ	3	SX01	縄文時代後期末～晩期前葉	87.0	8.5	3.5			
628	加工材	削りだし材	削出材	オニクルミ	3	SK248	縄文時代後期末～晩期前葉	57.0	2.5	1.5			
629	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
630	加工材	丸木材	丸木材	イヌガヤ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
631	加工材	板目板	板目板	アサダ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
632	加工材	板目板	板目板	広葉樹	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
633	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
634	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
635	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
636	加工材			クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
637	加工材			クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
638	加工材			クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
639	加工材			イヌガヤ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
640	加工材	偏半割材	偏半割材	クリ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭						
641	加工材	丸木材	丸木材	コナラ節	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭						
642	加工材			クリ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭						
643	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭						
644	加工材	丸木材	丸木材	未同定	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭						
645	加工材	柾目板	柾目板	クリ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭						
646	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭	62.0	15.0	5.0			
647	加工材			トネリコ属	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭						
648	加工材	柾目板	柾目板	クリ	1	SX04	縄文時代中期末～後期初頭						
649	加工材			クリ	1	SX04	縄文時代中期末～後期初頭						
650	加工材			ヤマウルシ	1	SX04	縄文時代中期末～後期初頭						
651	加工材			ヤマウルシ	1	SX04	縄文時代中期末～後期初頭						
652	加工材	丸木材	丸木材	コナラ節	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭						
653	加工材	丸木材	丸木材	未同定	1	SX05	縄文時代中期末～後期初頭						
654	加工材	板	板	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
655	加工材	丸木材	丸木材	ヤブツバキ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	38.0	8.0	7.0			
656	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	69.0	13.0	2.0			
657	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SX04	縄文時代中期末～後期初頭						
658	加工材	柾目板		クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
659	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭						
660	加工材	丸木材	丸木材	ムクノクキ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭						
661	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
662	加工材			カエデ属	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	132.0	7.0	4.0			
663	加工材	丸木材	丸木材	未同定	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
664	加工材	丸木材	丸木材	未同定	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
665	加工材	板	板	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
666	加工材	丸木材	丸木材	ヌルデ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
667	加工材	丸木材	丸木材	ハギ属	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
668	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SX04	縄文時代中期末～後期初頭	330.0	27.0	23.0			
669	加工材			クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	230.0	40.0	22.0			
670	加工材			コナラ節	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
671	加工材			オニクルミ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	40.0	10.0	8.0			
672	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	110.0	25.0	10.0			
673	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	220.0	10.0	9.0			
674	加工材	板目板	板目板	オニクルミ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
675	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	86.0	11.0	4.0			
676	加工材	丸木材	丸木材	イヌガヤ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
677	加工材			クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
678	加工材			クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
679	加工材	丸木材	丸木材	クヌギ節	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
680	加工材			トチノキ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
681	加工材			クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
682	加工材			トチノキ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
683	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SX05	縄文時代中期末～後期初頭	82.0	10.0	9.0			
684	加工材			クリ	1	SX05	縄文時代中期末～後期初頭	90.0	8.0	5.0			

報告番号	区分	種別	木取り	樹種	調査区	遺構	時期	長さ(cm)	幅・径(cm)	厚さ・高さ(cm)	炭化	樹皮	備考
685	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SX05	縄文時代中期末～後期初頭	230.0	13.0	10.0			
686	加工材			クリ	1	SX05	縄文時代中期末～後期初頭	146.0	11.0	6.0			
687	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	135.0	24.0	12.0			
688	加工材			ムクノキ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
689	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	48.0	4.0	4.0			
690	加工材	分割材	分割材	モクレン属	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	48.0	4.0	4.0			
691	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	48.0	4.0	4.0			
692	加工材	丸木材	丸木材	キハダ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
693	加工材			クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
694	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
695	加工材			クリ	1	SX05	縄文時代中期末～後期初頭	64.0	14.0	8.0			
696	加工材			クリ	1	SX05	縄文時代中期末～後期初頭	110.0	20.0	19.0			
697	加工材			クリ	1	SX05	縄文時代中期末～後期初頭	110.0	20.0	19.0			
698	加工材	板目板	板目板	トチノキ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	20.0	4.0	0.3			
699	加工材	板目板	板目板	トネリコ属	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
700	加工材			広葉樹	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
701	加工材			クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
702	加工材			ハンノキ節	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
703	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
704	加工材			クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭						
705	加工材	丸木材	丸木材	未同定	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭						
706	加工材			ニワトコ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
707	加工材			ニワトコ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
708	加工材			クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
709	加工材			クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
710	加工材			トネリコ属	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
711	加工材			クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
712	加工材			クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
713	加工材	偏半割材	偏半割材	トチノキ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
714	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SD135	縄文時代中期末～後期初頭						
715	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SX05	縄文時代中期末～後期初頭	52.0	10.0	7.0			
716	加工材	丸木材	丸木材	カエデ属	1	SD140	縄文時代中期末～後期初頭						
717	加工材	丸木材	丸木材	カエデ属	1	SD140	縄文時代中期末～後期初頭						
718	加工材	丸木材	丸木材	イヌシデ節	1	SD140	縄文時代中期末～後期初頭						
719	加工材			カツラ	1	SX11	縄文時代中期末～後期初頭						
720	加工材	丸木材	丸木材	未同定	1	SX11	縄文時代中期末～後期初頭						
721	加工材			クリ	1	SX11	縄文時代中期末～後期初頭						
722	加工材			イヌガヤ	1		縄文時代中期末～後期初頭						
723	加工材			イヌガヤ	1		縄文時代中期末～後期初頭						
724	加工材	半割材	半割材	トチノキ	1	SX12	縄文時代中期末～後期初頭	94.0	12.0	4.0			
725	加工材	板目板	板目板	コナラ節	1	SX12	縄文時代中期末～後期初頭	40.0	5.5	3.0			
726	加工材			オニクルミ	1	SD138	縄文時代中期末～後期初頭						
727	加工材	板目材	板目材	クリ	1	SD138	縄文時代中期末～後期初頭	50.0	9.0	3.0			
728	加工材			クリ	1	SD138	縄文時代中期末～後期初頭						
729	加工材	板目板	板目板	トチノキ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	45.0	13.0	3.0			
730	加工材	板	板	トチノキ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
731	加工材			不明	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
732	加工材			イヌガヤ	1	SD135	縄文時代中期末～後期初頭						
733	加工材			クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	32.0	7.0	0.5			
734	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SX05	縄文時代中期末～後期初頭	36.0	7.0	5.0			
735	加工材			クリ	1	SX05	縄文時代中期末～後期初頭						
736	加工材	丸木材	丸木材	ケンポナシ属	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	171.0	10.0	8.0			
737	加工材	板	板	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	35.0	12.0	2.0			
738	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SX05	縄文時代中期末～後期初頭						
739	加工材	板目材	板目材	クリ	1	SX05	縄文時代中期末～後期初頭						
740	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SX05	縄文時代中期末～後期初頭						
741	加工材	板目板	板目板	コナラ節	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭						
742	加工材	板目板	板目板	コナラ節	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭						
743	加工材			クリ	1	SX05	縄文時代中期末～後期初頭	59.0	13.0	5.0			
744	加工材			クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	175.0	16.0	10.0			
745	加工材			クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	175.0	16.0	10.0			
746	加工材			クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	63.0	5.0	3.0			
747	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	118.0	5.0	4.0			
748	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	70.0	45.0	3.0			
749	加工材			クリ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭						
750	加工材	丸木材	丸木材	ヤマウルシ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭						
751	加工材			カエデ属	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭						
752	加工材			ユズリハ属	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭						
753	加工材			クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭						

報告番号	区分	種別	木取り	樹種	調査区	遺構	時期	長さ(cm)	幅・径(cm)	厚さ・高さ(cm)	炭化	樹皮	備考
754	加工材			クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭						
755	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭	82.0	28.0	18.0			
756	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭	118.0	16.0	6.0			
757	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭	57.0	15.0	5.0			
758	加工材			クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭	57.0	15.0	6.0			
759	加工材			クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭						
760	加工材			クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭						
761	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭						
762	加工材			クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭						
763	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭						
764	加工材	半割材	半割材	クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭						
765	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭						
766	加工材			クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭						
767	加工材			クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭						
768	加工材			クリ	1		縄文時代中期末～後期初頭	40.0	15.0	13.0			
769	加工材			クリ	1		縄文時代中期末～後期初頭						
770	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	79.0	13.0	6.0			
771	加工材			クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
772	加工材			オニクルミ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
773	加工材			クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭	100.0	15.0	9.0			
774	加工材			クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭	100.0	15.0	9.0			
775	加工材			クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭	100.0	15.0	9.0			
776	加工材			クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭	100.0	15.0	9.0			
777	加工材			エノキ属	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭	100.0	15.0	9.0			
778	加工材			クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭						
779	加工材			クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭						
780	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭						
781	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭						
782	加工材	板	板	クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭						
783	加工材			クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭						
784	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭						
785	加工材	削りだし材	削出材	クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭	110.0	6.0	6.0			
786	加工材			クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
787	加工材	板目板	板目板	スギ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	12.0	3.0	0.3			
788	加工材			クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
789	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	160.0	25.0				
790	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	90.0	20.0				
791	加工材			スギ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	60.0	3.0				
792	加工材			クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	110.0	16.0	12.0			
793	加工材			クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	42.0	10.0	3.0			
794	加工材			クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	19.0	9.0	4.0			
795	加工材			クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
796	加工材			イヌガヤ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
797	加工材			イヌガヤ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭						
798	加工材			トチノキ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭						
799	加工材			クリ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭						
800	加工材			イヌガヤ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭						
801	加工材			クリ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭	83.0	9.0	4.0			
802	加工材			クリ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭						
803	加工材			クリ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭	130.0	25.0	4.0	○		
804	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SX04	縄文時代中期末～後期初頭	104.0	12.0	10.0			
805	加工材			クリ	1	SX04	縄文時代中期末～後期初頭	104.0	10.0	10.0			
806	加工材	板目材	板目材	スギ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭						
807	加工材	板目材	板目材	スギ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭						
808	加工材			クリ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭						
809	加工材			クリ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭						
810	加工材			クリ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭						
811	加工材			クリ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭						
812	加工材	柾目材	柾目材	オニグルミ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
813	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
814	加工材			クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
815	加工材	板目材	板目材	スギ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
816	加工材	板目板	板目板	スギ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
817	加工材	板目板	板目板	スギ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
818	加工材	板目板	板目板	スギ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
819	加工材			クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
820	加工材			クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
821	加工材	板目材	板目材	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
822	加工材	板	板	クリ	1	SX12	縄文時代中期末～後期初頭						

報告番号	区分	種別	木取り	樹種	調査区	遺構	時期	長さ(cm)	幅・径(cm)	厚さ・高さ(cm)	炭化	樹皮	備考
823	加工材	板目材	板目材	クリ	1	SX12	縄文時代中期末～後期初頭	22.0	9.0	2.0			
824	加工材	丸木材	丸木材	未同定	1	SX12	縄文時代中期末～後期初頭						
825	加工材	板	板	クリ	1	SX12	縄文時代中期末～後期初頭						
826	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SX12	縄文時代中期末～後期初頭	20.0	6.0	3.0			
827	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SX12	縄文時代中期末～後期初頭						
828	加工材	板目材	板目材	クリ	1	SX12	縄文時代中期末～後期初頭						
829	加工材			クリ	1	SX12	縄文時代中期末～後期初頭						
830	加工材			クリ	1	SX12	縄文時代中期末～後期初頭	47.0	10.0	4.0			
831	加工材	板目材	板目材	クリ	1	SX12	縄文時代中期末～後期初頭						
832	加工材			ケヤキ	1	SX12	縄文時代中期末～後期初頭						
833	加工材			クリ	1	SX12	縄文時代中期末～後期初頭						
834	加工材			クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
835	加工材	板目材	板目材	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
836	加工材			クリ	1	SD138	縄文時代中期末～後期初頭						
837	加工材			ヤマグヤ	1	SD138	縄文時代中期末～後期初頭						
838	加工材			ヤマグヤ	1	SD138	縄文時代中期末～後期初頭						
839	加工材			クリ	1	SD138	縄文時代中期末～後期初頭	38.0	8.0	5.0			
840	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SD138	縄文時代中期末～後期初頭	32.0	17.0	6.0			
841	加工材			クリ	1	SD138	縄文時代中期末～後期初頭						
842	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SD138	縄文時代中期末～後期初頭	106.0	7.5	3.0			
843	加工材			ヌルデ	1	SD138	縄文時代中期末～後期初頭	31.0	5.5	2.0			
844	加工材	丸木材	丸木材	ヌルデ	1	SD138	縄文時代中期末～後期初頭	31.0	5.5	2.0			
845	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SD138	縄文時代中期末～後期初頭	65.0	5.0	3.0			
846	加工材	半割材		コナラ節	1	SD138	縄文時代中期末～後期初頭	106.0	7.0	3.0			
847	加工材			クリ	1	SD138	縄文時代中期末～後期初頭						
848	加工材	板目板	板目板	スギ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	60.0	5.0	0.5			
849	加工材	板目板	板目板	スギ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	60.0	5.0	0.5			
850	加工材	板目板	板目板	スギ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	60.0	5.0	0.5			
851	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
852	加工材			クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
853	加工材			クリ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭						
854	加工材			クリ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭						
855	加工材			クリ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭						
856	加工材			クリ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭						
857	加工材			クリ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭						
858	加工材			クリ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭						
859	加工材			クリ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭	77.0	8.0	5.0			
860	加工材			クリ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭	128.0	7.0	3.5			
861	加工材			クリ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭						
862	加工材			クリ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭						
863	加工材	板目材	板目材	クリ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭	118.0	21.0	5.0			
864	加工材			未同定	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭	118.0	21.0	5.0			
865	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SX04	縄文時代中期末～後期初頭	230.0	18.0	5.0			
866	加工材			クリ	1	SX04	縄文時代中期末～後期初頭	45.0	14.0	6.0			
867	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SX04	縄文時代中期末～後期初頭	144.0	10.0	9.0			
868	加工材			クリ	1	SX05	縄文時代中期末～後期初頭	22.0	5.0	3.0			
869	加工材			クリ	1	SX05	縄文時代中期末～後期初頭	22.0	5.0	3.0			
870	加工材			クリ	1	SX05	縄文時代中期末～後期初頭	105.0	20.0	16.0			
871	加工材	板目材	板目材	広葉樹	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
872	加工材	板目材	板目材	クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭	90.0	15.0	4.0			
873	加工材			クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭	56.0	14.0	9.0			
874	加工材			クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭	51.0	65.0	4.0			
875	加工材			クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭						
876	加工材			クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭	55.0	10.0	6.0			
877	加工材	板	板	クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭						
878	加工材			クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
879	加工材			クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
880	加工材			クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
881	加工材			クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
882	加工材	丸木材	丸木材	オニグルミ	1	SX11	縄文時代中期末～後期初頭						
883	加工材			オニグルミ	1	SX11	縄文時代中期末～後期初頭						
884	加工材			オニグルミ	1	SX11	縄文時代中期末～後期初頭						
885	加工材			コナラ節	1	SX11	縄文時代中期末～後期初頭						
886	加工材			クリ	1	SX11	縄文時代中期末～後期初頭						
887	加工材			クリ	1	SD138	縄文時代中期末～後期初頭						
888	加工材			クリ	1	SD138	縄文時代中期末～後期初頭						
889	加工材			オニグルミ	1	SX11	縄文時代中期末～後期初頭						
890	加工材			オニグルミ	1	SX11	縄文時代中期末～後期初頭						
891	加工材			クスノキ科	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭	90.0	25.0	20.0			

報告番号	区分	種別	木取り	樹種	調査区	遺構	時期	長さ(cm)	幅・径(cm)	厚さ・高さ(cm)	炭化	樹皮	備考
892	加工材			クリ	1	SX04	縄文時代中期末～後期初頭						
893	加工材			クリ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭						
894	加工材			クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
895	加工材			クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
896	加工材			クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭						
897	加工材			クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭						
898	加工材	分割材	分割材	コナラ節	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭						
899	加工材			オニグルミ	1	SX11	縄文時代中期末～後期初頭	150.0	55.0	18.0			
900	加工材	板目材	板目材	クリ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭	150.0	30.0	8.0			
901	加工材	板	板	クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭	130.0	20.0	10.0			
902	加工材			クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭						
903	加工材			クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭						
904	加工材			ムラサキシキブ属	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭						
905	加工材			クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭						
906	加工材			クリ	1	SX11	縄文時代中期末～後期初頭						
907	加工材	板目材	板目材	カツラ	1	SX11	縄文時代中期末～後期初頭						
908	加工材	板	板	スギ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭	88.0	4.0	0.3			
909	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭	83.0	10.0	9.0			
910	加工材	削りだし材	削出材	クリ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭						
911	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭						
912	加工材			クリ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭						
913	加工材			クリ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭						
914	加工材			クリ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭						
915	加工材			クリ	1	SD138	縄文時代中期末～後期初頭						
916	加工材			クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	46.0	20.0	9.0			
917	加工材			クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
918	加工材			クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
919	加工材			オニグルミ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
920	加工材			ヤブツバキ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
921	加工材			未同定	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	46.0	6.0	4.0			
922	加工材			イヌガヤ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
923	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SX11	縄文時代中期末～後期初頭						
924	加工材			クリ	1	SX11	縄文時代中期末～後期初頭						
925	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SD135	縄文時代中期末～後期初頭	31.0	18.0	10.0			
926	加工材			カツラ	1	SD135	縄文時代中期末～後期初頭	260.0	15.0	14.0			
927	加工材	板	板	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	68.0	22.0	4.0			
928	加工材	柾目板	柾目板	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	85.0	19.0	5.0			
929	加工材	半割材	半割材	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
930	加工材	半割材	半割材	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	292.0	12.0	8.0			
931	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭	84.0	9.0	3.0			
932	加工材	柾目板	柾目板	クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭	58.0	12.0	2.5			
933	加工材	板	板	クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭						
934	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭						
935	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
936	加工材	削りだし材	削出材	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
937	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭	28.0	8.0	2.0			
938	加工材			クリ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭						
939	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭						
940	加工材	分割材	分割材	ニレ属	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭	64.0	8.0	4.0			
941	加工材	丸木材	丸木材	イヌエンジュ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭						
942	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭						
943	加工材	丸木材	丸木材	イヌエンジュ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭	23.0	5.0	4.0			
944	加工材	丸木材	丸木材	イヌガヤ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭						
945	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭						
946	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭						
947	加工材	板目板	板目板	クリ	1		縄文時代中期末～後期初頭						
948	加工材	板目板	板目板	クリ	1		縄文時代中期末～後期初頭						
949	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭	122.0	9.0	2.0			
950	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭	122.0	9.0	2.0			
951	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭	122.0	9.0	2.0			
952	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SX04	縄文時代中期末～後期初頭	136.0	6.0	7.0			
953	加工材	丸木材	丸木材	スダジイ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭						
954	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SD138	縄文時代中期末～後期初頭	75.0	18.0	6.0			
955	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SD138	縄文時代中期末～後期初頭	60.0	8.0	4.0			
956	加工材			クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	30.0	5.0	3.0			
957	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	103.0	5.0	4.0			
958	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	25.0	6.0	1.0			
959	加工材			クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	23.0	9.0	3.0			

報告番号	区分	種別	木取り	樹種	調査区	遺構	時期	長さ(cm)	幅・径(cm)	厚さ・高さ(cm)	炭化	樹皮	備考
960	加工材	板目板	板目板	オニクルミ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	35.0	20.0	3.0			
961	加工材			カツラ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	18.0	5.0	4.0			
962	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	11.0	7.0	2.0			
963	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	20.0	8.0	3.0			
964	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	35.0	10.0				
965	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	60.0	10.0				
966	加工材			クリ	1	SK02	縄文時代中期末～後期初頭	35.0	15.0				
967	加工材			クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	22.0	15.0	4.0			
968	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	18.0	20.0	10.0			
969	加工材	板目板	板目板	オニクルミ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	35.0	10.0	3.0			
970	加工材	丸木材	丸木材	クリ	6	SG０１	縄文時代中期末～後期初頭	50.0	10.0	5.0			
971	加工材			クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	16.0	7.0	3.0			
972	加工材			カツラ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	10.0	7.0	5.0			
973	加工材	分割材	分割材	カツラ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	35.0	12.0	6.0			
974	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	23.0	9.0	3.0			
975	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	30.0	5.0	2.0			
976	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	8.0	8.0	2.0			
977	加工材	丸木材	丸木材	モクレン属	1	H10	縄文時代中期末以前						
978	加工材			未同定	1	SX16	縄文時代中期末以前						
979	加工材			カエデ属	1	SX16	縄文時代中期末以前	110.0	14.0	12.0			
980	加工材			オニクルミ	1	SX20	縄文時代中期末以前						
981	加工材			クリ	1	SX20	縄文時代中期末以前						
982	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SX16	縄文時代中期末以前						
983	加工材		板目板	カヤ	1	H10	縄文時代中期末以前	82.0	22.0	4.0			
984	加工材			カツラ	1	H10	縄文時代中期末以前	110.0	8.0	8.0			
985	加工材			未同定	1	H10	縄文時代中期末以前						
986	加工材	板目材	板目材	クリ	1	H10	縄文時代中期末以前						
987	加工材	柾目板	柾目板	クリ	1	H10	縄文時代中期末以前	55.0	5.0	4.0			
988	加工材			イヌガヤ	1	H10	縄文時代中期末以前						
989	加工材			クリ	1	H10	縄文時代中期末以前	113.0	9.0	6.0			
990	加工材	削りだし材		クリ	1	H10	縄文時代中期末以前						
991	加工材	削りだし材		クリ	1	H10	縄文時代中期末以前						
992	加工材			イヌガヤ	1	H10	縄文時代中期末以前						
993	加工材	板目材	板目材	クリ	1	H10	縄文時代中期末以前	173.0	18.0	7.0			
994	加工材	板目材	板目材	クリ	1	H10	縄文時代中期末以前	84.0	12.0	6.0			
995	加工材			クヌギ節	1	SX22	縄文時代中期末以前						
996	加工材			コナラ節	1	SX22	縄文時代中期末以前						
997	加工材			カツラ	1	SX22	縄文時代中期末以前						
998	加工材			ヤマグワ	1		縄文時代中期末以前						
999	加工材			未同定	1		縄文時代中期末以前	30.0	11.0	4.0			
1000	加工材			カツラ	1	SX22	縄文時代中期末以前						
1001	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SX16	縄文時代中期末以前						
1002	加工材			クリ	1	SX16	縄文時代中期末以前						
1003	加工材			クリ	1	SX16	縄文時代中期末以前						
1004	加工材	半割材	半割材	クリ	1	SX16	縄文時代中期末以前	30.0	25.0	12.0			
1005	加工材	分割材	分割材	トネリコ属	1	SX16	縄文時代中期末以前						
1006	加工材			クリ	1	SX22	縄文時代中期末以前						
1007	加工材			ヤマグワ	1	SX22	縄文時代中期末以前						
1008	加工材			トチノキ	1	SX22	縄文時代中期末以前	150.0	27.0	32.0			
1009	加工材			トチノキ	1	SX22	縄文時代中期末以前	26.0	13.0	5.0			
1010	加工材			クリ	1	SX23	縄文時代中期末以前	55.0	17.0	16.0			
1011	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SX23	縄文時代中期末以前	112.0	11.0	5.0			
1012	加工材	板目板	板目板	モクレン属	1	SX23	縄文時代中期末以前						
1013	加工材	板目材	板目材	カツラ	1	SX16	縄文時代中期末以前	55.0	12.0	6.0			
1014	加工材			クリ	1	SX16	縄文時代中期末以前	75.0	35.0	11.0			
1015	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SX17	縄文時代中期末以前						
1016	加工材			ヤマウルシ	1	SX20	縄文時代中期末以前						
1017	加工材			ヤマウルシ	1	SX20	縄文時代中期末以前						
1018	加工材			ブナ属	1	SX22	縄文時代中期末以前	73.0	35.0	16.0			
1019	加工材			コナラ節	1	SX22	縄文時代中期末以前						
1020	加工材			コナラ節	1	SX22	縄文時代中期末以前						
1021	加工材	丸木材	丸木材	コナラ節	1	SX16	縄文時代中期末以前						
1022	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SX16	縄文時代中期末以前						
1023	加工材			ブナ属	1	SX22	縄文時代中期末以前	65.0	6.5	6.0			
1024	加工材			トネリコ属	1	SX21	縄文時代中期末以前	120.0	18.0	18.0			
1025	加工材			クリ	1	SX19	縄文時代中期末以前						
1026	加工材			エノキ属	1	SX19	縄文時代中期末以前						
1027	加工材			クリ	1	SX23	縄文時代中期末以前						
1028	加工材	二股材	丸木材	オニグルミ	1	SX16	縄文時代中期末以前						

報告番号	区分	種別	木取り	樹種	調査区	遺構	時期	長さ(cm)	幅・径(cm)	厚さ・高さ(cm)	炭化	樹皮	備考
1029	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SX20	縄文時代中期末以前	85.0	11.0	8.0			
1030	加工材	丸木材	丸木材	トネリコ属	1	SX21	縄文時代中期末以前	120.0	24.0	13.0			
1031	加工材	丸木材	丸木材	キハダ	1	SX16	縄文時代中期末以前						
1032	加工材	丸木材	丸木材	ヤマグワ	1	SX21	縄文時代中期末以前						
1033	加工材	丸木材	丸木材	オニグルミ	1	SX21	縄文時代中期末以前						
1034	加工材	分割材	分割材	ウメモモ類	1	SX20	縄文時代中期末以前						
1035	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SX20	縄文時代中期末以前	160.0	9.0	4.0			
1036	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SX20	縄文時代中期末以前	110.0	15.0	12.0			
1037	加工材	板	板	クリ	1	SX20	縄文時代中期末以前	69.0	6.0	2.0			
1038	加工材			クリ	1	SX20	縄文時代中期末以前						
1039	加工材			クリ	1	SX20	縄文時代中期末以前						
1040	加工材			クリ	1	SX20	縄文時代中期末以前						
1041	加工材			クリ	1	SX20	縄文時代中期末以前						
1042	加工材			クリ	1	SX20	縄文時代中期末以前						
1043	加工材			クリ	1	SX20	縄文時代中期末以前						
1044	加工材			クリ	1	SX20	縄文時代中期末以前						
1045	加工材	根絡み	割材	クリ	3	SK158	縄文時代晩期中葉	16.6	5.5	1.5			
1046	加工材	根絡み	割材	アカマツ	3	SK158	縄文時代晩期中葉	14.0	3.5	1.5	○		
1047	加工材	根絡み	板目割材	クリ	3	SK158	縄文時代晩期中葉	23.5	9.5	2.0			
1048	加工材	根絡み	板目割材	クリ	3	SK158	縄文時代晩期中葉	16.5	3.5	1.0			
1049	加工材	根絡み	板目割材	クリ	3	SK158	縄文時代晩期中葉	29.5	9.5	2.5			
1050	加工材	根絡み	板目割材	クリ	3	SK158	縄文時代晩期中葉	28.0	10.0	3.0			
1051	加工材	根絡み	柾目割材	クリ	3	SK158	縄文時代晩期中葉	21.0	6.5	1.5			
1052	加工材	根絡み	板目割材	クリ	3	SK158	縄文時代晩期中葉	31.0	8.0	2.0		○	
1053	加工材	根絡み	割材	クリ	3	SK158	縄文時代晩期中葉	30.0	11.0	5.0			
1054	加工材	根絡み	板目割材	クリ	3	SK158	縄文時代晩期中葉	20.5	5.5	0.8			
1055	加工材	根絡み	板目割材	クリ	3	SK158	縄文時代晩期中葉	34.0	9.5	3.0			
1056	加工材	根絡み	板目割材	クリ	3	SK158	縄文時代晩期中葉	22.0	10.5	2.5			
1057	加工材	根絡み	割材	クリ	3	SK158	縄文時代晩期中葉	16.5	5.5	3.0			
1058	加工材	根絡み	板目割材	クリ	3	SK158	縄文時代晩期中葉	27.5	13.0	3.0			
1059	加工材	根絡み	板目割材	クリ	3	SK158	縄文時代晩期中葉	29.0	9.5	2.5			
1060	加工材	根絡み	割材	クリ	3	SK158	縄文時代晩期中葉	17.5	6.5	2.5			
1061	加工材	根絡み	板目割材	クリ	3	SK158	縄文時代晩期中葉	2.8	14.0	2.5			
1062	加工材	根絡み	割材	クリ	3	SK158	縄文時代晩期中葉	35.0	8.0	4.0			
1063	加工材	根絡み	板目割材	クリ	3	SK158	縄文時代晩期中葉	23.0	11.0	1.5			
1064	加工材	根絡み	丸木材	ヤマグワ	3	SK158	縄文時代晩期中葉	67.0	7.0	4.5		○	片端切断痕
1065	加工材	根絡み	割材	クリ	3	SK158	縄文時代晩期中葉	41.0	13.0	5.0			
1066	加工材	根絡み	板目割材	クリ	3	SK240	縄文時代晩期中葉	17.5	4.0	1.0			
1067	加工材	根絡み	樹皮	不明	3	SK152	縄文時代晩期中葉	3.5	2.5	0.3			
1068	加工材	根絡み	木片	不明	3	SK152	縄文時代晩期中葉	8.0	3.5	0.5			
1069	加工材	根絡み	木片	クリ	3	SK152	縄文時代晩期中葉	14.0	5.0	2.0			
1070	加工材	根絡み	木片	クリ	3	SK152	縄文時代晩期中葉	13.0	7.5	2.5			
1071	加工材	根絡み	木片	クリ	3	SK126	縄文時代晩期中葉	8.0	5.0	0.5			
1072	加工材	根絡み	板目割材	クリ	3	SK126	縄文時代晩期中葉	36.0	8.0	3.0			
1073	加工材	根絡み	木片	クリ	3	SK126	縄文時代晩期中葉	12.0	5.5	1.0			
1074	加工材	根絡み	木片	クリ	3	SK139	縄文時代晩期中葉	13.0	2.5	1.2			
1075	加工材	根絡み	板目割材	クリ	3	SK139	縄文時代晩期中葉	34.0	5.0	1.0			
1076	加工材	根絡み	ミカン割材	クリ	3	SK139	縄文時代晩期中葉	63.0	5.5	5.5			
1077	加工材	根絡み	木片	不明	3	SK139	縄文時代晩期中葉	10.0	1.8	1.2			
1078	加工材	根絡み	割材	クリ	3	SK139	縄文時代晩期中葉	45.0	15.0	7.5			
1079	加工材	根絡み	木片	クリ	3	SK139	縄文時代晩期中葉	20.0	3.5	3.0			
1080	加工材	根絡み	割材	クリ	3	SK139	縄文時代晩期中葉	52.0	65.0	6.0			
1081	加工材	根絡み	板目板	クリ	3	SK139	縄文時代晩期中葉	6.5	5.0	2.3			
1082	加工材	根絡み	斜め板	クリ	3	SK139	縄文時代晩期中葉	7.0	4.0	1.0			
1083	加工材	根絡み	板目板	クリ	3	SK139	縄文時代晩期中葉	69.0	16.0	5.0			
1084	加工材	根絡み	板目割材	クリ	3	SK139	縄文時代晩期中葉			3.0			
1085	加工材	根絡み	割材	クリ	3	SK139	縄文時代晩期中葉	57.0	5.5	4.5			
1086	加工材	根絡み	割材	クリ	3	SK139	縄文時代晩期中葉	39.0	3.2	2.0			
1087	加工材	根絡み	割材	クリ	3	SK139	縄文時代晩期中葉	47.0	3.5	2.0			
1088	加工材	根絡み	木片	クリ	3	SK139	縄文時代晩期中葉	10.0	2.5	1.5			
1089	加工材	根絡み	割材	クリ	3	SK139	縄文時代晩期中葉	20.0	3.0	1.5			
1090	加工材	根絡み	板目板	クリ	3	SK139	縄文時代晩期中葉	38.0	12.5	3.0			

表 20　繊維製品観察表

報告番号	種類	残存する部位	材質				調査区	遺構	時期	大きさ(cm)	太さ(mm)		厚さ(mm)	技法	ヨコ材について			備考
			タテ	ヨコ	縁部					残存部のタテ×ヨコ	タテ	ヨコ	樹皮のみ		超え	潜り	送り	
					巻き	芯												
1	カゴ類	ほぼ全体	マタタビ属	—	樹皮	トネリコ属	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	23.9×27.3				もじり				
2	カゴ類	底部	ニレ属/広葉樹	マタタビ属	ニレ属	ニレ属	1	SD135	縄文時代中期末～後期初頭	18.7×17.9	2～3.1	2.0～4.0		もじり				
					樹皮	—												
3	カゴ類	口縁	コナラ節	マタタビ属	細枝の髄部分のみ残存	コナラ節/トネリコ属	1	SX04	縄文時代中期末～後期初頭		1.5～4.1	1.3～3.5	0.55～0.9	もじり				
4	カゴ類	口縁	コナラ節	マタタビ属	樹皮	コナラ節	1	SX04	縄文時代中期末～後期初頭		1.2～2.5	1.5～2.1	0.6～1.15	もじり				
5	カゴ類	口縁	コナラ節	マタタビ属	マツ属(二葉松類)	—	1	SD133	縄文時代中期末～後期初頭		2.1～3.0	2.0～3.9		もじり				
6	不明	体部か	—	—	—	—	試掘		縄文時代中期末～後期初頭					もじり				
7	カゴ類	不明	ニレ属	マタタビ属	—	—	1	SD135	縄文時代中期末～後期初頭		1.5～2.5	1.8～2.5		もじり				
8	カゴ類	体部	コナラ節	マタタビ属	—	—	1	SD133	縄文時代中期末～後期初頭	21.5×18	2.0～3.5	1.1～3.0		もじり				
9	カゴ類	体部	マタタビ属？	カヤ	—	—	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭	39.4×24.5	0.9～3.5	1.1～3.1		もじり				
10	カゴ類	体部	ヒノキ亜科	ヒノキ亜科	—	—	1	SD133	縄文時代中期末～後期初頭		1.0～2.2	1.2～3.1		もじり				
11	カゴ類	体部	ヒノキ亜科	ヒノキ亜科	—	—	1	SD133	縄文時代中期末～後期初頭					もじり				
12	カゴ類	体部	ヒノキ亜科	ヒノキ亜科	—	—	1	SD133	縄文時代中期末～後期初頭					もじり				
13	カゴ類	体部	ヒノキ亜科	ヒノキ亜科	—	—	1	SD133	縄文時代中期末～後期初頭					もじり				
14	カゴ類	体部	コナラ節	マタタビ属	—	—	1	SD133	縄文時代中期末～後期初頭		1.1～3.5	1.0～2.5		もじり				
15	カゴ類	体部	ケンポナシ属	マタタビ属	—	—	1	SD135	縄文時代中期末～後期初頭		1.1～3.0	1.0～3.0		もじり				
16	不明	体部	—	—	—	—	試掘		縄文時代中期末～後期初頭					もじり				
17	カゴ類	体部	カヤ	マタタビ属	—	—	1	SD133	縄文時代中期末～後期初頭	31.5×13	1.1～2.9	1.0～2.1		もじり				
18	カゴ類	体部	—	マタタビ属	—	—	1	SD135	縄文時代中期末～後期初頭	30×14.5				網代	1	1	2	
19	不明	体部か	マタタビ属？	マタタビ属？	—	—	1	SD135	縄文時代中期末～後期初頭		1.2～4.0			網代	2	2	1	
20	不明	不明	竹笹類	竹笹類	—	—	1	SD136	縄文時代中期末～後期初頭		1.8～4.2			網代	1	1	1	
21	不明	不明	竹笹類	竹笹類	—	—	1	SD137	縄文時代中期末～後期初頭					網代	1	1	1	
22	不明	体部	マタタビ属	マタタビ属	—	—	1	SD133	縄文時代中期末～後期初頭	41.5×26.5	2.0～5.0			網代	2	1	1	
23	不明	不明	—	—	樹皮	コナラ節	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭		—	—	0.45～1.6					
24	カゴ類	口縁と体部	広葉樹	マタタビ属？	樹皮	広葉樹散孔材	1	不明	縄文時代中期末～後期初頭	14.3×7.7（体部）	0.8～1.8	0.8～2.0		平織				
25	不明	口縁	—	—	樹皮	広葉樹環孔材	1	SX04	縄文時代中期末～後期初頭									
26	不明	不明	—	—	樹皮	—	1	SX12	縄文時代中期末～後期初頭				0.9					
27			—	—	樹皮	—	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭				0.7～1.2					
28	カゴ類	体部か	マタタビ属	—	—	—	1	SD133	縄文時代中期末～後期初頭					もじり				崩壊している
29	カゴ類	口縁	カエデ属	マツ属(二葉松類)	マツ属(二葉松類)	カエデ属	1	SD133	縄文時代中期末～後期初頭		1.2～2.1	0.8～2.1		もじり				
30	不明	不明	マタタビ属	マタタビ属	—	—	1	SD133	縄文時代中期末～後期初頭		1.2～3.5	1.0～5.5		もじり				
31	不明	不明	コナラ節	マタタビ属	—	—	1	SD136	縄文時代中期末～後期初頭		1.2～3.1	1.0～3.0		もじり				
32	不明	—	—	—	—	—	1	SD133	縄文時代中期末～後期初頭		2～3.5	1.5		もじり				
33	不明	—	—	—	—	—	1	SD135	縄文時代中期末～後期初頭					もじり				崩壊した破片
34	不明	—	—	—	—	—	1	P－43	縄文時代中期末～後期初頭					網代				崩壊した破片
35	カゴ類	口縁か	—	マタタビ属	—	—	1		縄文時代中期末～後期初頭									
36	カゴ類	口縁～体部	—	ムクロジ	マタタビ属	—	1		縄文時代中期末～後期初頭									
37	カゴ類	体部	—	—	—	—	1	SD133	縄文時代中期末～後期初頭									
38	不明	口縁	樹皮	マツ属(二葉松類)	マツ属(二葉松類)	—	1	不明	縄文時代中期末～後期初頭									
39	不明	口縁か	コナラ節	カエデ属	樹皮	コナラ節	1	不明	縄文時代中期末～後期初頭		2～3.5	1.5～2	0.8～1.5	不明				

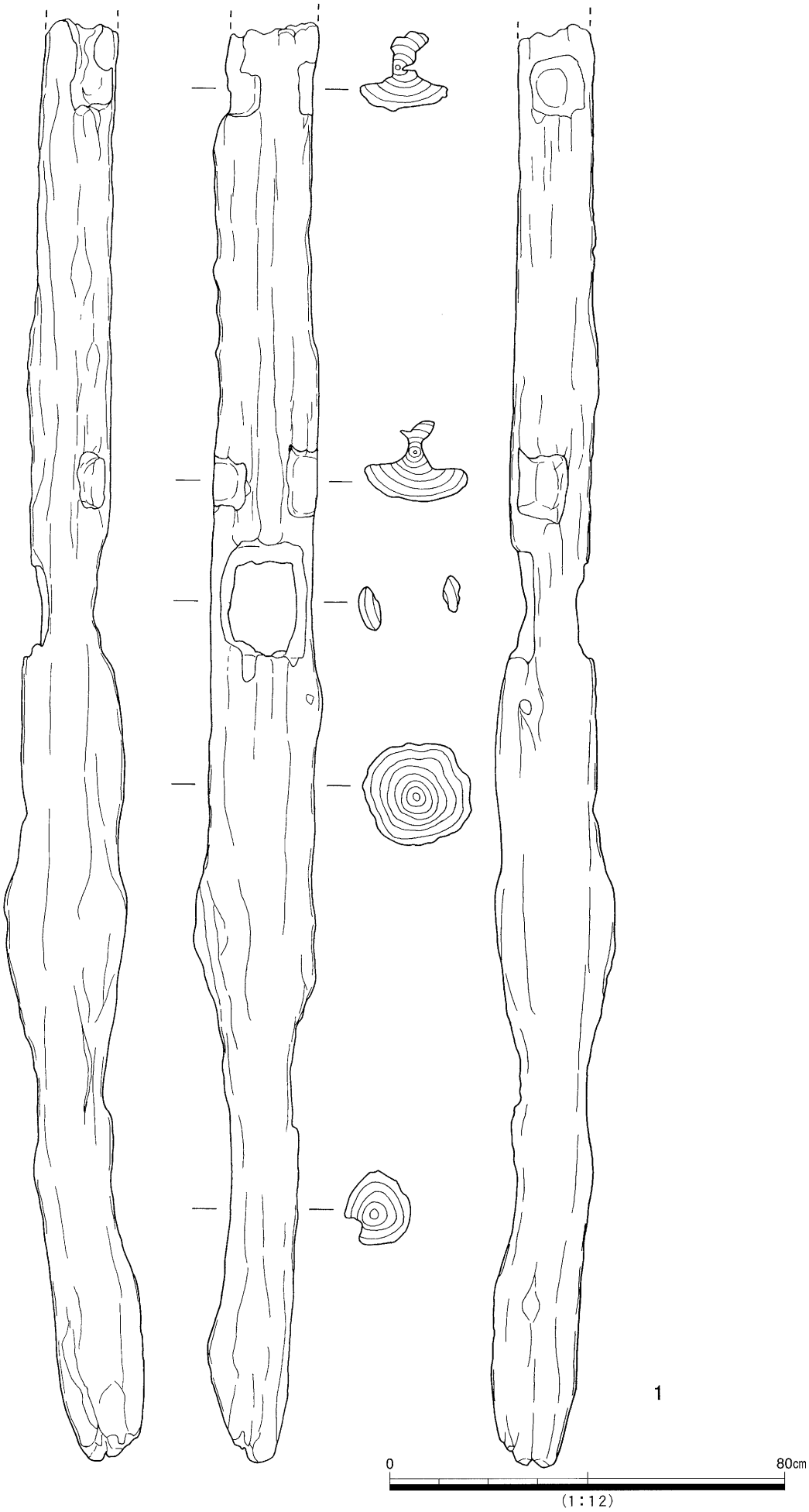
報告番号	種類	残存する部位	材質				調査区	遺構	時期	大きさ(cm)	太さ(mm)		厚さ(mm)	技法	ヨコ材について			備考
			タテ	ヨコ	縁部					残存部のタテ×ヨコ	タテ	ヨコ	樹皮のみ		超え	潜り	送り	
					巻き	芯												
40	カゴ類	口縁	竹笹類	蔓または草本	樹皮？	竹笹類	1	SK05	縄文時代中期末～後期初頭		1.5	1.4						
41	不明	不明	—	—	樹皮	カエデ属	1	SD135	縄文時代中期末～後期初頭				0.45～0.65					
42	不明	不明	—	—	樹皮	ヒノキ科	1	不明	縄文時代中期末～後期初頭				0.65～0.8					
43	縄	—	シダ植物				1	不明	縄文時代中期末～後期初頭									
44	縄	—	シダ植物				1	不明	縄文時代中期末～後期初頭									
45	縄	—	シダ植物				1	不明	縄文時代中期末～後期初頭									
46	縄	—	シダ植物				1	不明	縄文時代中期末～後期初頭									
47	縄	—	シダ植物				1	不明	縄文時代中期末～後期初頭									
48	縄か	—							縄文時代中期末～後期初頭									
49	縄か	—							縄文時代中期末～後期初頭									
50	不明	—					1	SK05	縄文時代中期末～後期初頭									崩壊した破片
51	不明	—					1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭				0.6～0.8					巻いて保管した樹皮
52	不明	—					1	SX11	縄文時代中期末～後期初頭									ヨコ材の破片
53	不明	—					1	SD135	縄文時代中期末～後期初頭									植物を細かく裂いて撚ったものの破片
54	漆塗り糸	—					6		縄文時代中期末～後期初頭									

報　告　書　抄　録

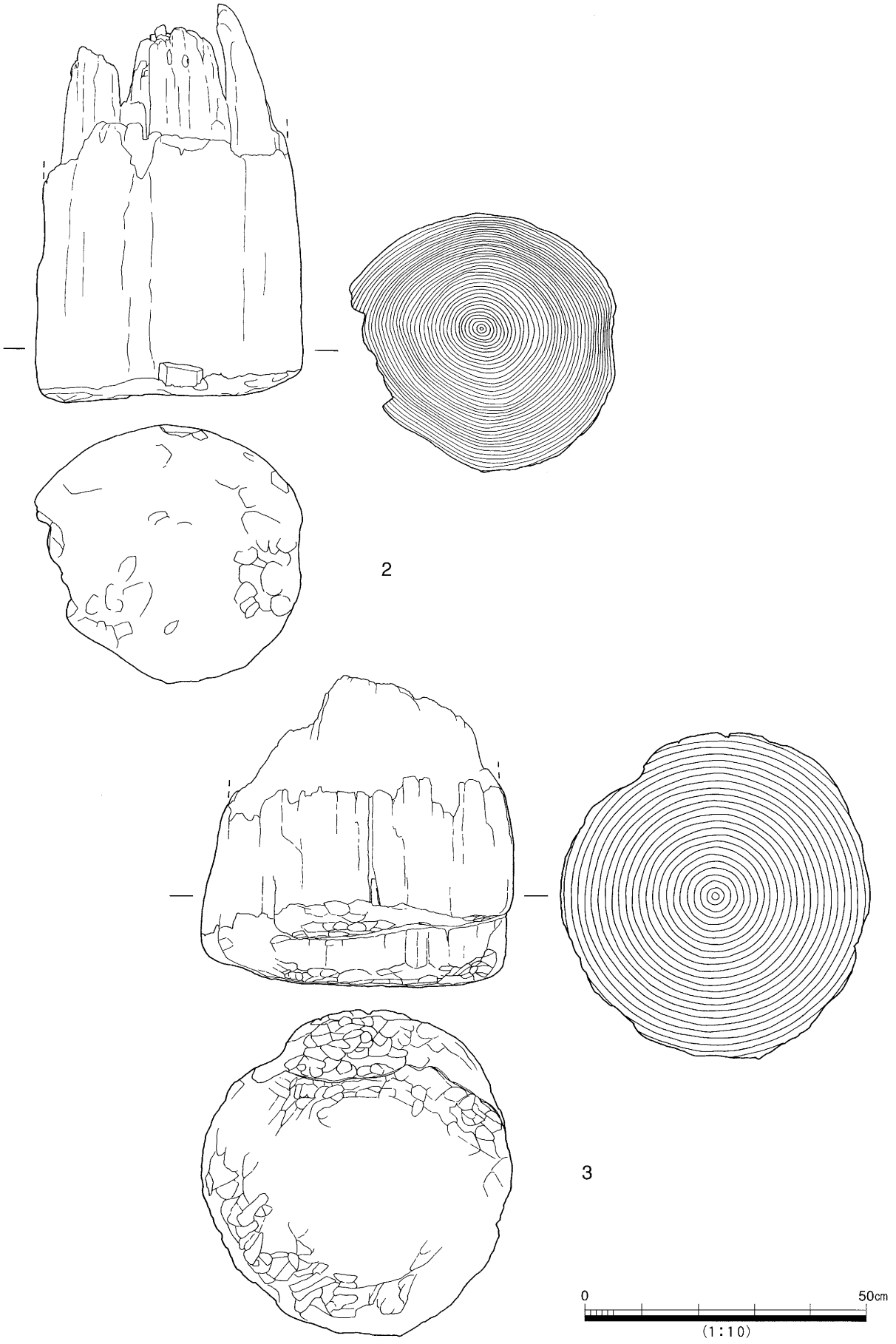
ふりがな	さくらまちいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	桜町遺跡発掘調査報告書
副書名	木製品・繊維製品・植物編
巻次	
シリーズ名	小矢部市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第60冊
編著者名	中井真夕
編集機関	小矢部市教育委員会
所在地	〒932-8611　富山県小矢部市本町1番1号
発行年月日	西暦2007年3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″ (世界測地系)	東経 °′″ (世界測地系)	調査期間	調査対象 面積 (㎡)	調査原因
さくらまち 桜町	おやべし 小矢部市 さくらまち なかで 桜町中出・ ふなおか 舟岡	16209	21	36° 41′ 09″ (36° 41′ 20″)	136° 52′ 28″ (136° 52′ 18″)	19870520～19871110 19880509～19881227 19900626～19901016 19960422～19970124 19980519～19981225 19990401～20000128 20000421～20001222 20020530～20030328	3,500 2,600 1,270 同上継続 同上継続 2,752 同上継続 2,220	道路(国道8号線小矢部バイパス)建設に伴う事前調査

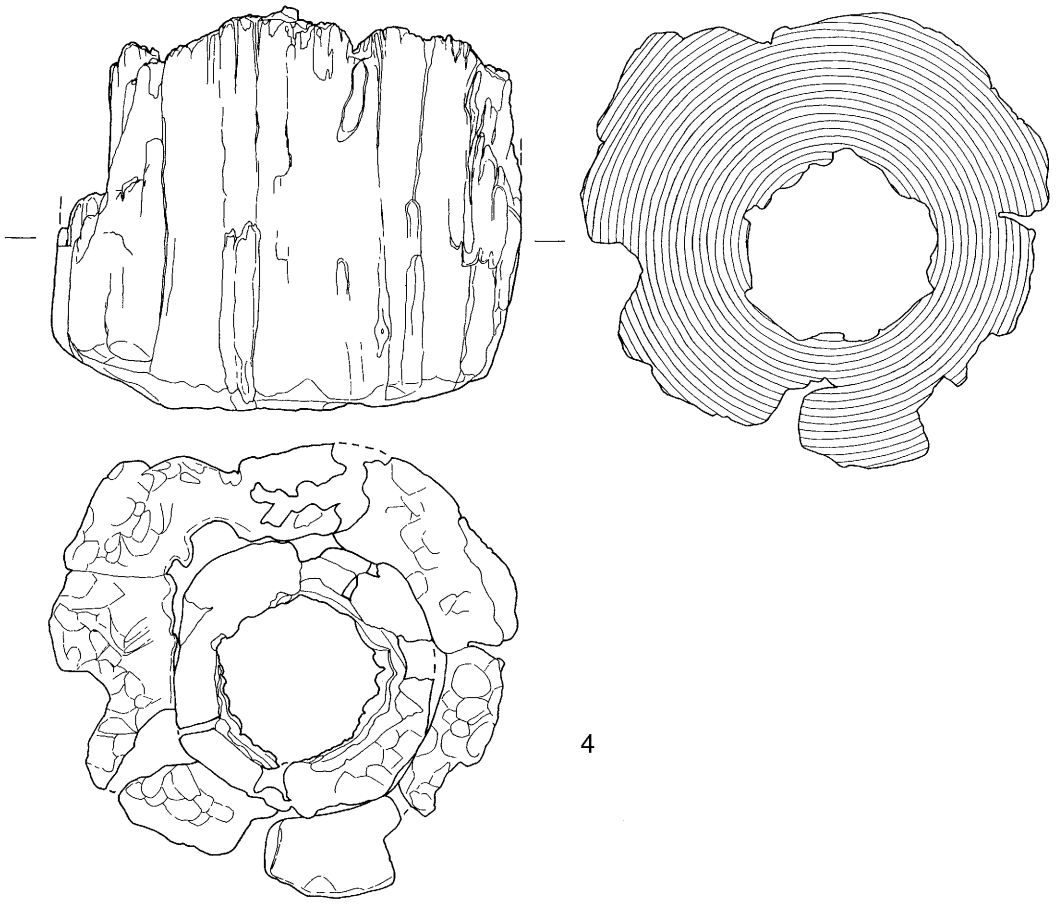
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
桜町	散布地	縄文時代早期・前期	なし	縄文土器・玦状耳飾り	
	食料・木器加工場	縄文時代中期末～後期初頭	川2・焼土21・木柱根15・土坑194・埋甕7・木組み及び木材集中箇所22・土器溜まり5	縄文土器・石器・斧柄・弓・編物・貫穴やえつり穴などの加工のある柱材・板材・柱根	水場木組みの木材は建築材が転用されたものと考えられている。
	食料・木器加工場	縄文時代後期後葉～晩期	貯蔵穴18・その他の土坑74・環状木柱列2・その他の柱穴4・水場遺構2・自然流路3	縄文土器・土製品・石器・石製品・木製品・漆製品・柱根・堅果類	堅果類の処理に関わると考えられる木組みの水場遺構と、貯蔵穴をセットで確認した。 環状木柱列を2基検出した。
	生産地	古墳時代前期	樹皮列を伴う木組み1 川1	土師器・鍬	

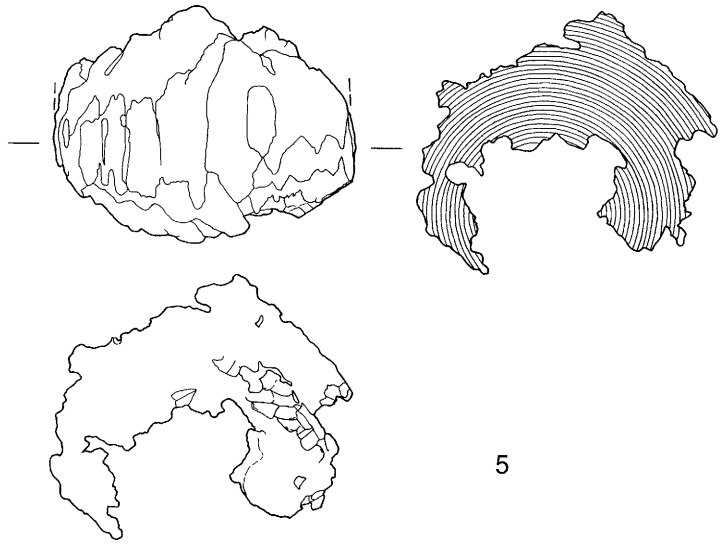


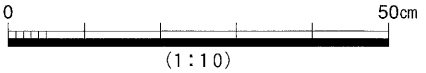
第８図　舟岡地区構築材（１）柱材　中期末～後期初頭



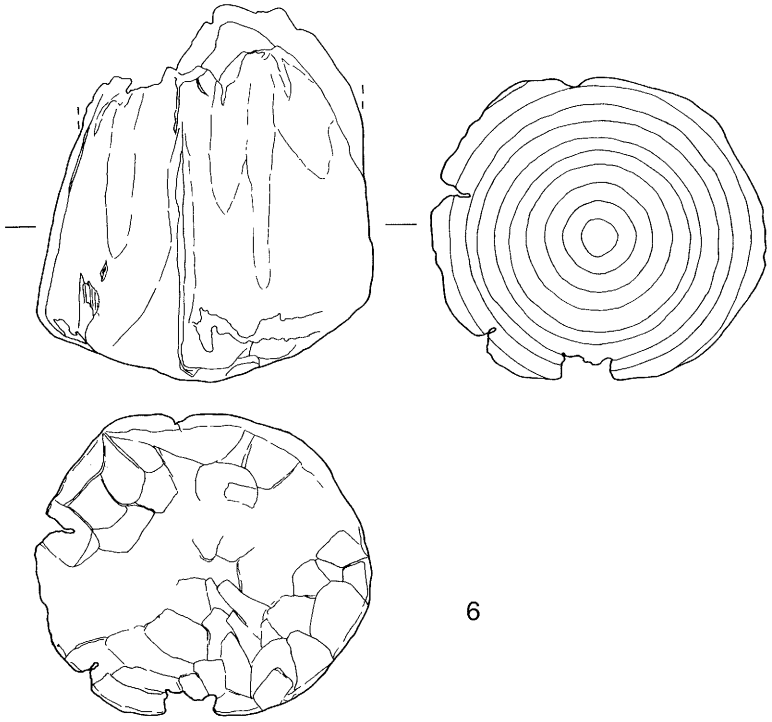
第９図　舟岡地区構築材（２）柱根　中期末～後期初頭

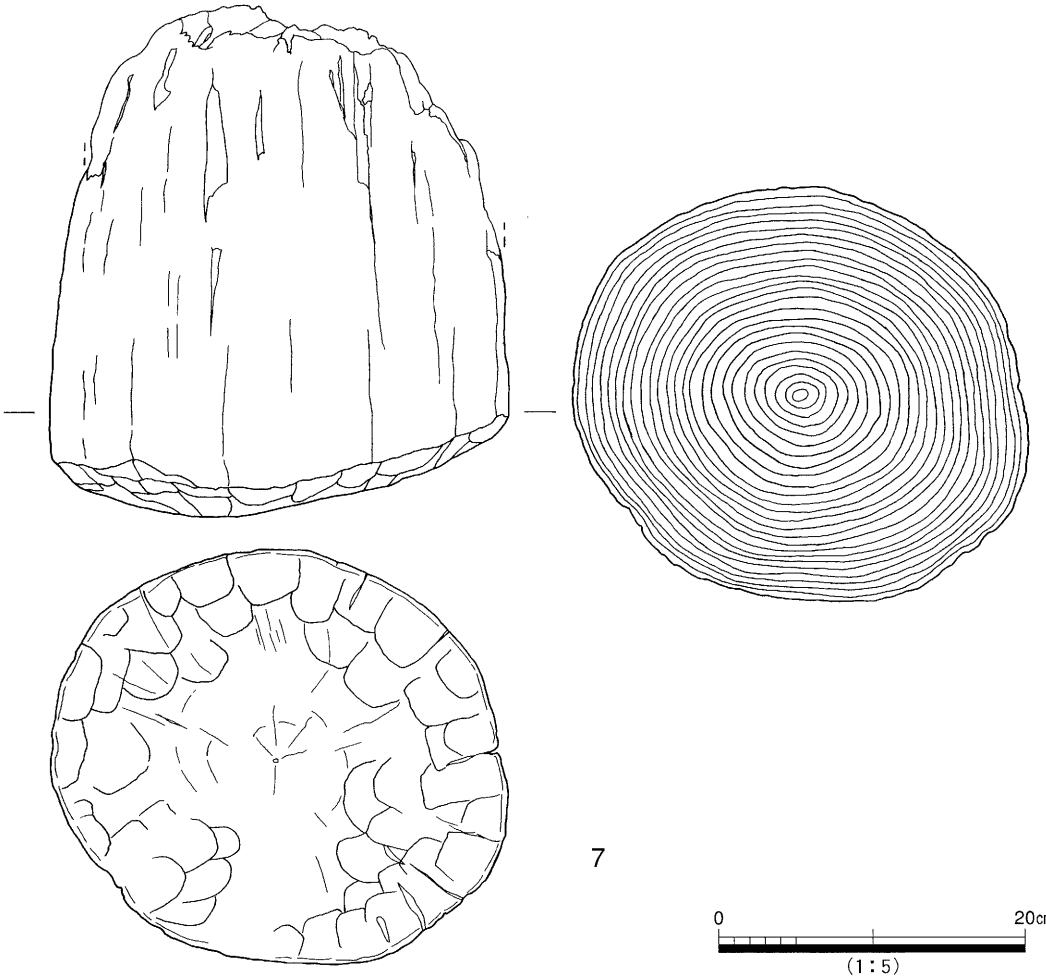




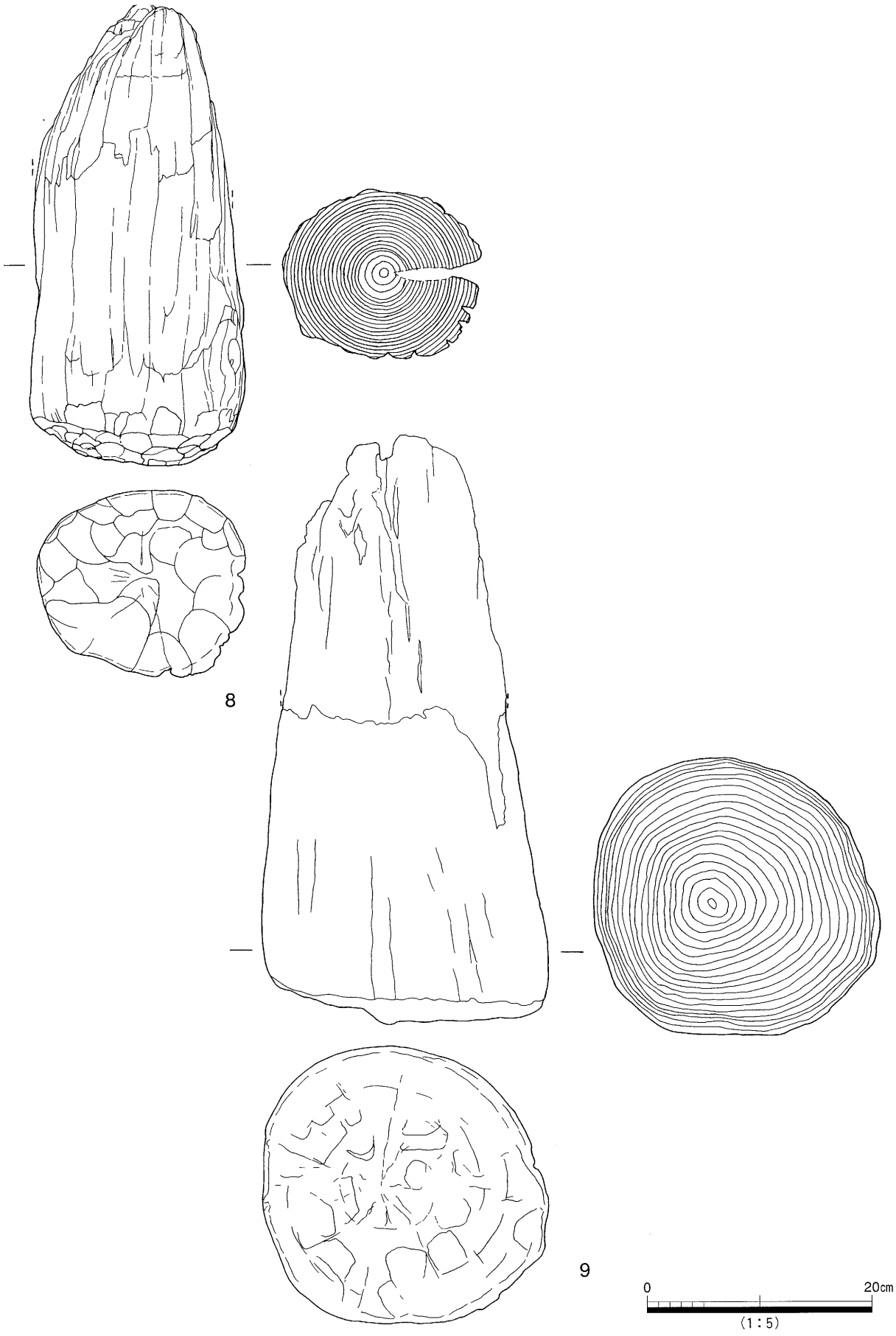


第10図　舟岡地区構築材（３）柱根　中期末～後期初頭

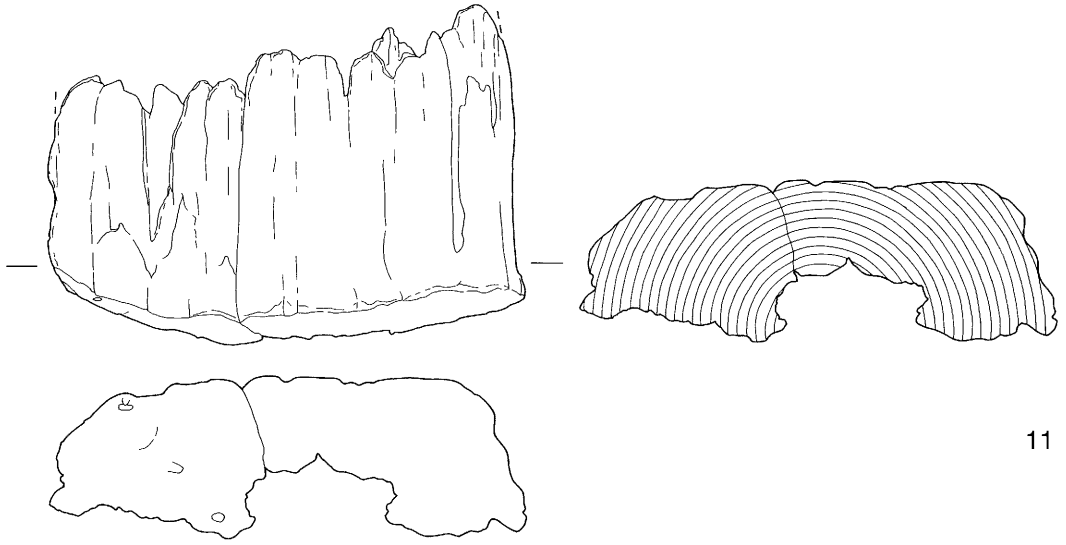




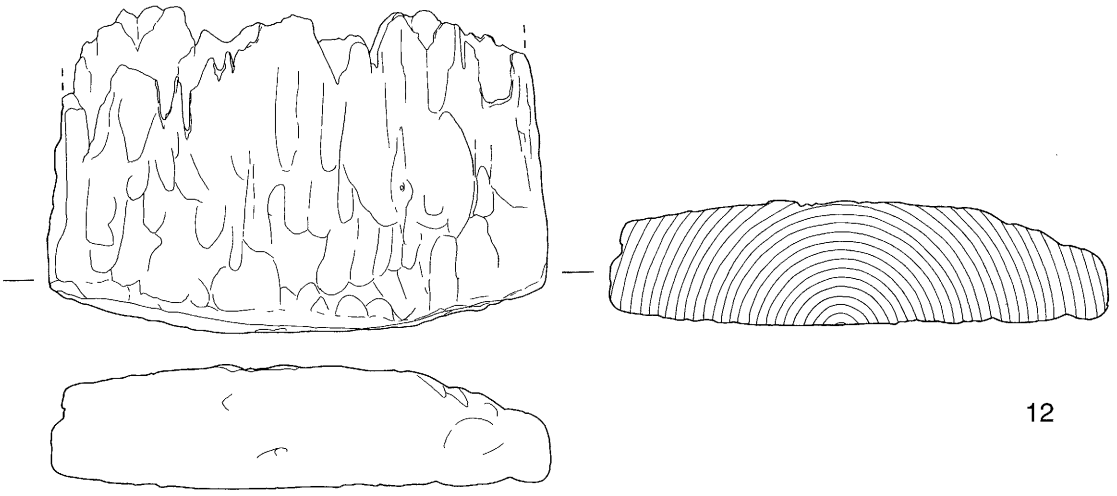
第11図 舟岡地区構築材（4）柱根　中期末～後期初頭



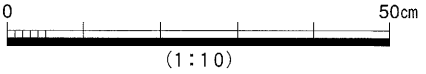
第12図　舟岡地区構築材（５）柱根　中期末～後期初頭



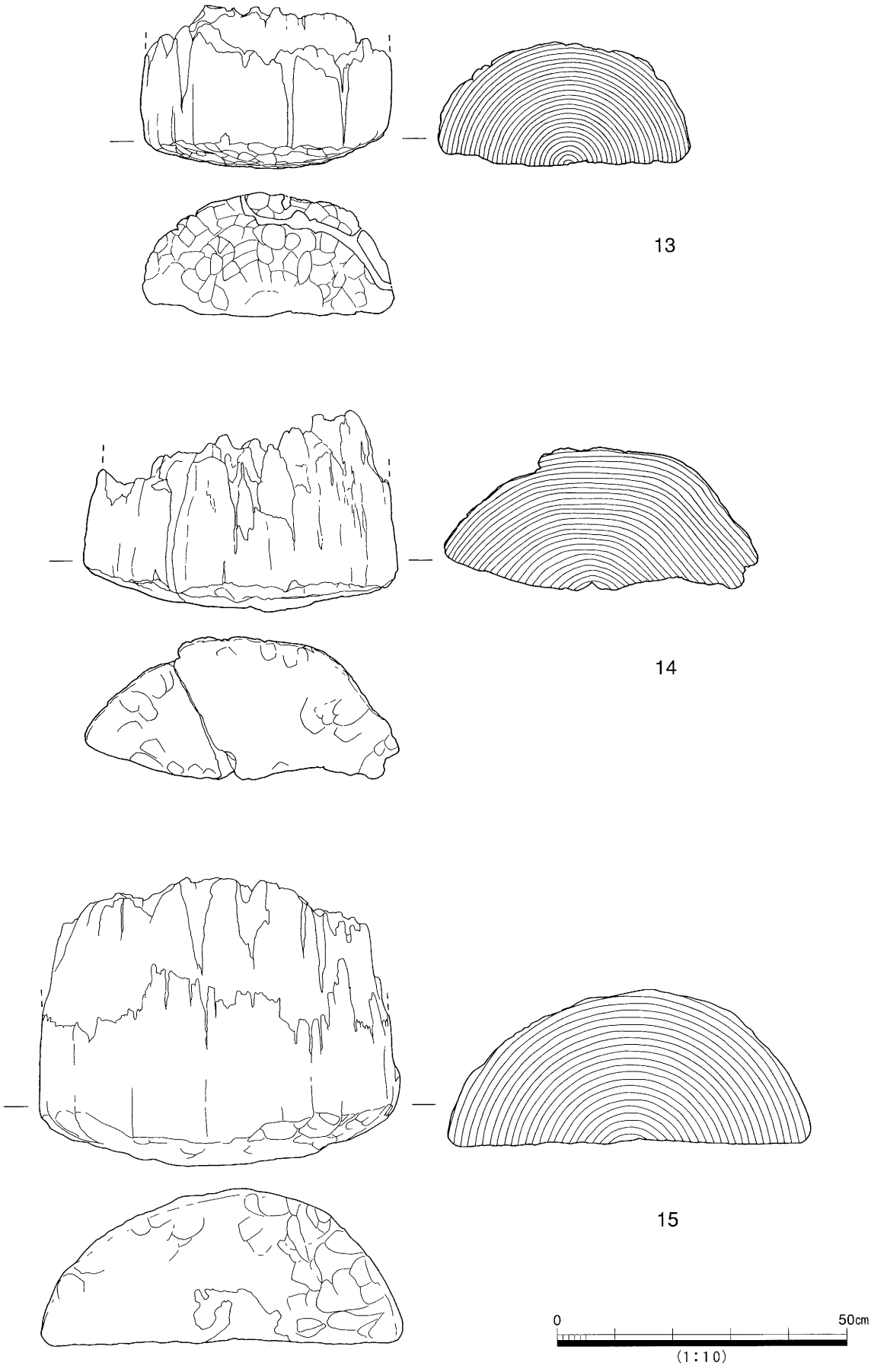
11



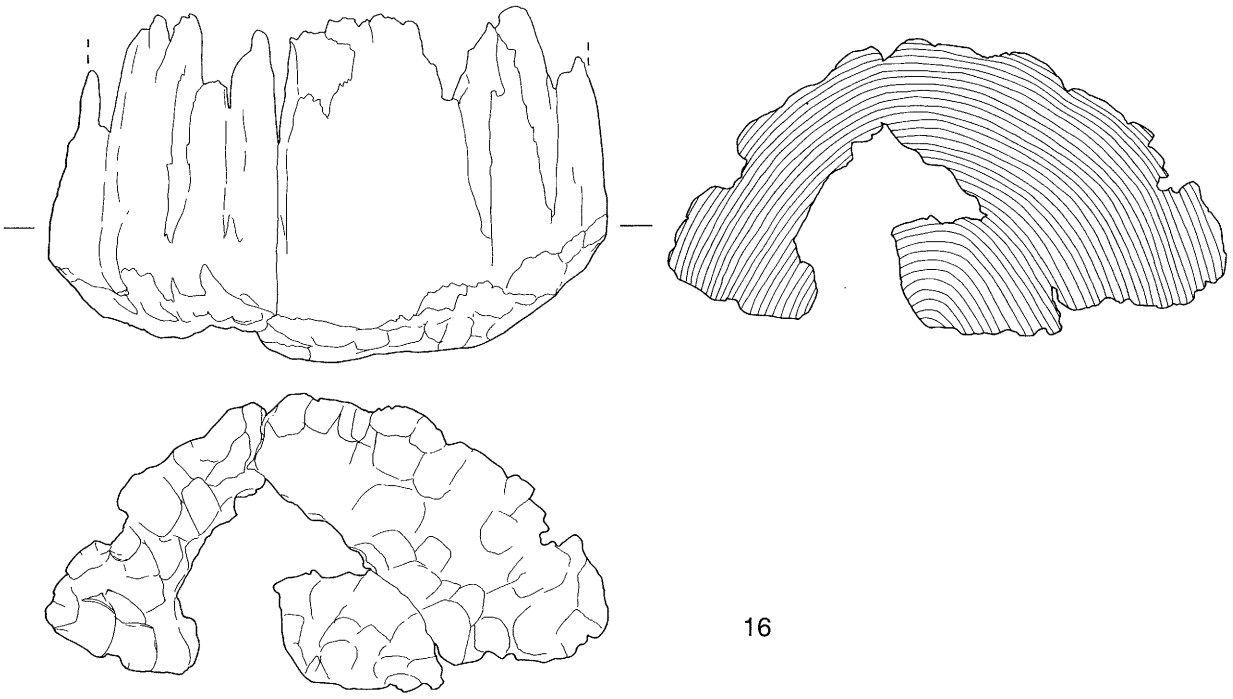
12

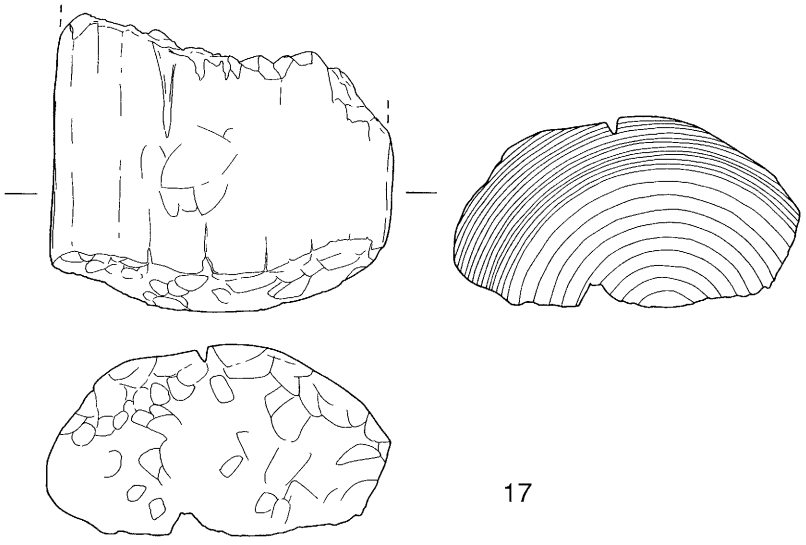


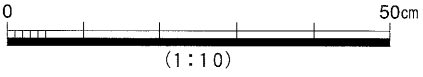
第13図　舟岡地区構築材（６）柱根　晩期中葉



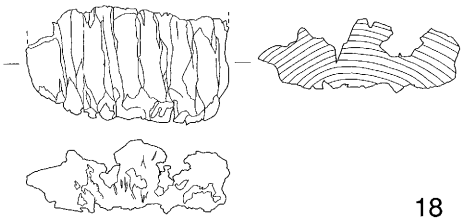
第14図　舟岡地区構築材（７）柱根　晩期中葉



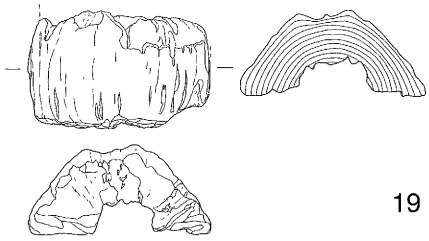




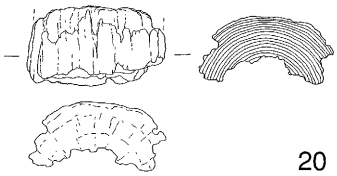
第15図　舟岡地区構築材（８）柱根　晩期中葉



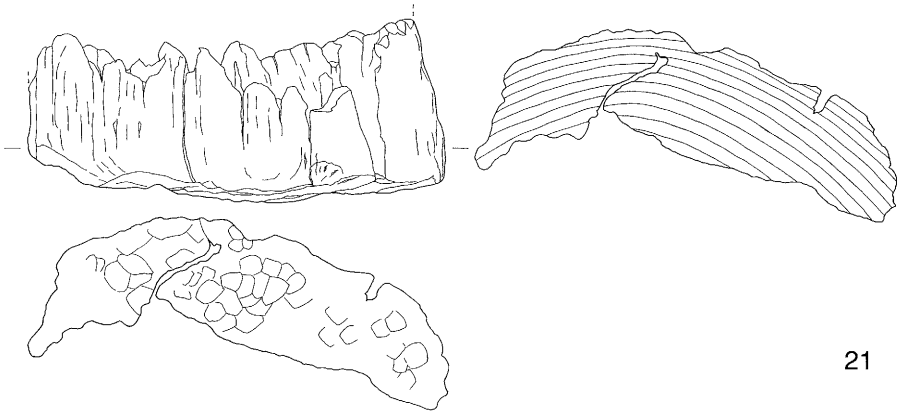
18



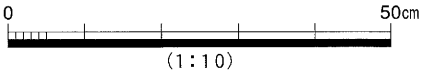
19



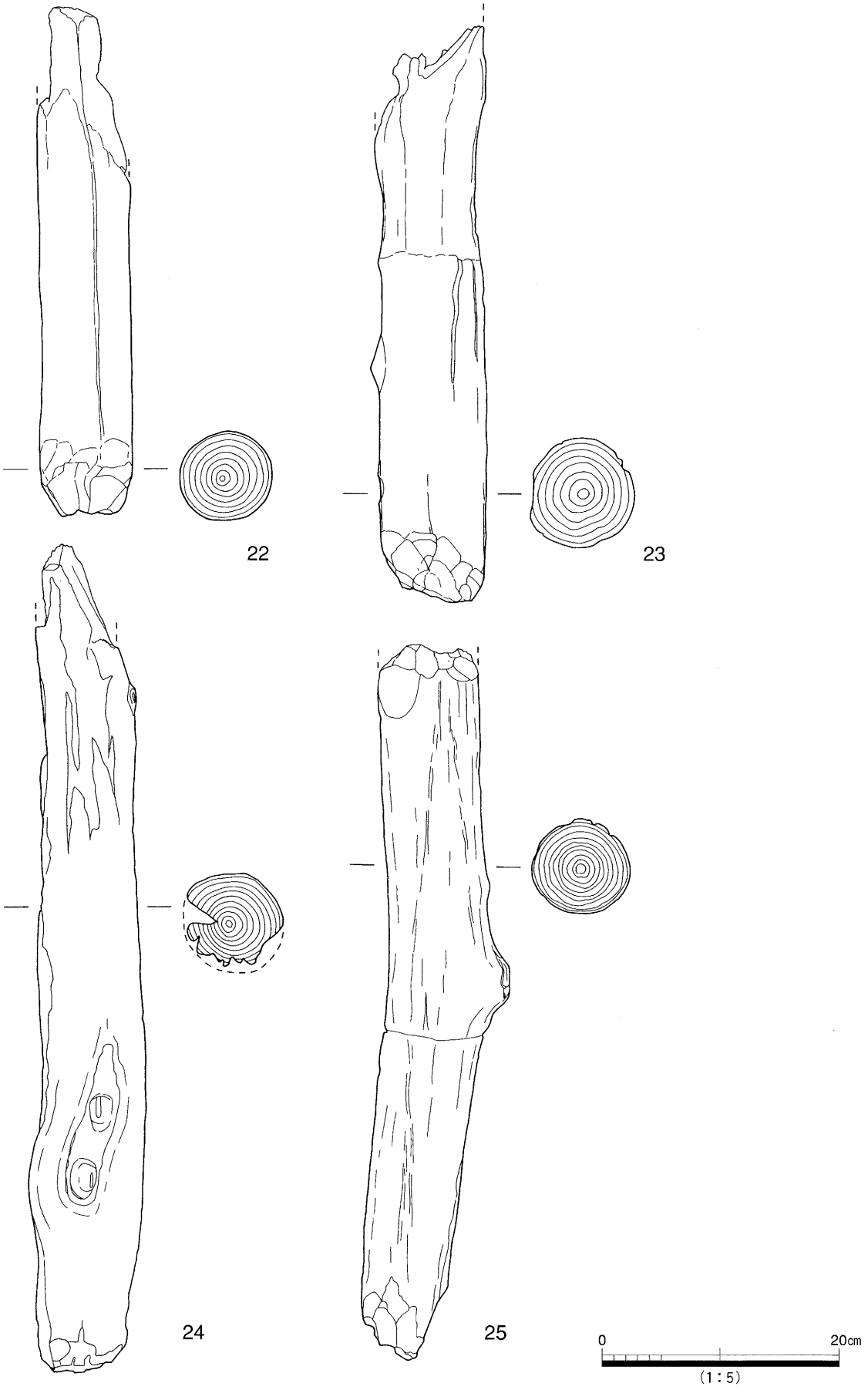
20



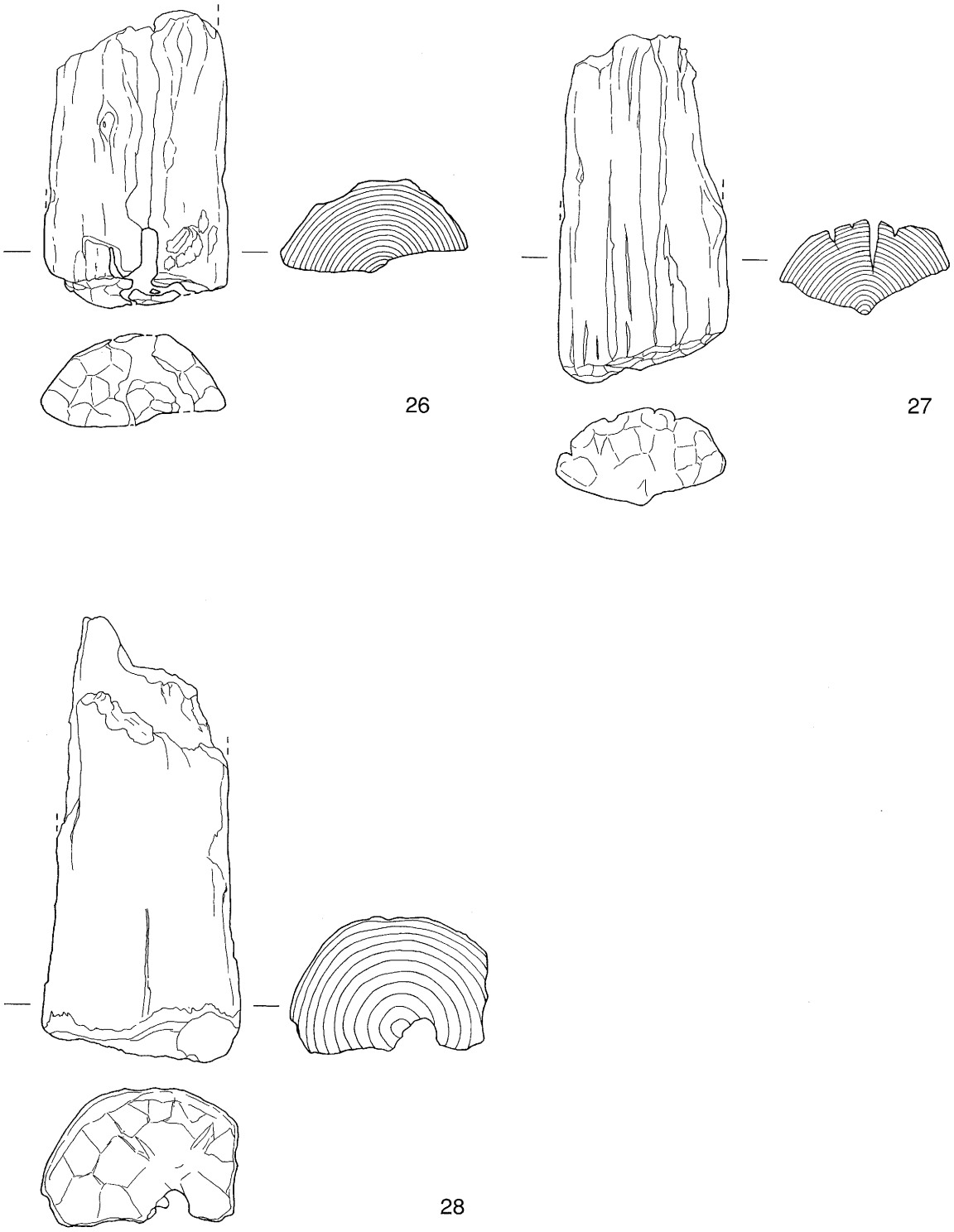
21



第16図　舟岡地区構築材（９）柱根　晩期中葉

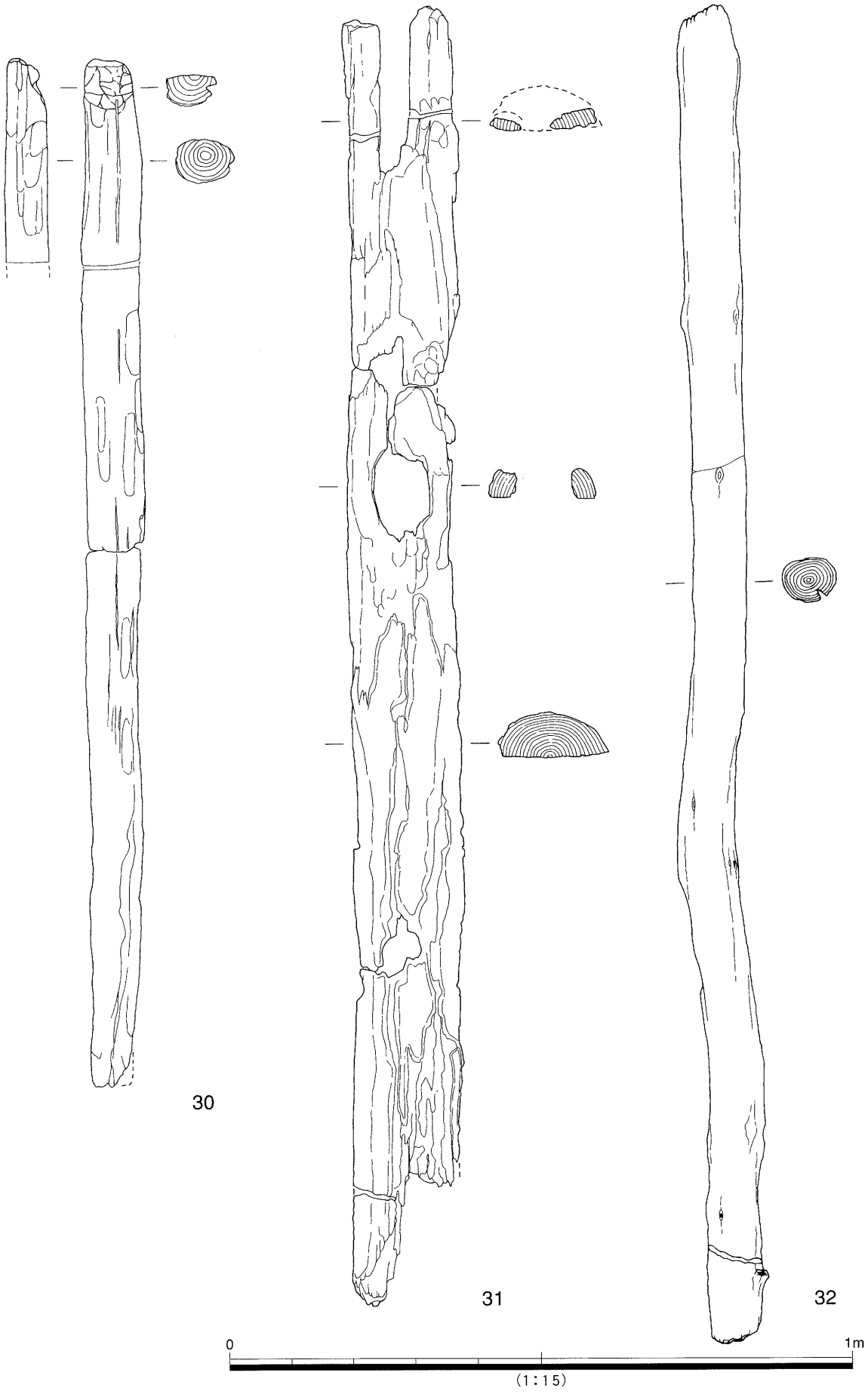


第17図　舟岡地区施設材（1）杭群　中期末以前

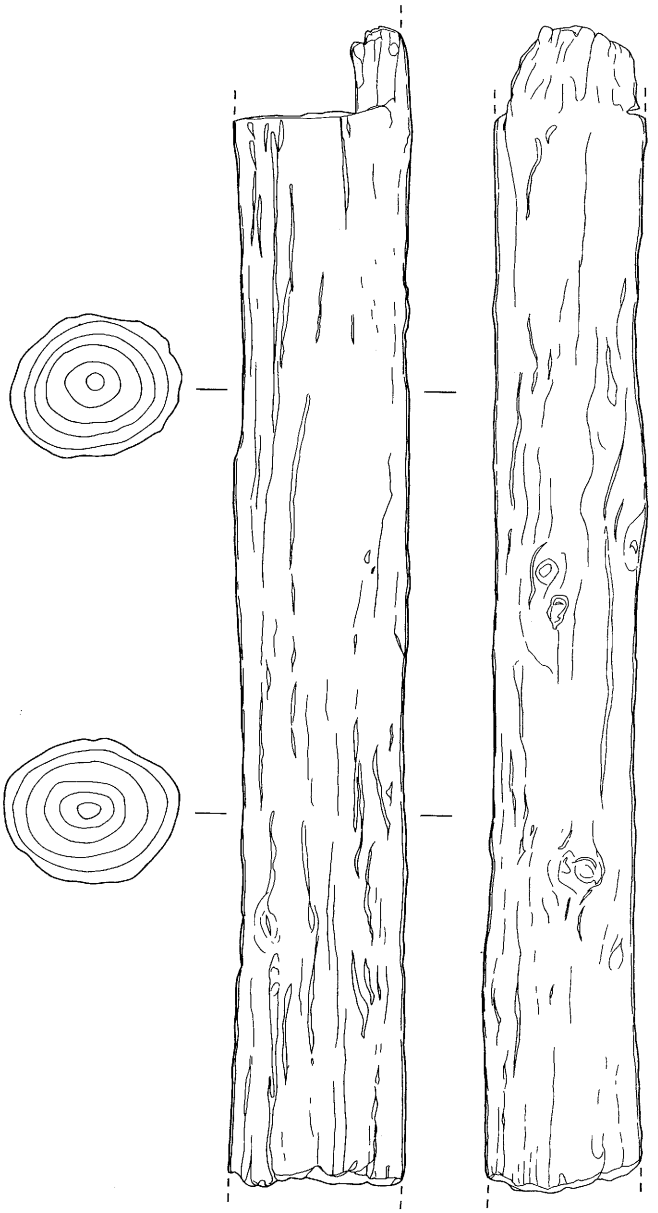


第18図　舟岡地区施設材（２）杭群　中期末以前

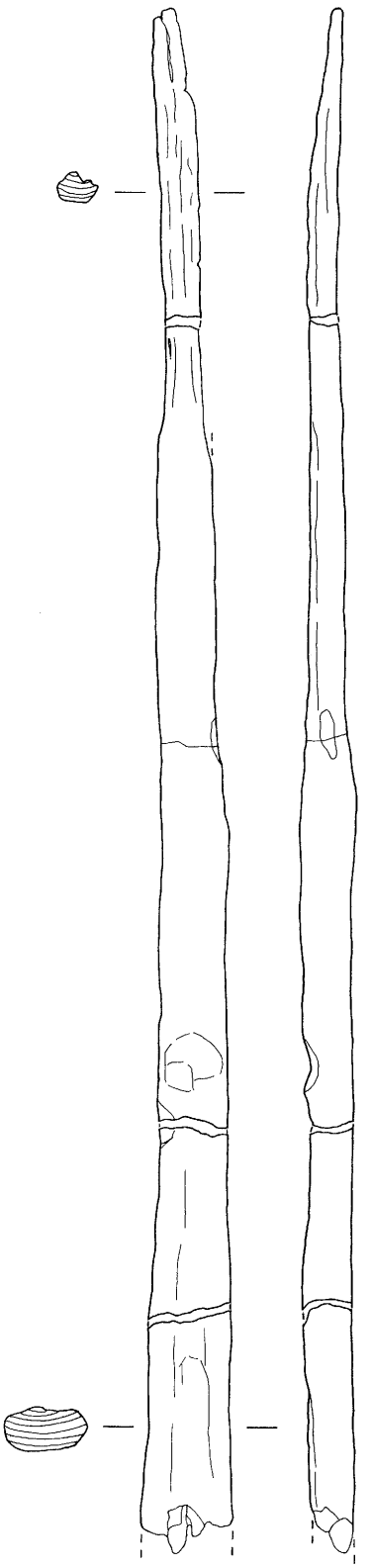
第19図 舟岡地区施設材（3）水場材　中期末～後期初頭



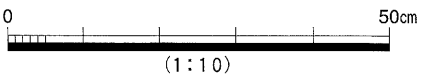
第20図　舟岡地区施設材（４）水場材　中期末～後期初頭



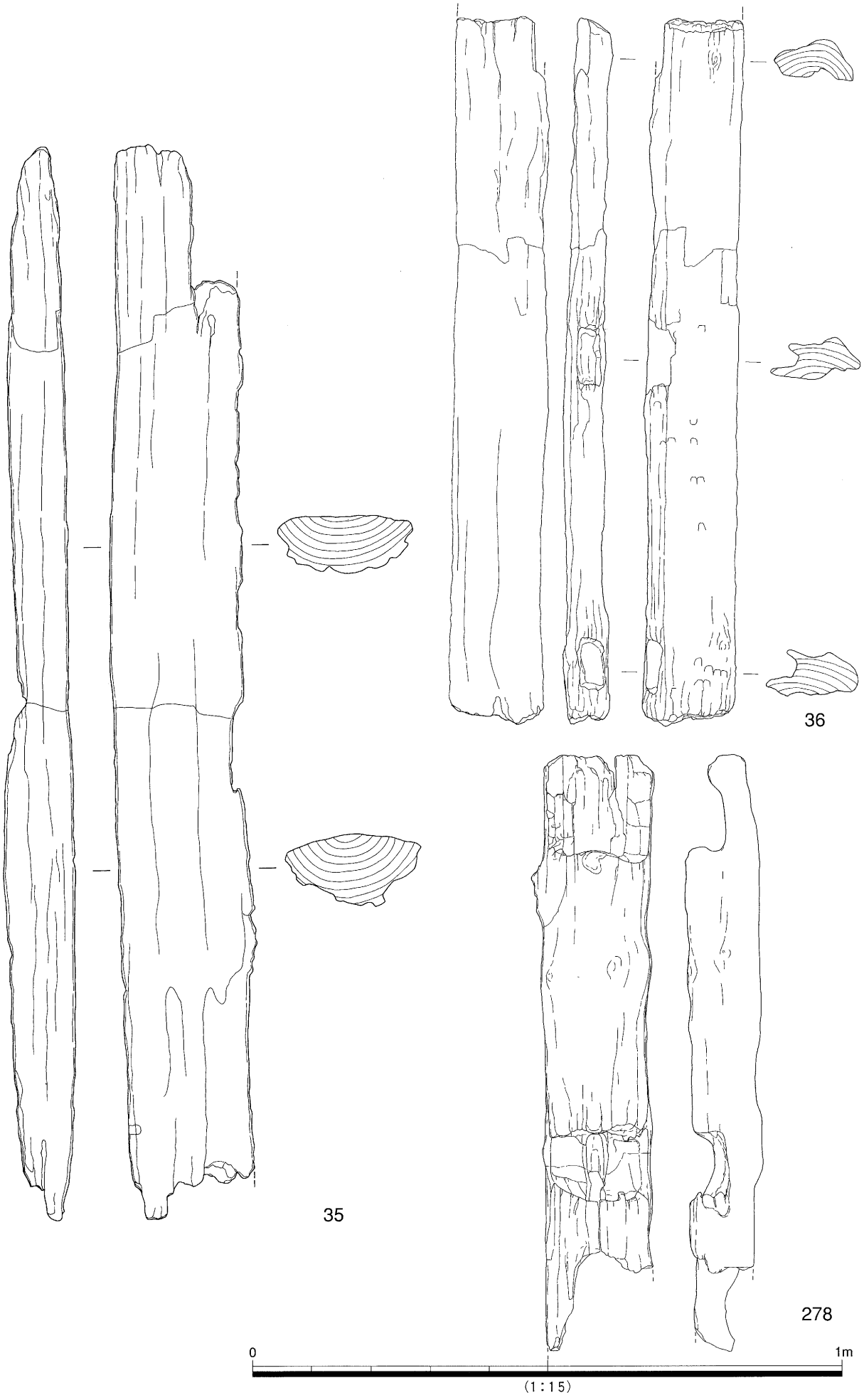
33



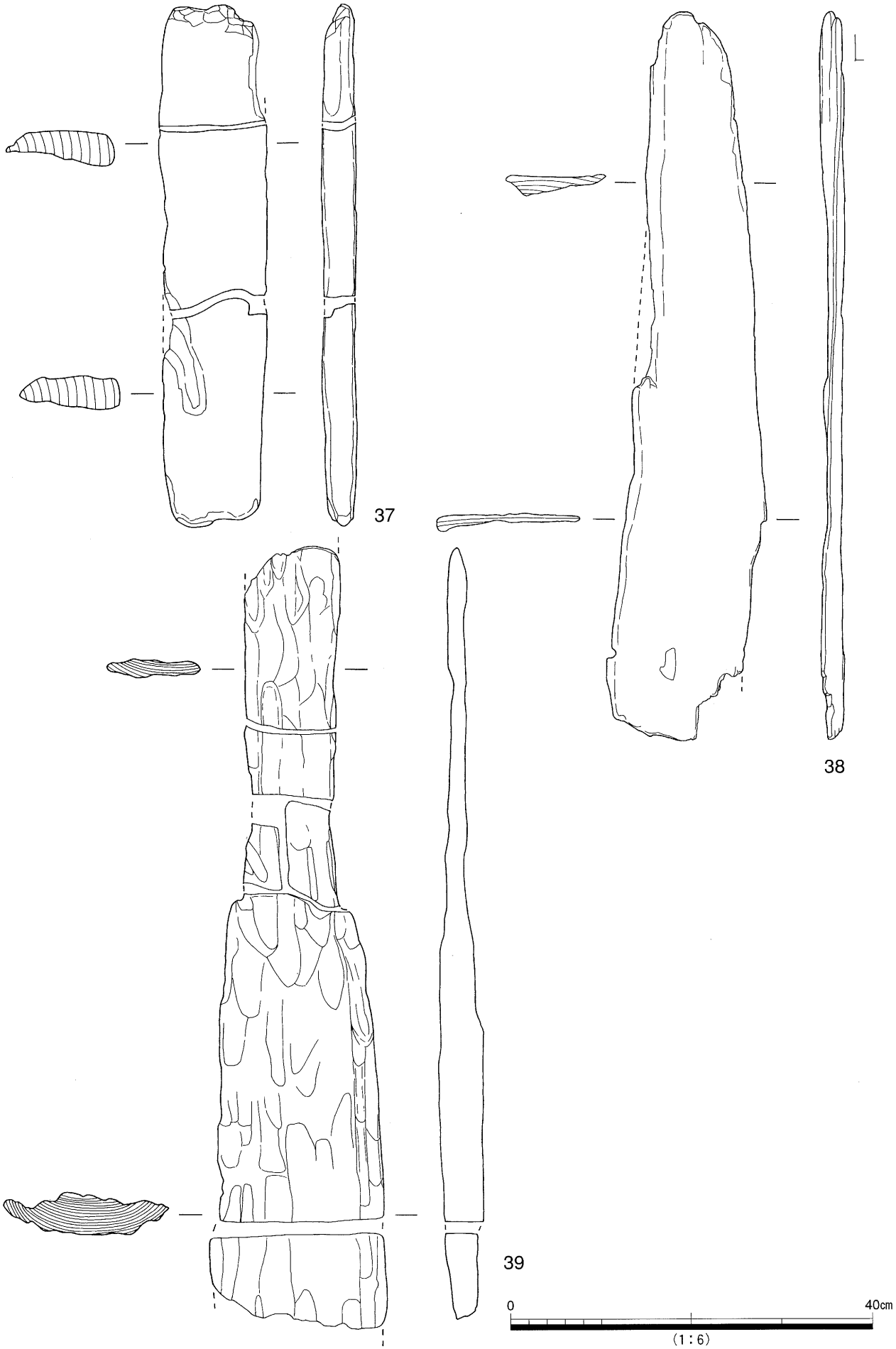
34



第21図 舟岡地区施設材（5）水場材　中期末～後期初頭

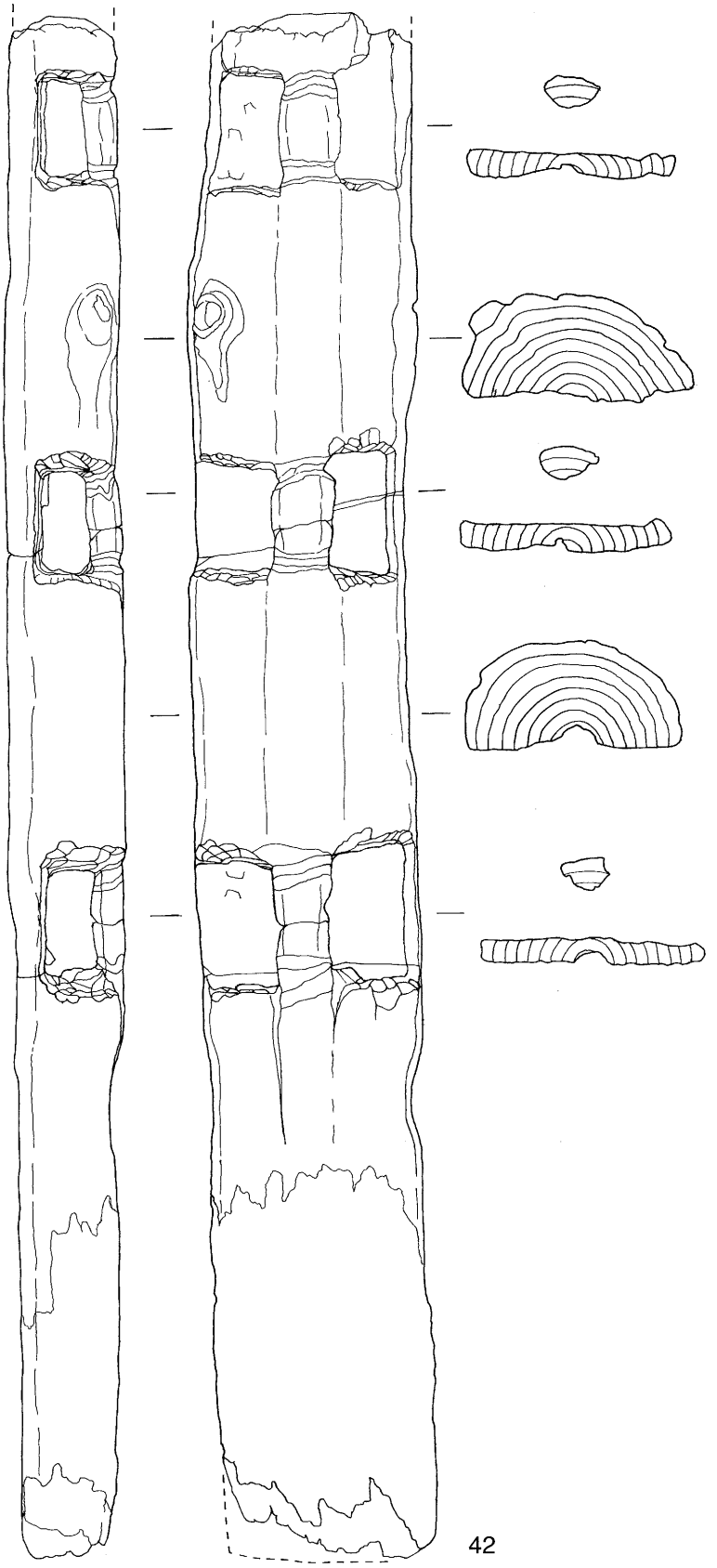


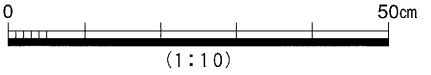
第22図　舟岡地区施設材（６）水場材　中期末～後期初頭



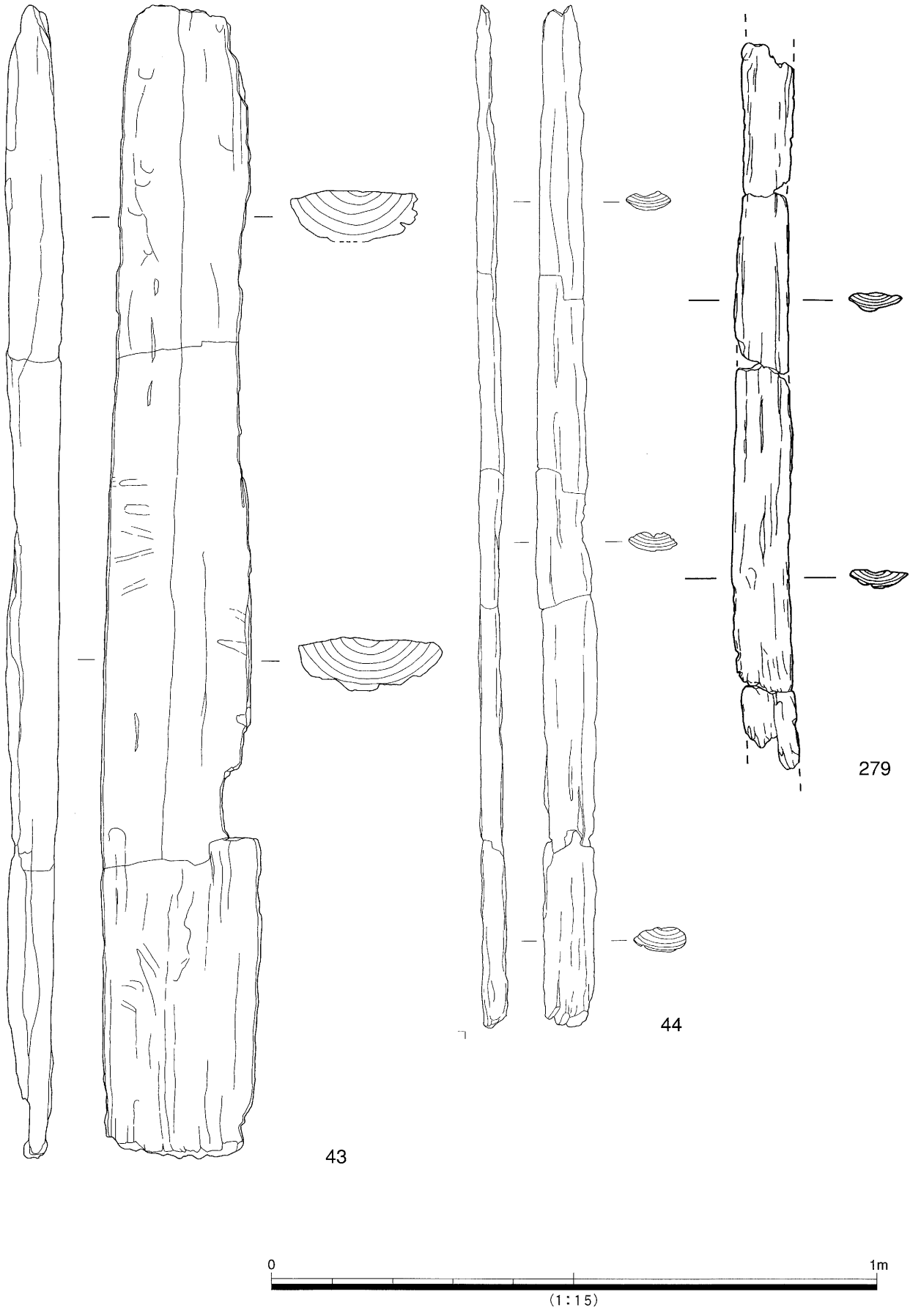
第23図　舟岡地区施設材（７）水場材　中期末～後期初頭

第24図　舟岡地区施設材（８）水場材　中期末～後期初頭

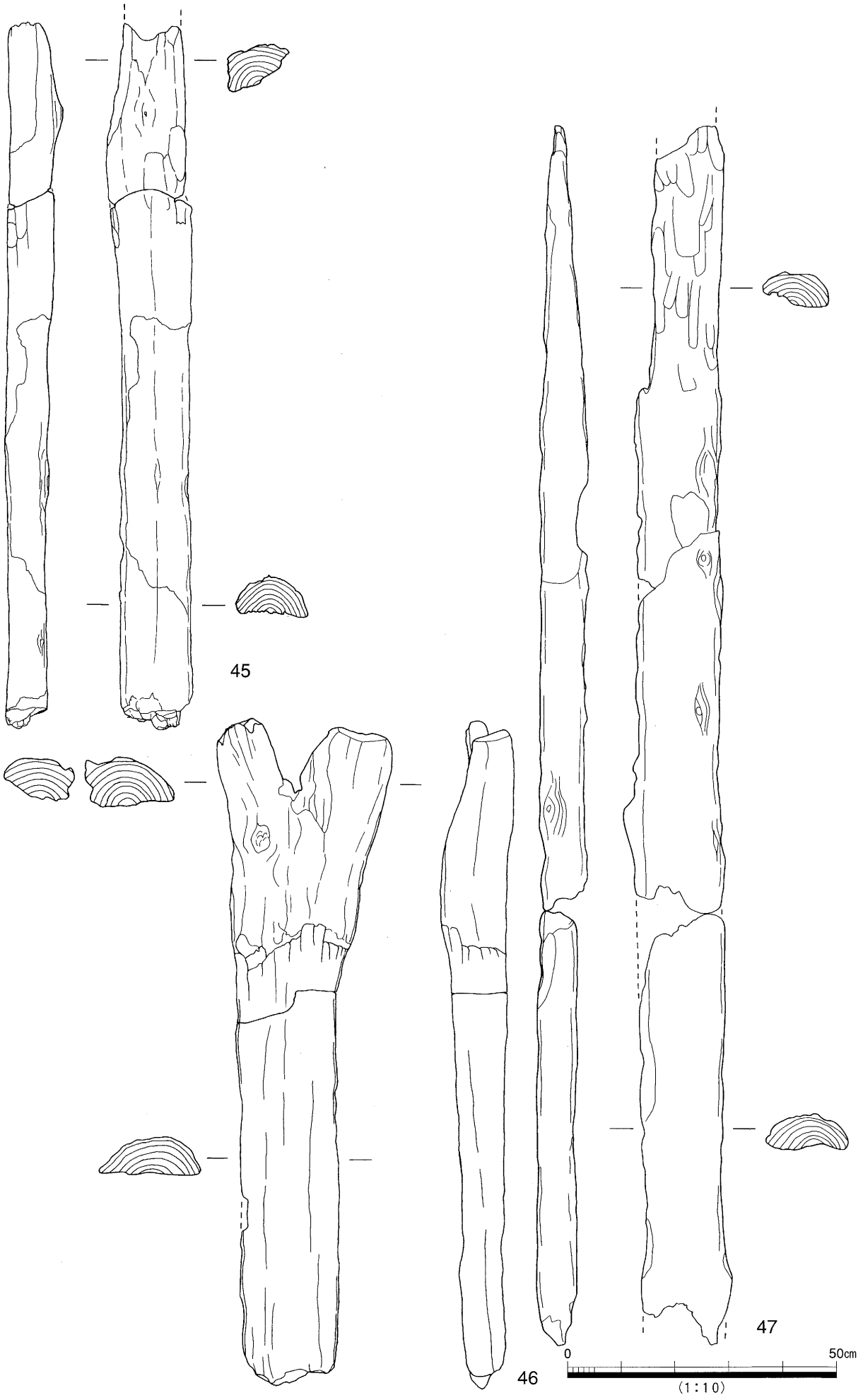




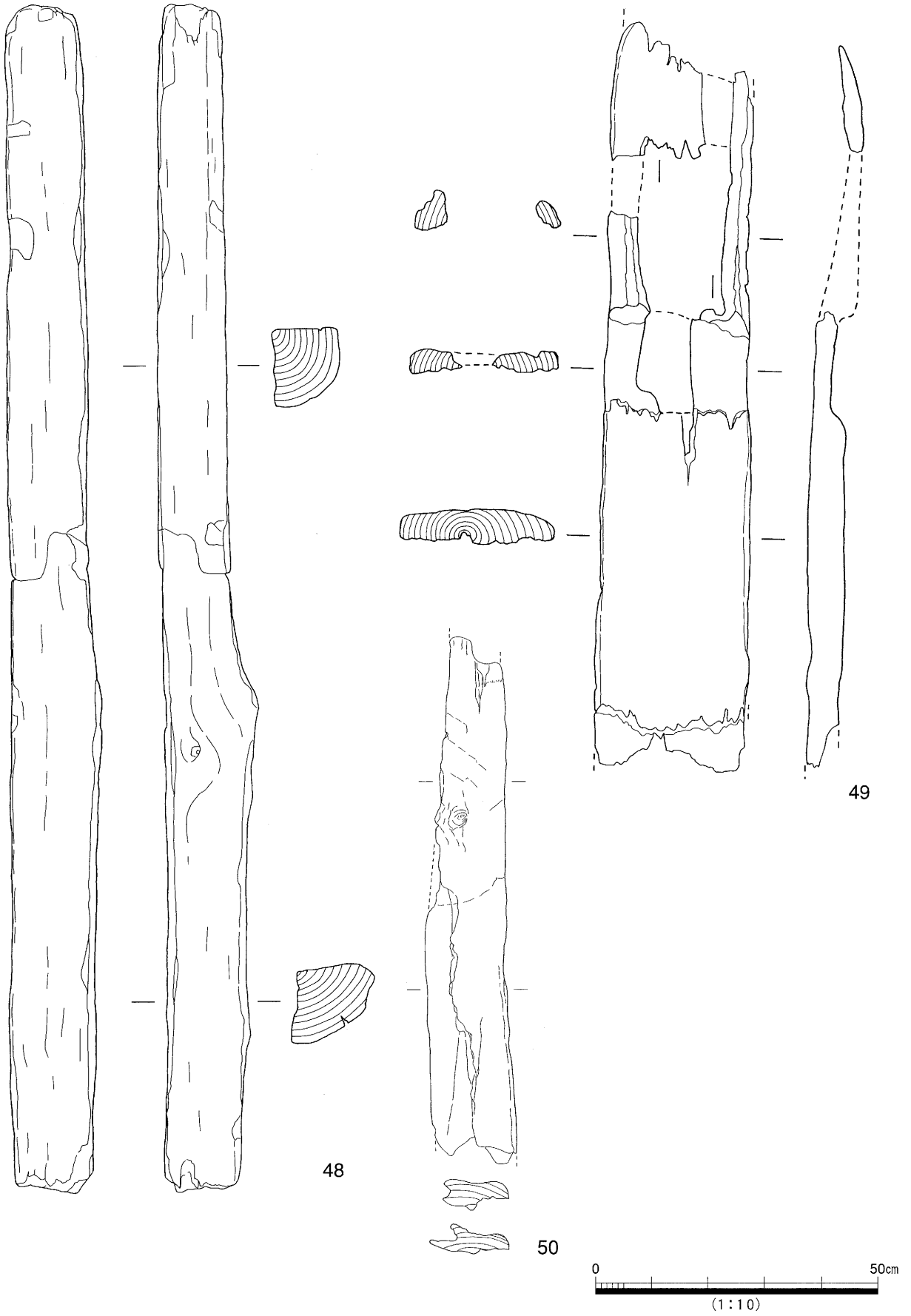
第25図　舟岡地区施設材（９）水場材　中期末～後期初頭



第26図　舟岡地区施設材（10）水場材　中期末～後期初頭

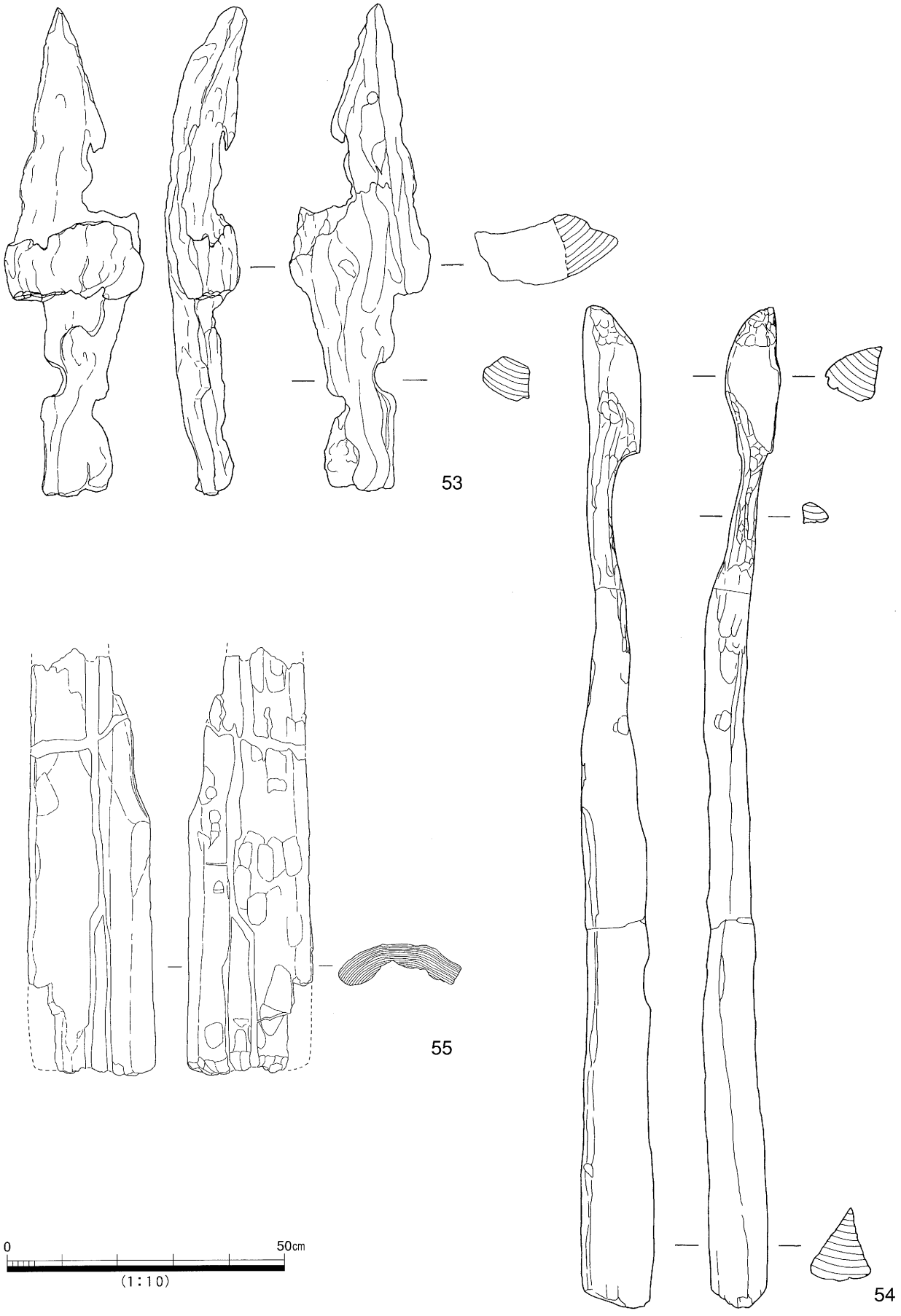


第27図　舟岡地区施設材（11）水場材　中期末～後期初頭

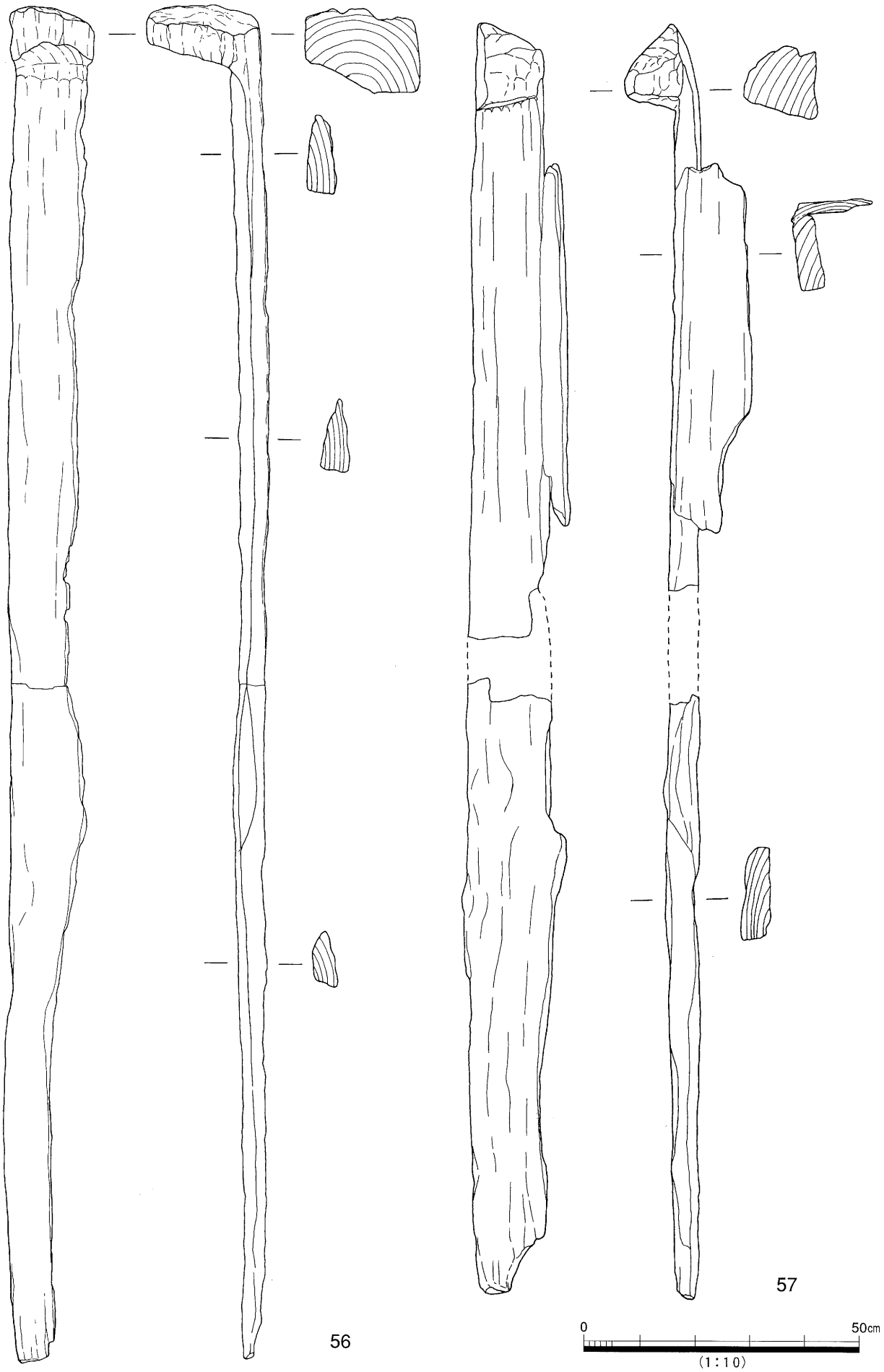


第28図　舟岡地区施設材（12）水場材　中期末～後期初頭

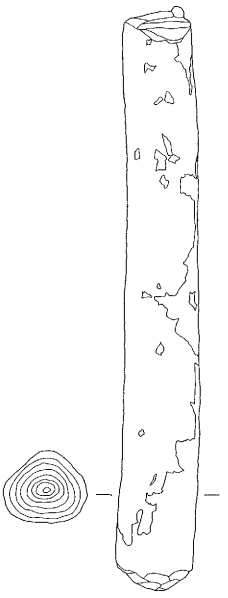
第29図　舟岡地区施設材（13）水場材　中期末～後期初頭



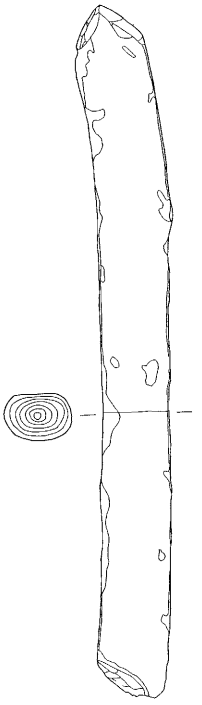
第30図　舟岡地区施設材（14）水場材　中期末～後期初頭



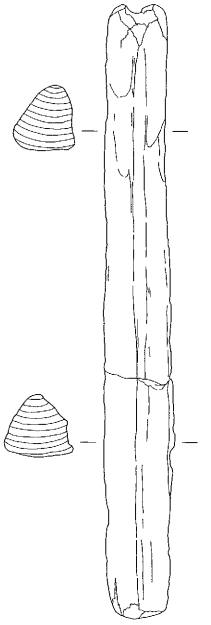
第31図　舟岡地区施設材（15）水場材　中期末～後期初頭



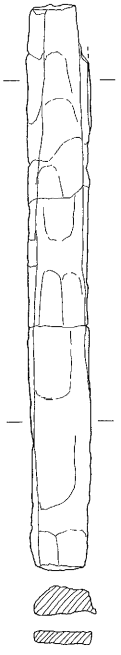
58



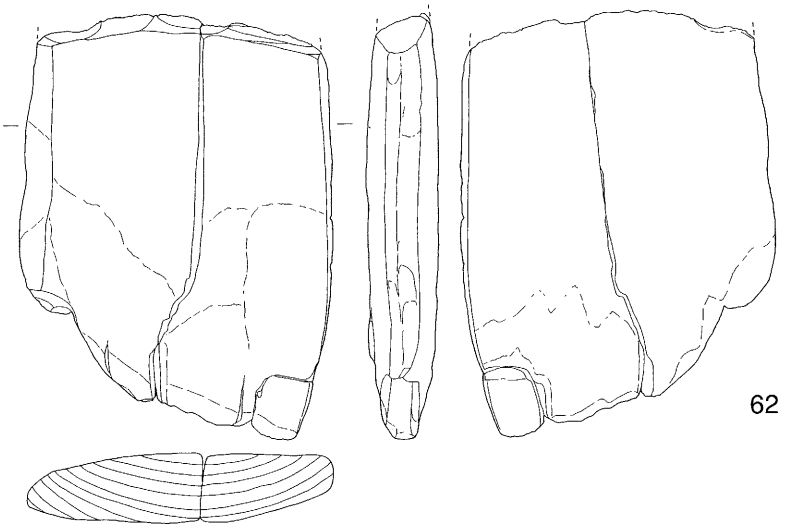
59



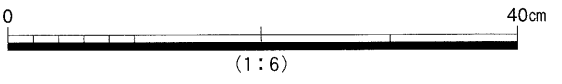
60



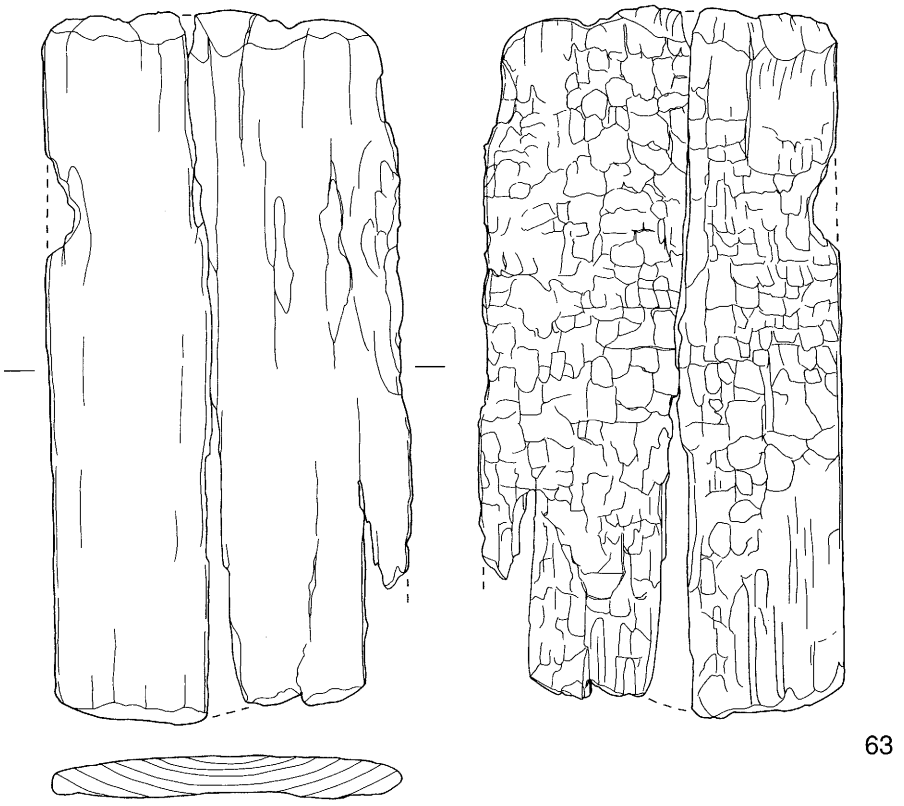
61

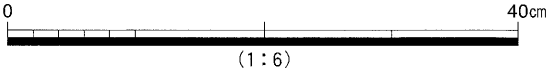


62

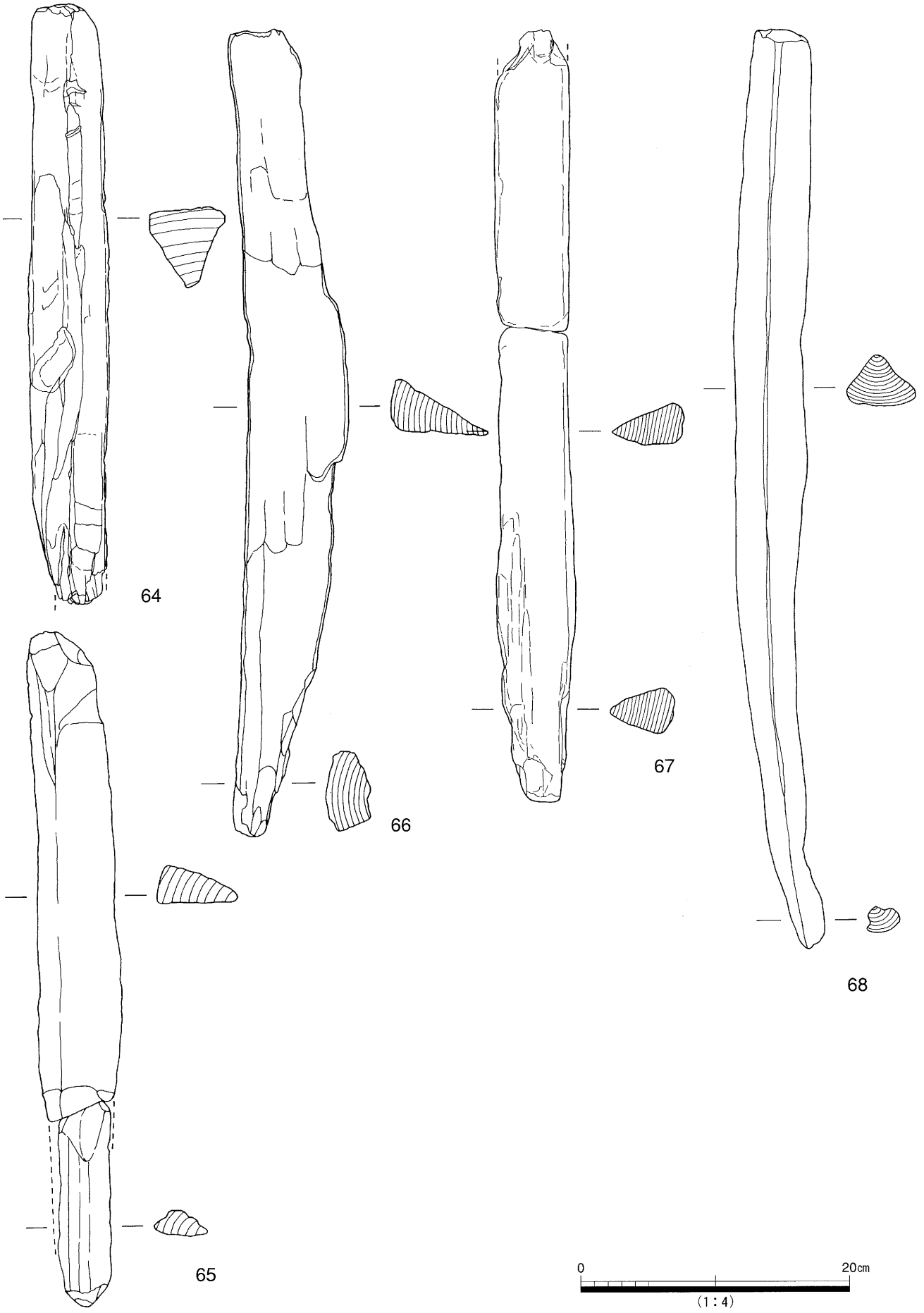


第32図　舟岡地区施設材（16）水場材　後期末～晩期前葉

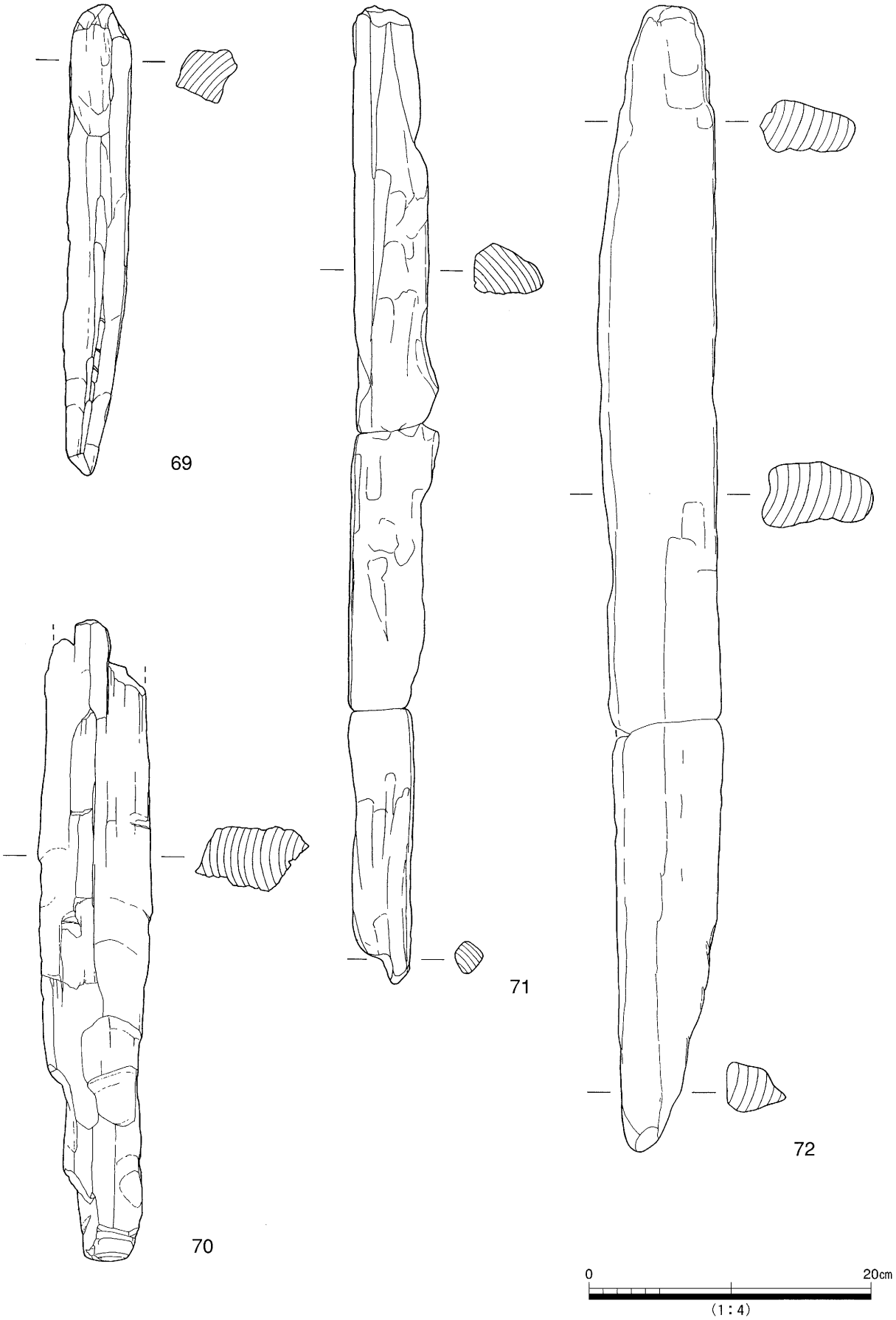




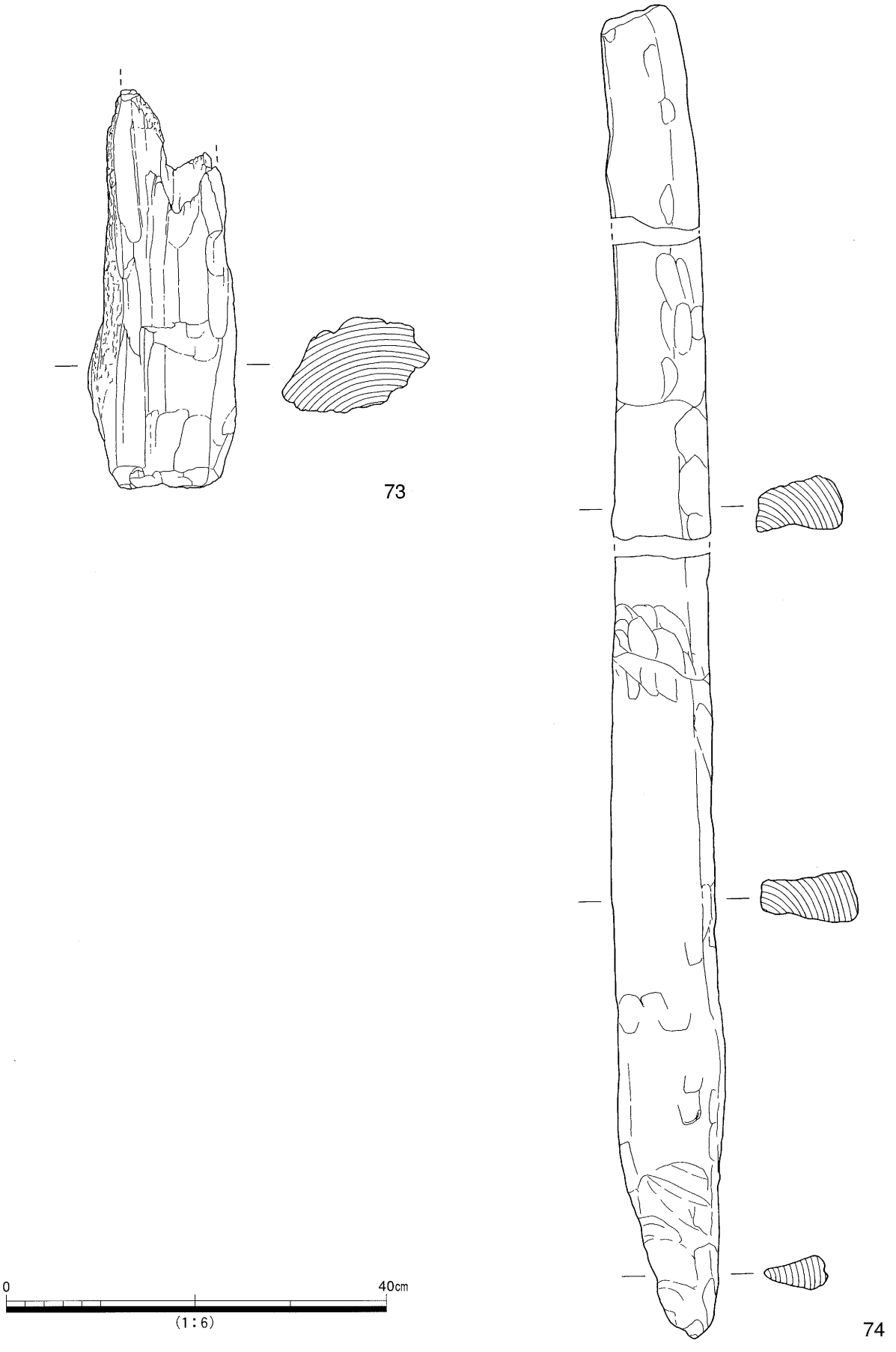
第33図　舟岡地区施設材（17）水場材　後期末～晩期前葉



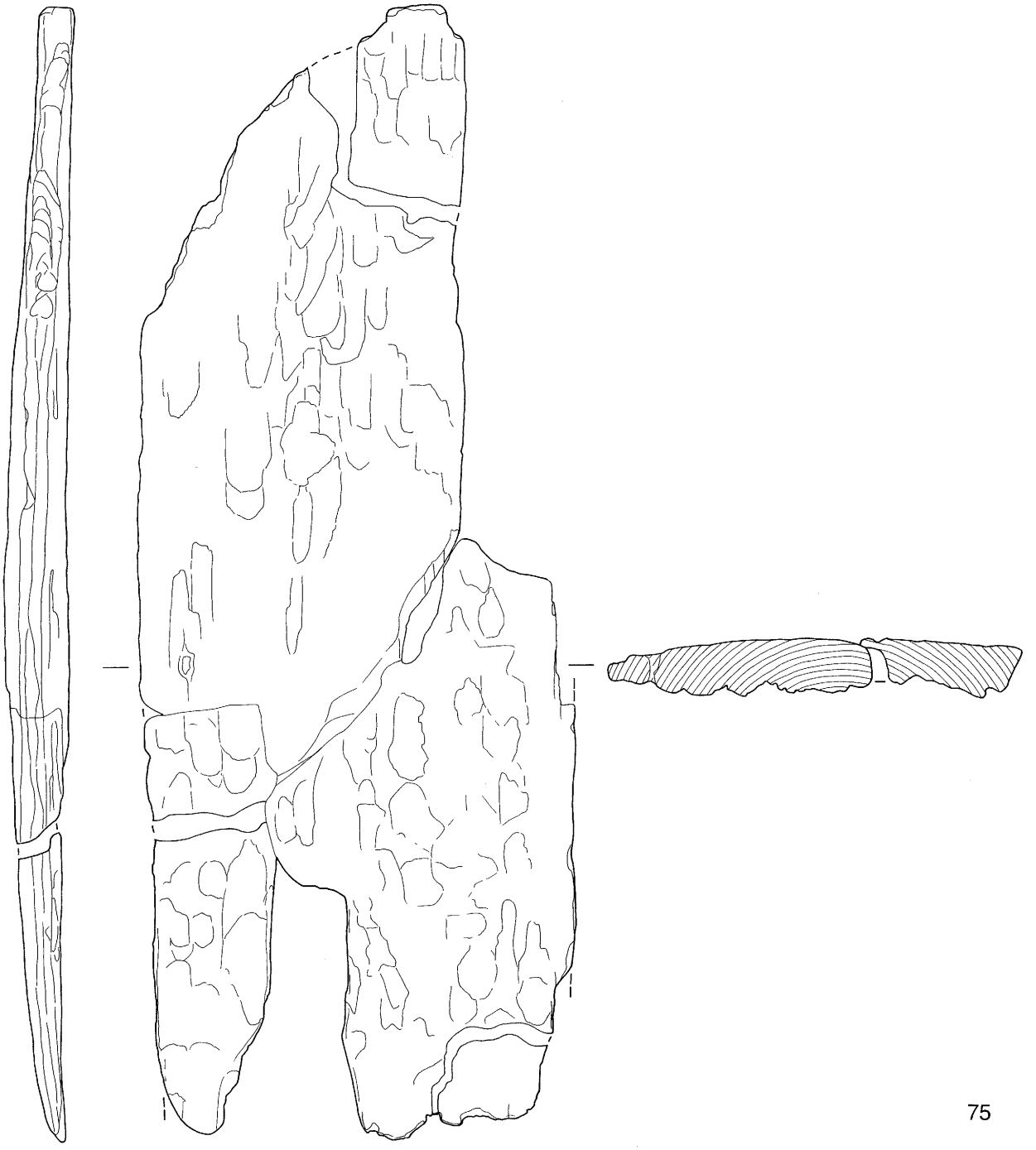
第34図　中出地区施設材（18）水場材　中期末～後期初頭

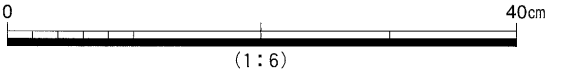


第35図　中出地区施設材（19）水場材　中期末～後期初頭

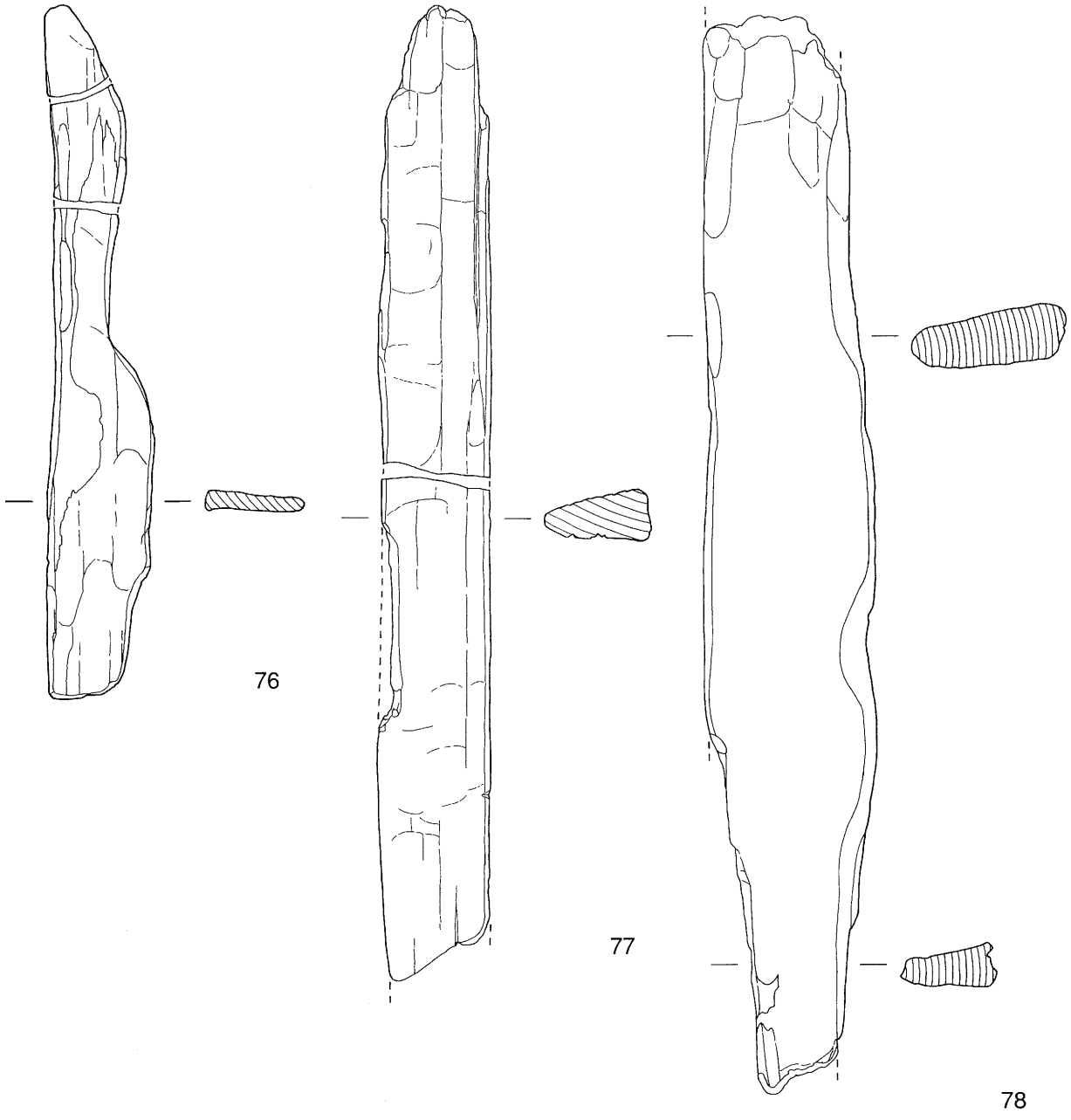


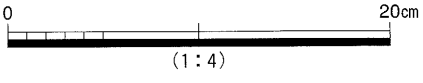
第36図　中出地区施設材（20）水場材　中期末～後期初頭



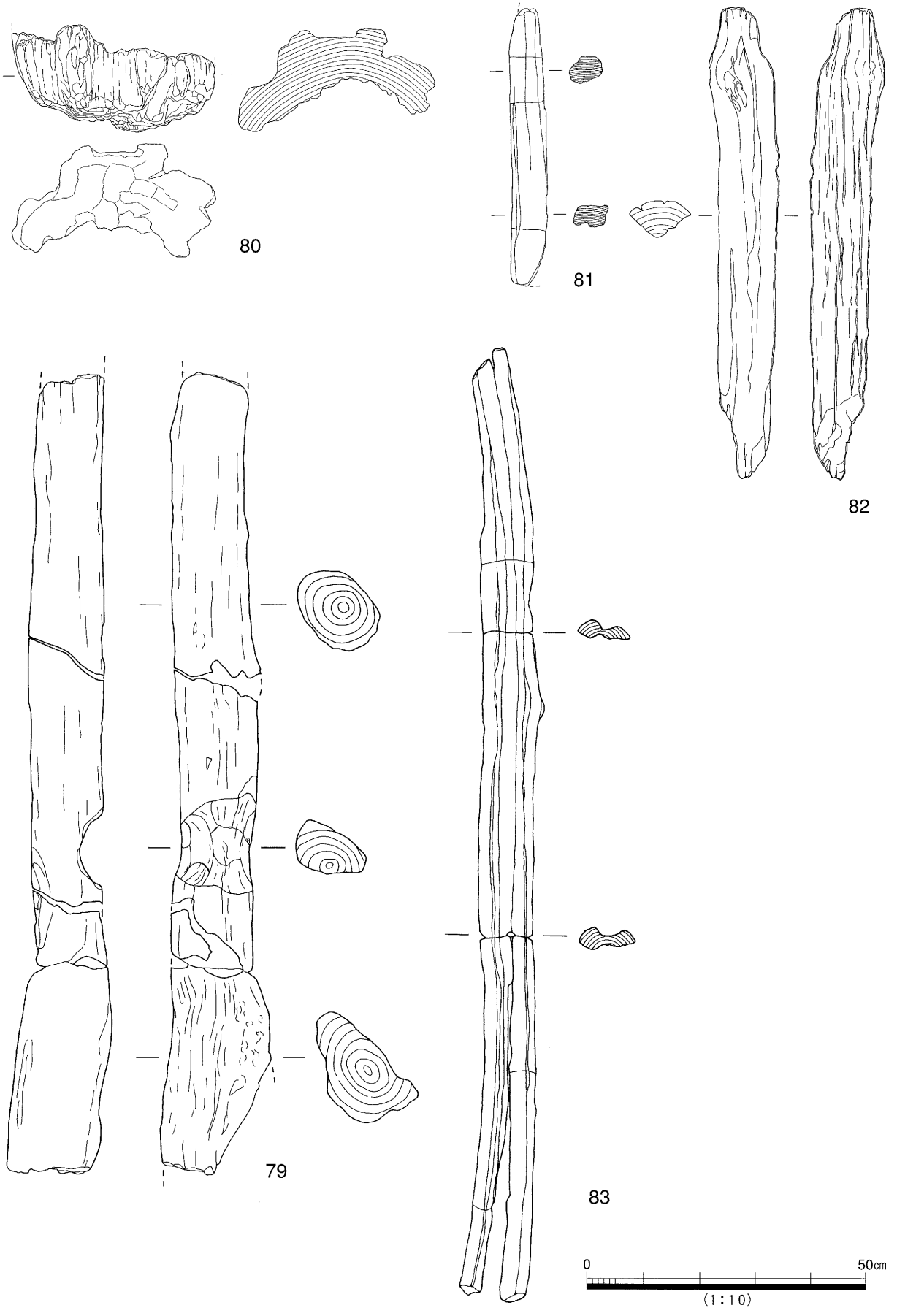


第37図　中出地区施設材（21）水場材　中期末～後期初頭



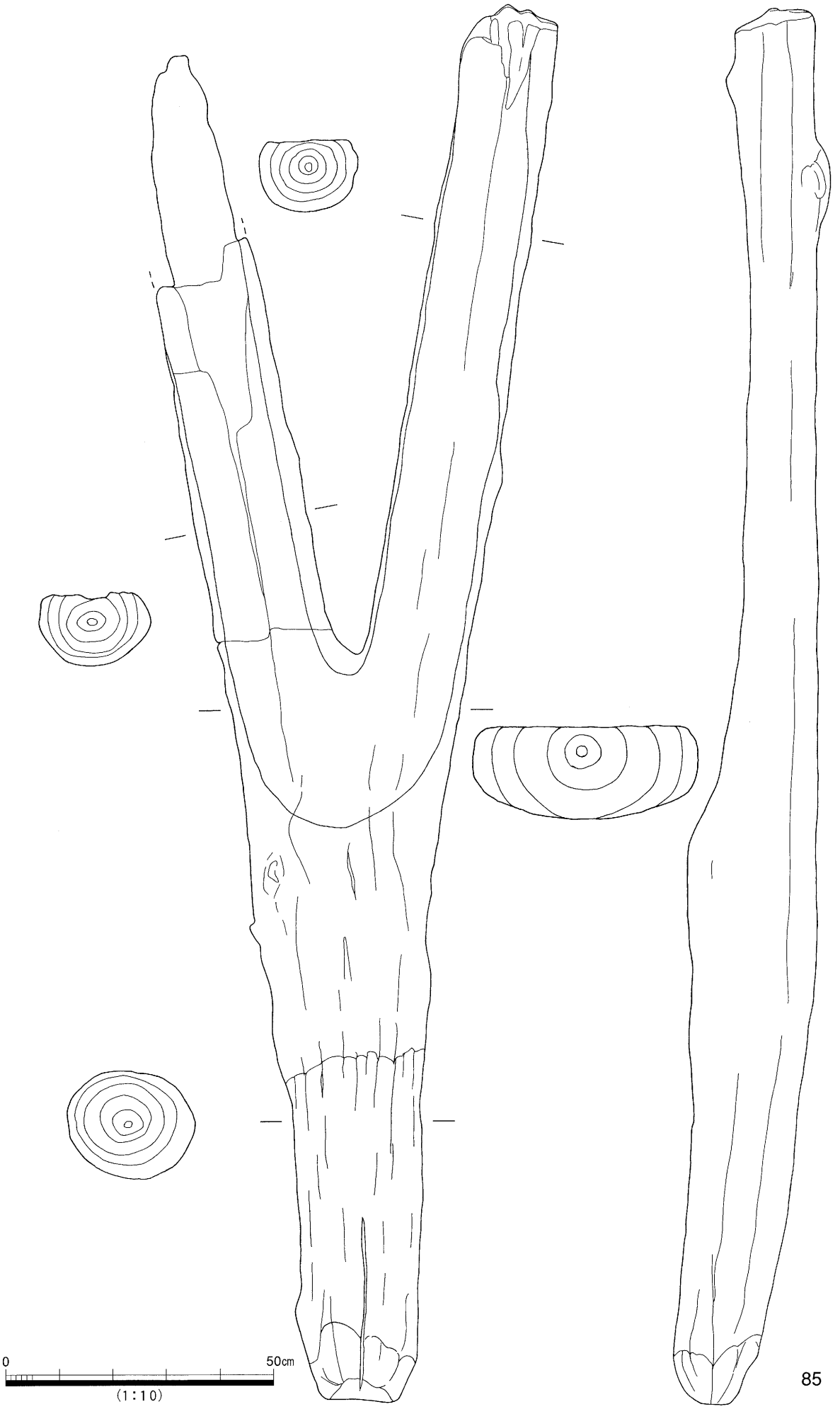


第38図　中出地区施設材（22）水場材　中期末～後期初頭

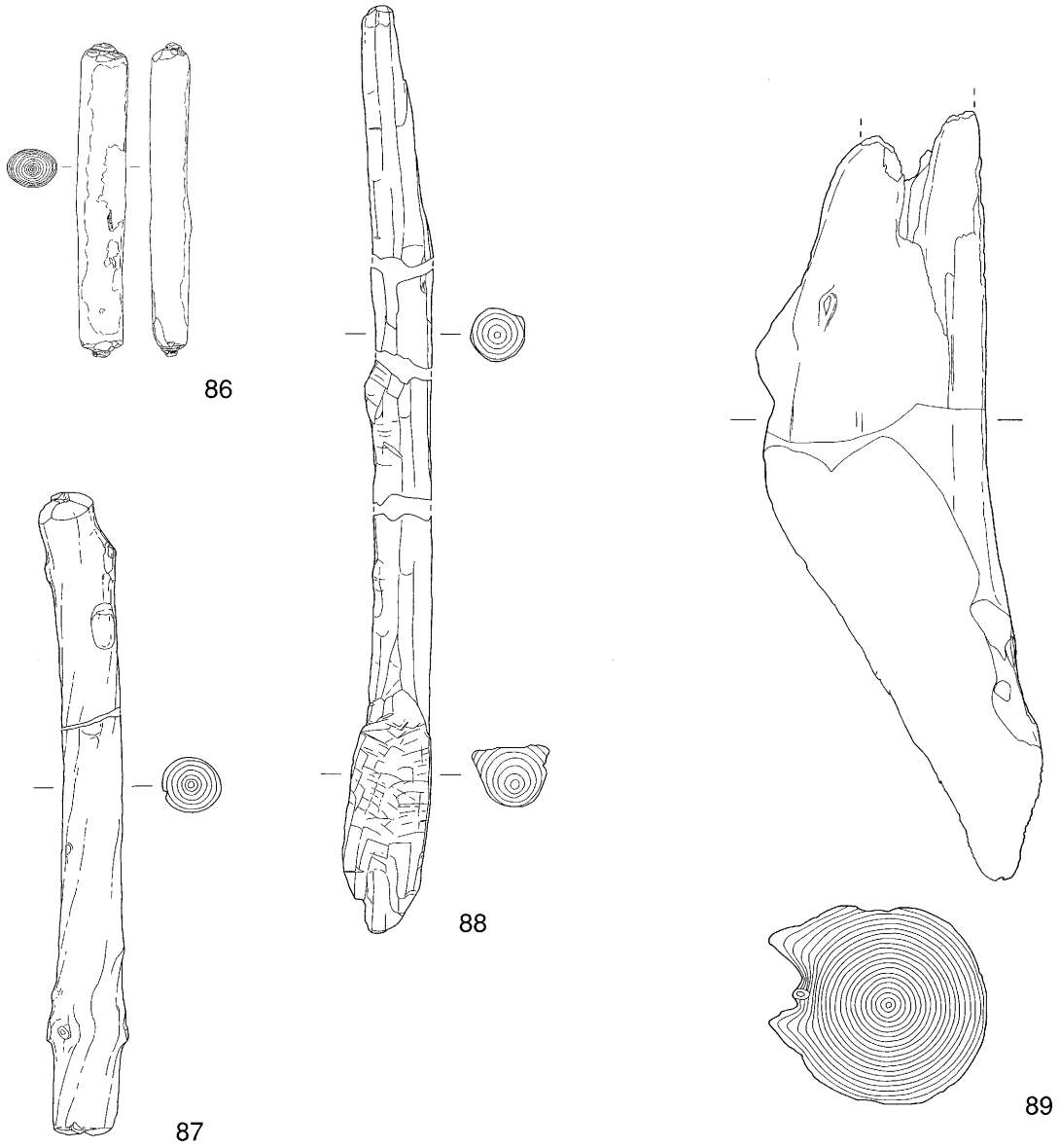


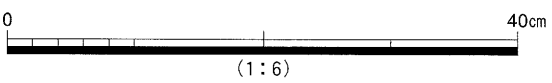
第39図　舟岡地区その他の加工材（1）丸木材・分割材　中期末以前

第40図　舟岡地区その他の加工材（２）丸木材　中期末～後期初頭

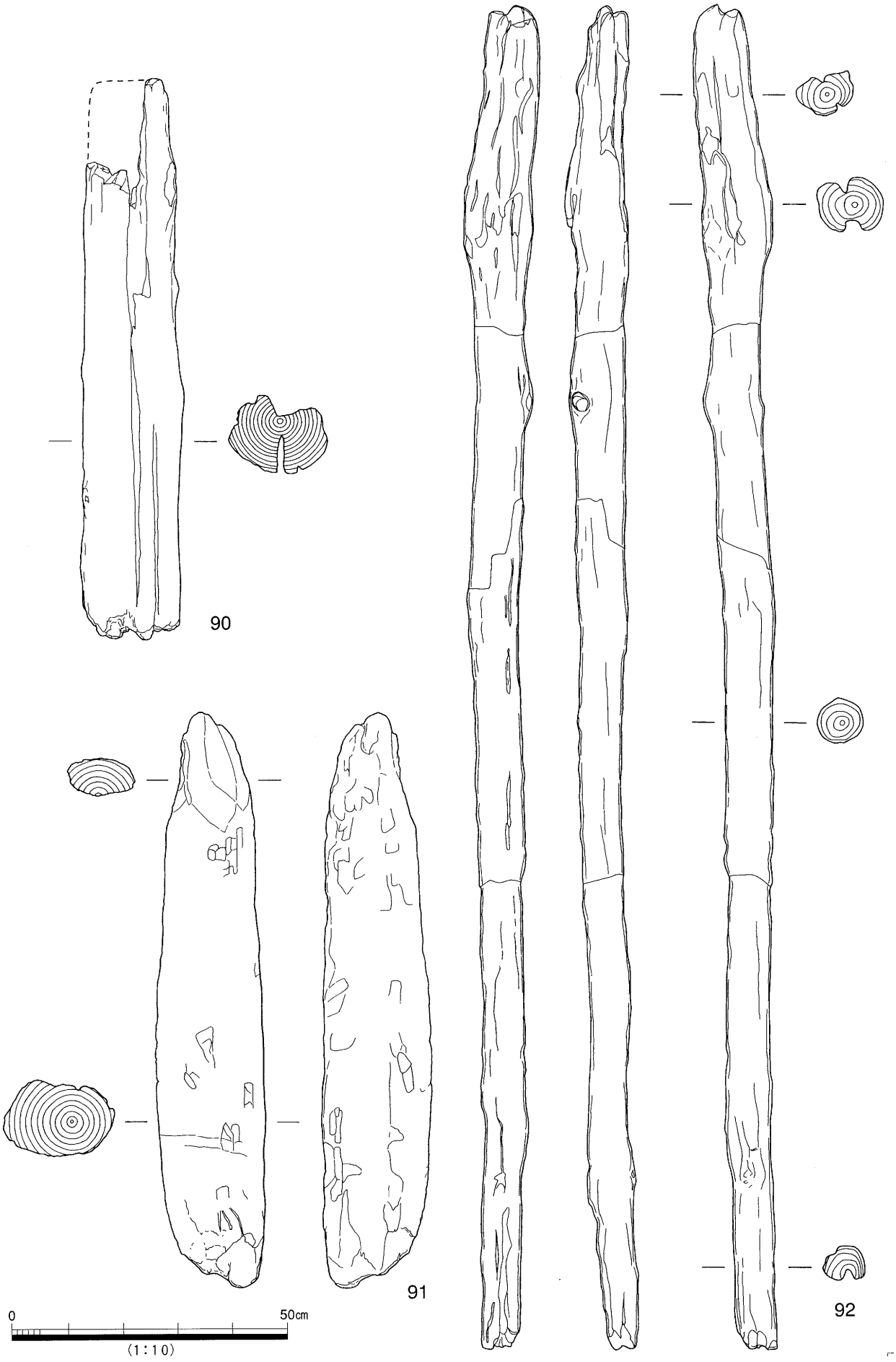


第41図　舟岡地区その他の加工材（3）丸木材　中期末～後期初頭

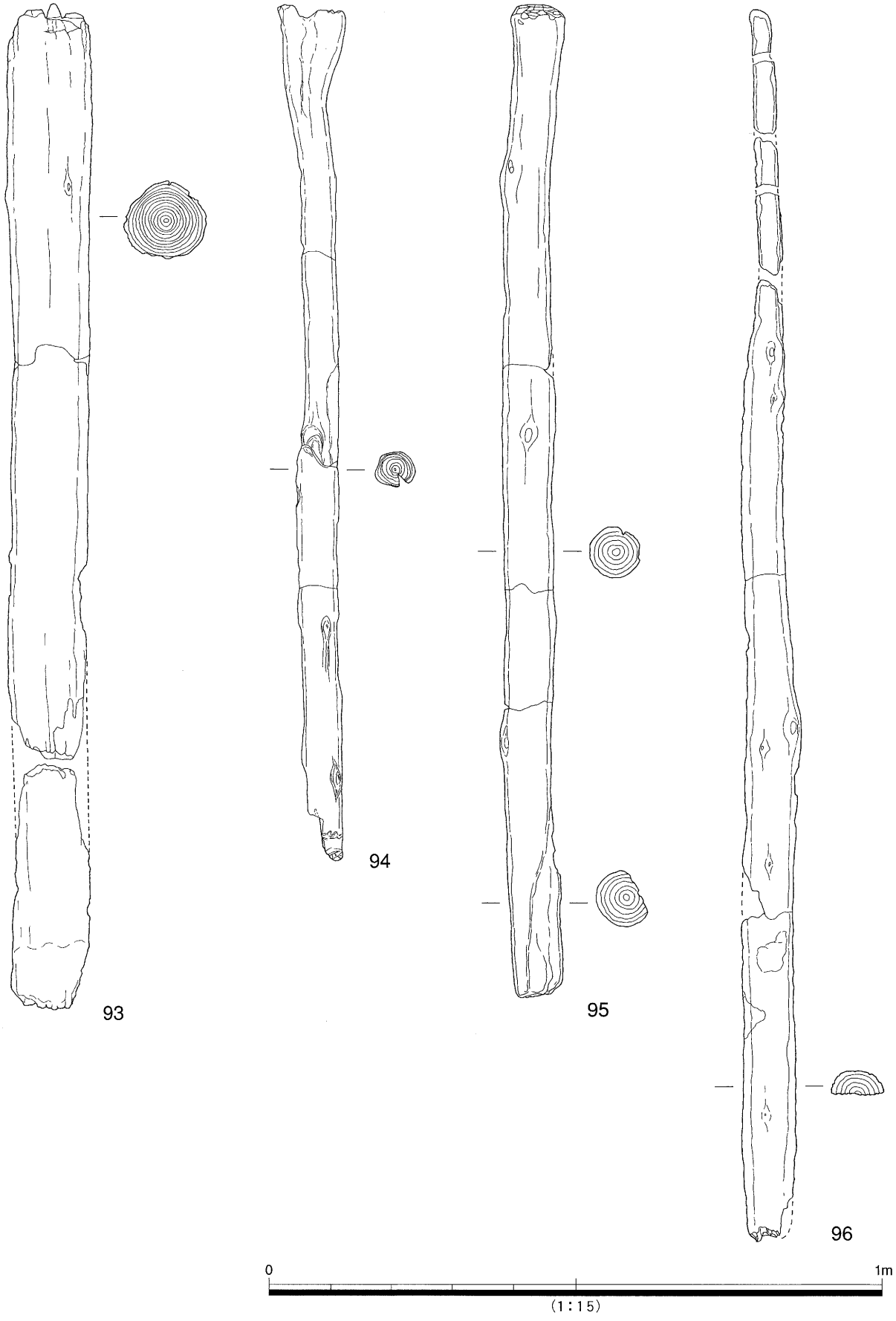




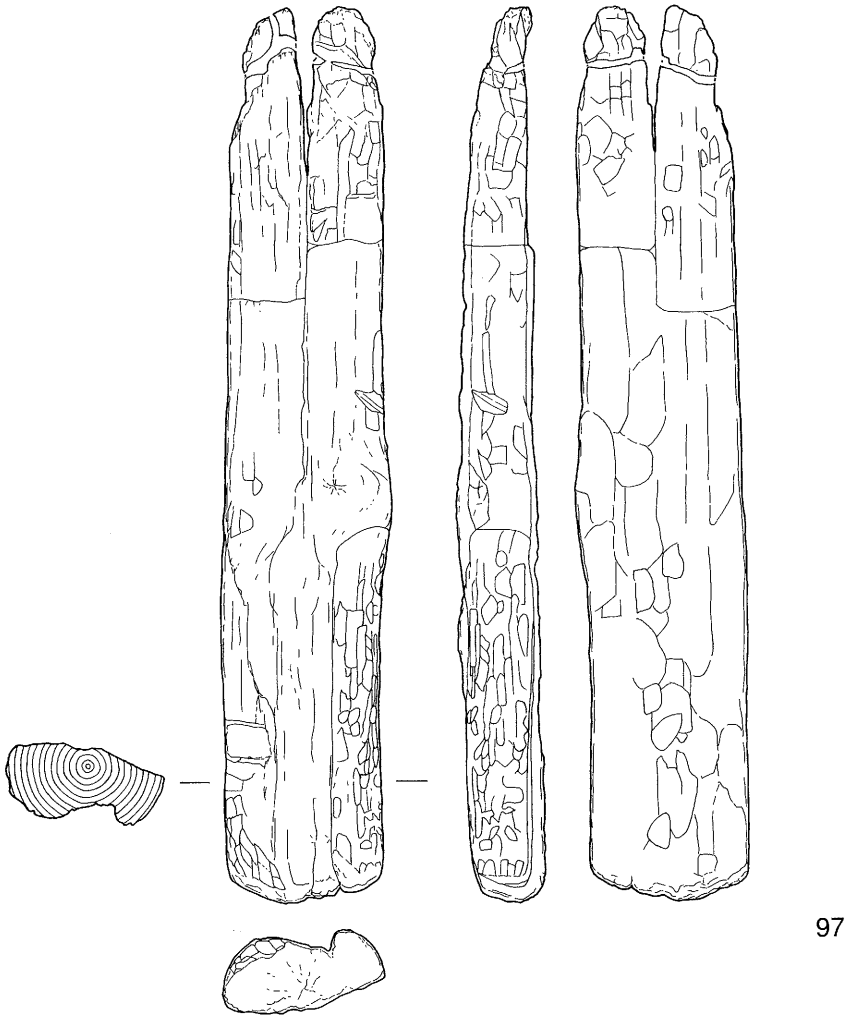
第42図　舟岡地区その他の加工材（4）丸木材　中期末～後期初頭

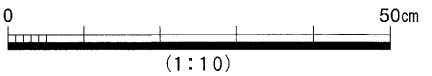


第43図　舟岡地区その他の加工材（5）丸木材　中期末～後期初頭

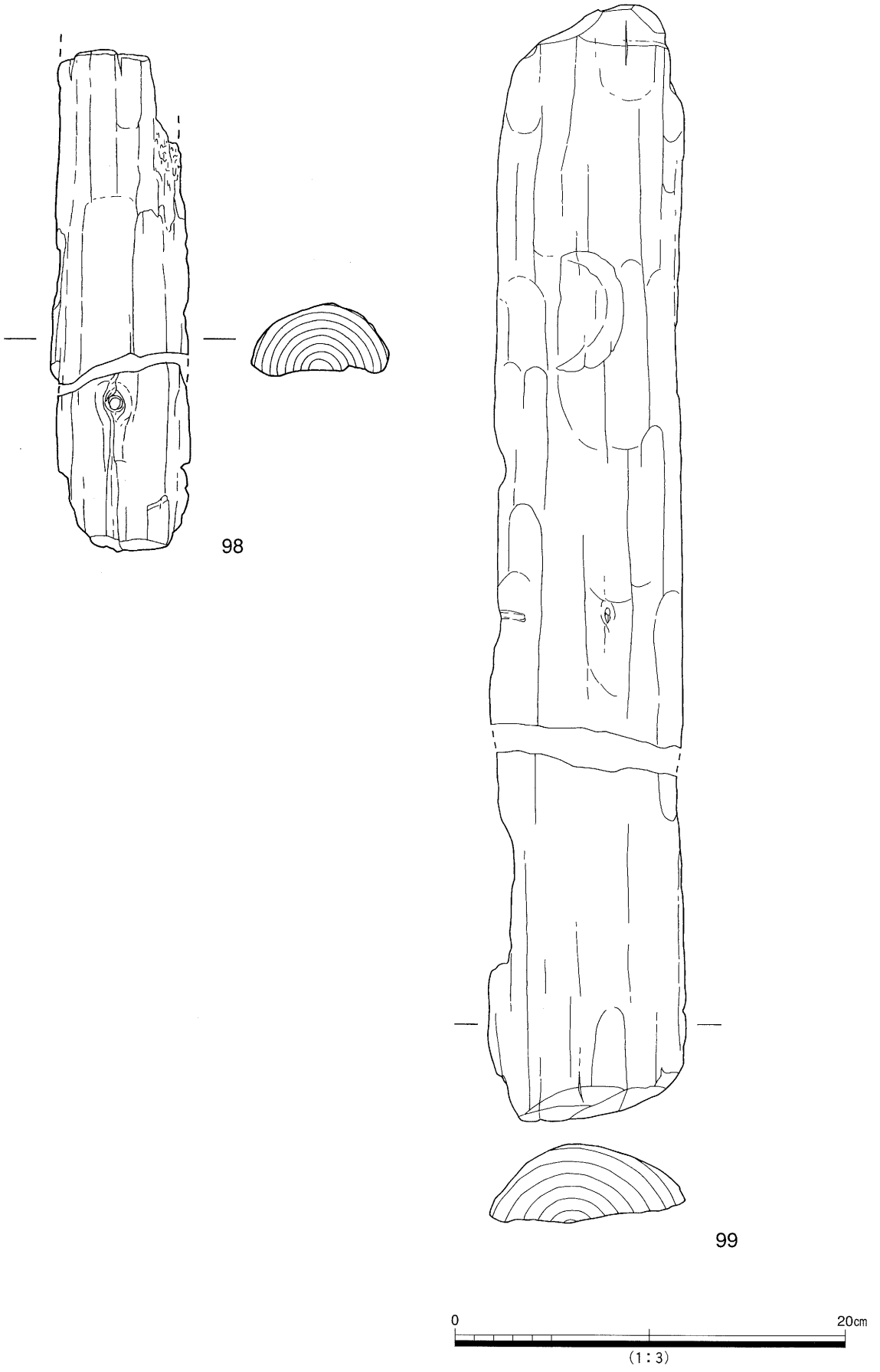


第44図　舟岡地区その他の加工材（6）丸木材・半割材　中期末～後期初頭

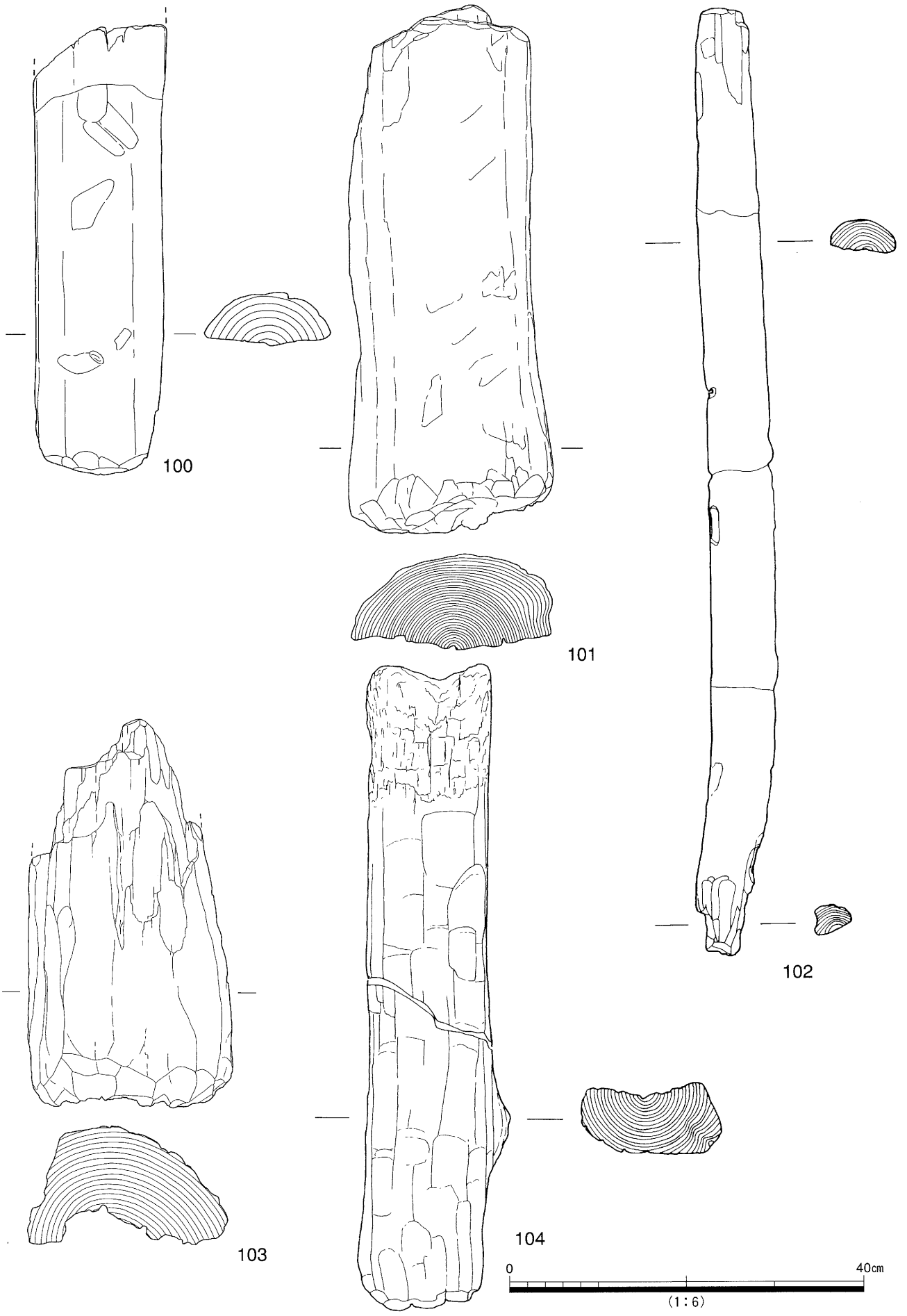




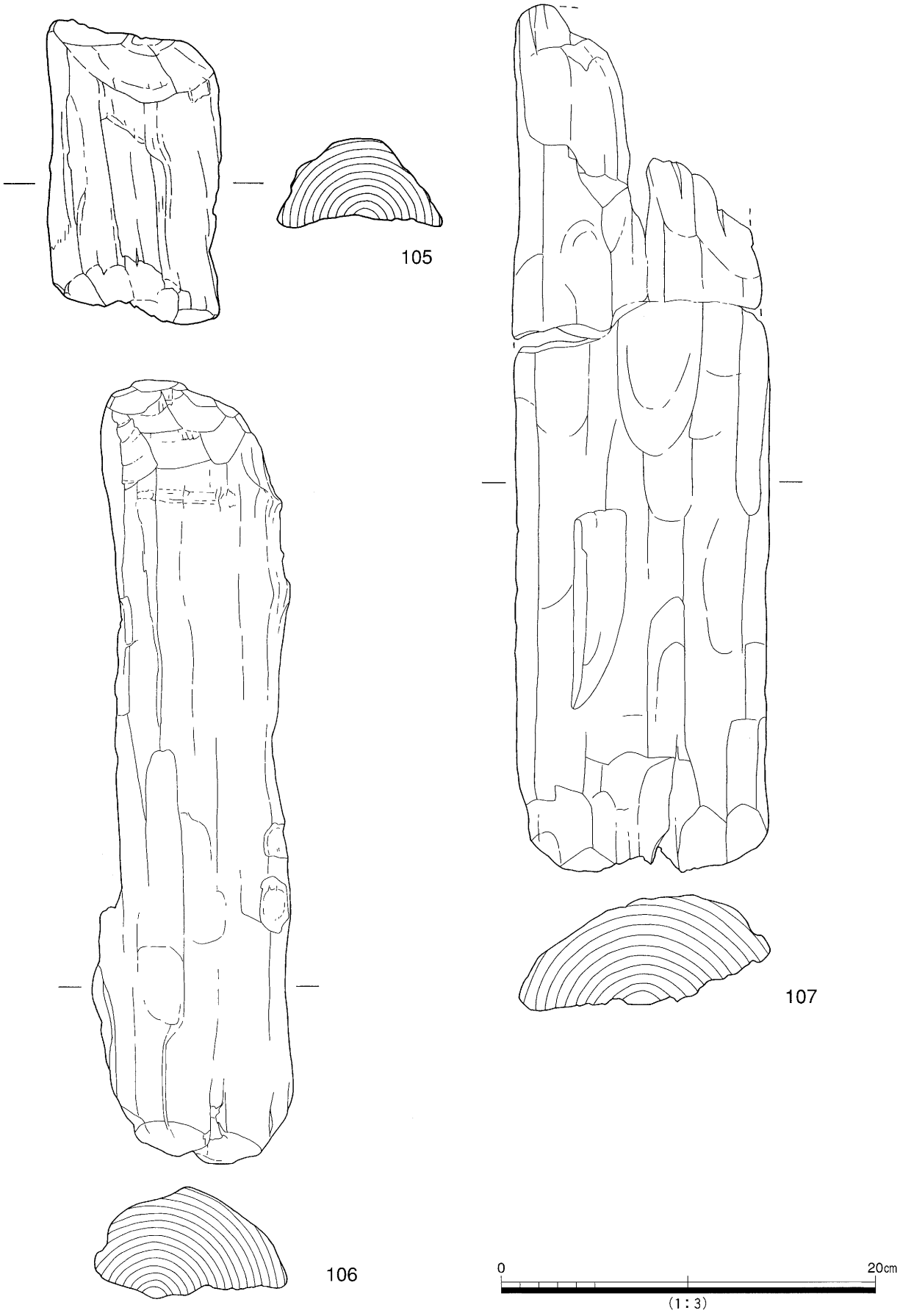
第45図　舟岡地区その他の加工材（7）半割材　中期末～後期初頭



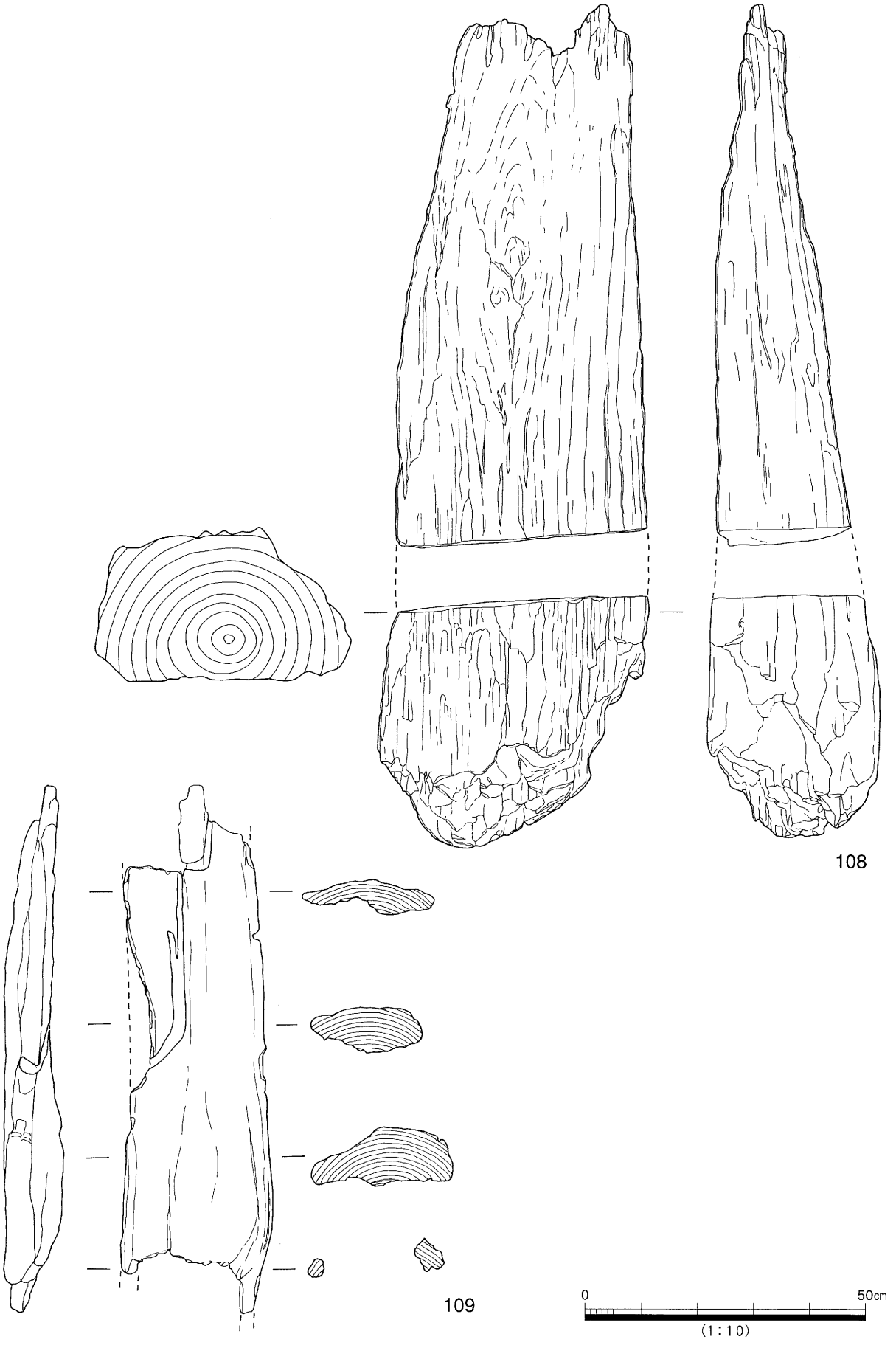
第46図　舟岡地区その他の加工材（8）半割材　中期末～後期初頭



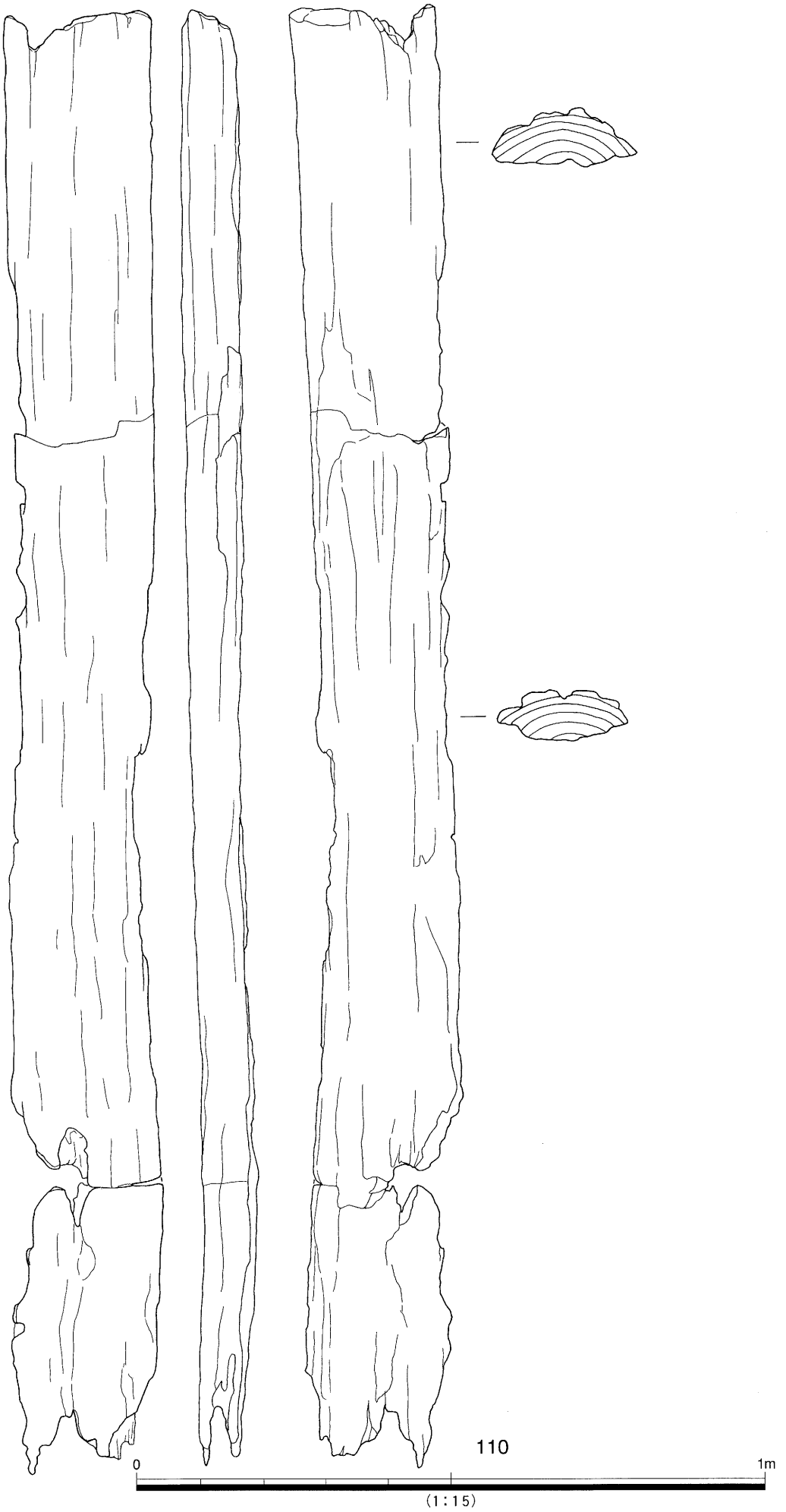
第47図　舟岡地区その他の加工材（9）半割材　中期末～後期初頭



第48図 舟岡地区その他の加工材（10）半割材　中期末～後期初頭



第49図　舟岡地区その他の加工材（11）半割材・分割材　中期末～後期初頭

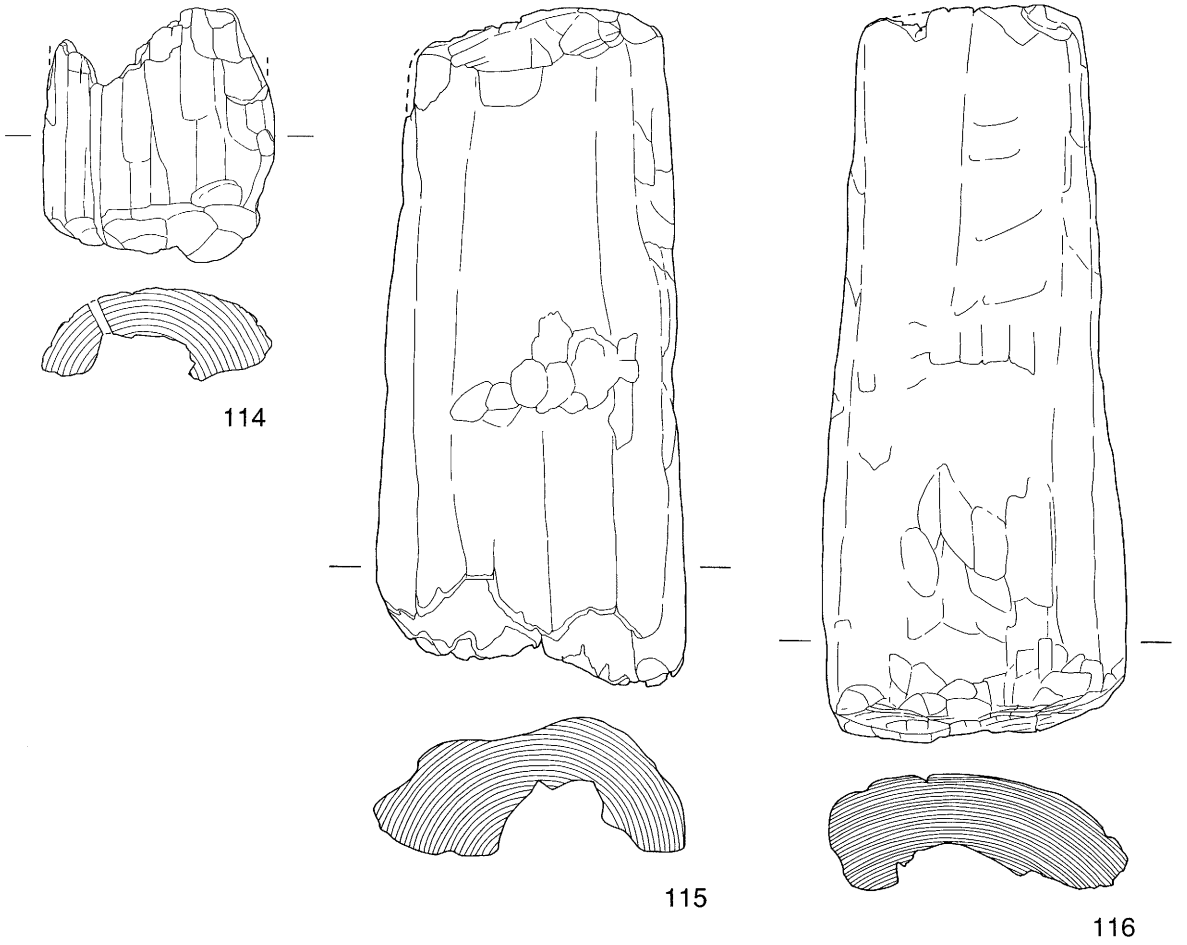


第50図 舟岡地区その他の加工材（12）分割材　中期末～後期初頭

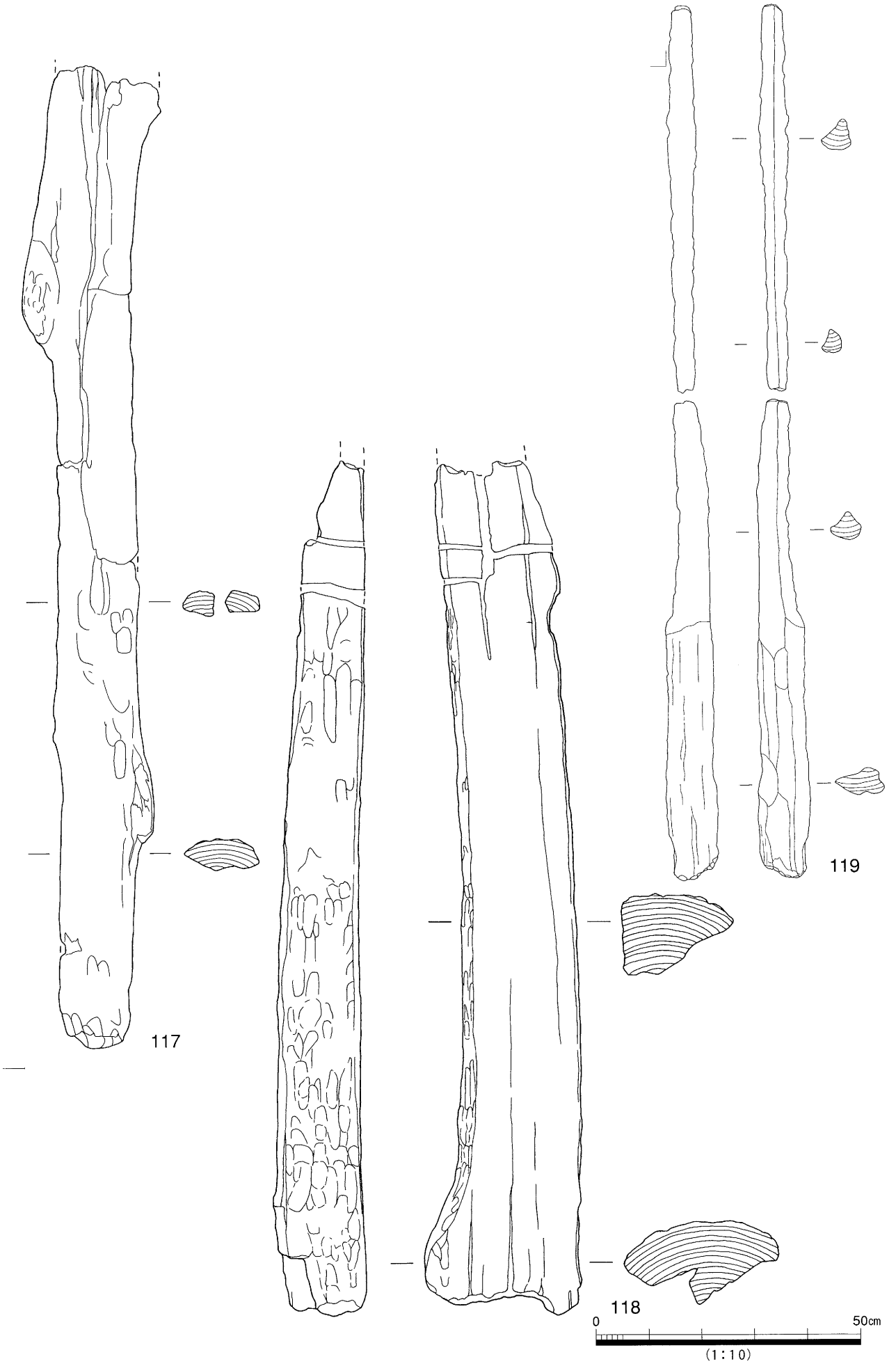
第51図　舟岡地区その他の加工材（13）分割材　中期末～後期初頭

0　1m
(1:15)

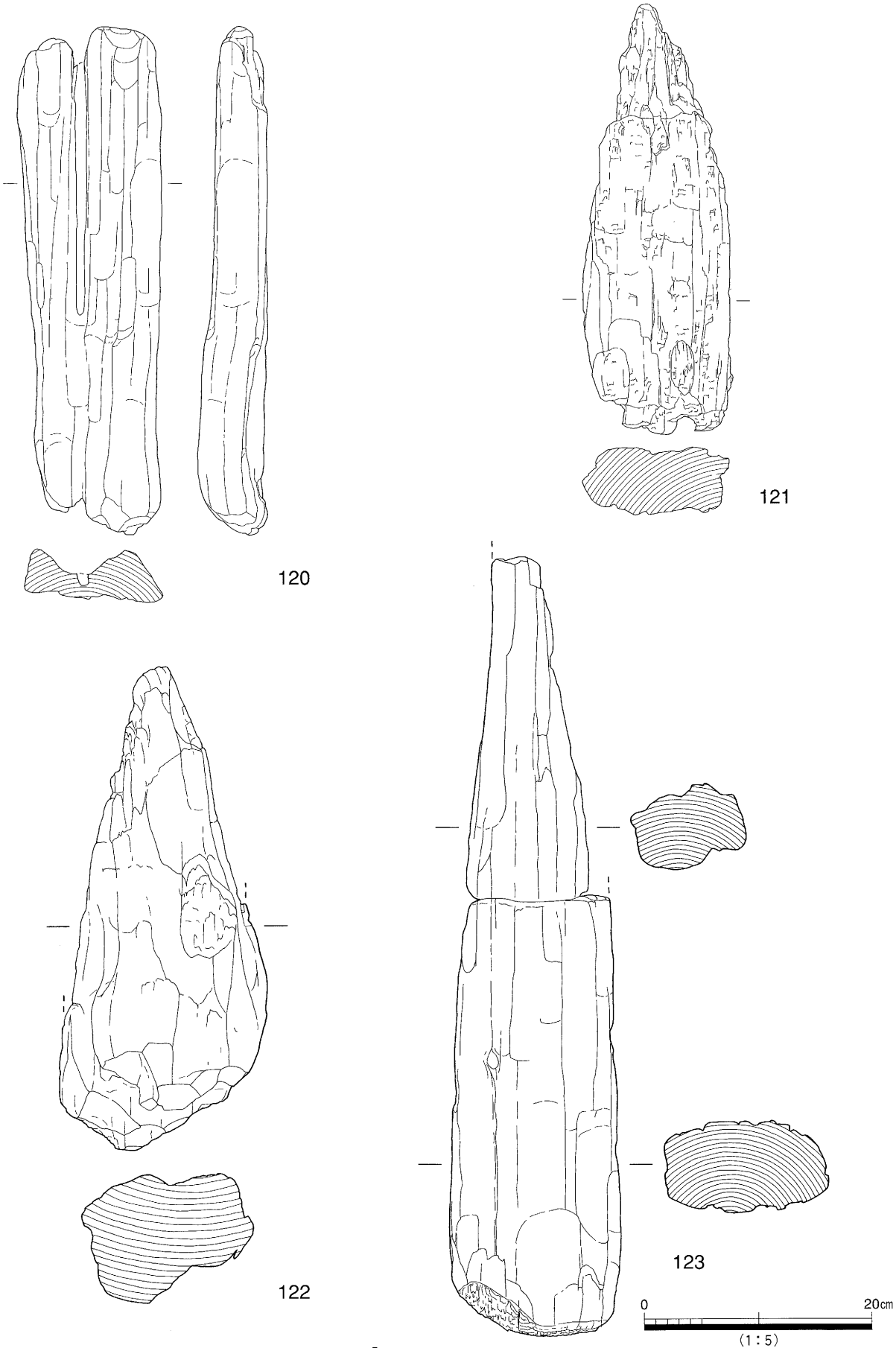
第52図　舟岡地区その他の加工材（14）分割材　中期末～後期初頭



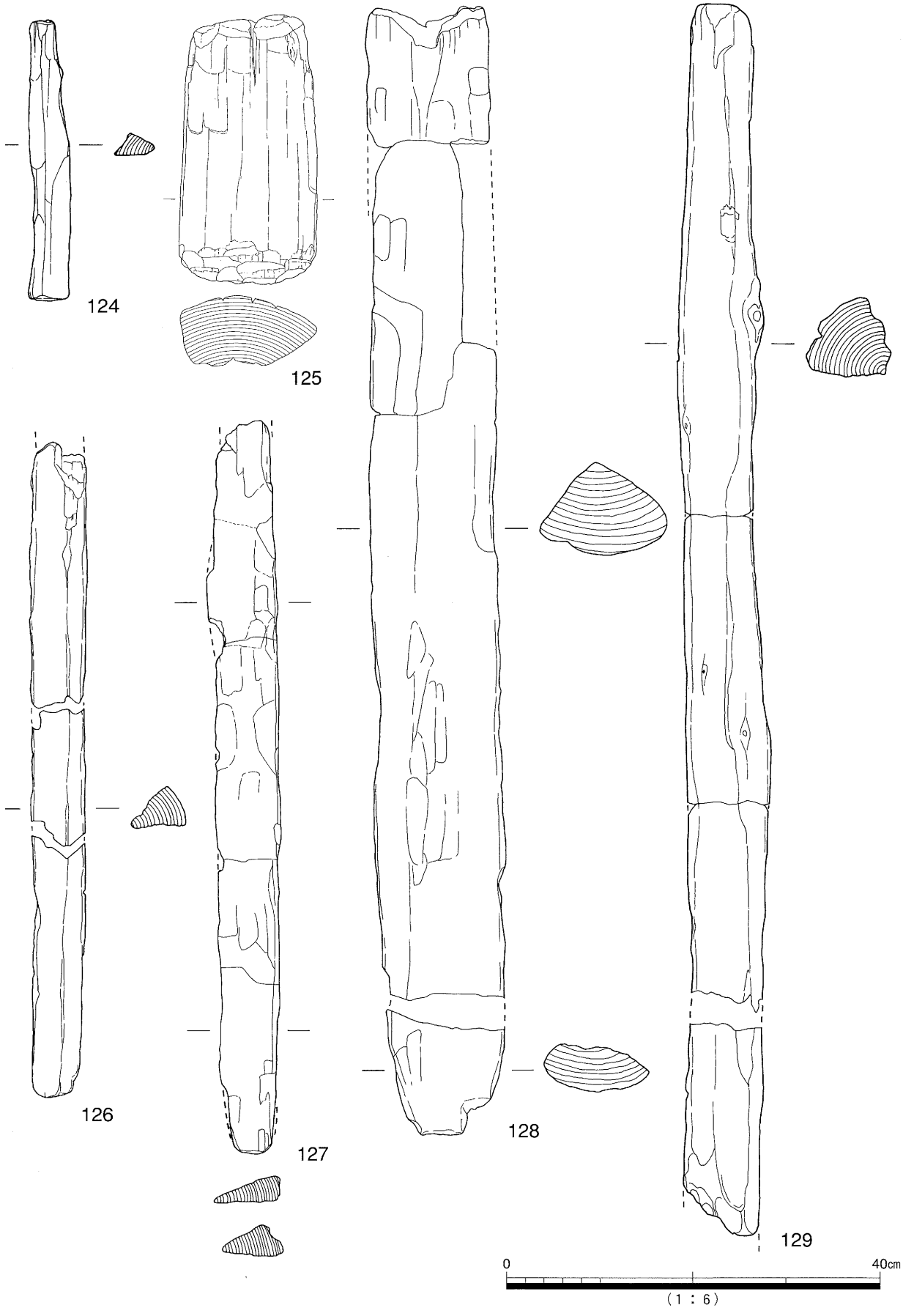
第53図　舟岡地区その他の加工材（15）分割材　中期末～後期初頭



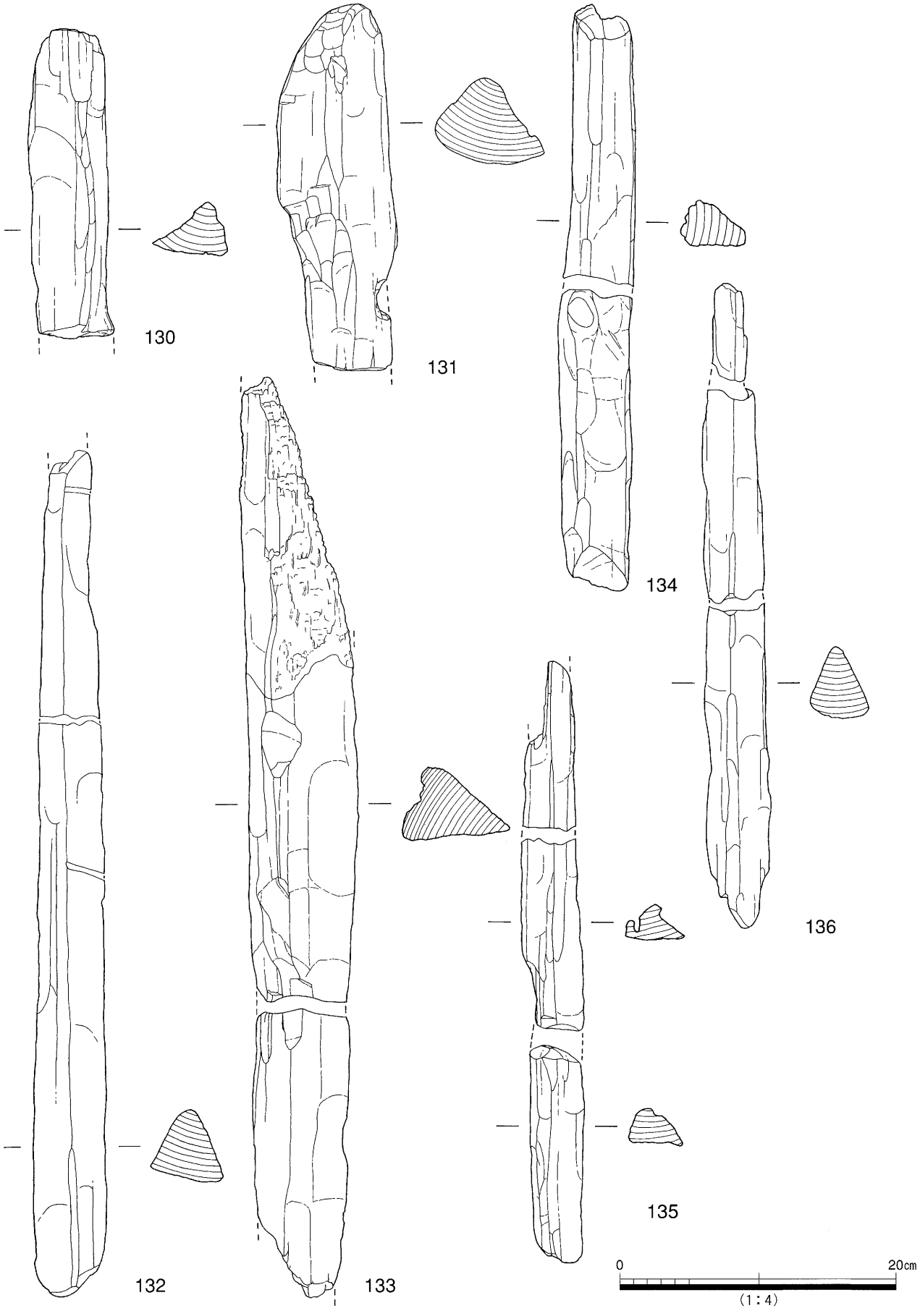
第54図　舟岡地区その他の加工材（16）分割材　中期末～後期初頭



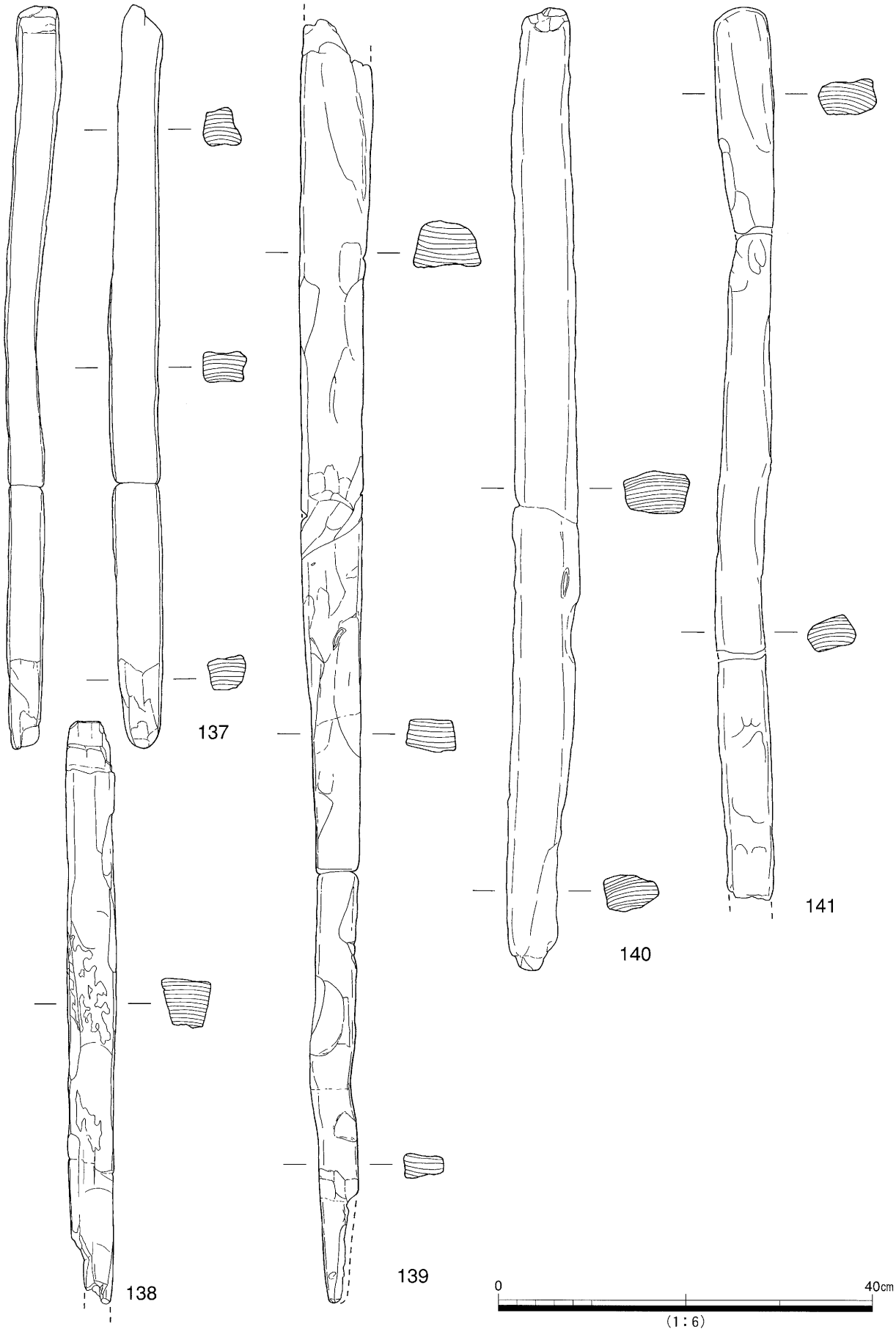
第55図　舟岡地区その他の加工材（17）分割材　中期末～後期初頭



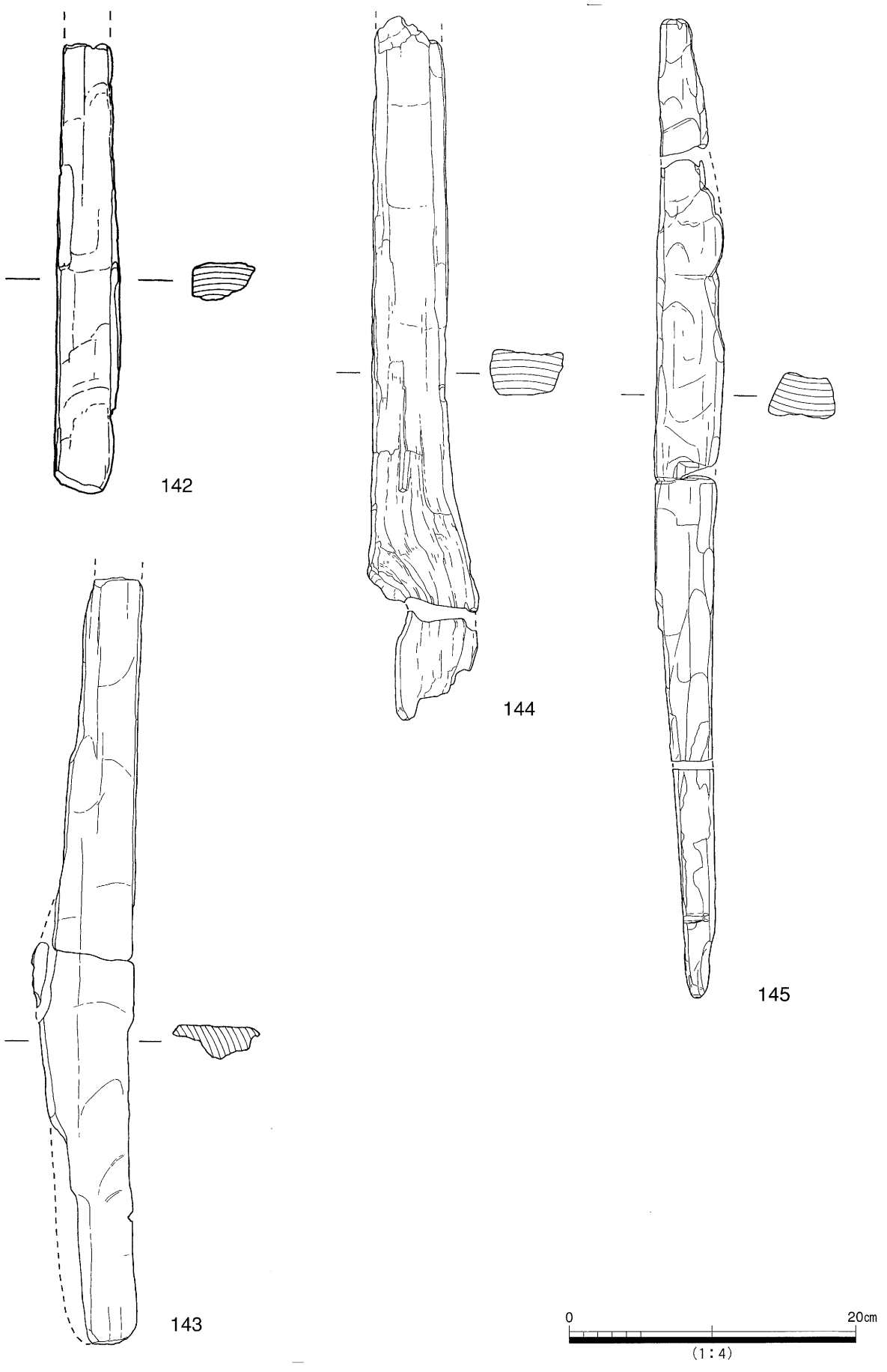
第56図　舟岡地区その他の加工材（18）分割材　中期末～後期初頭



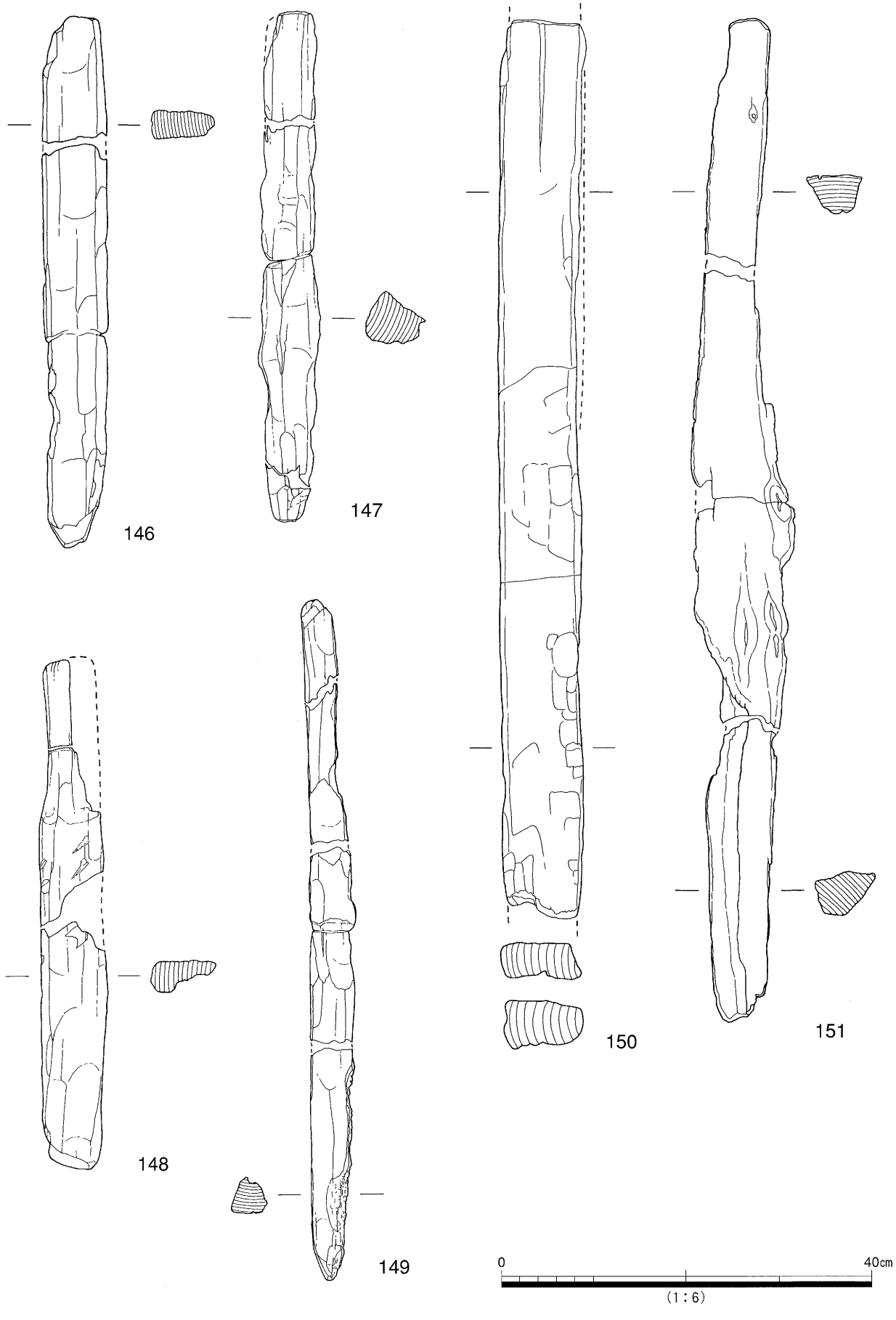
第57図　舟岡地区その他の加工材（19）分割材　中期末～後期初頭



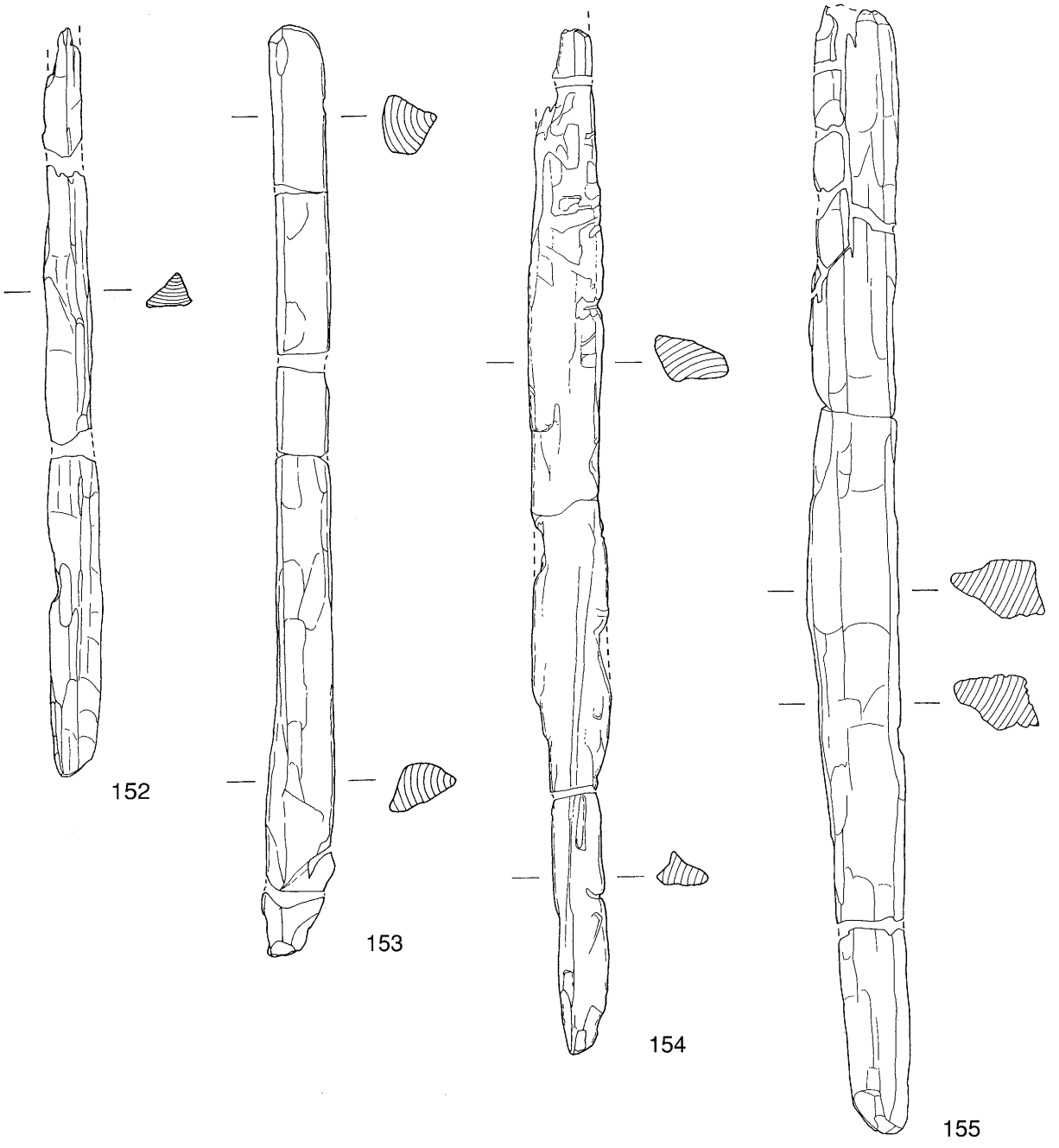
第58図　舟岡地区その他の加工材（20）分割材　中期末～後期初頭

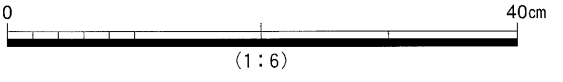


第59図　舟岡地区その他の加工材（21）分割材　中期末～後期初頭

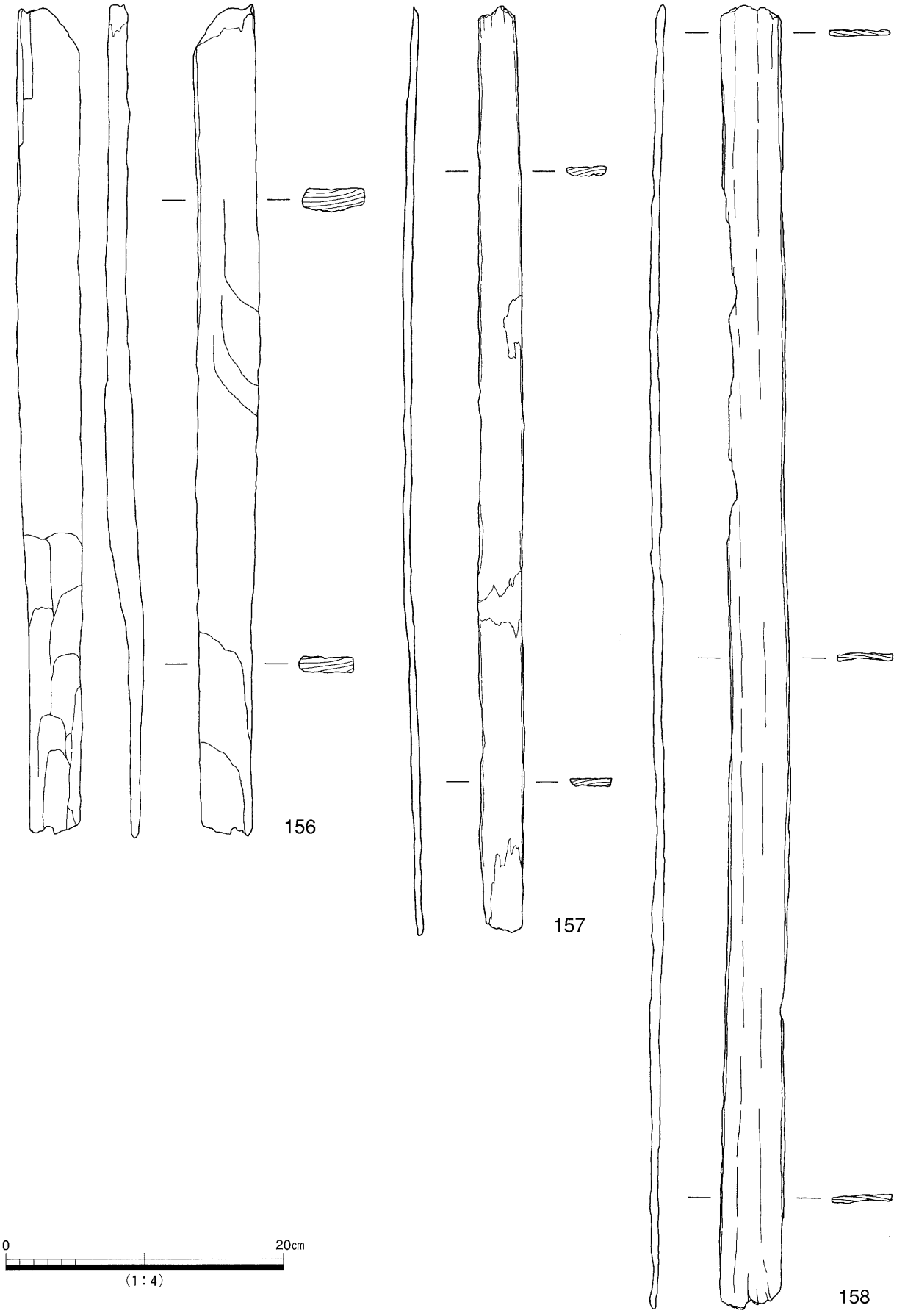


第60図　舟岡地区その他の加工材（22）分割材　中期末～後期初頭

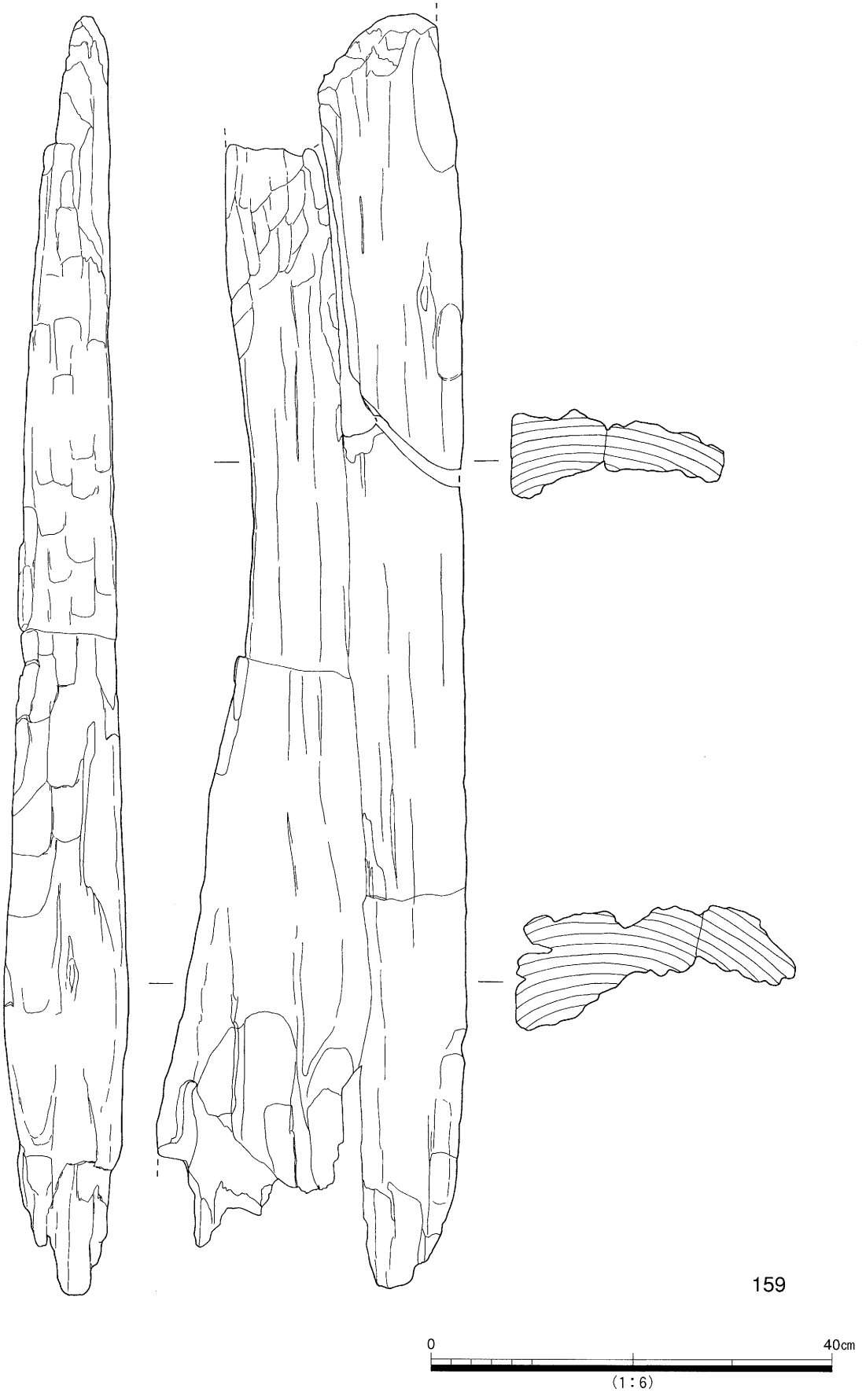




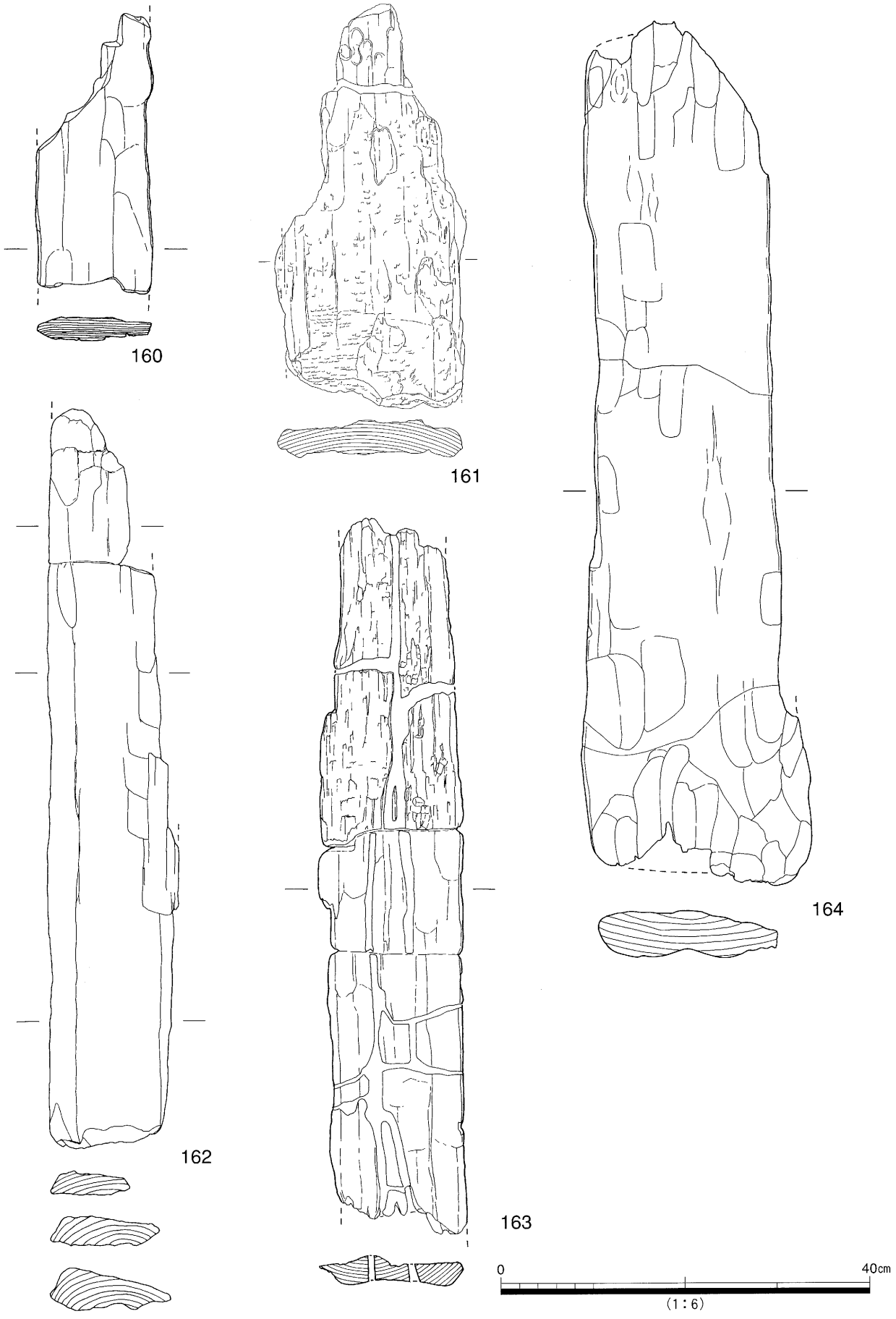
第61図　舟岡地区その他の加工材（23）分割材　中期末～後期初頭



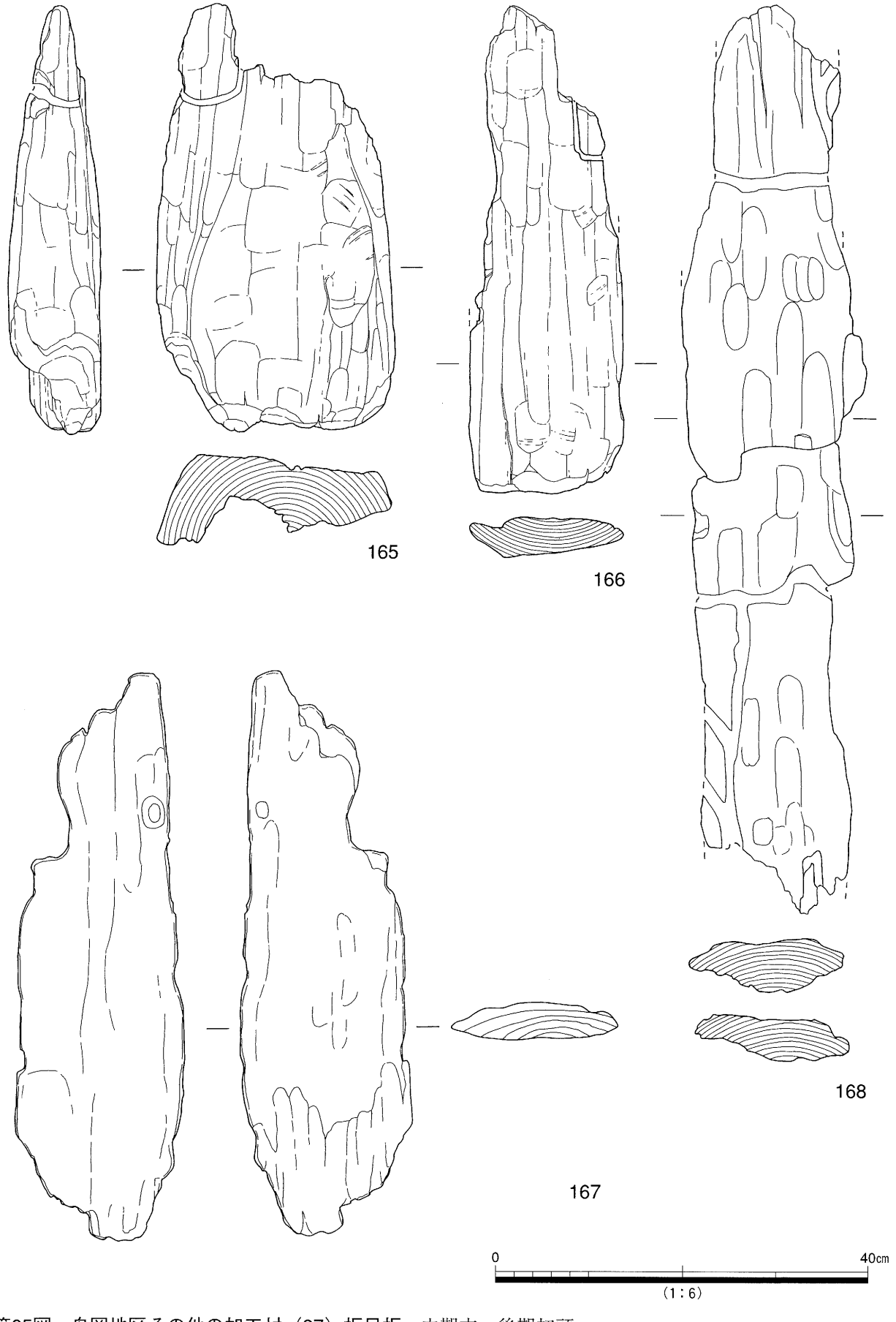
第62図　舟岡地区その他の加工材（24）板目板　中期末～後期初頭



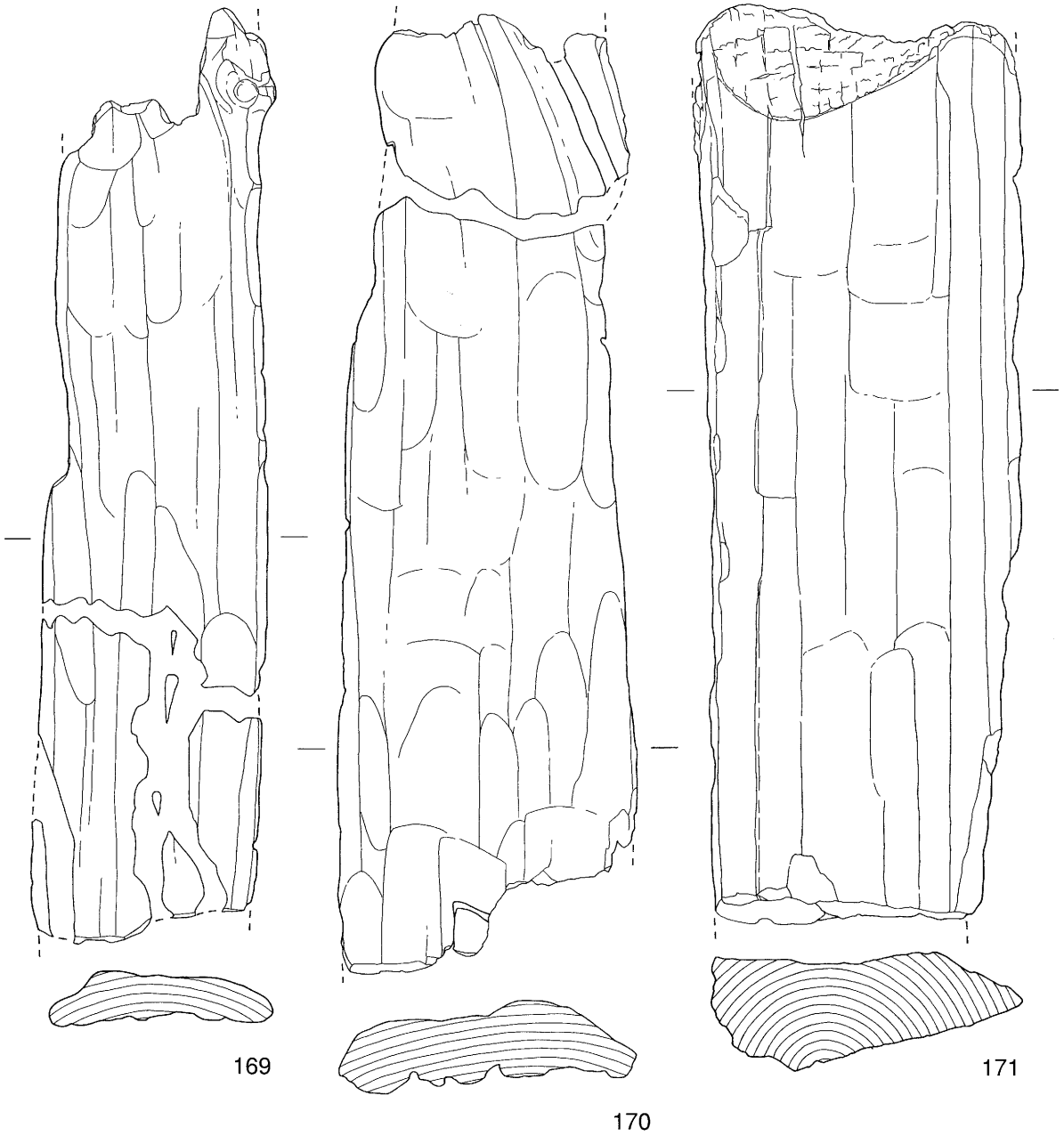
第63図　舟岡地区その他の加工材（25）板目板　中期末～後期初頭

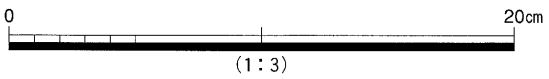


第64図　舟岡地区その他の加工材（26）板目板　中期末～後期初頭

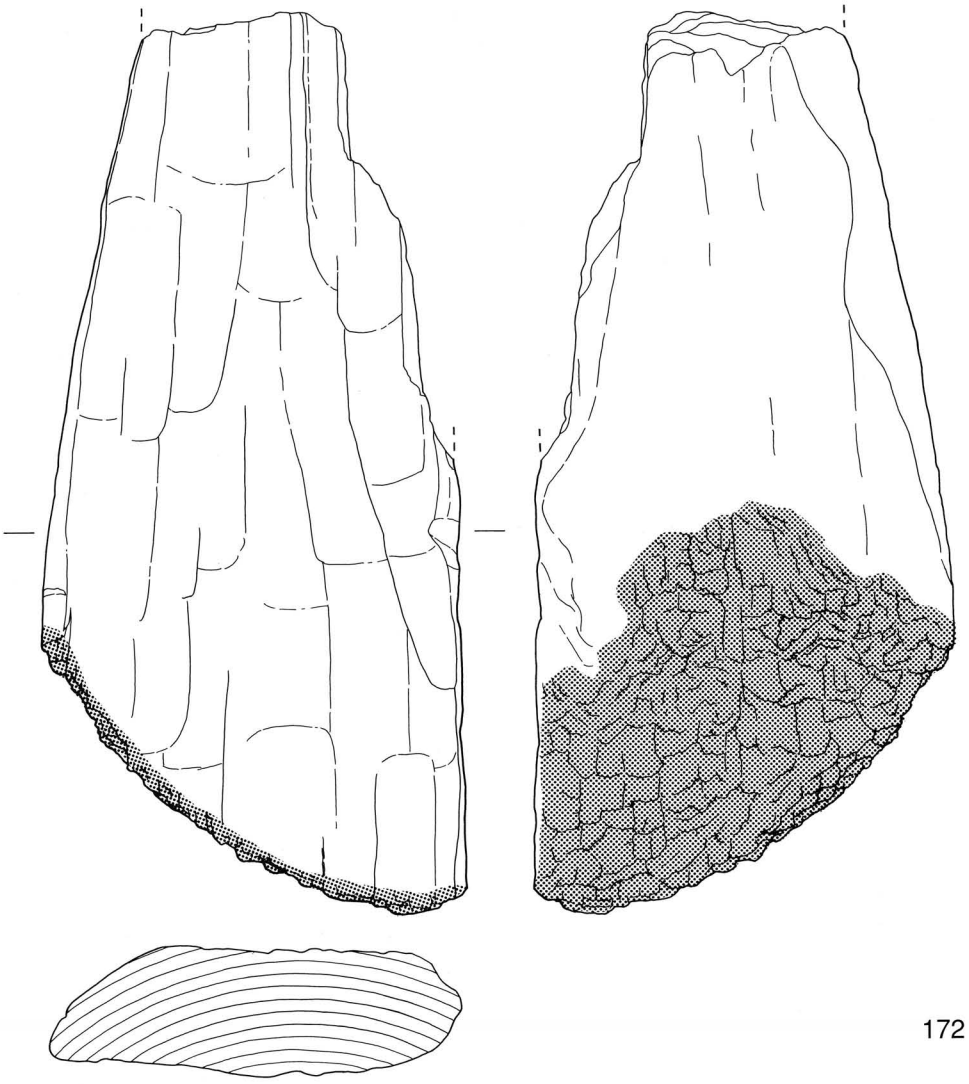


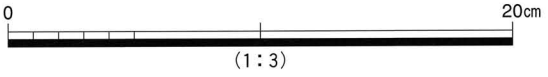
第65図　舟岡地区その他の加工材（27）板目板　中期末～後期初頭



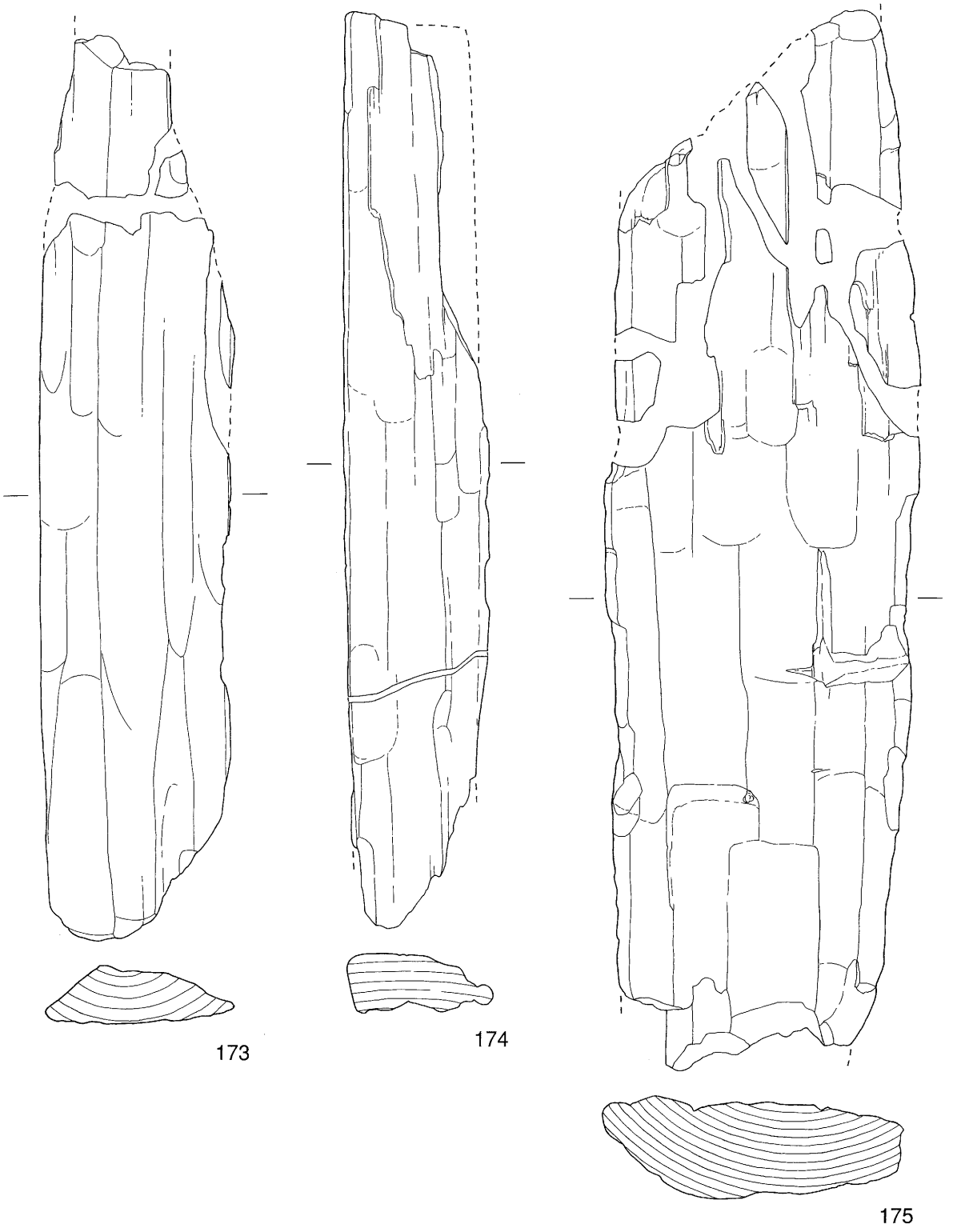


第66図　舟岡地区その他の加工材（28）板目板　中期末～後期初頭

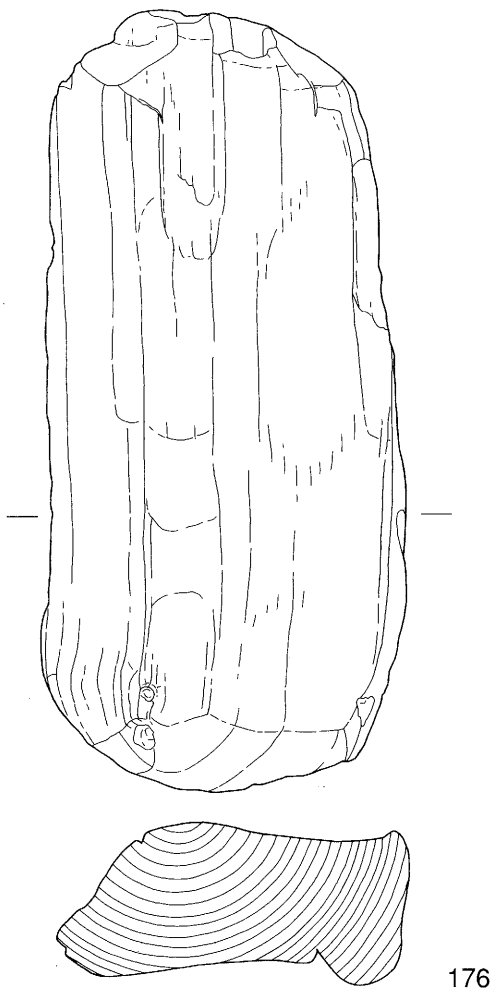


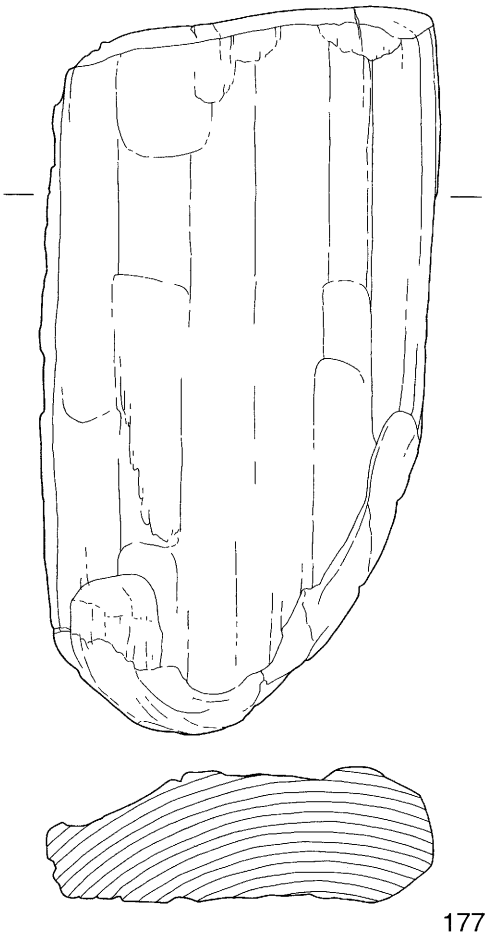


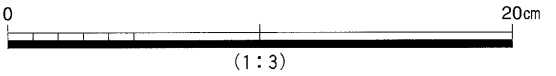
第67図　舟岡地区その他の加工材（29）板目板　中期末～後期初頭



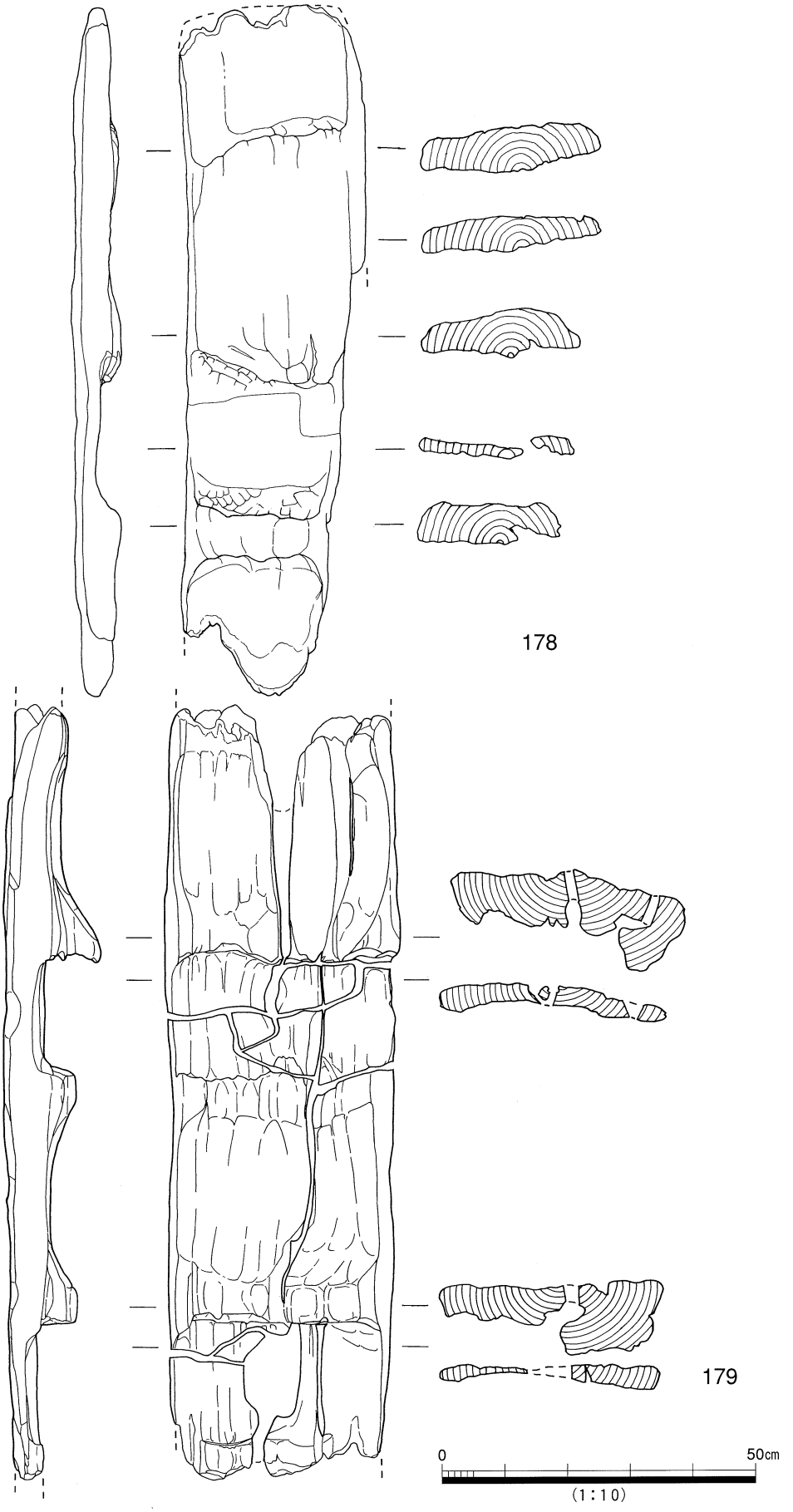
第68図　舟岡地区その他の加工材（30）板目板　中期末～後期初頭



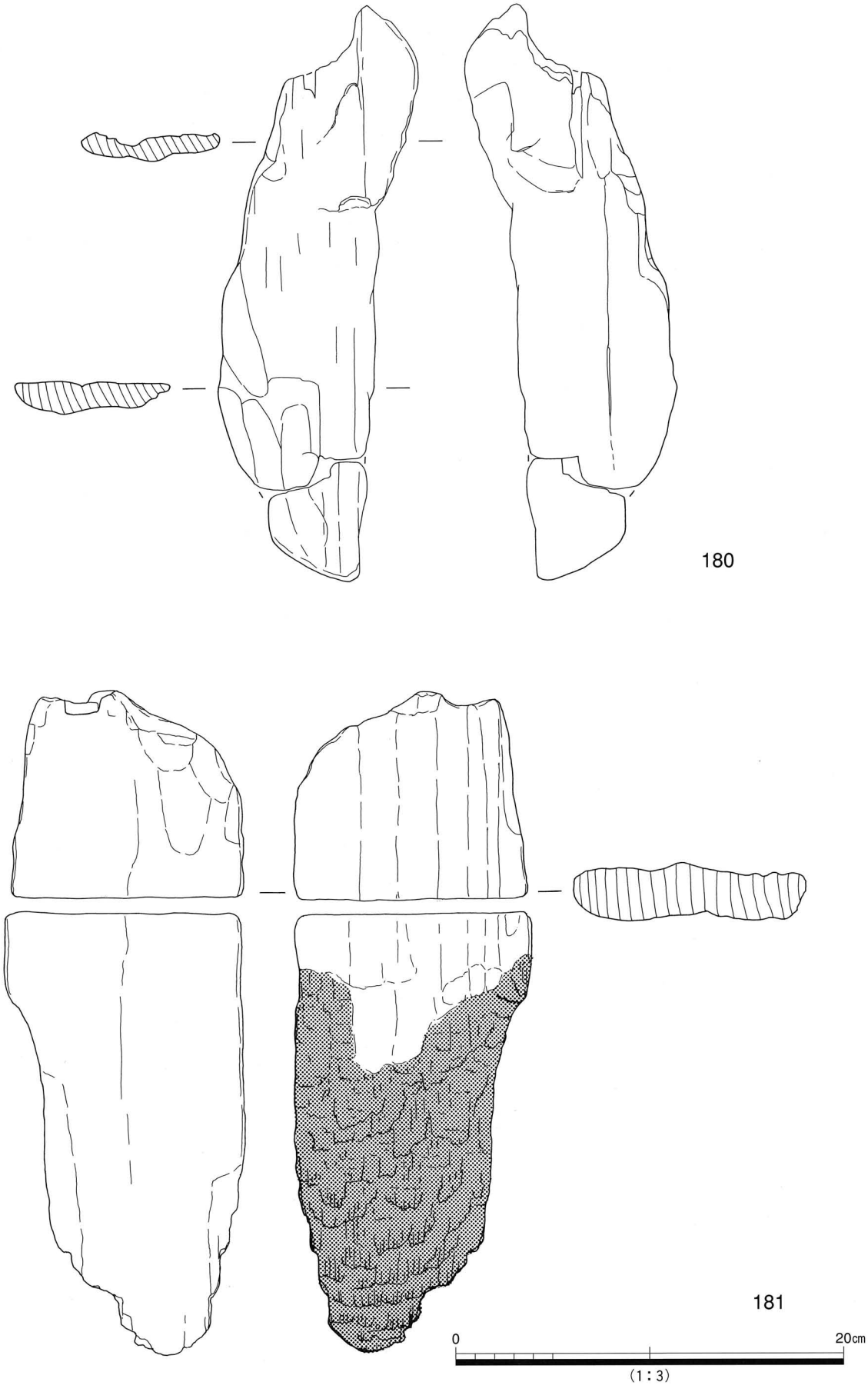




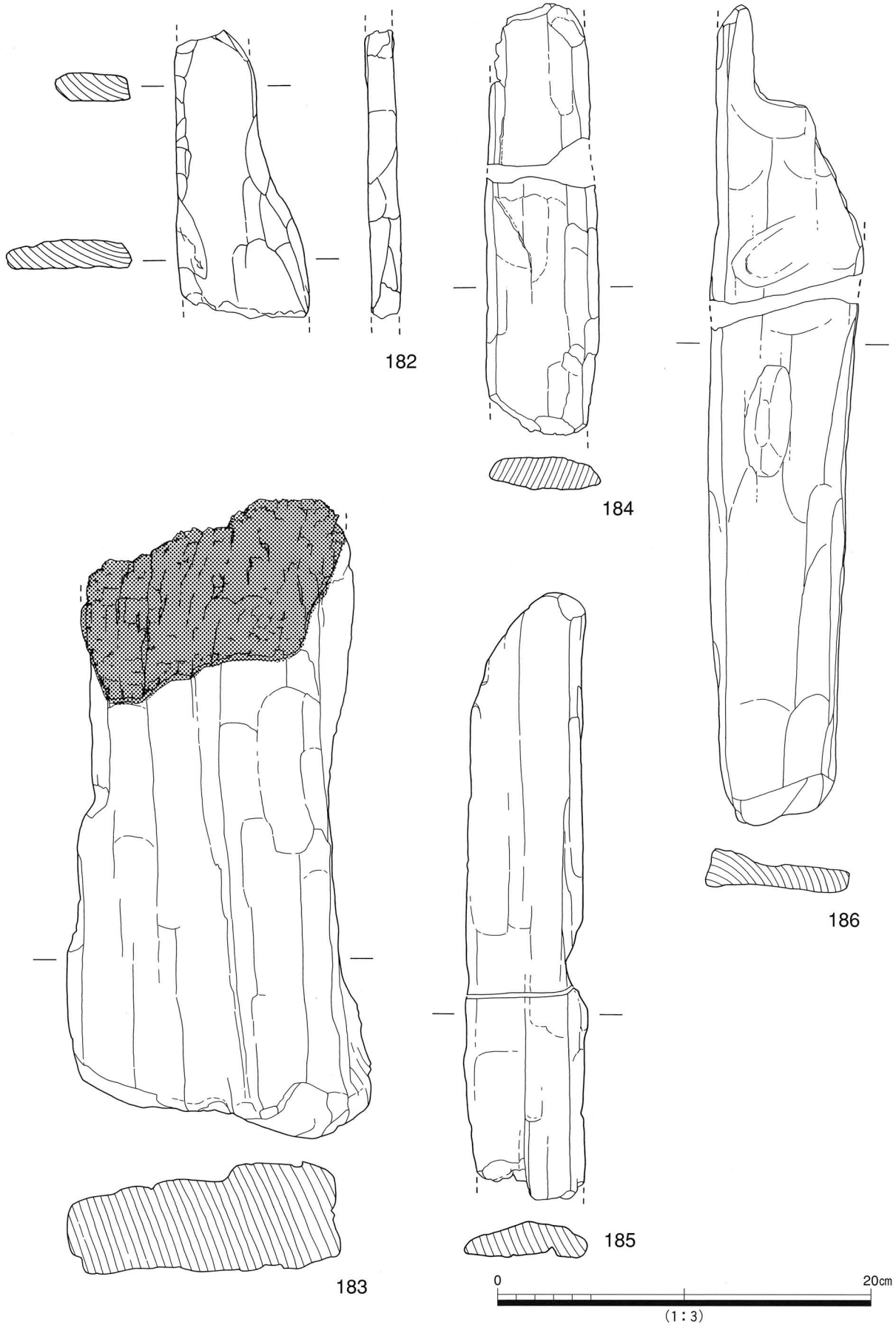
第69図　舟岡地区その他の加工材（31）板目板　中期末～後期初頭



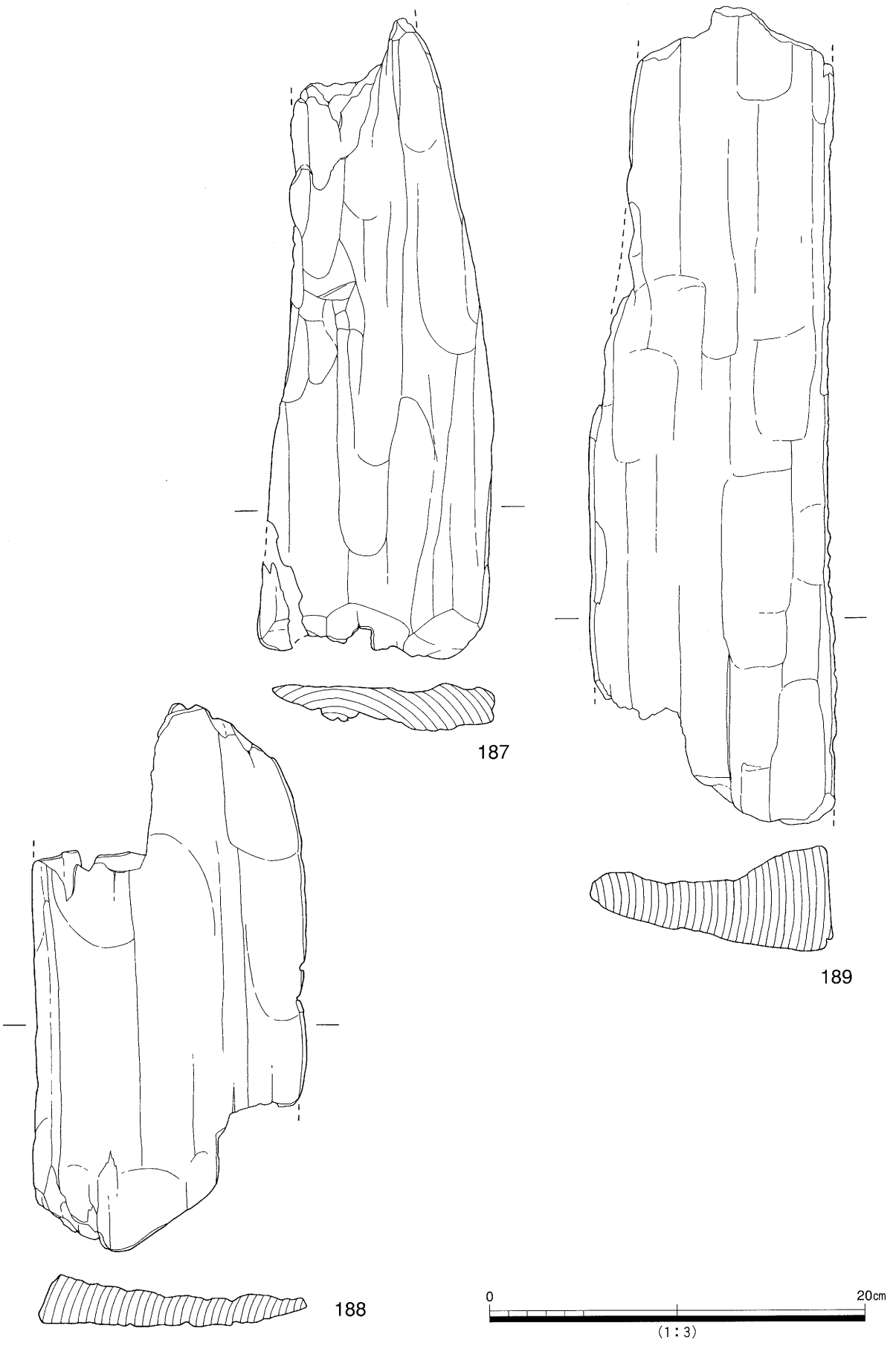
第70図　舟岡地区その他の加工材（32）柾目板　中期末～後期初頭



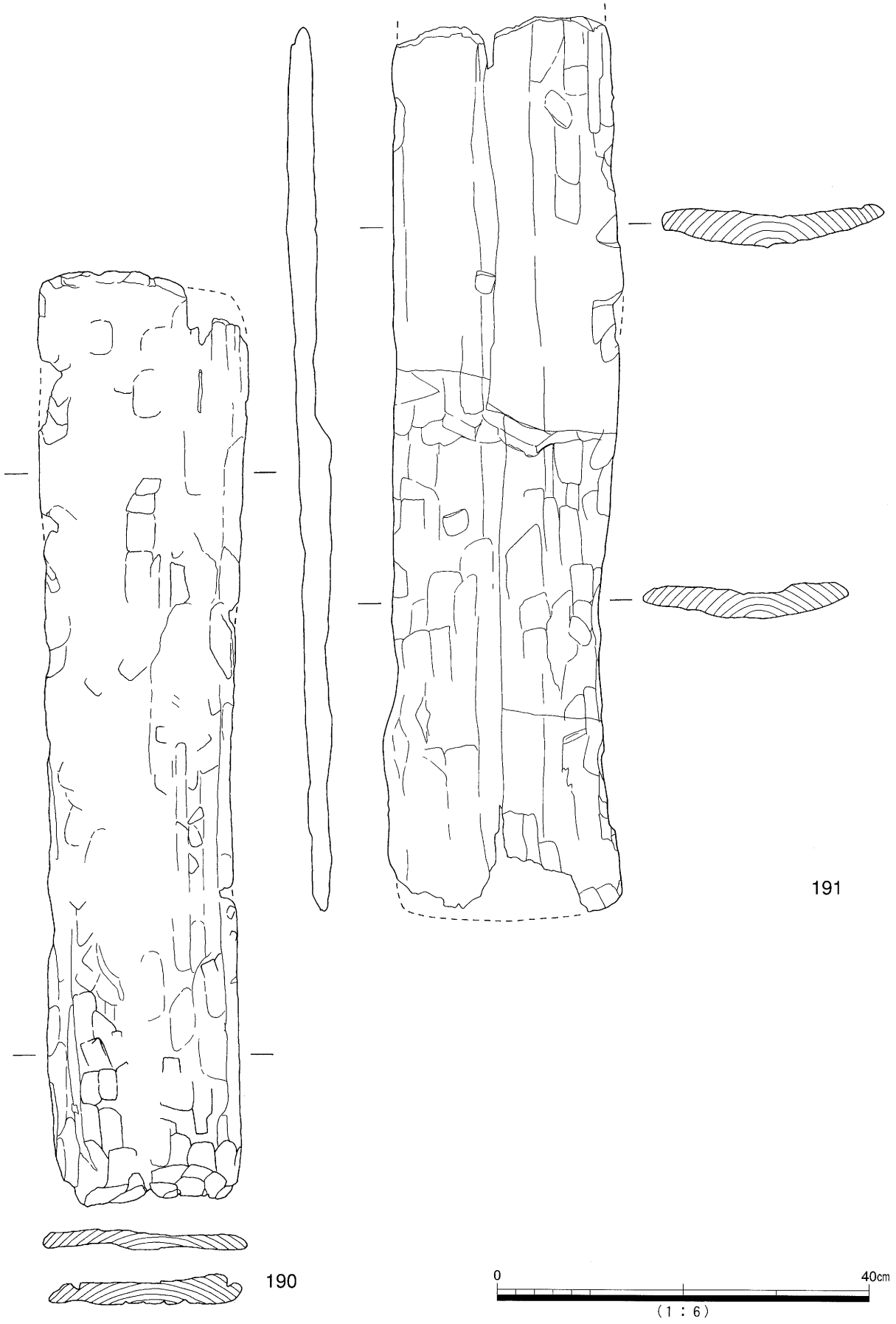
第71図　舟岡地区その他の加工材（33）柾目板　中期末～後期初頭



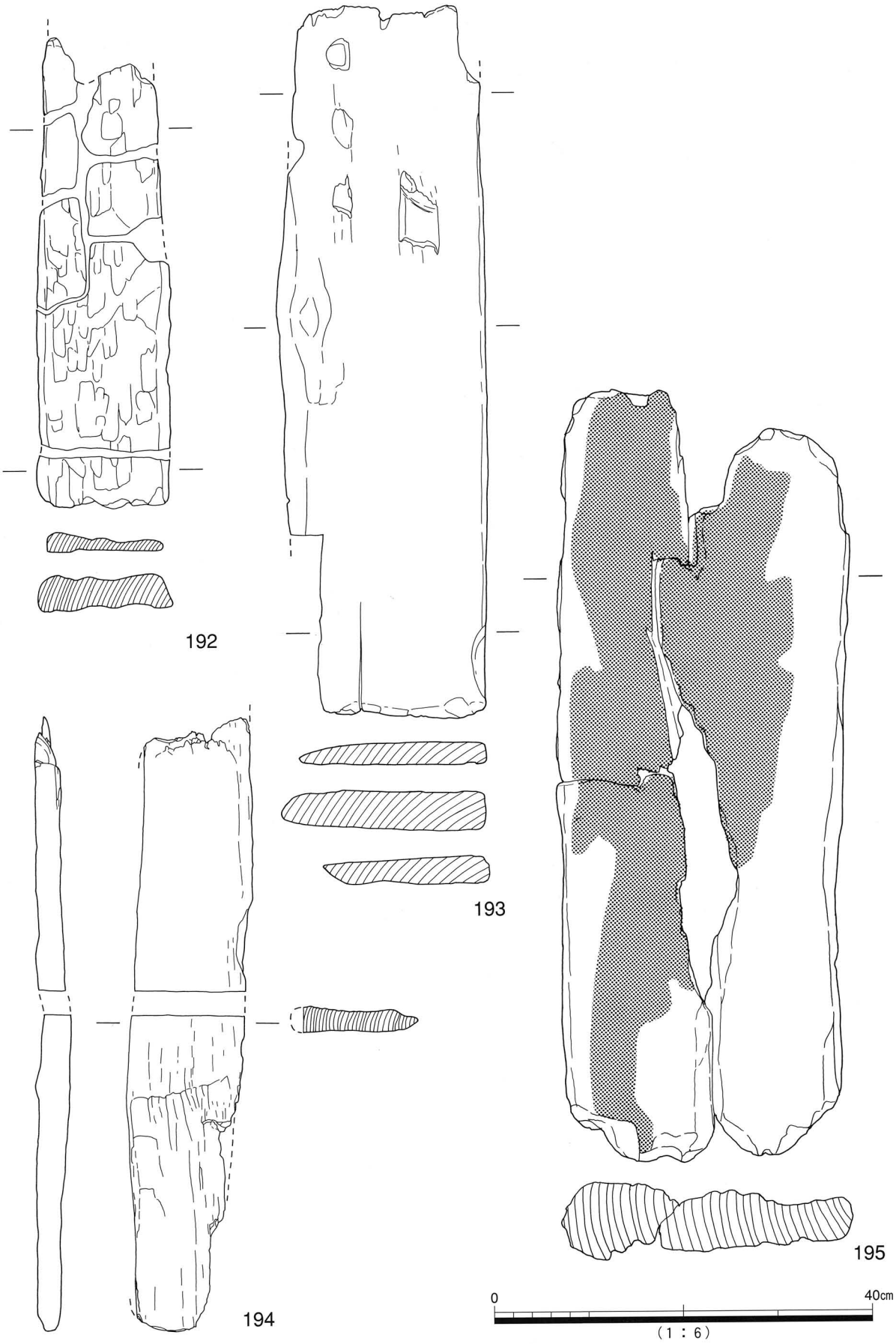
第72図　舟岡地区その他の加工材（34）柾目板　中期末～後期初頭



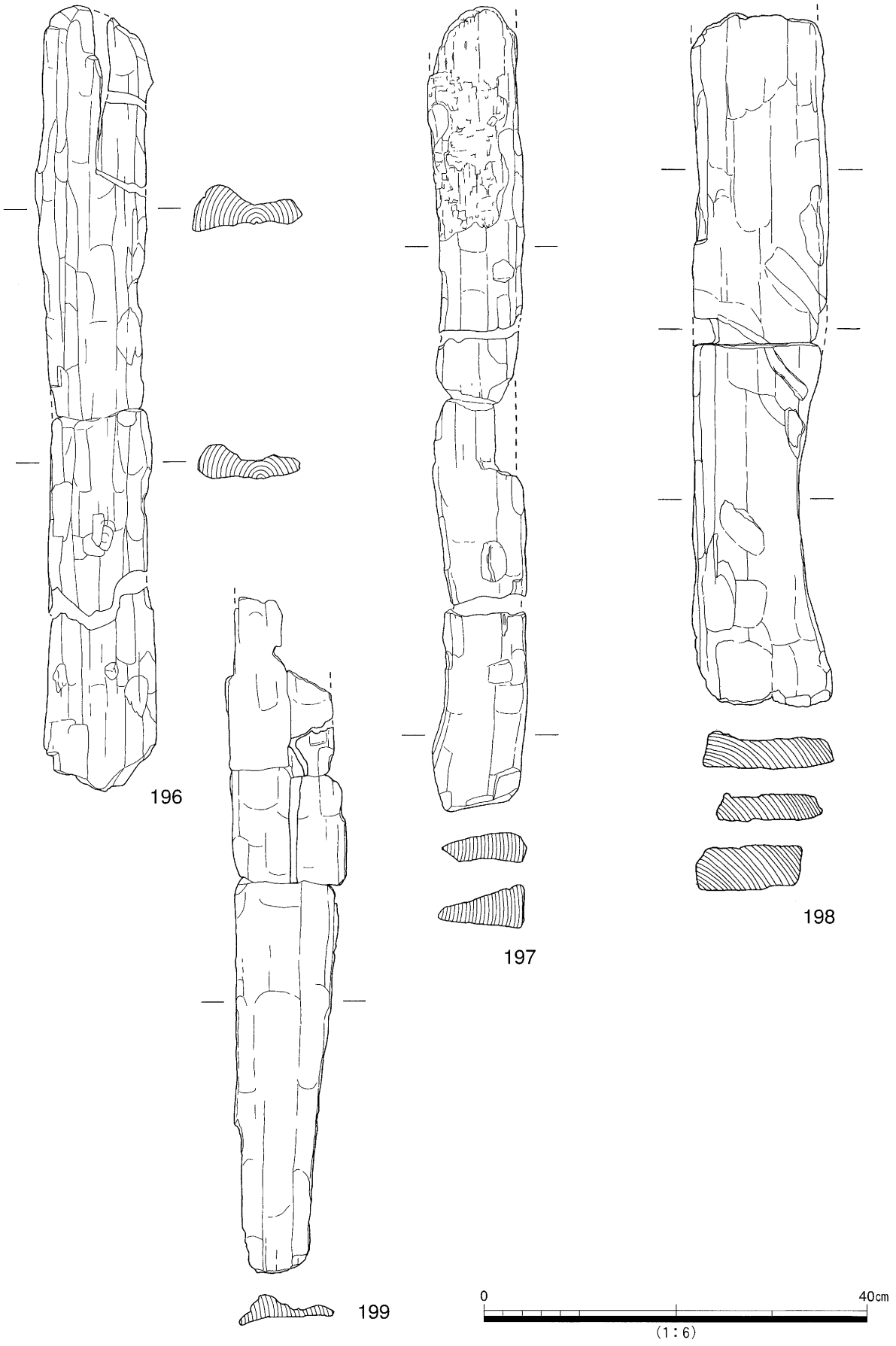
第73図　舟岡地区その他の加工材（35）柾目板　中期末～後期初頭



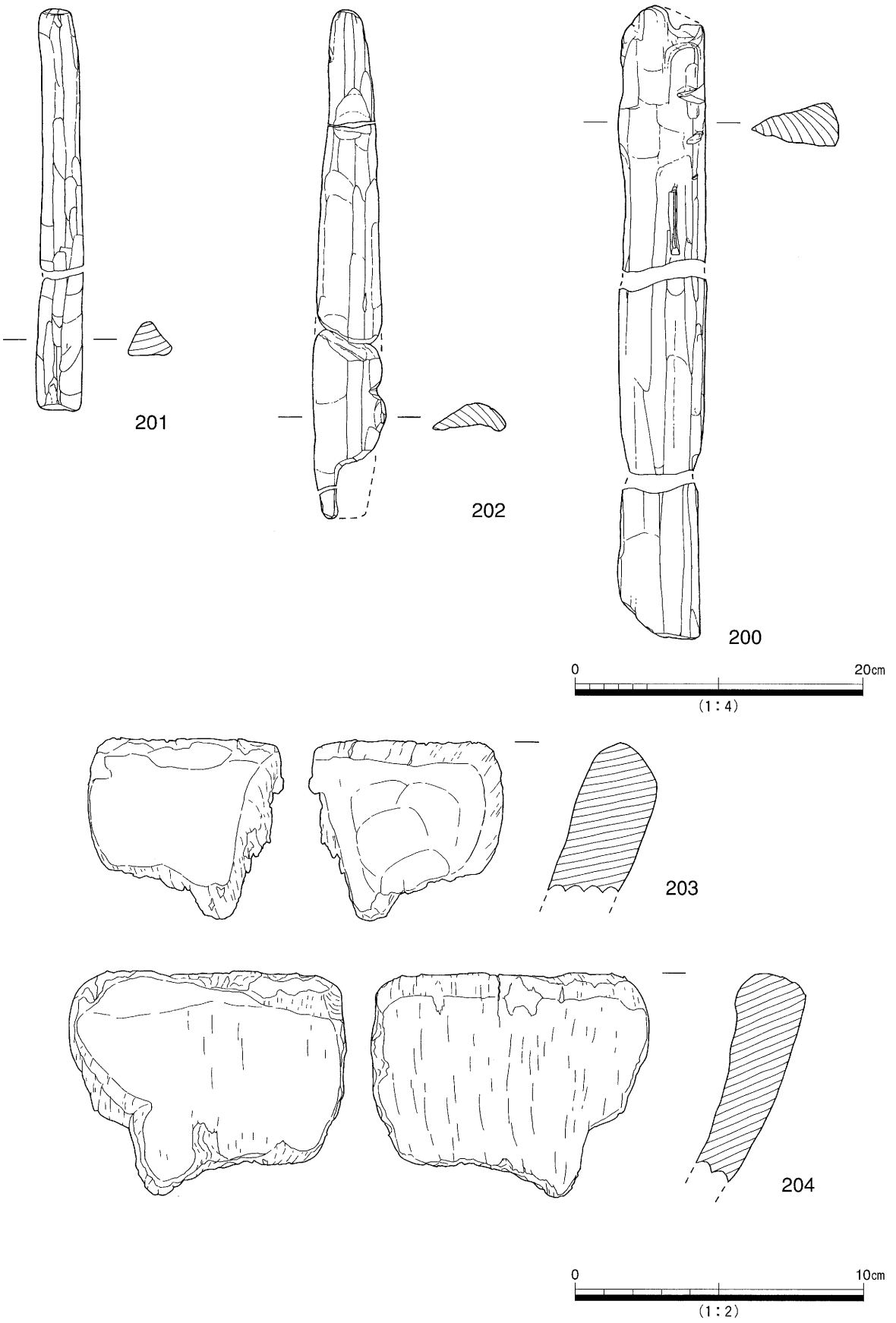
第74図　舟岡地区その他の加工材（36）柾目板　中期末～後期初頭



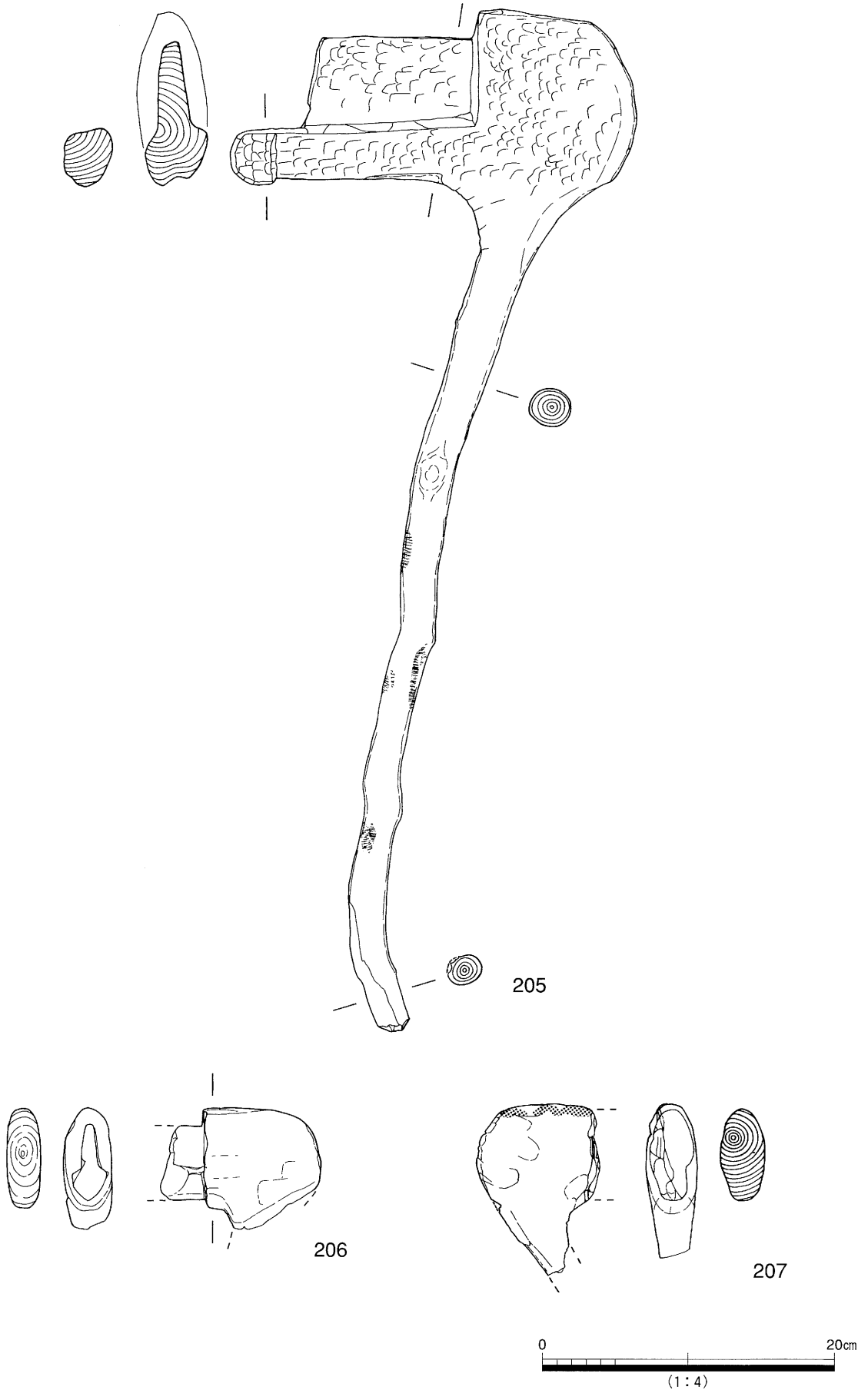
第75図　舟岡地区その他の加工材（37）柾目板　中期末～後期初頭



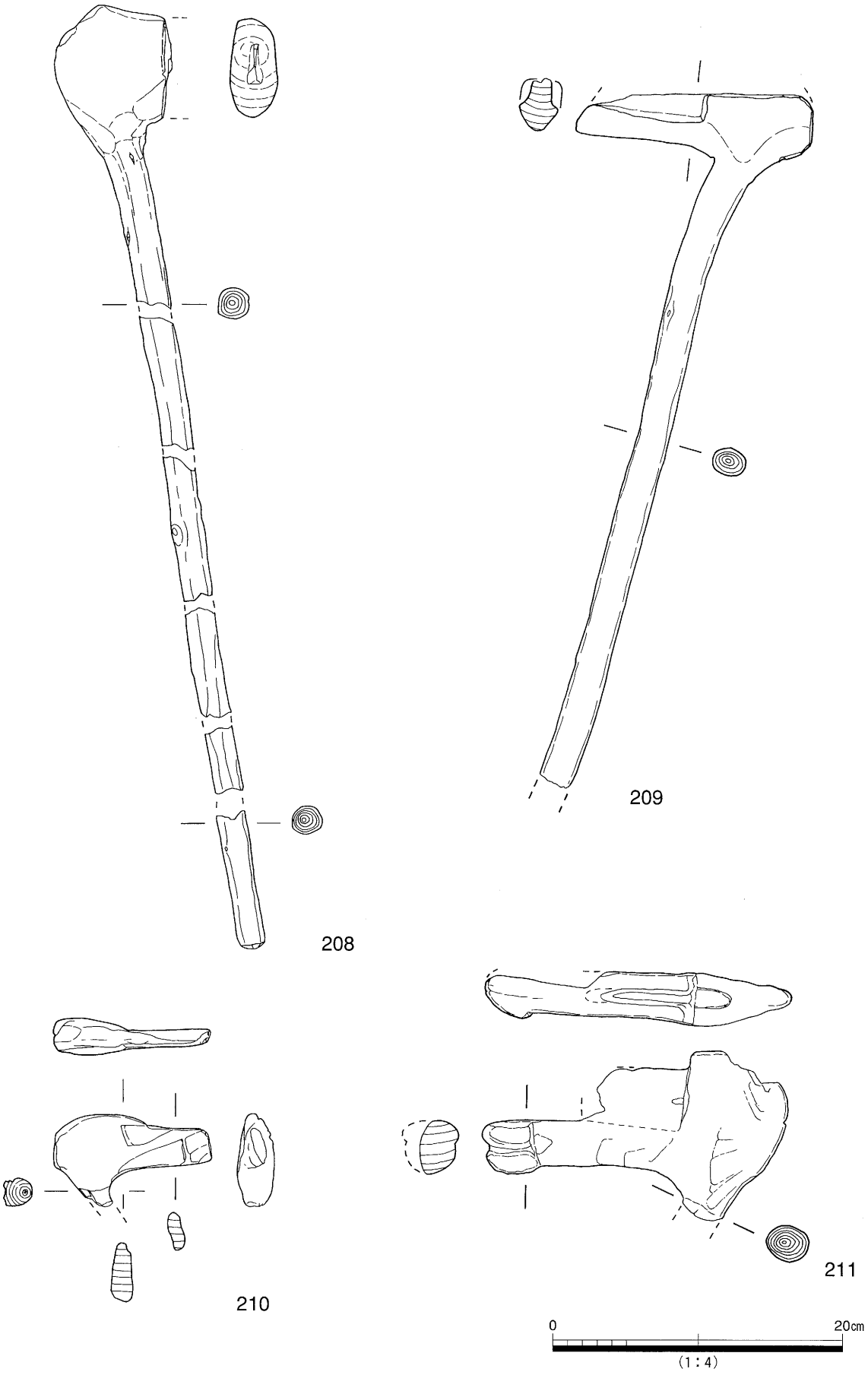
第76図　舟岡地区その他の加工材（38）柾目板　中期末～後期初頭



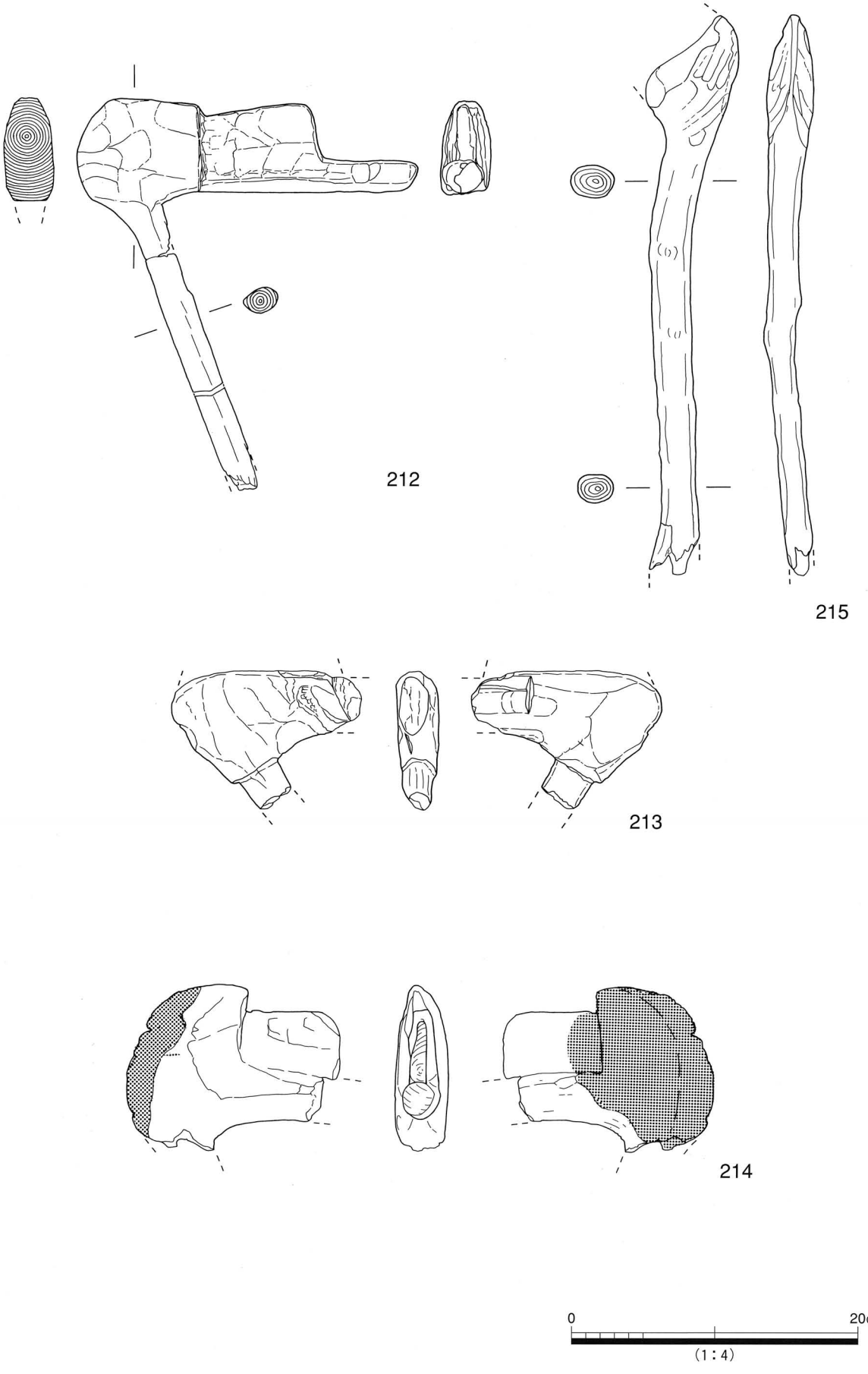
第77図　中出地区その他の加工材（39）分割材　中期末～後期初頭、
舟岡地区器具材（1）刳りもの　中期末以前（下図）



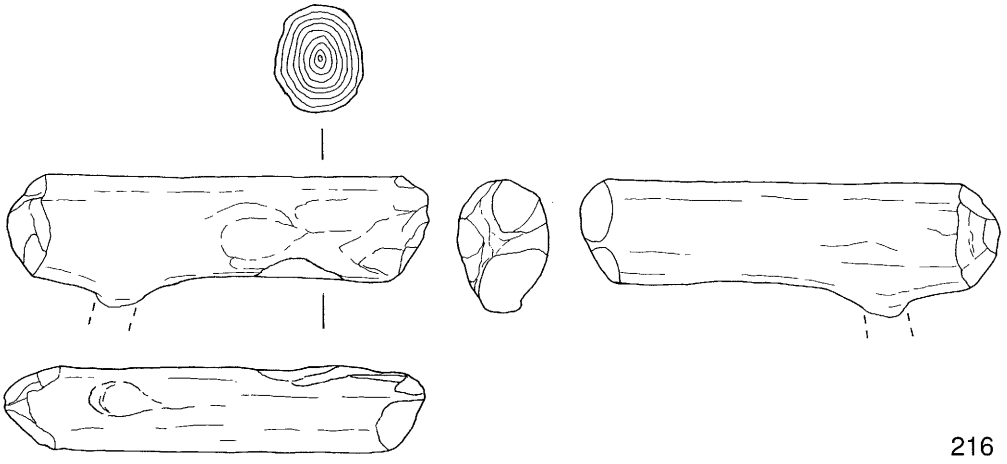
第78図　舟岡地区器具材（２）石斧柄　中期末～後期初頭



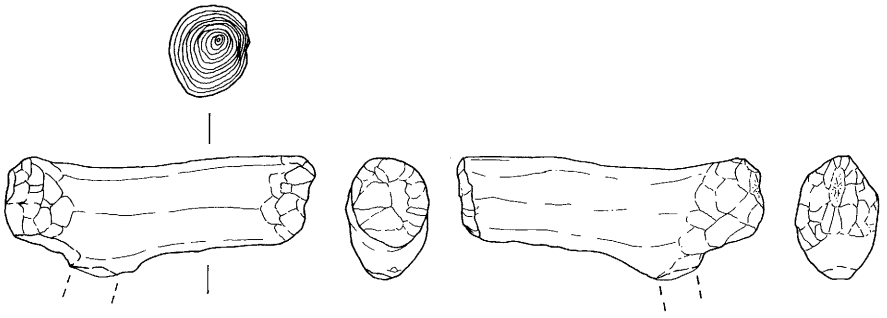
第79図　舟岡地区器具材（３）石斧柄　中期末～後期初頭



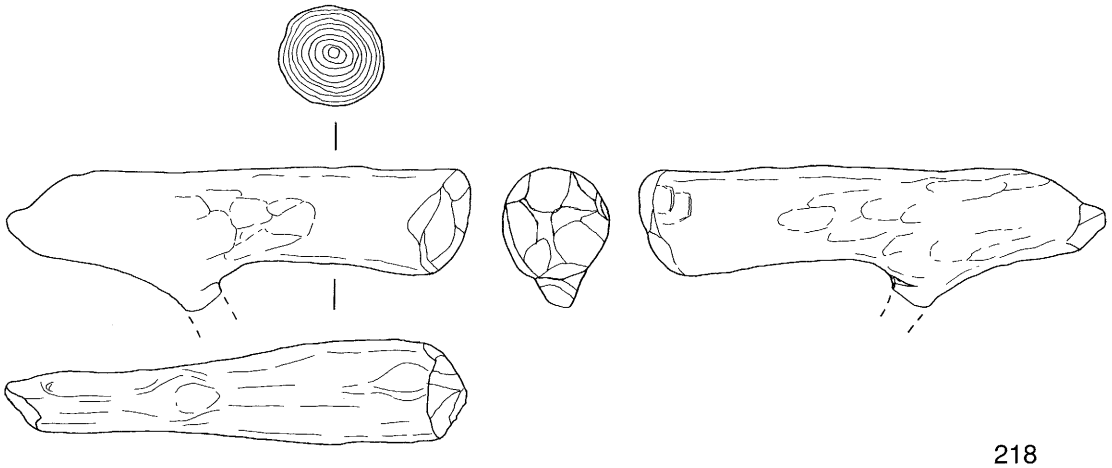
第80図　舟岡地区器具材（４）石斧柄　中期末～後期初頭



216



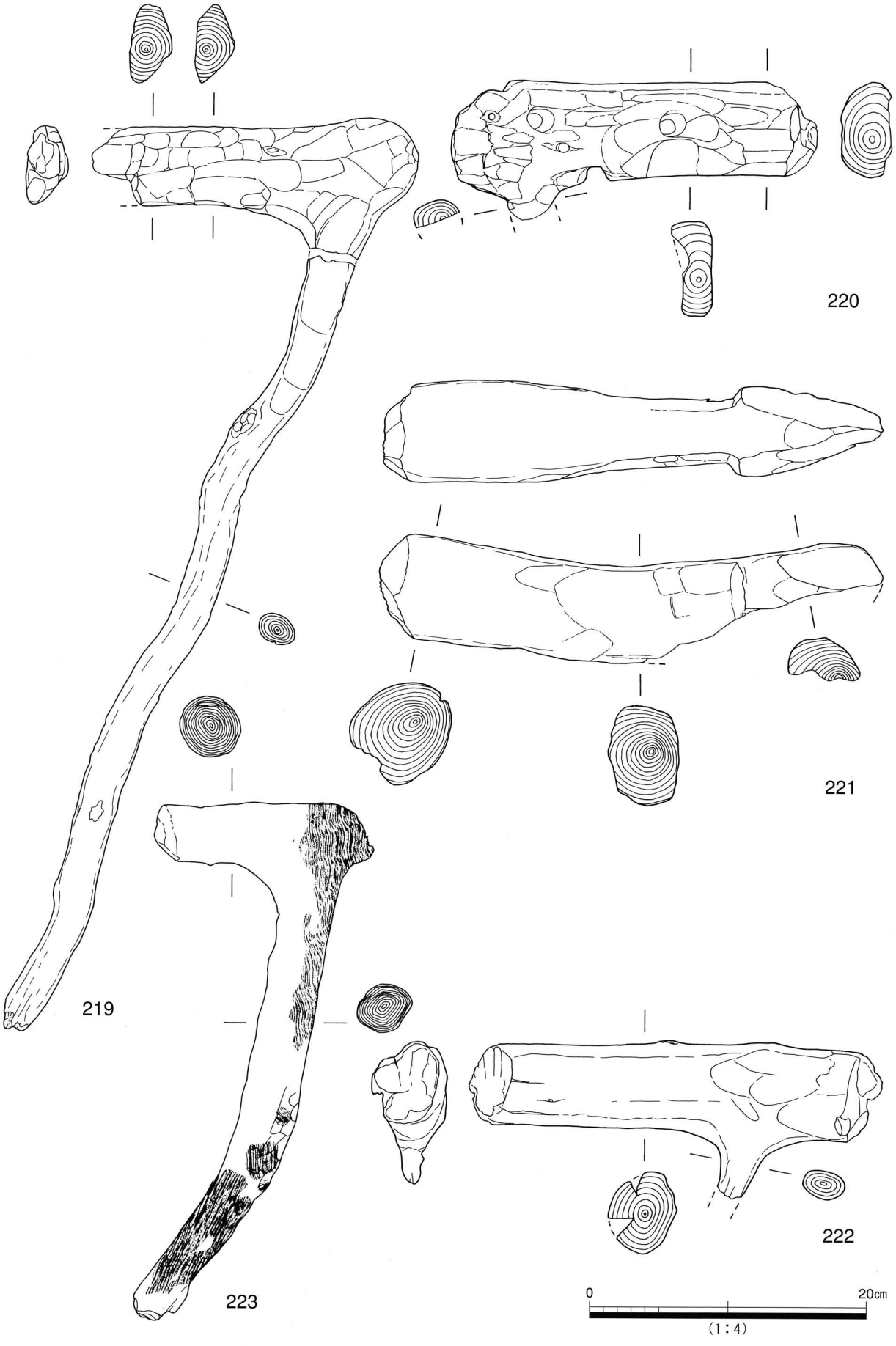
217



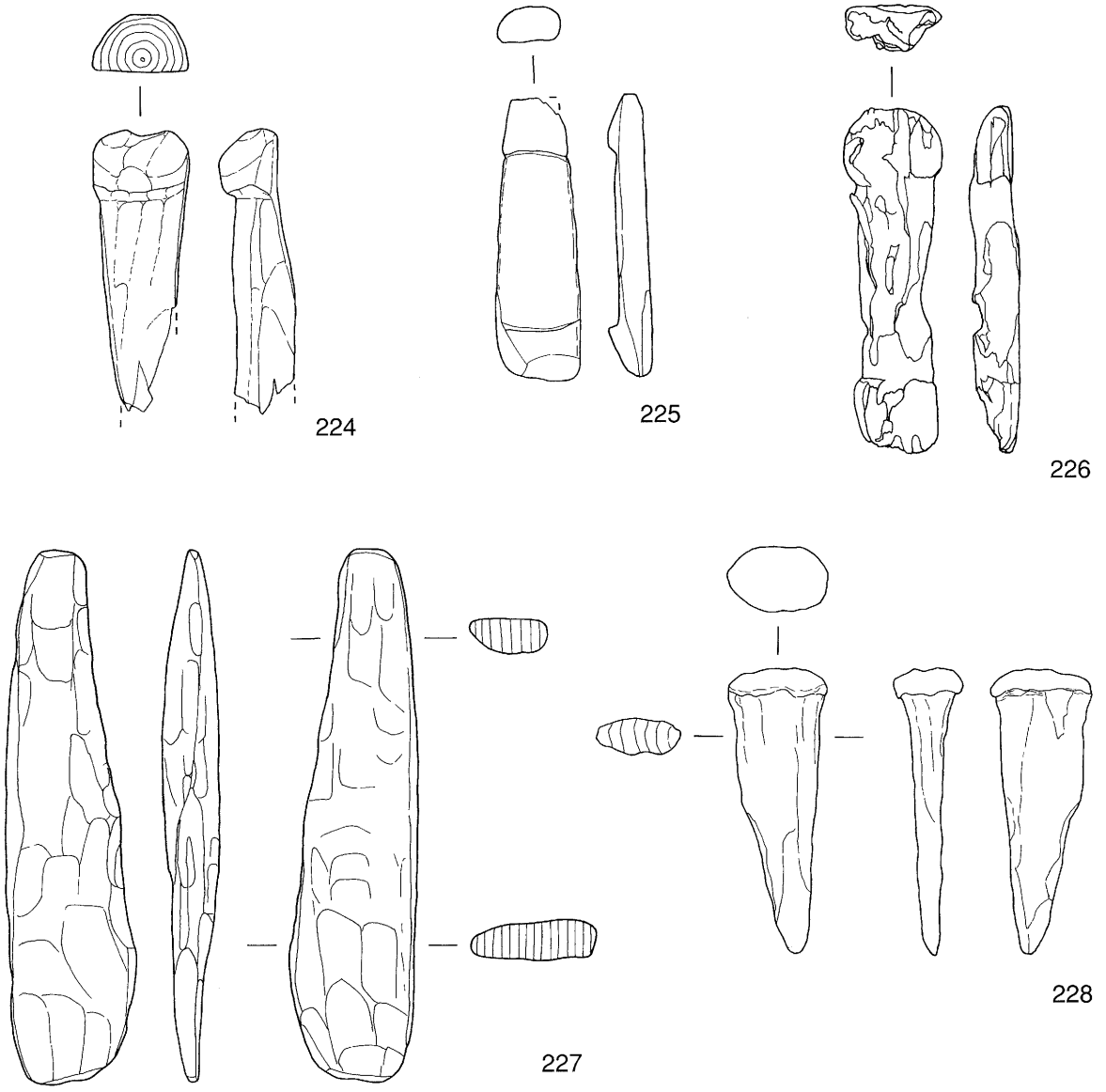
218

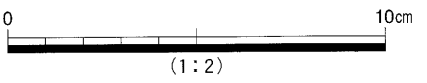
0 40cm
(1:6)

第81図　舟岡地区器具材（5）石斧柄　中期末～後期初頭

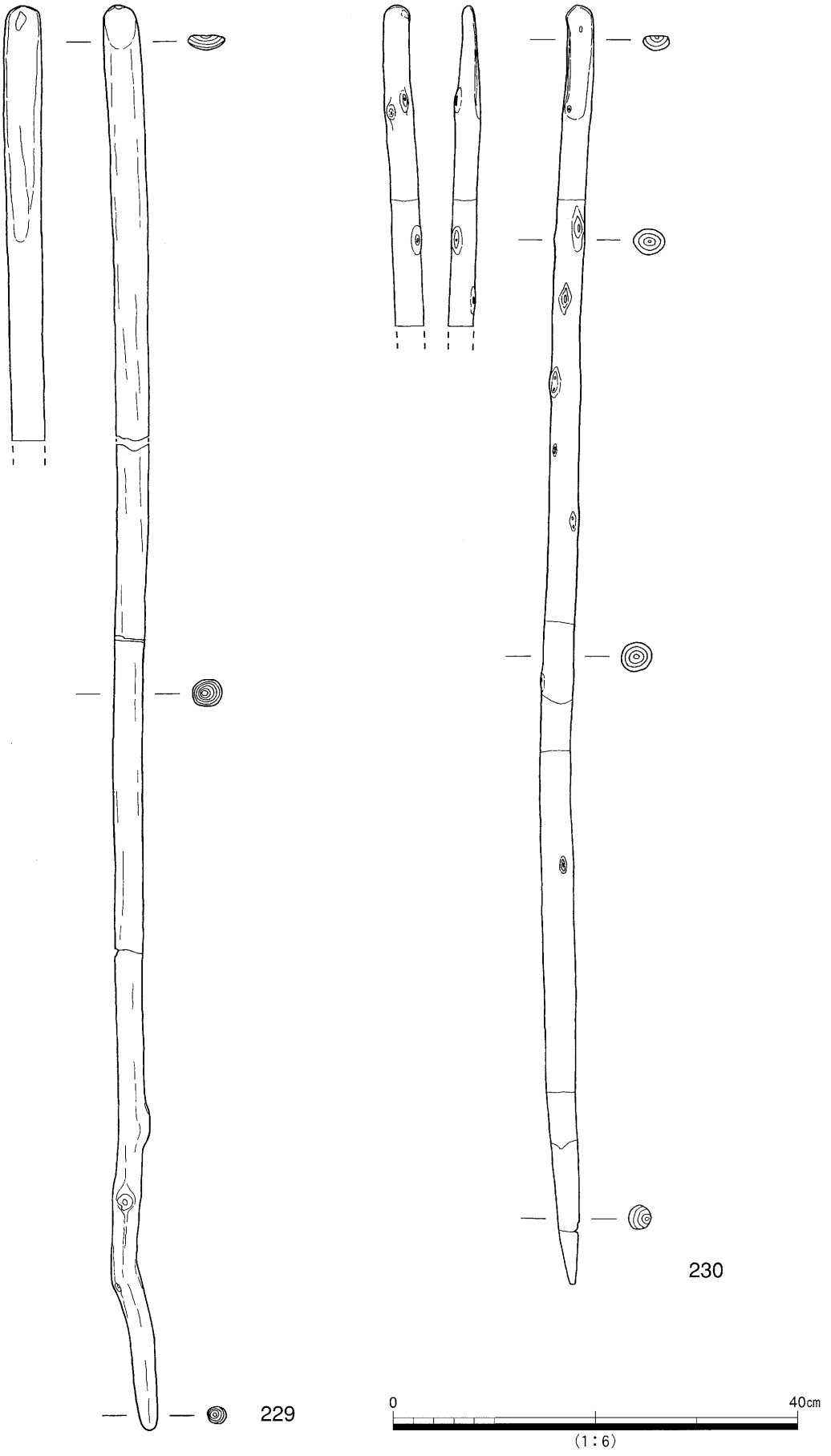


第82図　舟岡地区器具材（６）石斧柄　中期末～後期初頭

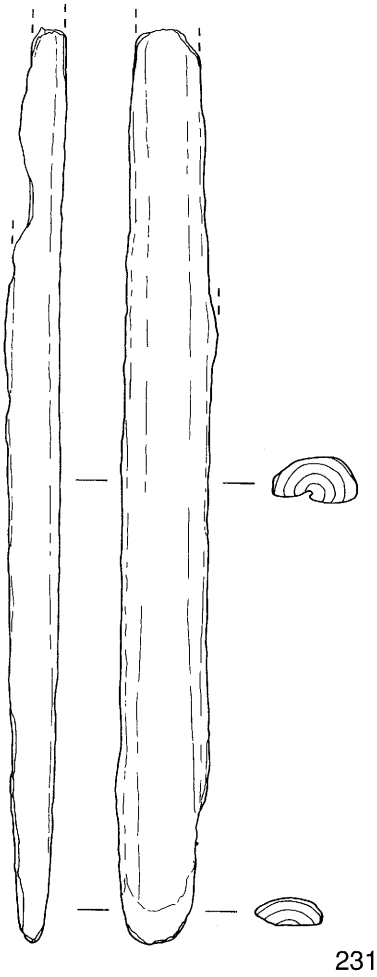


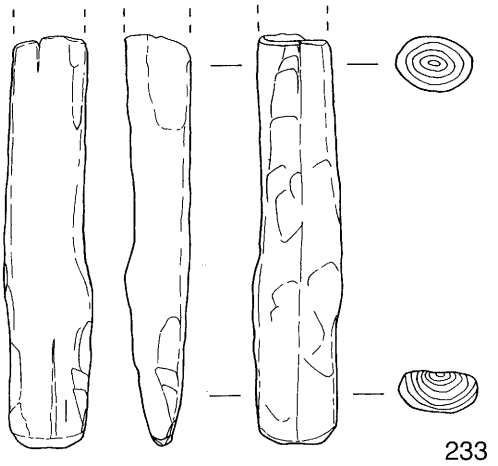


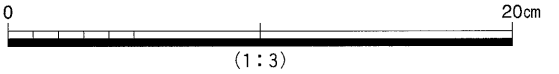
第83図　舟岡地区器具材（7）石斧留め具・楔　中期末～後期初頭



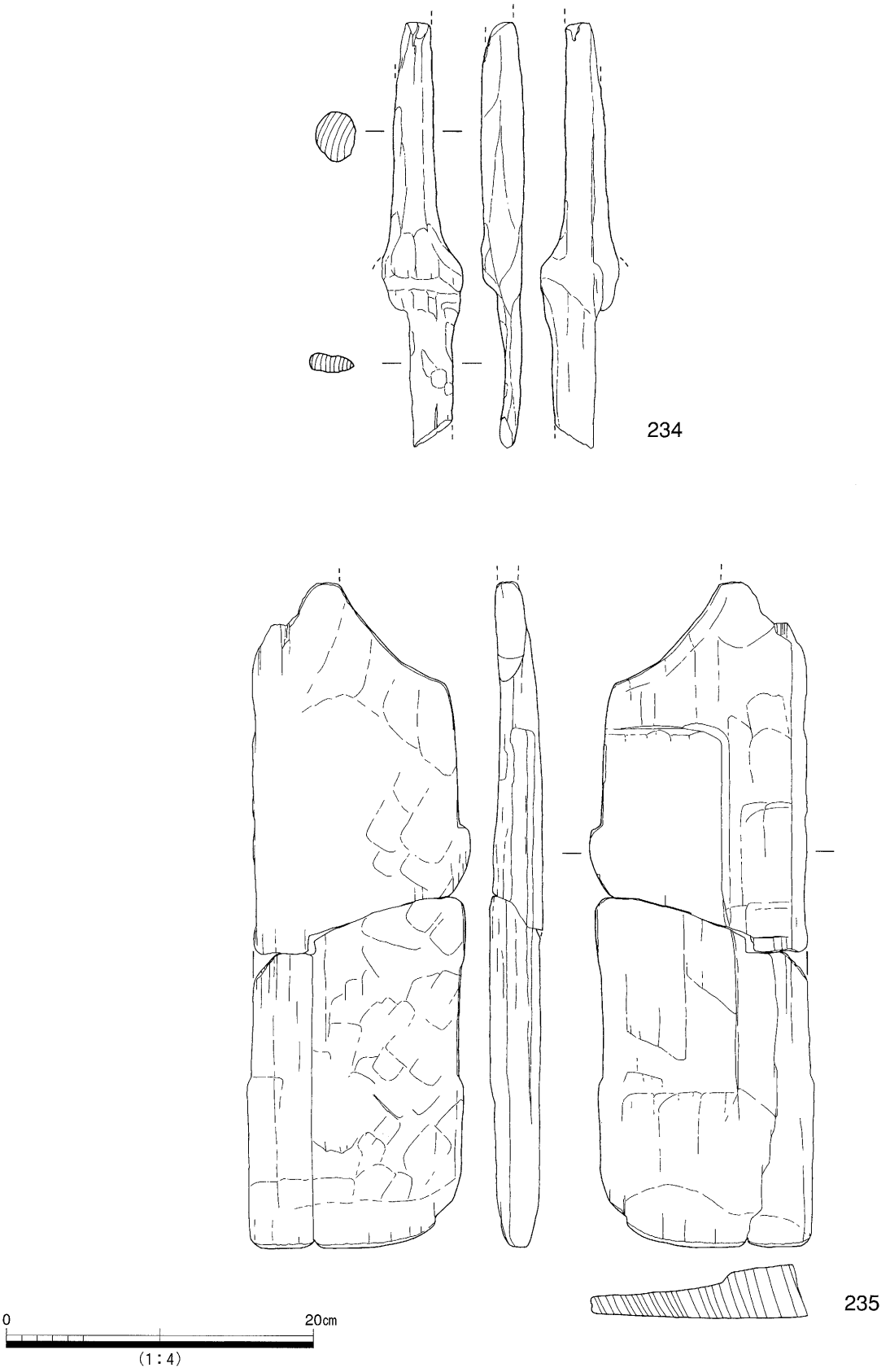
第84図　舟岡地区器具材（８）堀棒　中期末～後期初頭



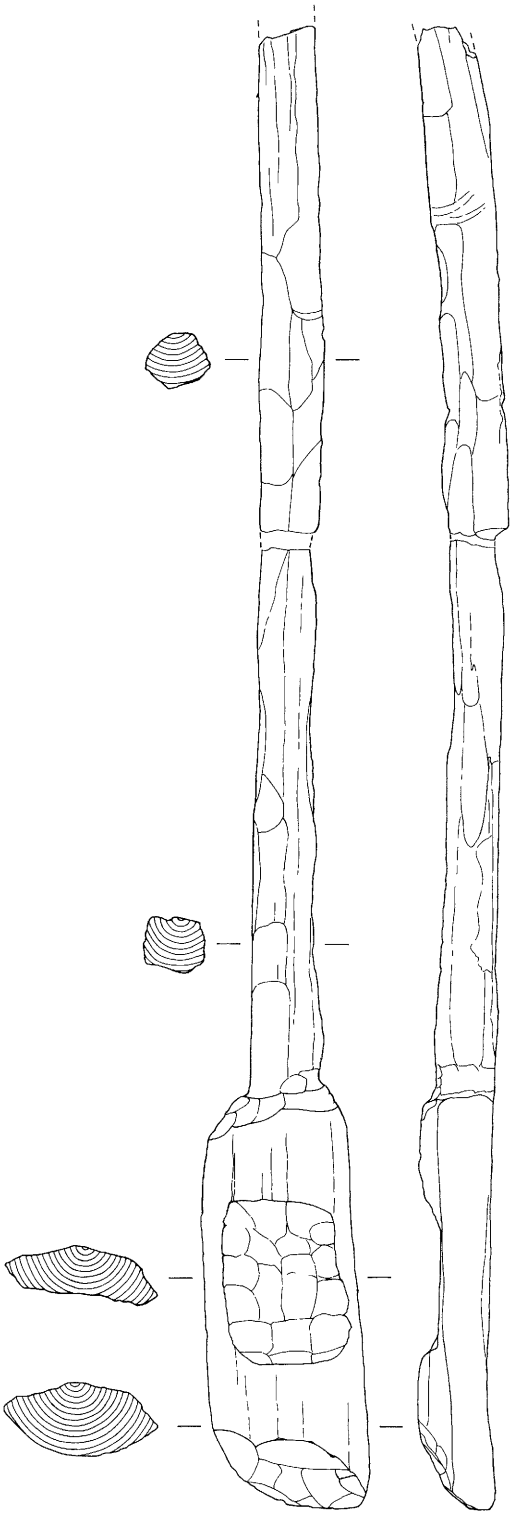




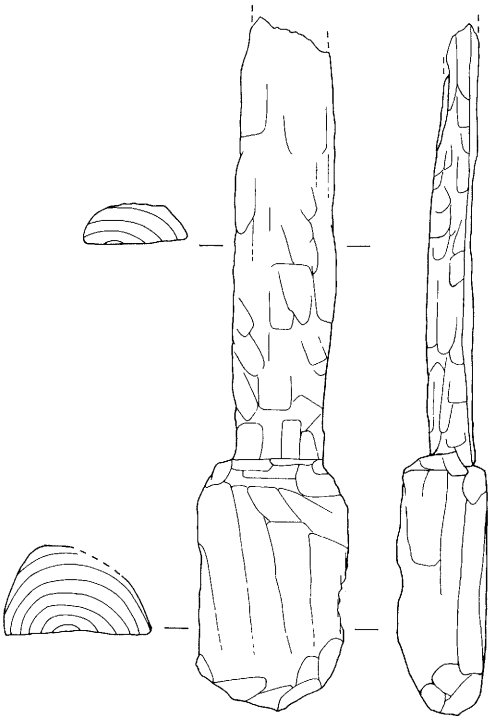
第85図　舟岡地区器具材（9）堀棒　中期末～後期初頭



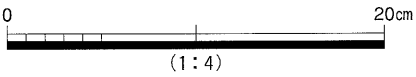
第86図　舟岡地区器具材（10）鋤状木製品　中期末～後期初頭



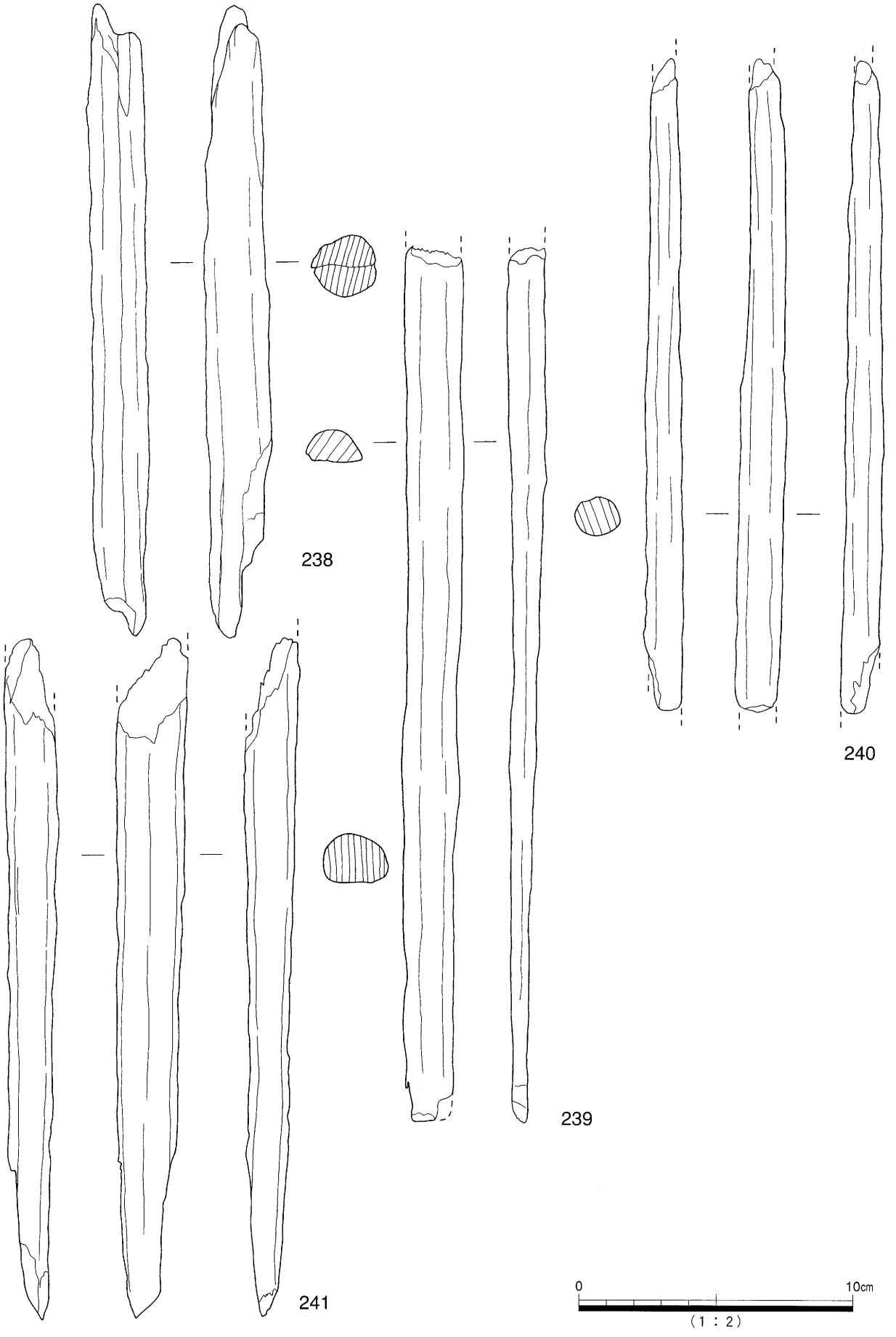
236



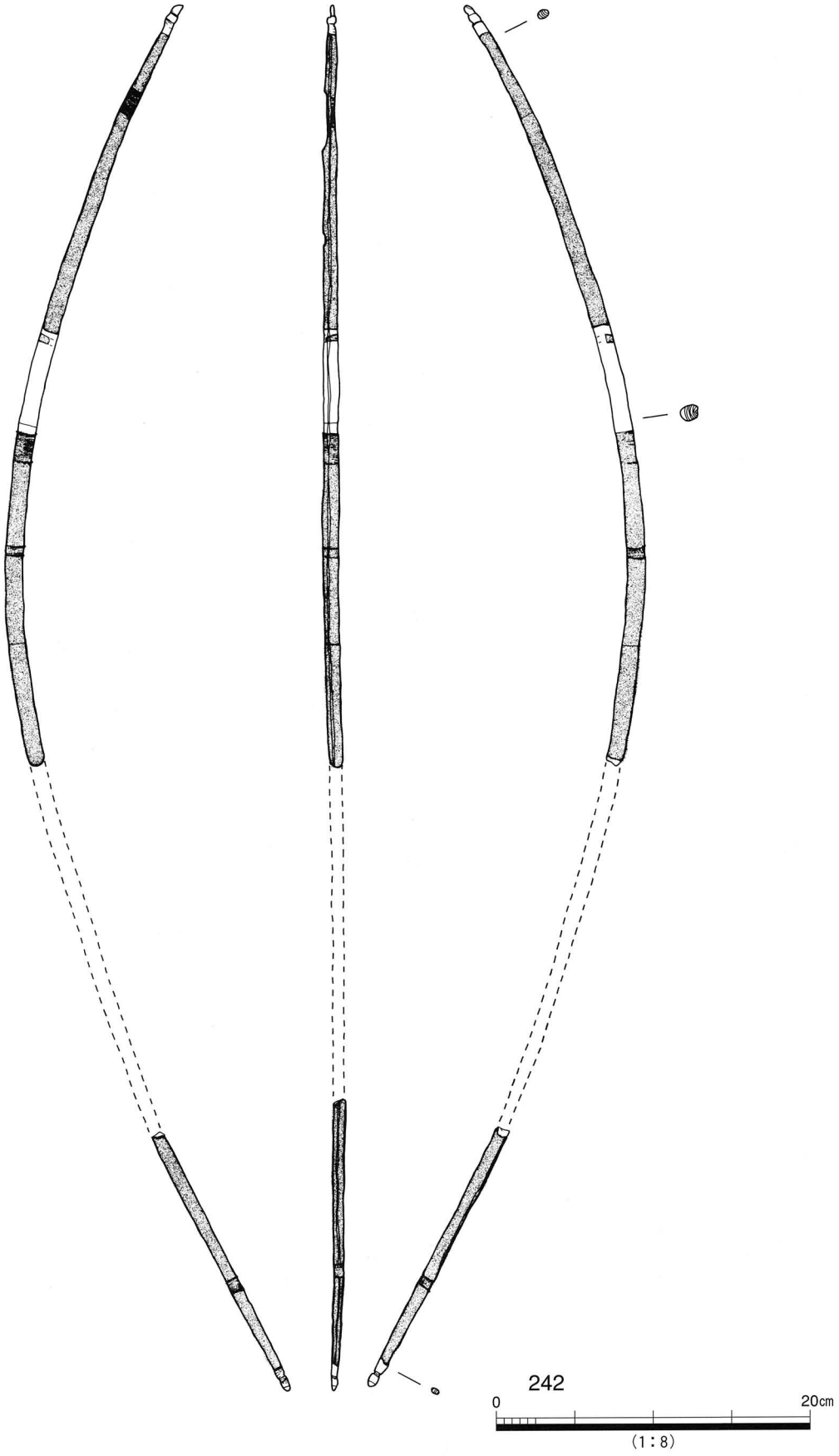
237



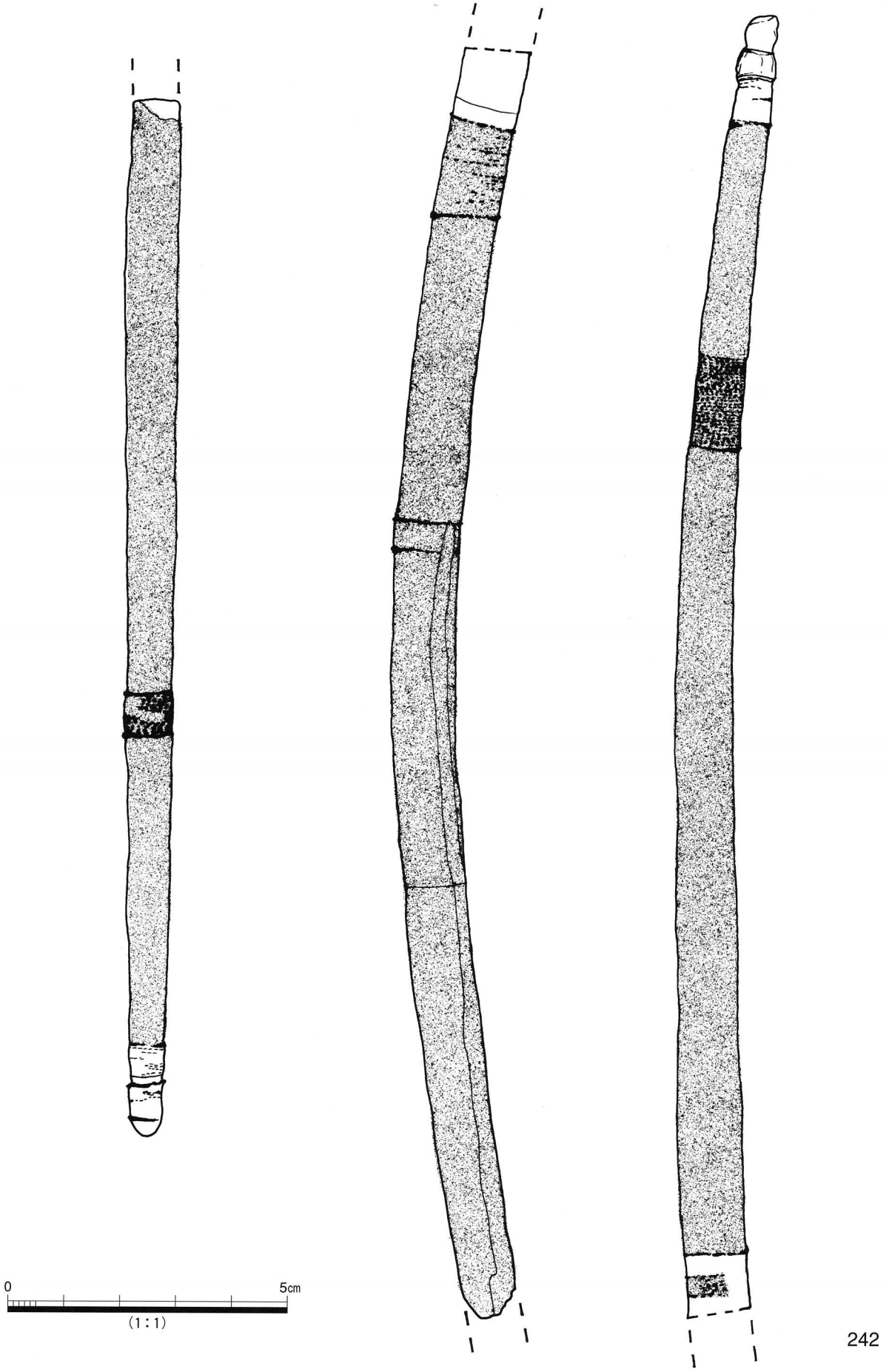
第87図　舟岡地区器具材（11）鋤状木製品　中期末～後期初頭



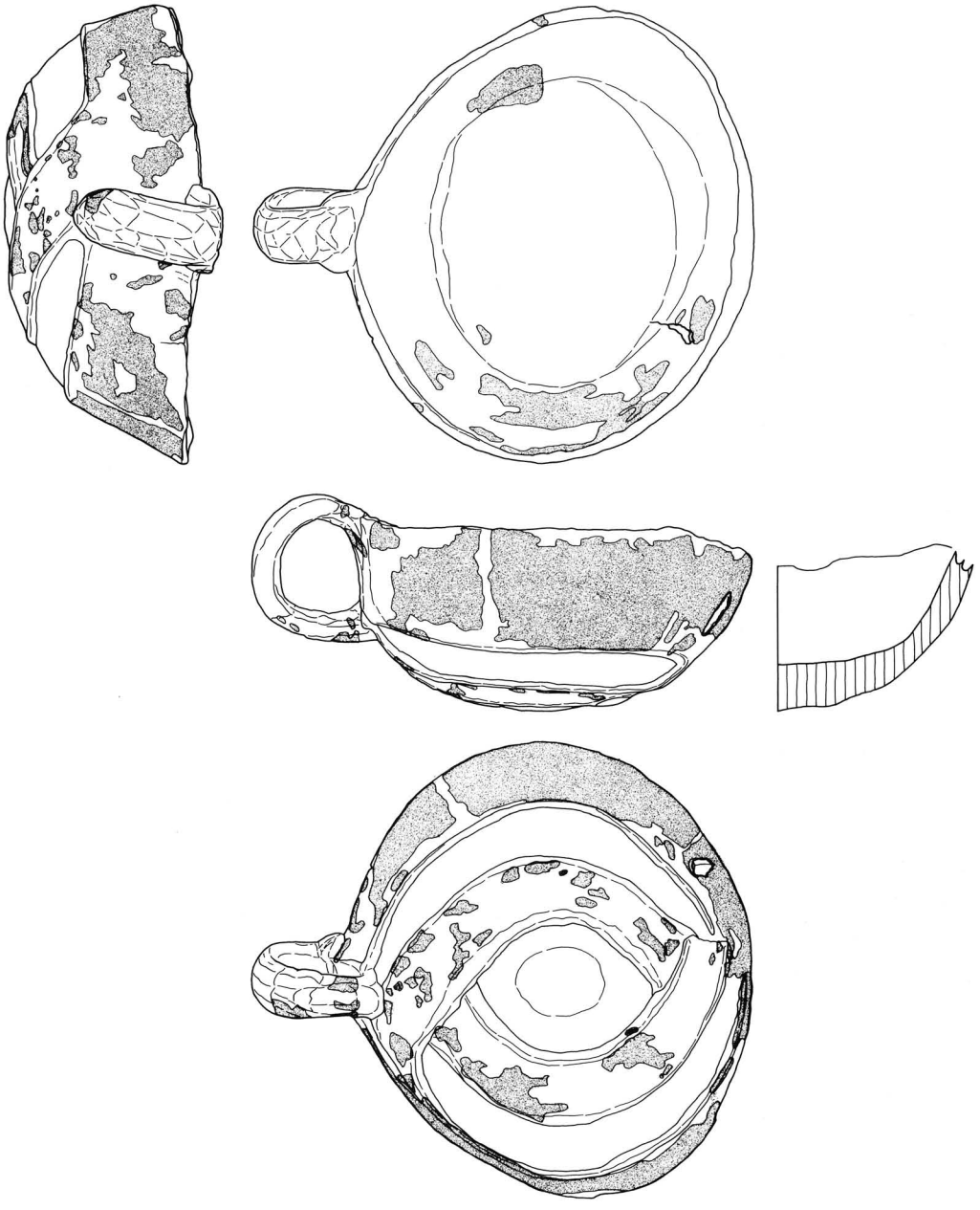
第88図　舟岡地区器具材（12）削りだし棒材　中期末～後期初頭



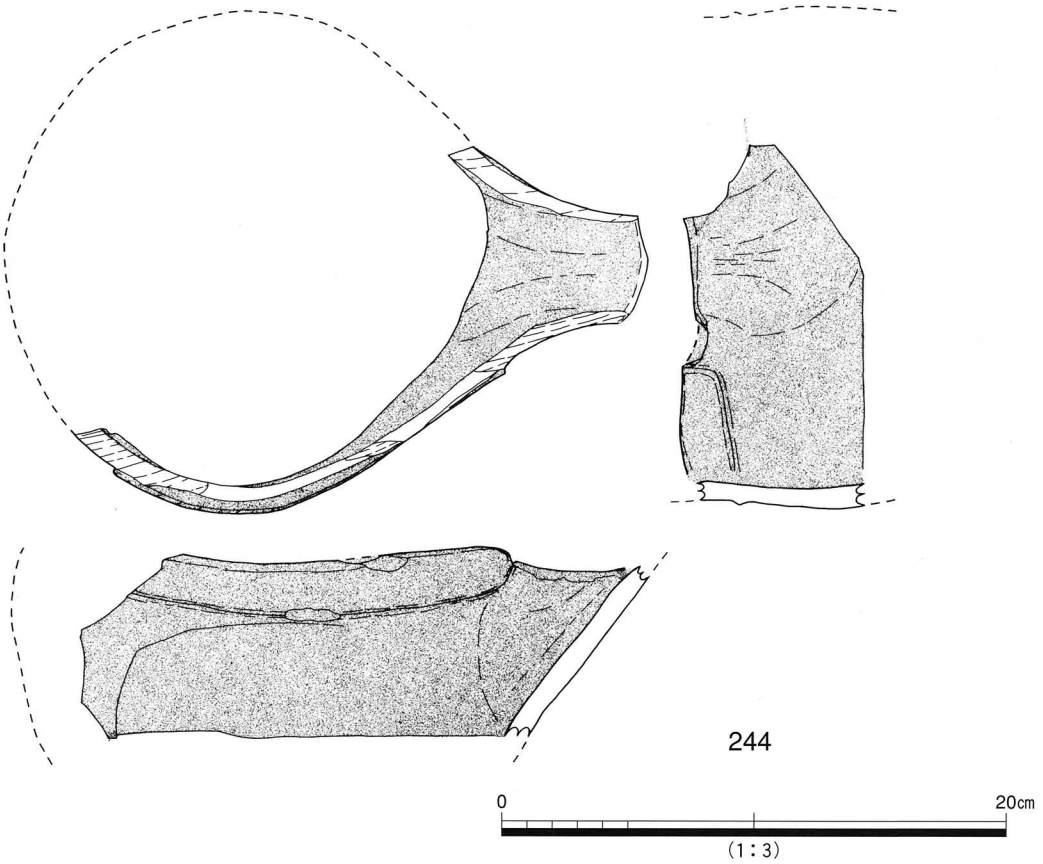
第89図　舟岡地区器具材（13）弓　中期末～後期初頭

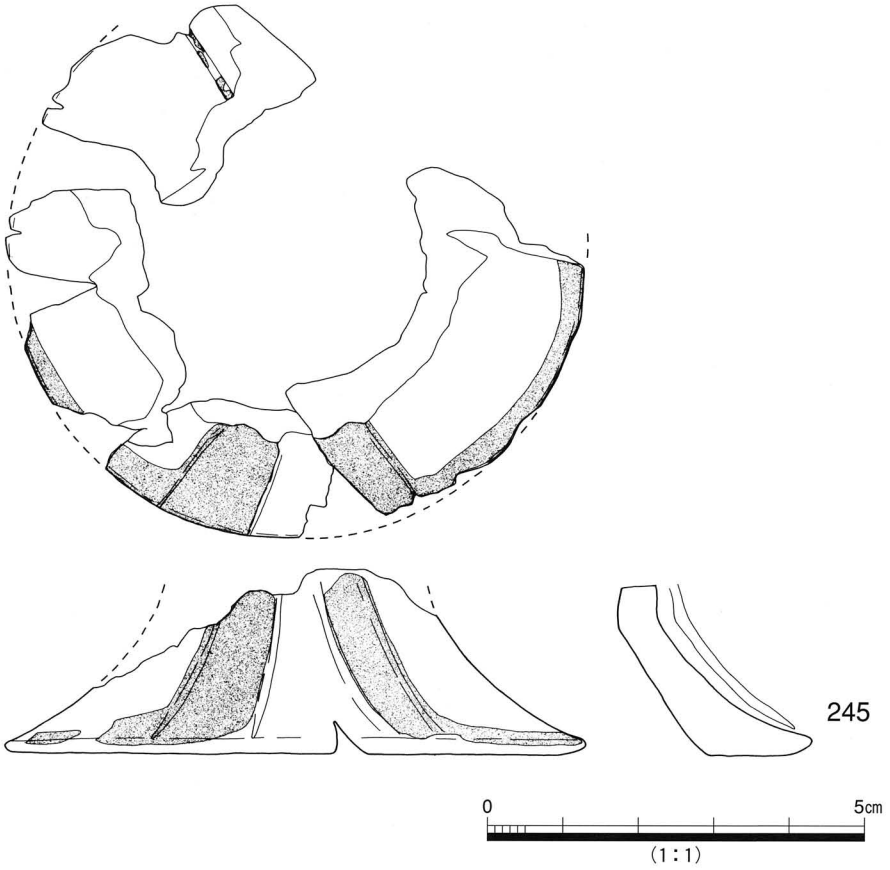


第90図　舟岡地区器具材（14）弓（拡大）　中期末～後期初頭

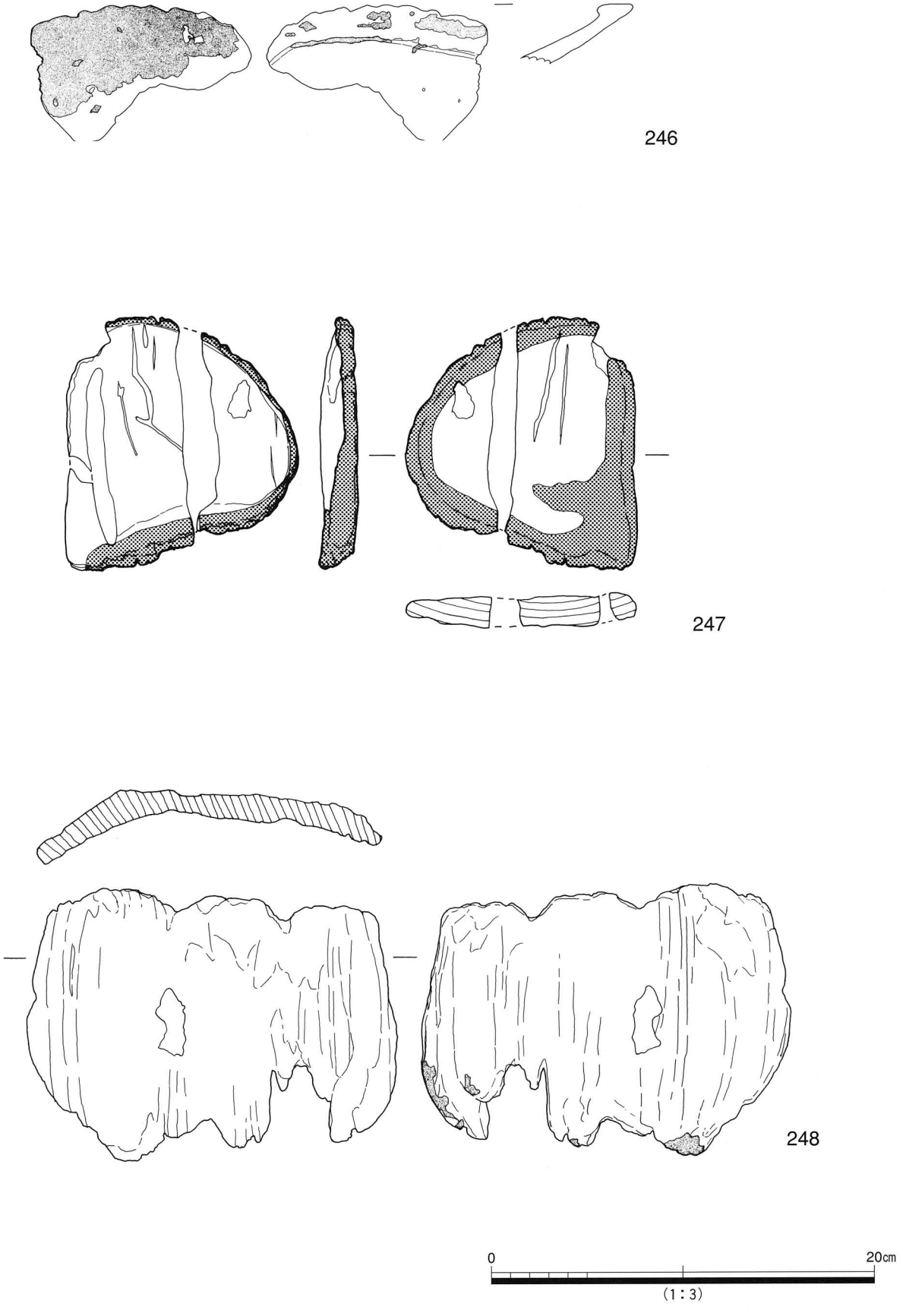


第91図　舟岡地区器具材（15）刳りもの　中期末～後期初頭

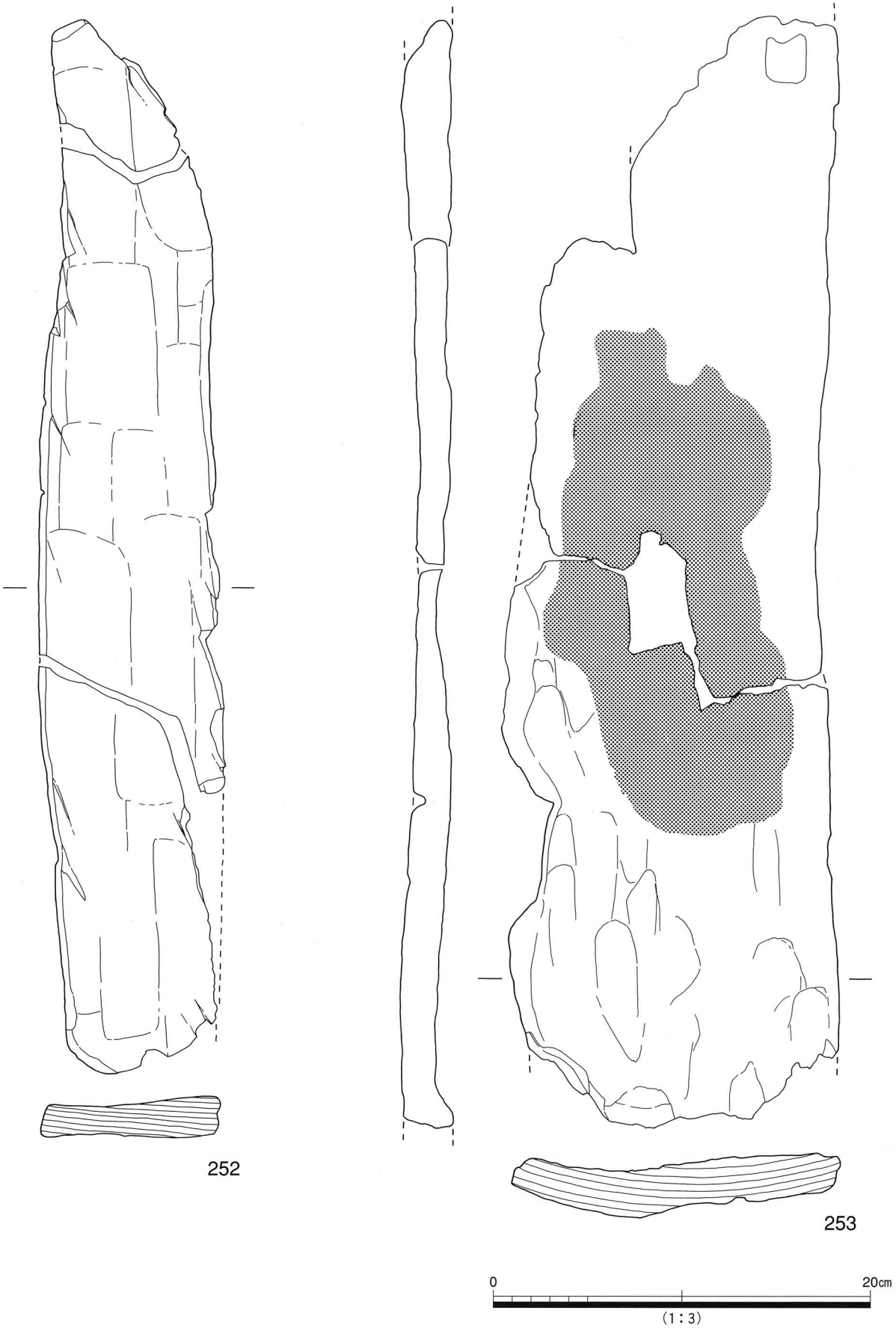




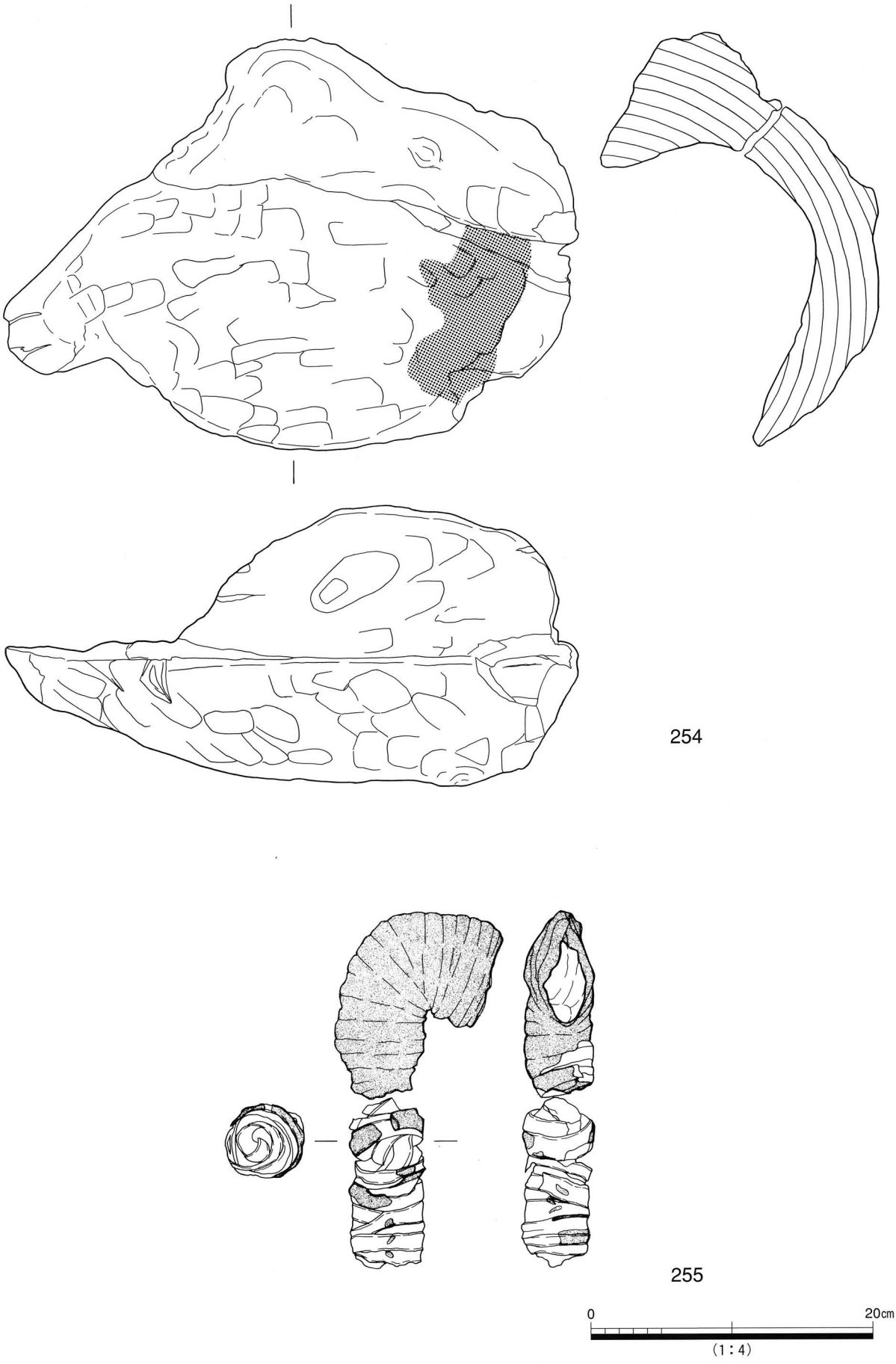
第92図　舟岡地区器具材（16）刳りもの　中期末～後期初頭



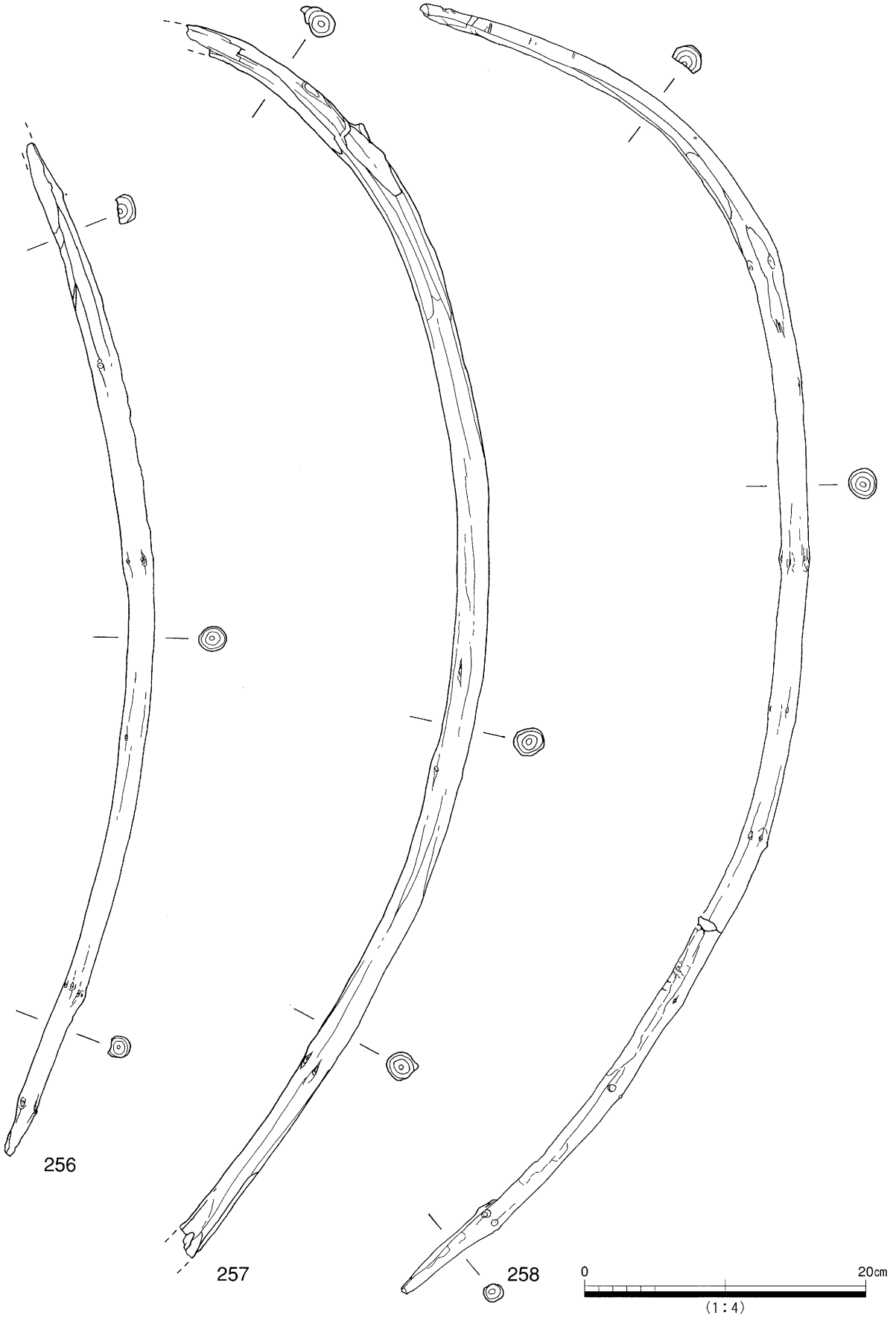
第93図　舟岡地区器具材（17）刳りもの　中期末～後期初頭



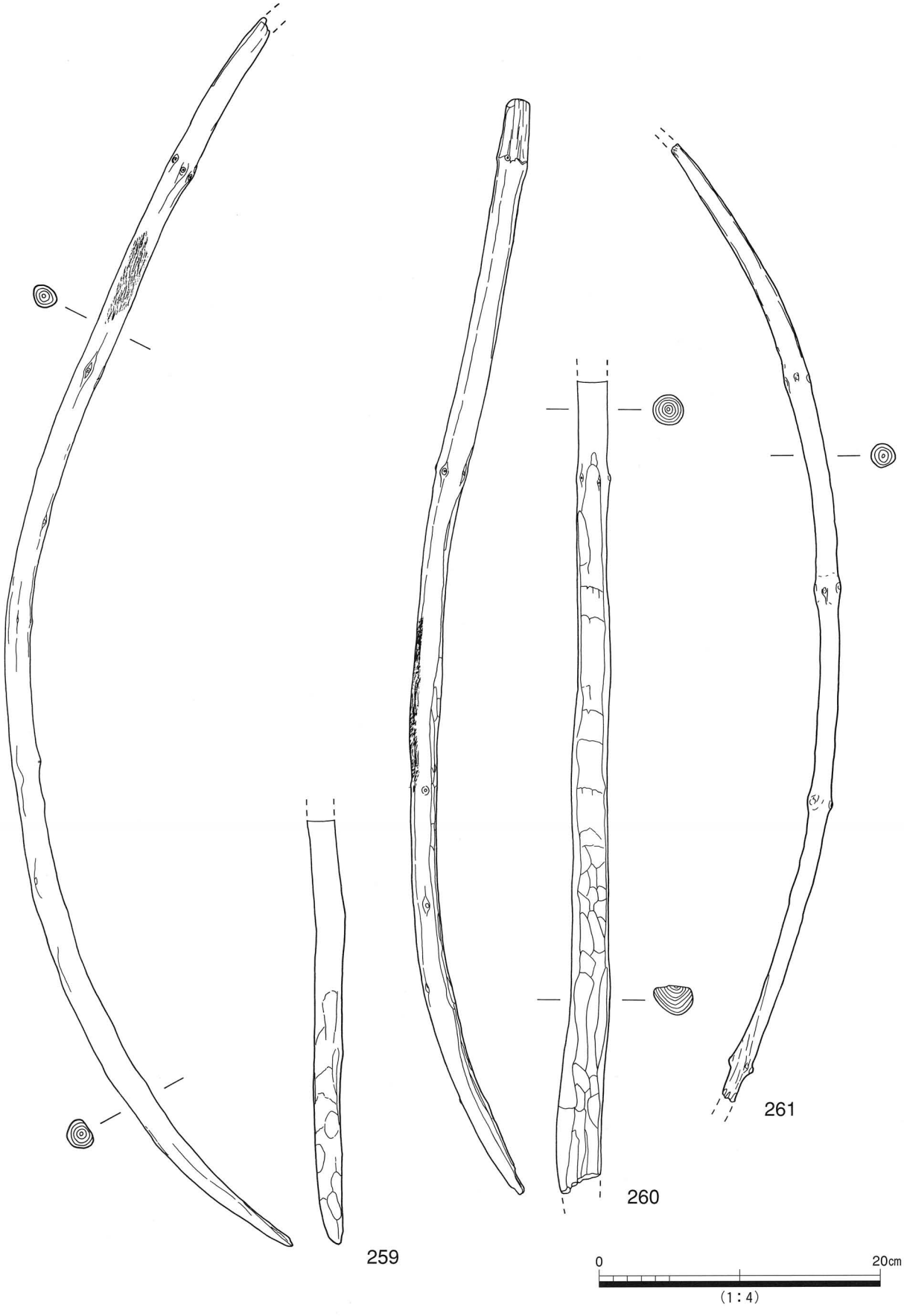
第94図　舟岡地区器具材（18）刳りもの　中期末～後期初頭



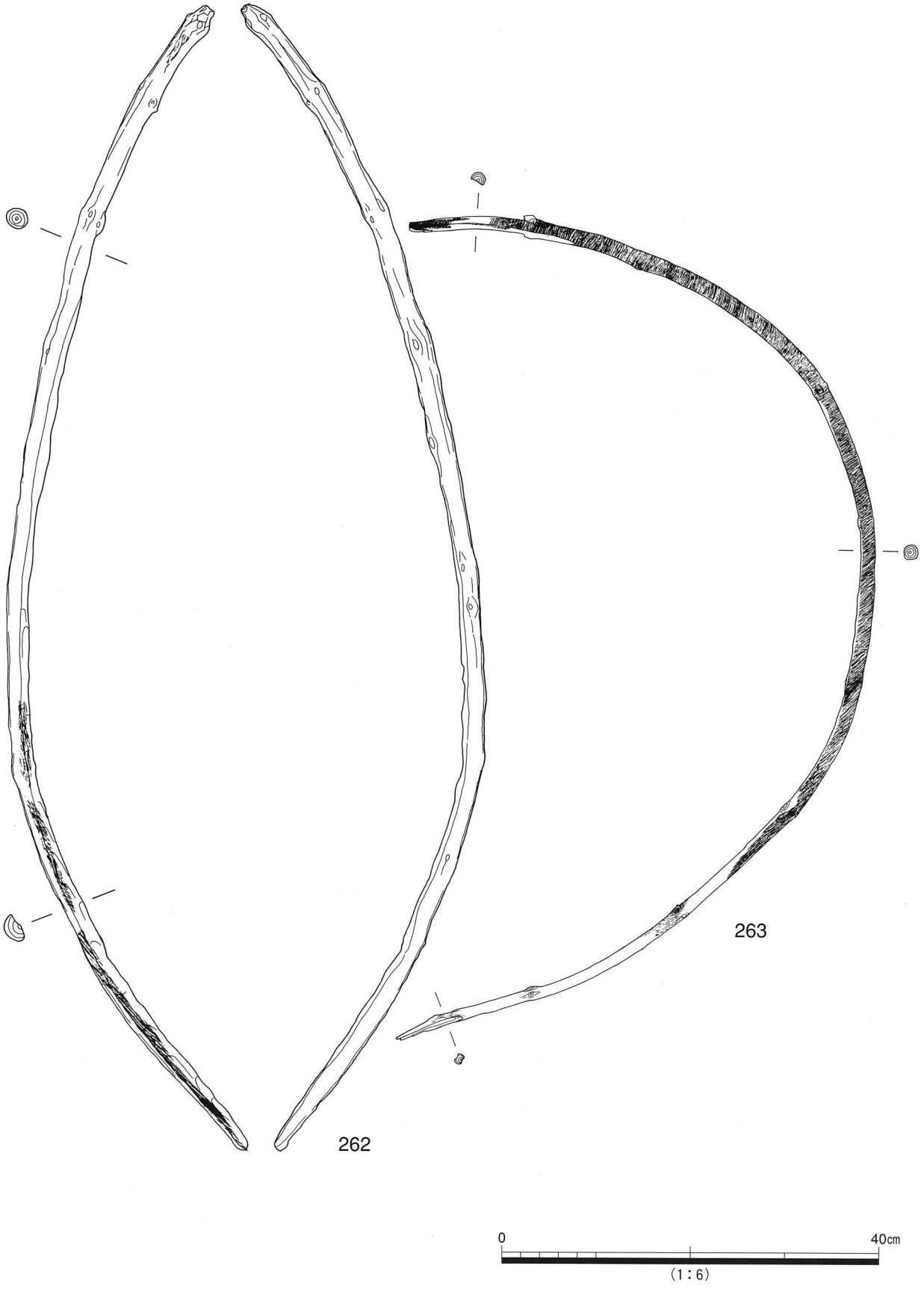
第95図　舟岡地区器具材（19）刳りもの・不明漆塗製品　中期末～後期初頭



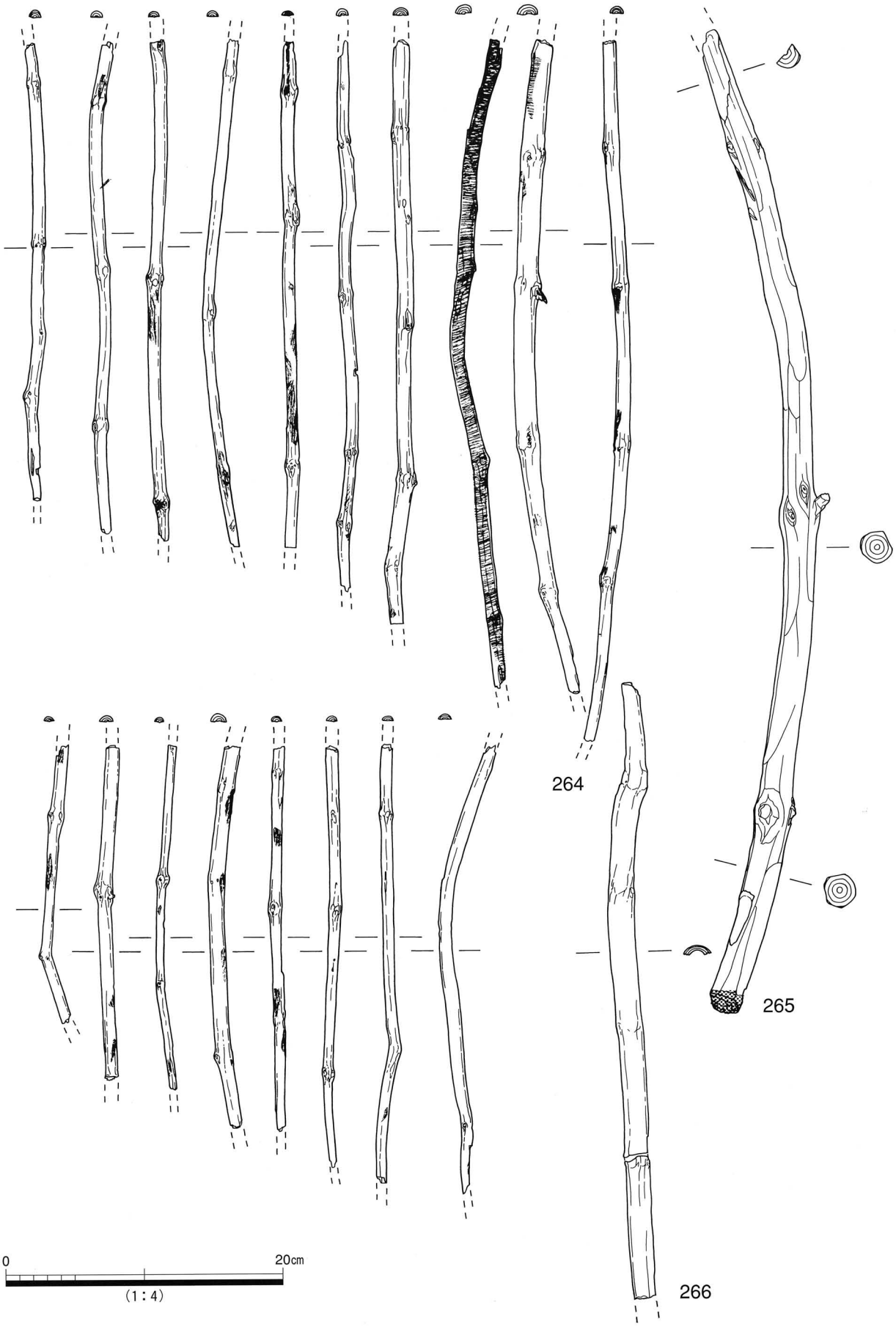
第96図　舟岡地区器具材（20）素材　中期末～後期初頭



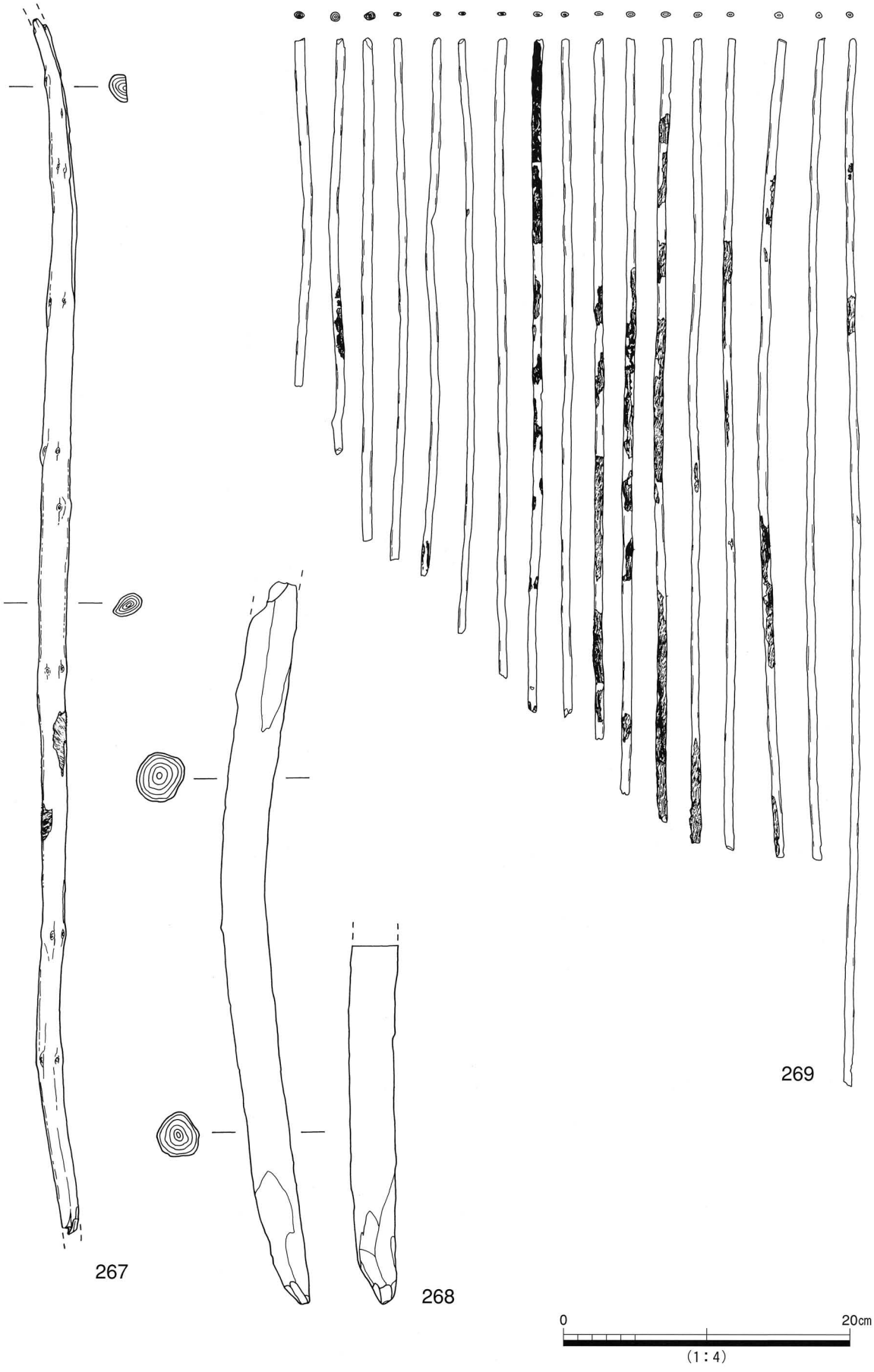
第97図　舟岡地区器具材（21）素材　中期末～後期初頭



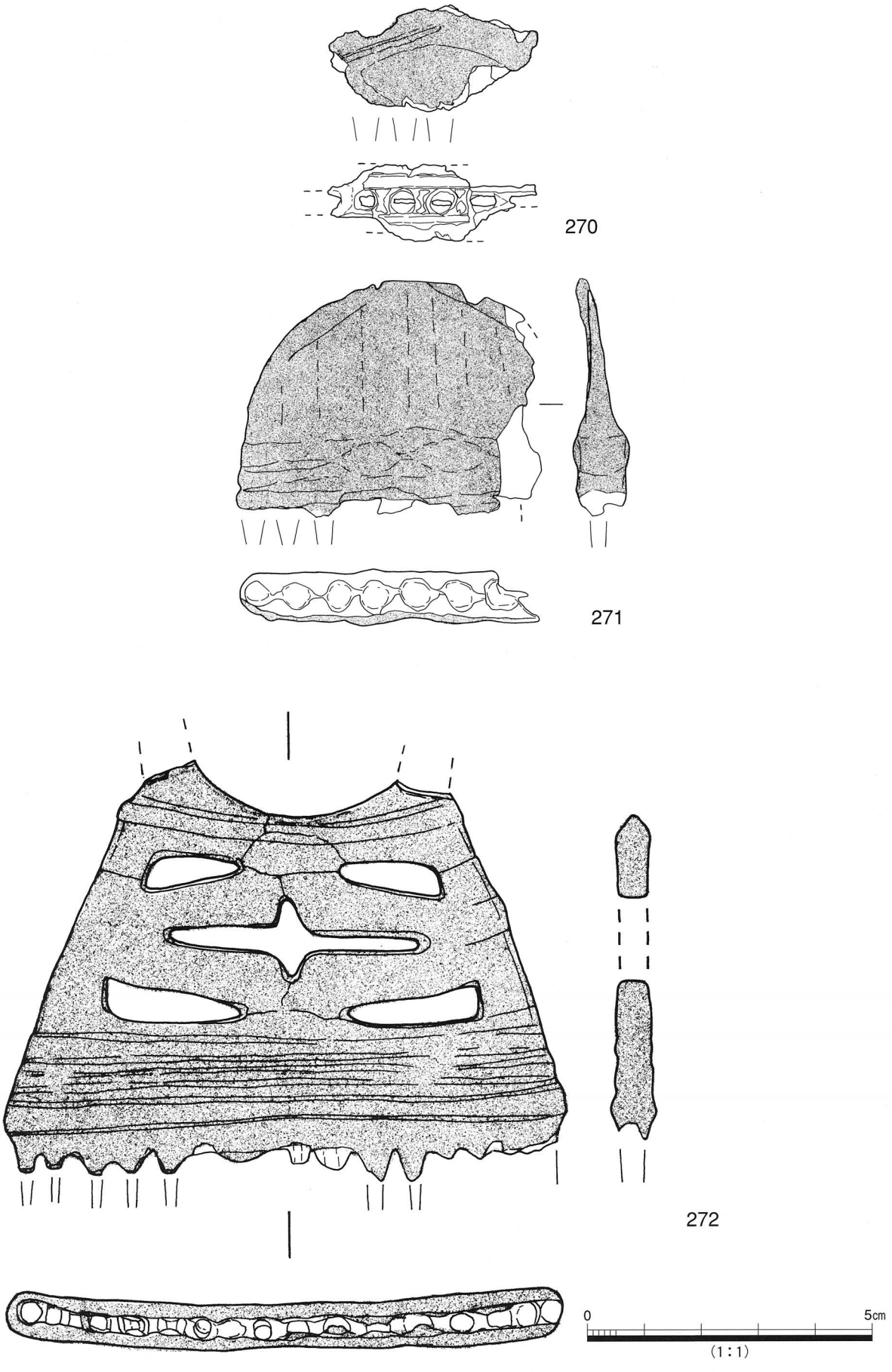
第98図　舟岡地区器具材（22）素材　中期末～後期初頭



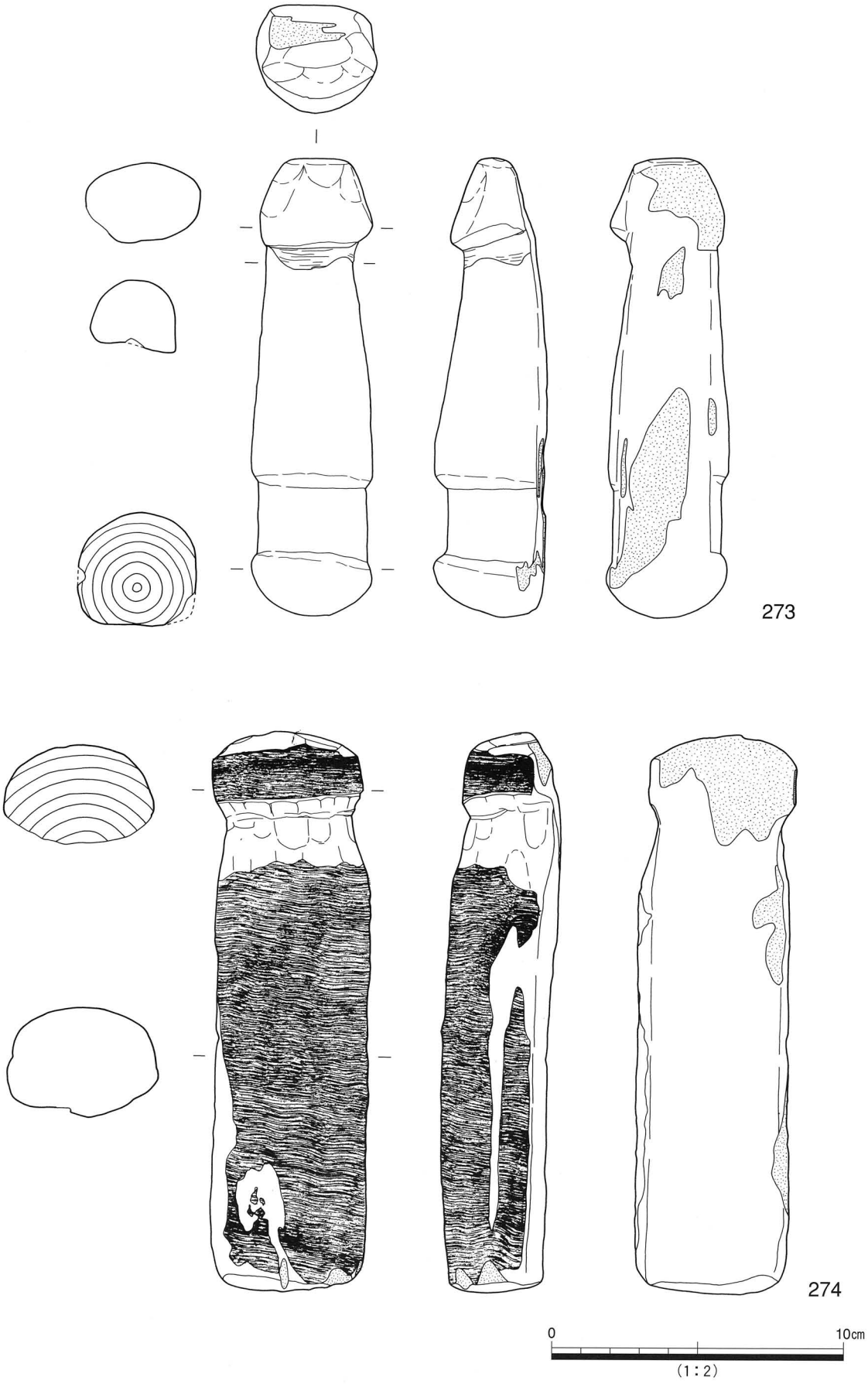
第99図　舟岡地区器具材（23）素材　中期末～後期初頭



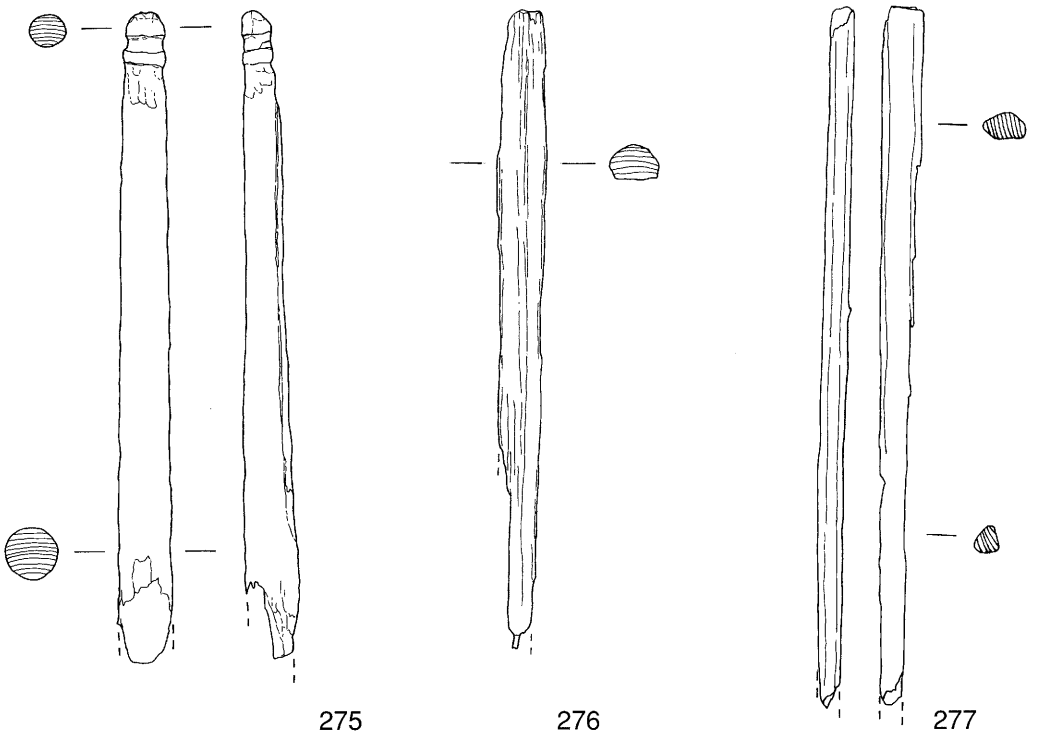
第100図　舟岡地区器具材（24）素材　中期末～後期初頭

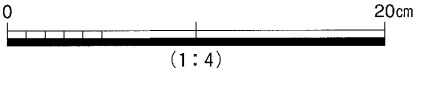


第101図　舟岡地区器具材（25）櫛　後期末～晩期前葉

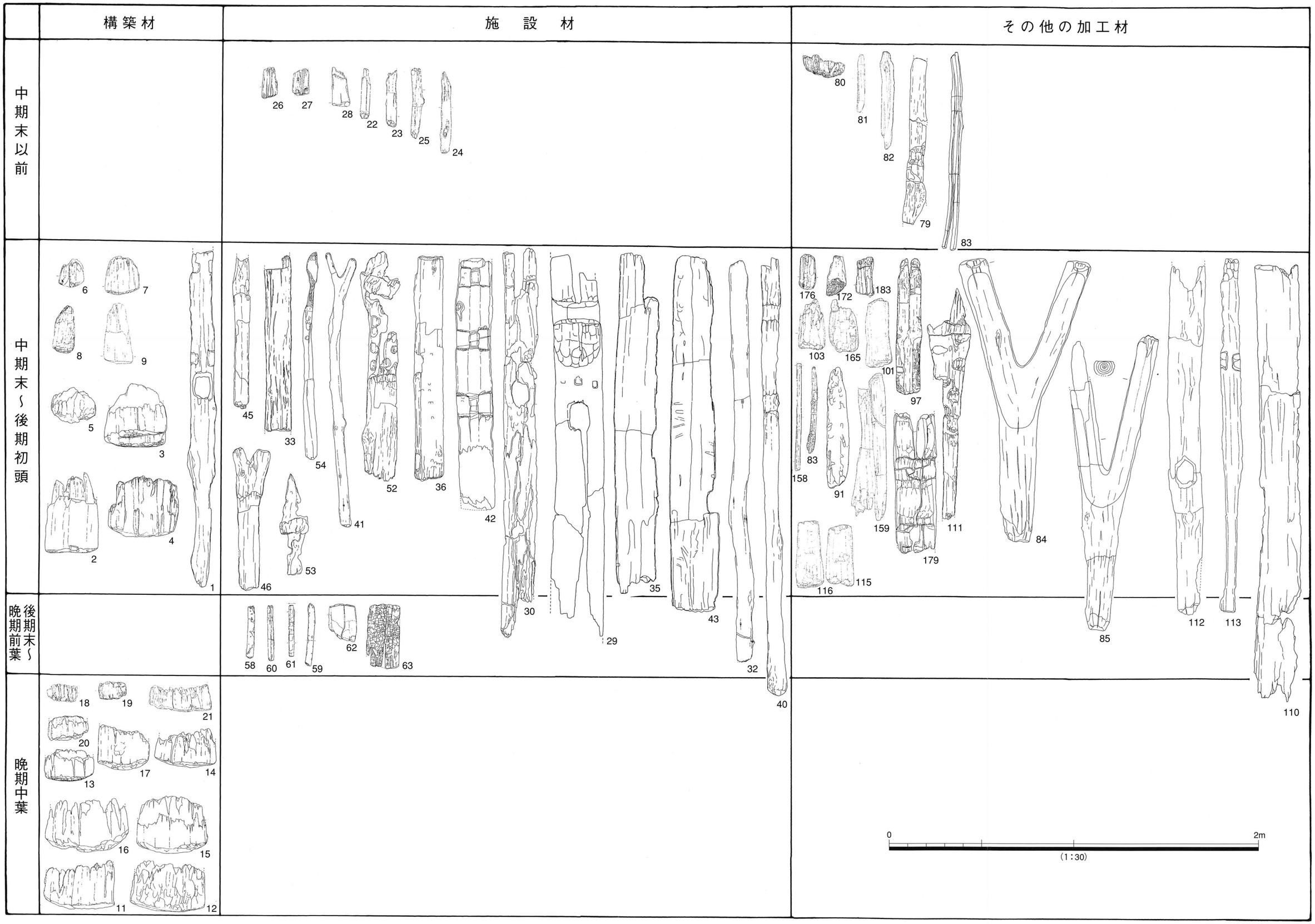


第102図　舟岡地区器具材（26）石斧留め具・編錘状木製品　後期末～晩期前葉

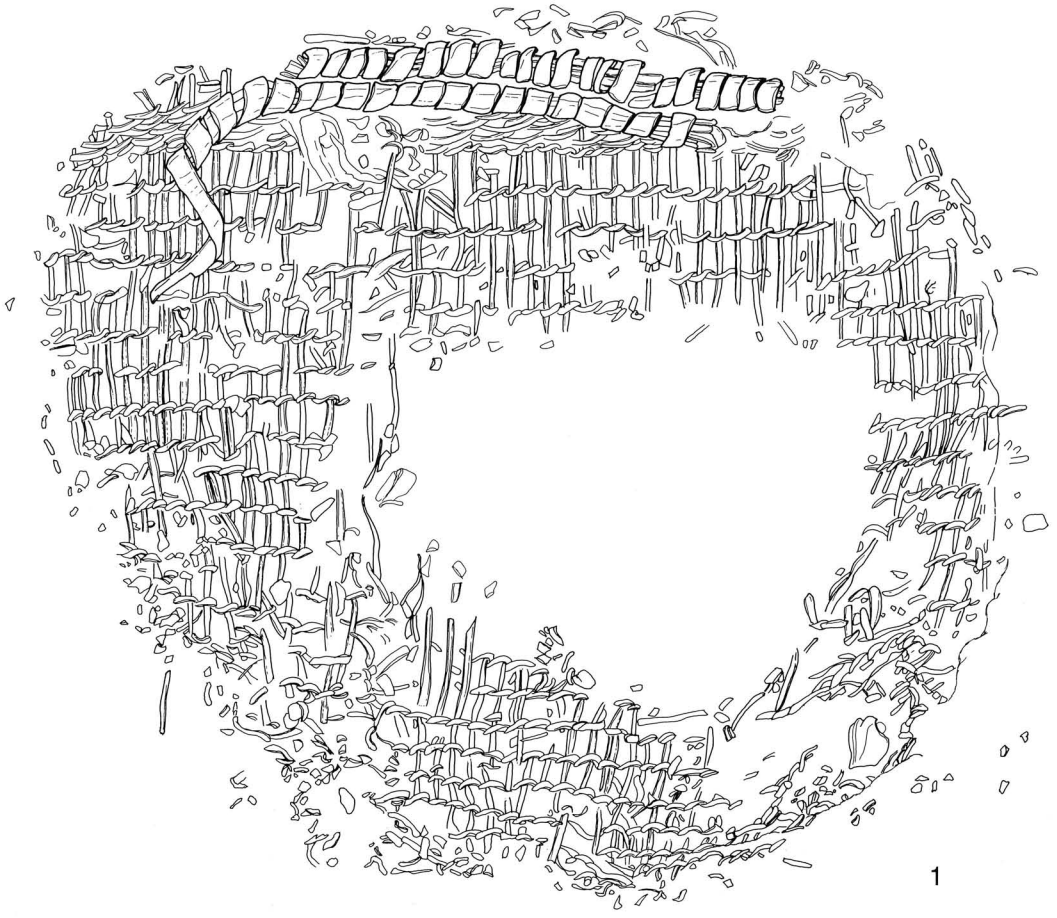


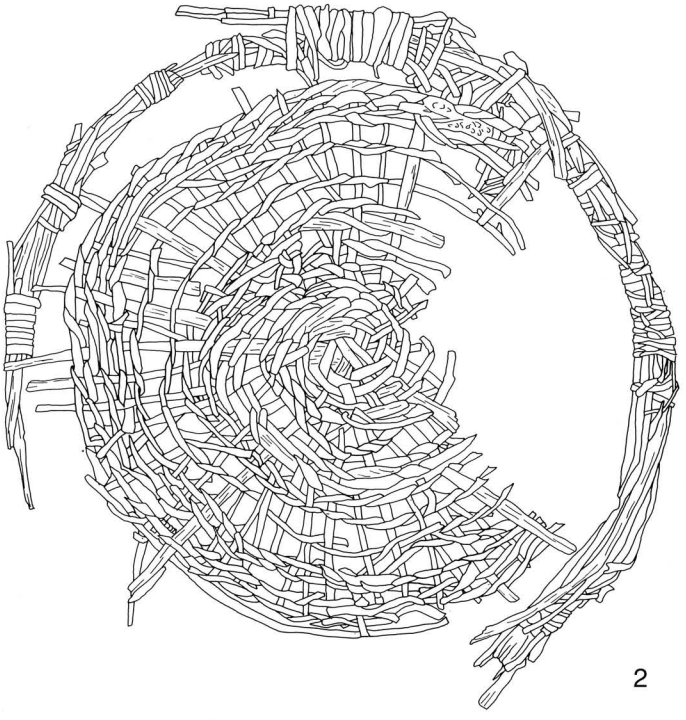


第103図　舟岡地区器具材（27）削りだし棒材　縄文時代以降（古墳時代）



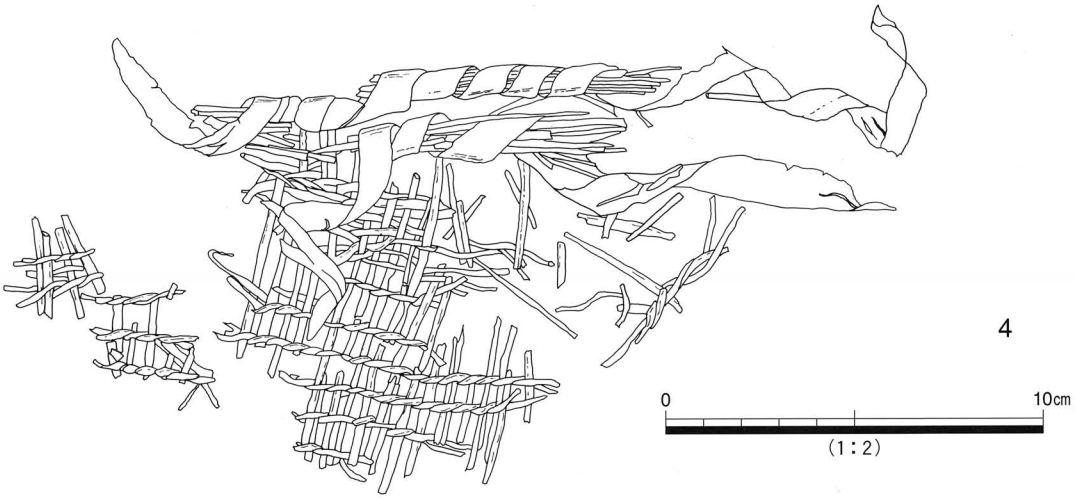
第104図　造作材編年図

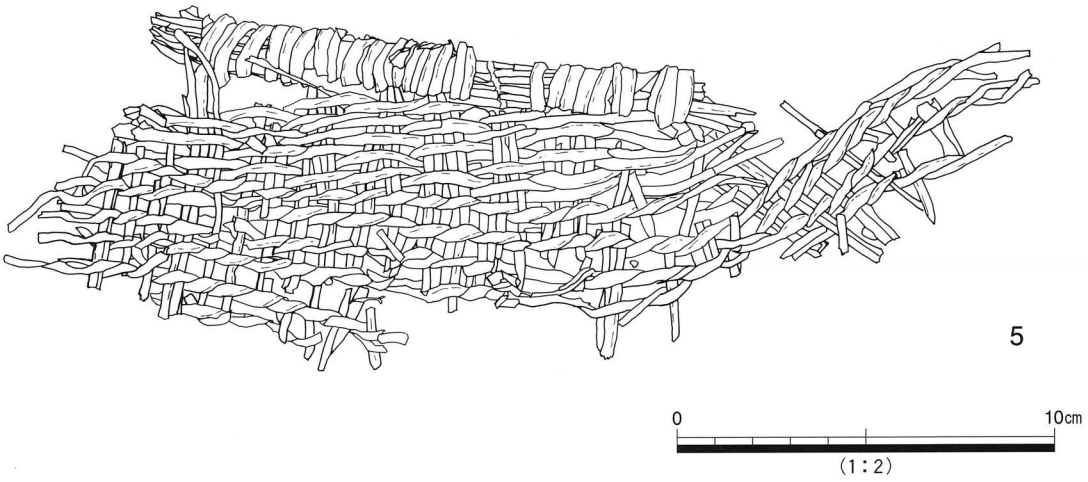




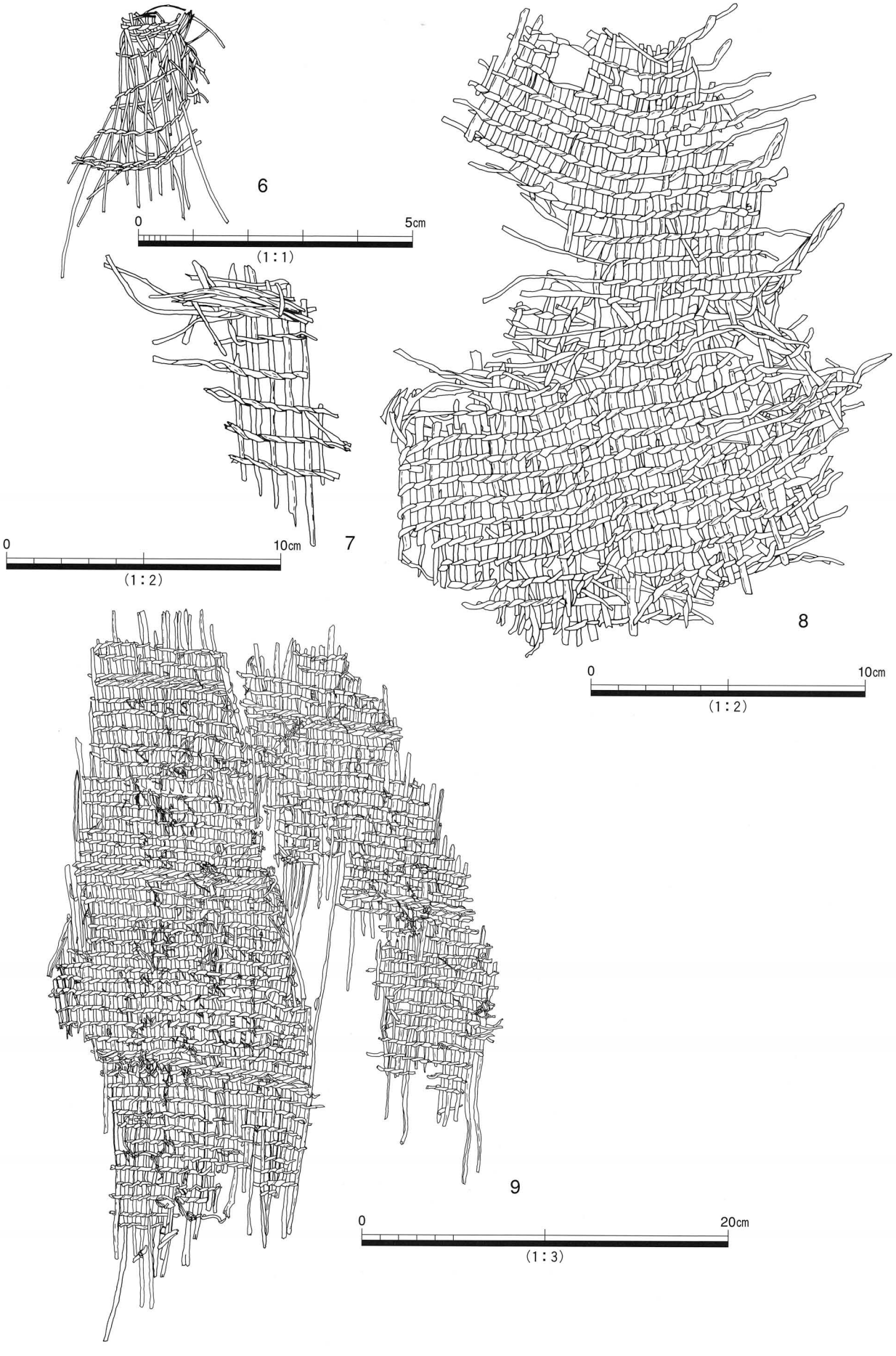
0　10cm
(1:2)

第105図　舟岡地区繊維製品（1）

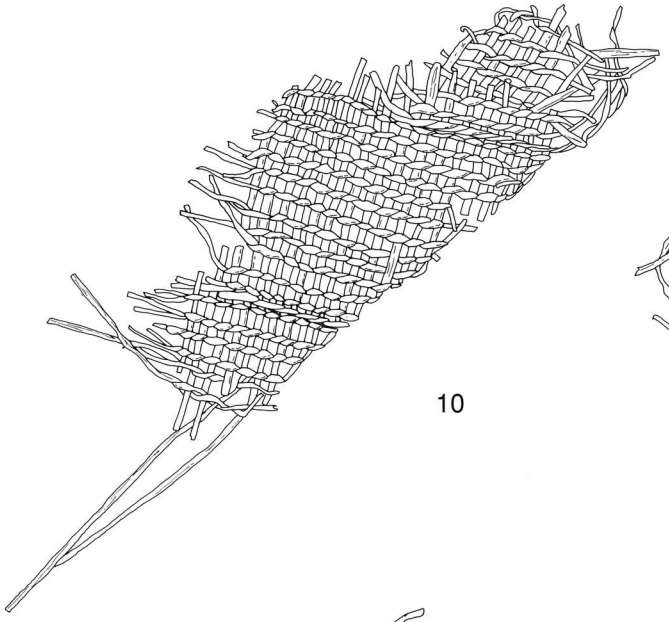


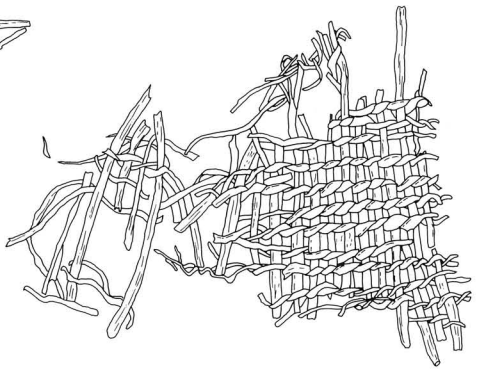


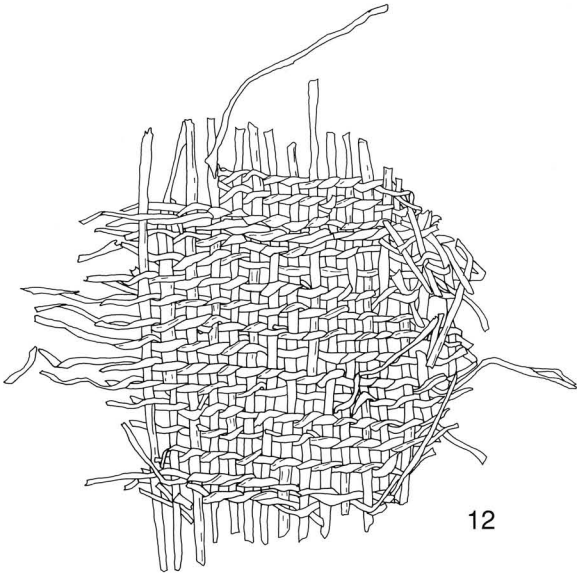
第106図　舟岡地区繊維製品（２）

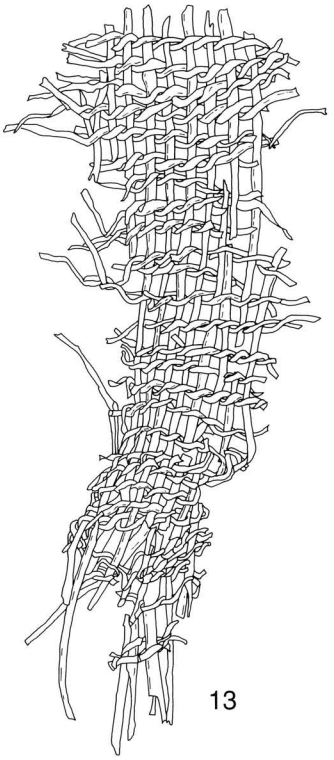


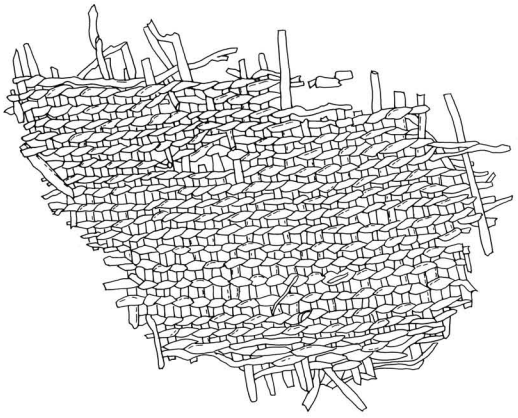
第107図　舟岡地区繊維製品（３）

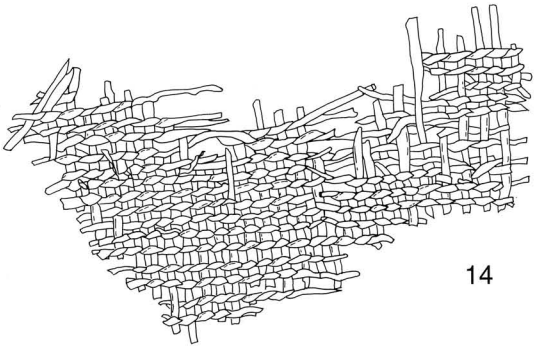


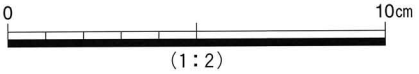




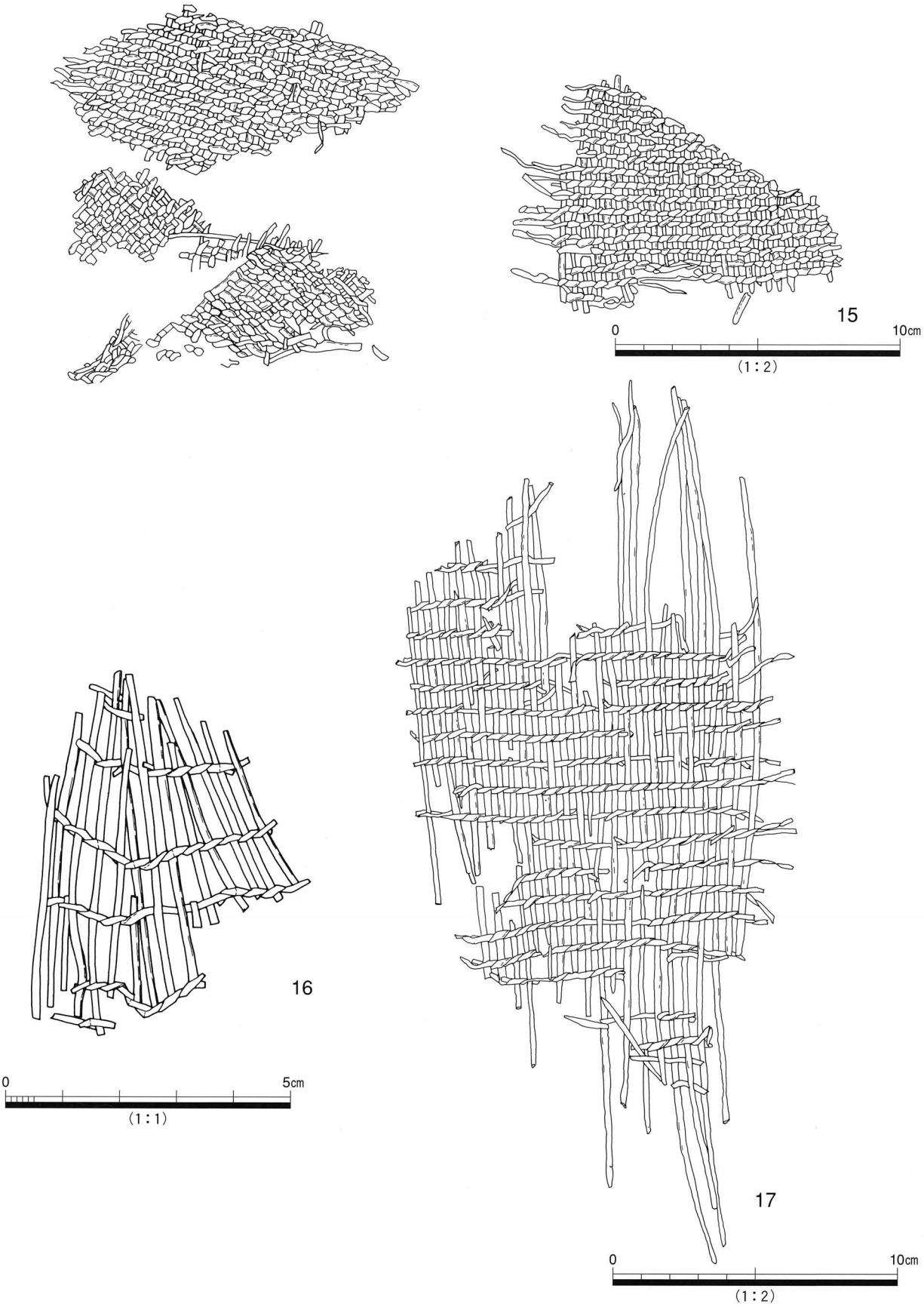




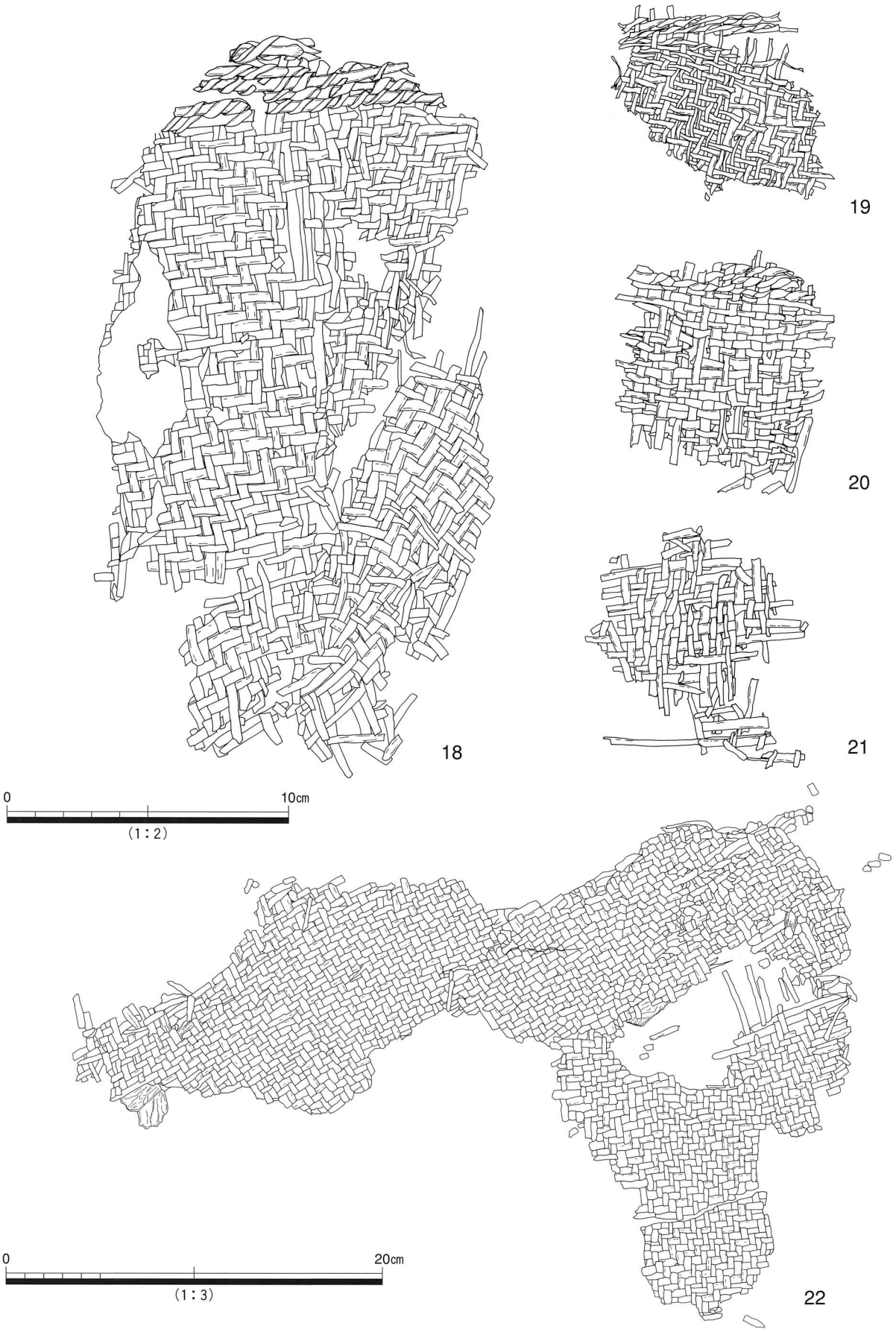




第108図　舟岡地区繊維製品（４）



第109図　舟岡地区繊維製品（５）



第110図　舟岡地区繊維製品（6）

第111図　舟岡地区繊維製品（７）

写 真 図 版

図版１　舟岡地区構築材（１）柱材　中期末～後期初頭（1：12）

図版２　舟岡地区構築材（２）柱根　中期末～後期初頭（1：10）

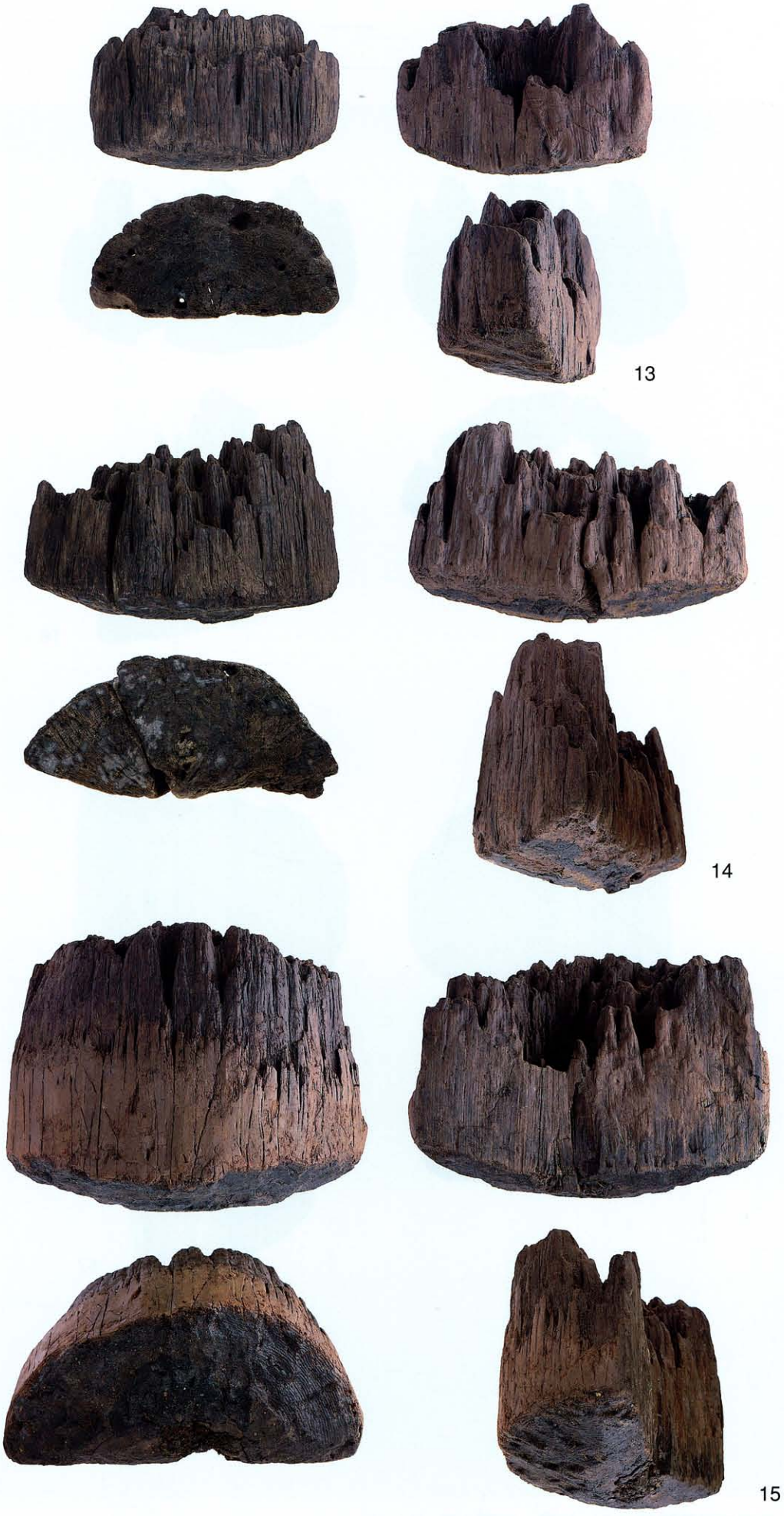
図版３　舟岡地区構築材（３）柱根　中期末～後期初頭（1：10）

図版４　舟岡地区構築材（４）柱根　中期末～後期初頭（1：5）

10

図版５　舟岡地区構築材（５）柱根　中期末～後期初頭（出土状況）

図版６　舟岡地区構築材（６）柱根　晩期中葉（1：10）



図版７　舟岡地区構築材（７）柱根　晩期中葉（1：10）

16

17

図版８　舟岡地区構築材（８）柱根　晩期中葉（1：10）

18

19

20

21

図版９　舟岡地区構築材（９）柱根　晩期中葉（1：10）

図版10　舟岡地区施設材（1）杭群　中期末以前（1：5）

29

図版11　舟岡地区施設材（２）水場材　中期末～後期初頭（1：15）

30

31

32

図版12 舟岡地区施設材（3）水場材　中期末～後期初頭（1：15）

33

34

図版13　舟岡地区施設材（４）水場材　中期末～後期初頭（1：10）

35

36

図版14 舟岡地区施設材（５）水場材　中期末～後期初頭（1：15）

図版15　舟岡地区施設材（6）水場材　中期末～後期初頭（1：6）

40

41

41（俯瞰）

図版16　舟岡地区施設材（７）水場材　中期末～後期初頭（1：15）

図版17　舟岡地区施設材（８）水場材　中期末～後期初頭（1：10）

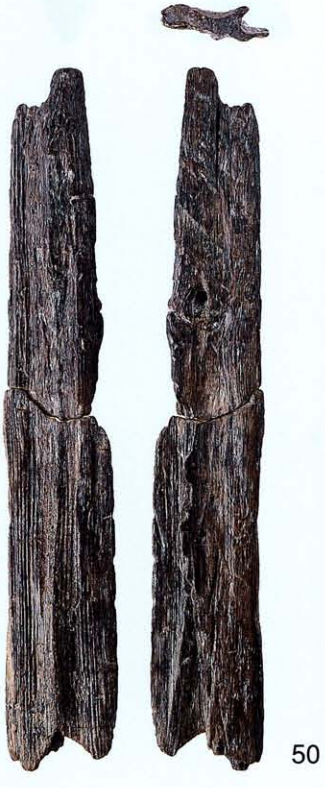
43

44

279

図版18　舟岡地区施設材（９）水場材　中期末～後期初頭（1：15）

図版19　舟岡地区施設材（10）水場材　中期末～後期初頭（1：10）



図版20　舟岡地区施設材（11）水場材　中期末～後期初頭（1：10）

51

52

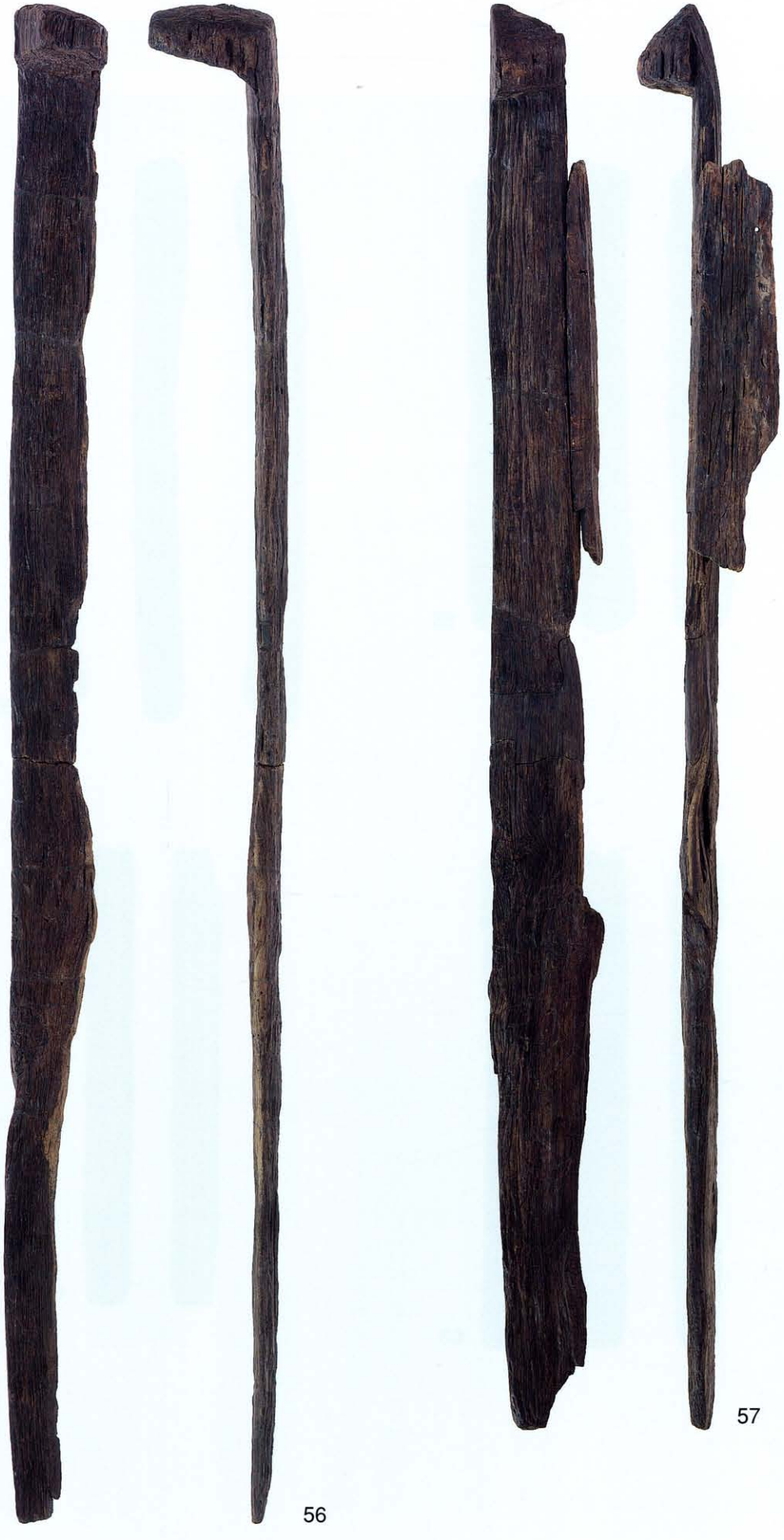
図版21　舟岡地区施設材（12）水場材　中期末～後期初頭（1：10）

53

55

54

図版22　舟岡地区施設材（13）水場材　中期末～後期初頭（1：10）



図版23　舟岡地区施設材（14）水場材　中期末～後期初頭（1：10）

58

59

60

61

図版24　舟岡地区施設材（15）水場材　後期末～晩期前葉（1：6）

62

63

図版25　舟岡地区施設材（16）水場材　後期末～晩期前葉（1：6）

図版26　中出地区施設材（17）水場材　中期末～後期初頭（1：4）

68

69

70

図版27　中出地区施設材（18）水場材　中期末～後期初頭（1：4）

71

72

図版28　中出地区施設材（19）水場材　中期末～後期初頭（1：4）

図版29　中出地区施設材（20）水場材　中期末～後期初頭（1：6）

図版30　中出地区施設材（21）水場材　中期末～後期初頭（1：4）

図版31　舟岡地区その他の加工材（1）丸木材・分割材　中期末以前（1：10）

図版32 舟岡地区その他の加工材（2）丸木材　中期末～後期初頭（1：10）

図版33　舟岡地区その他の加工材（3）丸木材　中期末～後期初頭（1：10）

84 裏

85 裏

図版34　舟岡地区その他の加工材（4）丸木材　中期末～後期初頭〔任意〕

86

87

88

89

図版35　舟岡地区その他の加工材（5）丸木材　中期末～後期初頭（1：6）

90

91

92

図版36　舟岡地区その他の加工材（6）丸木材　中期末～後期初頭（1：10）

図版37　舟岡地区その他の加工材（7）丸木材・半割材　中期末～後期初頭（1：15）

図版38　舟岡地区その他の加工材（8）半割材　中期末～後期初頭（1：10）

98

99

図版39　舟岡地区その他の加工材（9）半割材　中期末～後期初頭（1：3）

図版40 舟岡地区その他の加工材（10）半割材　中期末～後期初頭（1：6）

102

104

図版41　舟岡地区その他の加工材（11）半割材　中期末～後期初頭（1：6）

図版42 舟岡地区その他の加工材（12）半割材　中期末～後期初頭（1：3）

図版43　舟岡地区その他の加工材（13）半割材・分割材　中期末～後期初頭（1：10）

図版44　舟岡地区その他の加工材（14）分割材　中期末～後期初頭（1：15）

図版45　舟岡地区その他の加工材（15）分割材　中期末～後期初頭（1：10）

112

113

図版46　舟岡地区その他の加工材（16）分割材　中期末～後期初頭（1：15）

図版47　舟岡地区その他の加工材（17）分割材　中期末～後期初頭（1：6）

117

118

119

図版48　舟岡地区その他の加工材（18）分割材　中期末～後期初頭（1：10）

図版49　舟岡地区その他の加工材（19）分割材　中期末～後期初頭（1：5）

図版50　舟岡地区その他の加工材（20）分割材　中期末～後期初頭（1：6）

図版51　舟岡地区その他の加工材（21）分割材　中期末～後期初頭（1：4）

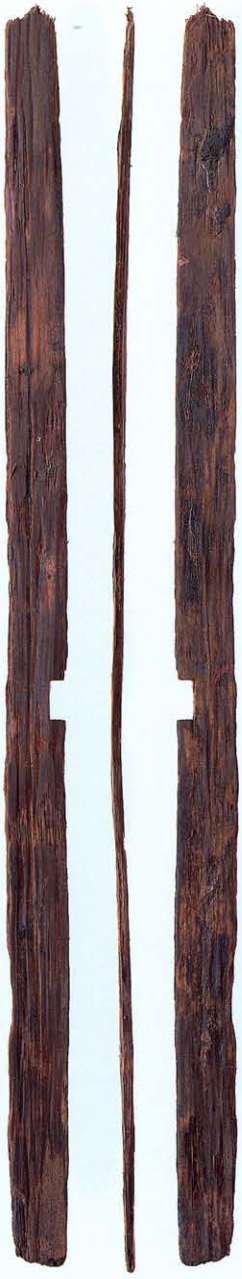
図版52　舟岡地区その他の加工材（22）分割材　中期末～後期初頭（1：6）

図版53　舟岡地区その他の加工材（23）分割材　中期末～後期初頭（1：4）

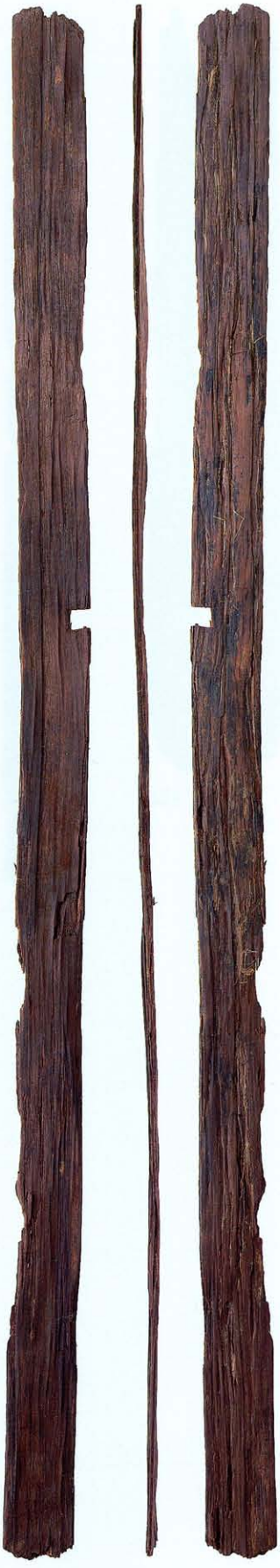
図版54　舟岡地区その他の加工材（24）分割材　中期末～後期初頭（1：6）

図版55　舟岡地区その他の加工材（25）分割材　中期末～後期初頭（1：6）

156



157



158

図版56　舟岡地区その他の加工材（26）板目板　中期末～後期初頭（1：4）

図版57　舟岡地区その他の加工材（27）板目板　中期末～後期初頭（1：6）

図版58　舟岡地区その他の加工材（28）板目板　中期末～後期初頭（1：6）

図版59　舟岡地区その他の加工材（29）板目板　中期末～後期初頭（1：6）

169

170

図版60　舟岡地区その他の加工材（30）板目板　中期末～後期初頭（1：3）

図版61　舟岡地区その他の加工材（31）板目板　中期末～後期初頭（1：3）

図版62　舟岡地区その他の加工材（32）板目板　中期末～後期初頭（1：3）

図版63　舟岡地区その他の加工材（33）板目板　中期末～後期初頭（1：3）

176

177

図版64　舟岡地区その他の加工材（34）板目板　中期末～後期初頭（1：3）

178

179

図版65　舟岡地区その他の加工材（35）柾目板　中期末～後期初頭（1：10）

図版66　舟岡地区その他の加工材（36）柾目板　中期末～後期初頭（1：3）

182

184

185

186

図版67　舟岡地区その他の加工材（37）柾目板　中期末～後期初頭（1：3）

183

187

図版68　舟岡地区その他の加工材（38）柾目板　中期末～後期初頭（1：3）

図版69　舟岡地区その他の加工材（39）柾目板　中期末～後期初頭（1：3）

190

191

192

193

図版70　舟岡地区その他の加工材（40）板目板・柾目板　中期末～後期初頭（1：6）

194

195

図版71　舟岡地区その他の加工材（41）柾目板　中期末～後期初頭（1：6）

図版72　舟岡地区その他の加工材（42）柾目板　中期末～後期初頭（1：6）

図版73　中出地区その他の加工材（43）分割材　中期末～後期初頭（上図，1：4）、
舟岡地区器具材（1）刳りもの　中期末以前（下図，1：2）

図版74　舟岡地区器具材（２）石斧柄　中期末～後期初頭（1：4）

図版75　舟岡地区器具材（3）石斧柄　中期末～後期初頭（1：4）

図版76　舟岡地区器具材（４）石斧柄　中期末～後期初頭（1：4）

213

214

215

216

217

218

図版77　舟岡地区器具材（５）石斧柄　中期末～後期初頭（213～215は1：4，216～218は1：6）

図版78　舟岡地区器具材（6）石斧柄　中期末～後期初頭（1：4）

221

222

223

図版79　舟岡地区器具材（7）石斧柄　中期末～後期初頭（1：4）

224

225

226

227

228

図版80　舟岡地区器具材（８）石斧留め具、楔　中期末～後期初頭（1：2）

図版81　舟岡地区器具材（９）堀棒　中期末～後期初頭（1：6）

231

232

233

図版82　舟岡地区器具材（10）堀棒　中期末～後期初頭（1：3）

234

235

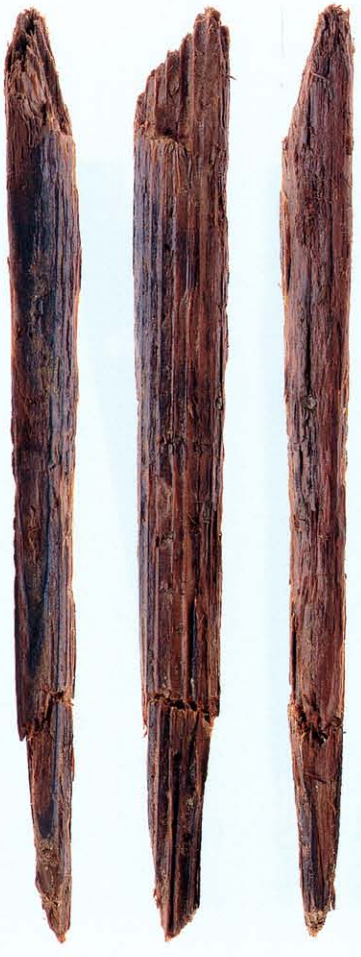
図版83　舟岡地区器具材（11）鋤状木製品　中期末～後期初頭（1：4）

図版84　舟岡地区器具材（12）鋤状木製品　中期末～後期初頭（1：4）

238

239

240



241

図版85　舟岡地区器具材（13）削りだし棒材　中期末～後期初頭（1：2）

図版86　舟岡地区器具材（14）弓（1：8）・部分拡大（1：2）　中期末～後期初頭

243

244

図版87　舟岡地区器具材（15）刳りもの　中期末～後期初頭（1：3）

図版88　舟岡地区器具材（16）刳りもの　中期末～後期初頭（1：1）

図版89　舟岡地区器具材（17）刳りもの　中期末～後期初頭（1：3）

図版90　舟岡地区器具材（18）刳りもの　中期末～後期初頭（1：3）

図版91　舟岡地区器具材（19）刳りもの　中期末～後期初頭（252は1：3，254は1：4）

図版92　舟岡地区器具材（20）不明漆塗製品　中期末～後期初頭（1：4）

図版93　舟岡地区器具材（21）素材　中期末～後期初頭（1：4）

図版94　舟岡地区器具材（22）素材　中期末～後期初頭（1：4）

図版95　舟岡地区器具材（23）素材　中期末～後期初頭（1：6）

図版96　舟岡地区器具材（24）素材　中期末～後期初頭（1：4）

図版97　舟岡地区器具材（25）素材　中期末～後期初頭（1：4）

270

271

272

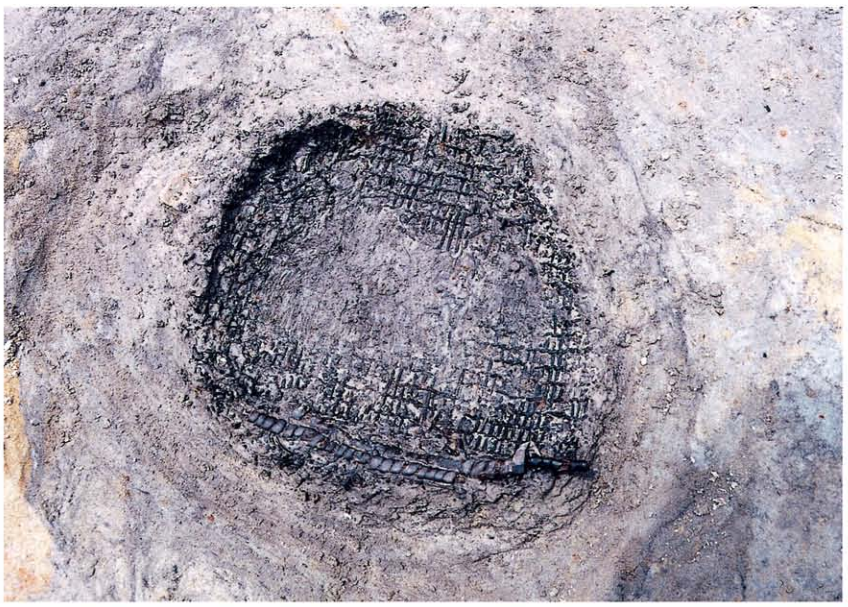
図版98　舟岡地区器具材（26）櫛　後期末～晩期前葉（270，271は1：1，272は1：2）

273

274

図版99　舟岡地区器具材（27）石斧留め具・編錘状木製品　後期末～晩期前葉（1：2）

図版100　舟岡地区器具材（28）削りだし棒材　縄文時代以降（古墳時代）（1：4）



1

2

18

図版101　舟岡地区繊維製品（1）　中期末～後期初頭（出土状況）

43

45

46

54

図版102　舟岡地区繊維製品（２）　中期末～後期初頭
（43，45，46は出土状況，54は3倍大）

1

2

3

図版103　舟岡地区植物　　中期末～後期初頭（任意）

富山県小矢部市

桜町遺跡発掘調査報告書

木製品・繊維製品・植物編

発　行　日　平成19年3月30日

編集・発行　小矢部市教育委員会
〒932−8611　富山県小矢部市本町１－１
TEL　0766−67−1760

印　　刷　株式会社　ア　ヤ　ト